

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 仏教学 I  |       |         |
| 科目分類   | 100-110-11 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Buddhism I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 佐々木 俊道   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 佐々木 俊道   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 10-504  |
| 授業概要   | 本講義では、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」とその基礎となる仏教の開祖・釈尊の生涯と教え、さまざまな日本の仏教文化について概説する。日本文化の形成に大きな影響を与えた仏教が今を生きる私たちにどのように関わり合っているのか、仏教学 I の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、仏教の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。 |       |         |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神、および仏教の開祖釈尊の生涯と教えを理解することができる。</li> <li>2. 日本の仏教文化について広く理解し、その特質を説明することができる。</li> <li>3. 駒沢女子大学で学ぶ意義をみずから説明することができる。</li> </ol>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：教科書（4 頁～9 頁）を読んでおく<br/> 授業：ガイダンス 駒澤学園の歴史、建学の精神<br/> 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせまとめる</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：世界の三大宗教を調べておく<br/> 授業：宗教の成立と世界の宗教<br/> 復習：日本人の宗教観についてまとめる</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：教科書（12 頁～18 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：古代インドの宗教と釈尊の誕生（花まつり）<br/> 復習：駒澤学園の仏教行事「花まつり」の意義をまとめる</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：教科書（18-19 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：青年期の釈尊（四苦八苦）と出家（課題解決型授業）<br/> 復習：「四苦八苦」の要点をまとめる</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：教科書（20 頁,28-29 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：6 年間の苦行と「中道」の教え<br/> 復習：「中道」の教えの要点をまとめる</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の作法を調べておく<br/> 授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ<br/> 復習：坐禅の意義と礼儀作法の要点をまとめる</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：教科書（21 頁,27-28 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：釈尊の悟り（成道）と「縁起」の教え<br/> 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をまとめる</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：教科書（22 頁,29-31 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：初転法輪と「四諦八正道」の教え<br/> 復習：「四諦八正道」の教えの要点をまとめる</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：「祇園精舎」「竹林精舎」について調べておく<br/> 授業：釈尊の伝道とさまざまな「対機説法」<br/> 復習：「応病与薬」と「対機説法」についてまとめる</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：教科書（23-24 頁,32-35 頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：釈尊の入滅（涅槃）と「諸行無常」の教え<br/> 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をまとめる</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の心得（調身・調息・調心）を調べておく<br/> 授業：坐禅実習 坐禅と礼儀作法<br/> 復習：坐禅の三つの心得についてまとめる</p> |  |       |         |

|   |
|---|
| <p>【第12回】<br/>         予習：教科書（25-26頁、36-37頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/>         授業：釈尊滅後の仏教の展開（結集～大乘仏教）<br/>         復習：大乘仏教の「菩薩」についてまとめる</p> <p>【第13回】<br/>         予習：日本文化と仏教の関係について調べておく<br/>         授業：仏教と日本の文化（課題解決型授業）<br/>         復習：仏教と日本文化の特徴をまとめる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：仏教に由来する習慣・風習について調べておく<br/>         授業：日常に息づく仏教の教え<br/>         復習：日常の仏教の教えをまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：仏教学Ⅰで学んだ事項の要点を振り返る<br/>         授業：仏教学Ⅰの学びの総括、駒澤学園の仏教行事の意義、仏教と現代社会<br/>         復習：仏教学Ⅰの学びや駒沢女子大学での学びの意義をまとめる</p> |
|---|

|                  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習          | 担当教員の指示に基づき、教科書の指定された頁ならびに配付資料を読んでおくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材          | 『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基礎テキストとして用いる。その他、必要に応じてプリントを配付する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書              | 『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法         | 授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  | ○   |   | △   |     |     |     | △   |
| 関連科目             |  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他              | 坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。<br>板書事項はもろさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    | 曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神や釈尊の教え等を講じる。  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 仏教学Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-110-11 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Buddhism II  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 岡本 啓宏  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 岡本 啓宏  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 金曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10<br>後期 金曜日 13:00～14:30 金曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 16-306  |
| 授業概要   | 本講義は、駒沢女子大学の建学の精神「行学一如」「正念」と、その基礎となる曹洞宗の開祖・道元禅師の生涯と教え、さまざまな日本の禅文化について概説する。日本文化に大きな影響を与えた禅の教えが今を生きる私たちの日常生活にどのように関わり合ってくるのか、仏教学Ⅱ（禅）の学びを現代社会に活かす視点をもって授業をすすめる。本講義の学びを通じて、今後の人生の指針となる教養と作法を身につけるとともに、禅の観点から「人間」をより深く理解する契機とする。授業では課題解決型学習を行う。 |       |         |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神、および道元禅師の生涯と教えを理解することができる。</li> <li>2. 日本の禅文化について広く理解し、その特質を説明することができる。</li> <li>3. 駒沢女子大学で学ぶ意義をみずから説明することができる。</li> </ol>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：仏教学Ⅰで学んだことを振り返る<br/> 授業：ガイダンス 建学の精神と仏教学Ⅰの復習<br/> 復習：駒沢女子大学と永平寺・道元禅師の関係についてまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：教科書（40-44頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：中国における仏教（禅宗）の展開<br/> 復習：中国禅宗の特徴についてまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：教科書（46-49頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：日本における仏教の展開1（仏教伝来～平安時代）<br/> 復習：平安時代の仏教の特徴についてまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：教科書（49-51頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：日本における仏教の展開2（平安後期～鎌倉時代）<br/> 復習：鎌倉時代の仏教の特徴についてまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：教科書（56頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師の誕生と出家<br/> 復習：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教科書（56-57頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師、比叡山と建仁寺での修行（課題解決型授業）<br/> 復習：天台本覚法門に対する道元禅師の疑念をまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：教科書（64-74頁）を読み、坐禅の作法を調べておく<br/> 授業：坐禅実習 坐禅の作法と意義を学ぶ<br/> 復習：坐禅の意義と礼儀作法の要点をまとめる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：教科書（57-58頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師の入宋求法と二人の典座の教え<br/> 復習：典座の教えと禅修行の要点をまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：予習：教科書（58頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師、如浄禅師のもとでの大悟<br/> 復習：「身心脱落」と「只管打坐」についてまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：教科書（58-59頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師、帰朝後の教化<br/> 復習：道元禅師の修証観の特色をまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：教科書（60-61頁）を読み、語句の意味を調べておく<br/> 授業：道元禅師の教えと実践<br/> 復習：道元禅師の仏教観の特色をまとめる</p> |  |       |         |

【第12回】  
 予習：教科書（59頁）を読み、語句の意味を調べておく  
 授業：道元禅師の永平寺創建と示寂  
 復習：駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる

【第13回】  
 予習：禅と日本の文化の関係について調べておく  
 授業：禅と日本の文化（課題解決型授業）  
 復習：禅文化の特徴をまとめる

【第14回】  
 予習：永平寺など禅道場の修行について調べておく  
 授業：日常に息づく禅の教え  
 復習：禅の教えから日常生活を振り返る

【第15回】  
 予習：仏教学Ⅱで学んだ要点を振り返る  
 授業：仏教学Ⅱの学びの総括、駒澤学園の仏教行事の意義、禅と現代社会  
 復習：仏教学Ⅱの学びや駒沢女子大学での学びの意義を振り返る

|                  |  |   |            |   |     |   |     |     |
|------------------|--|---|------------|---|-----|---|-----|-----|
| 授業開始前学習          | 担当教員の指示に基づき、教科書の指定された頁ならびに配付資料を読んでおくこと。  |   |            |   |     |   |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業で課した提出物（レポート等）は次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。   |   |            |   |     |   |     |     |
| テキスト・教材          | 『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基本テキストとして用いる。その他、必要に応じてプリントを配付する。   |   |            |   |     |   |     |     |
| 参考書              | 『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。   |   |            |   |     |   |     |     |
| 評価の基準と方法         | 授業での提出物（30%）とテスト・レポート（70%）で総合的に評価する。   |   |            |   |     |   |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性                                     | 専門力 | 判断力   | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  | ○   |            | △                                       |     |   |     |     |
| 関連科目             |  |   |            |   |     |   |     |     |
| その他              | 坐禅実習は予定表に注意し、あらかじめ確認の上、服装を整えて参加すること。<br>板書事項はもらさずノートに書き写すように努力すること。建学の精神の学びの場である学燈会や摂心会などの学校行事には積極的に参加して、幅広い教養を身につけてほしい。 |   |            |   |     |   |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |   |            |   |     |   |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    | 曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして建学の精神や道元禅師の教え等を講じる。  |   |            |   |     |   |     |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | ☆日本文学／日本の文学  |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Japanese Literature  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 松村 良   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 松村 良   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30<br>後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 13:00～14:30   | 研究室   | 10-617  |
| 授業概要   | 芥川龍之介の短編小説「鼻」「芋粥」と、太宰治の短編小説「魚服記」「道化の華」を読み、それぞれの作家についての基礎的な知識と、小説の読み方、作品へのアプローチの仕方について学ぶ。芥川と太宰の小説テキストの分析を通して、単なる感想に留まらない、文学研究の基礎と教養を身につけることを目的とする。この授業では課題解決型学習を行う。 |       |         |
| 到達目標   | 文学研究の基礎である、作品の典拠との比較や、先行研究における問題点を把握できるようになる。登場人物の人間性や社会との関わり、小説の構成や語りについて、独自の論点を見つけ出せるようになる。さらに小説の読解を通して、自分の考えを論理的に説明できるようになる。                                    |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：芥川龍之介と太宰治について知っていることをまとめておく<br/> 授業：授業の進め方について・芥川龍之介と太宰治に関する質問<br/> 復習：授業の進め方を理解し、質問に答える</p> <p>【第2回】<br/> 予習：芥川龍之介について調べておく<br/> 授業：芥川龍之介の生涯と作品について<br/> 復習：芥川龍之介について学んだことをまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：「鼻」を読み、内容を把握する<br/> 授業：「鼻」を読む1（教科書20～30頁、小説の内容と構成・典拠について・課題1提出）（課題解決型学習）<br/> 復習：小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題1に取り組む</p> <p>【第4回】<br/> 予習：前回の授業で学んだことを読み返す<br/> 授業：「鼻」を読む2（人物造型と語りの特徴）<br/> 復習：人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：前回の授業で学んだことを読み返す<br/> 授業：「鼻」を読む3（小説の結末部の問題・課題1解説）<br/> 復習：「鼻」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：「芋粥」を読み、内容を理解しておく<br/> 授業：「芋粥」を読む1（教科書32～59頁、小説の内容と構成・典拠について・課題2提出）（課題解決型学習）<br/> 復習：小説の内容と構成、典拠について学んだことをまとめ、課題2に取り組む</p> <p>【第7回】<br/> 予習：前回の授業で学んだことを読み返す<br/> 授業：「芋粥」を読む2（人物造型と語りの特徴）<br/> 復習：人物造型と語りの特徴について学んだことをまとめる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：前回の授業で学んだことを読み返す<br/> 授業：「芋粥」を読む3（小説の結末部の問題・課題2解説）<br/> 復習：「芋粥」についての自分の意見をまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：太宰治について調べておく<br/> 授業：太宰治の生涯と作品について<br/> 復習：太宰治について学んだことをまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：「魚服記」を読み、内容を把握する<br/> 授業：「魚服記」を読む1（教科書84～95頁、小説の構成と語り・典拠について・課題3提出）（課題解決型学習）<br/> 復習：小説の構成と語り、典拠について学んだことをまとめ、課題3に取り組む</p> <p>【第11回】<br/> 予習：一章・二章を読み返し、内容について考える<br/> 授業：「魚服記」を読む2（一章・二章の特徴と内容読解）<br/> 復習：一章・二章について学んだことをまとめる</p> <p>【第12回】<br/> 予習：三章・四章を読み返し、内容について考える</p> |  |       |         |

授業：「魚服記」を読む3（三章・四章の特徴と内容読解・課題3解説）  
 復習：「魚服記」についての自分の意見をまとめる  
 【第13回】  
 予習：「道化の華」を読み、内容を把握する  
 授業：「道化の華」を読む1（教科書135～206頁、私小説的手法と語りの問題・課題4提出）（課題解決型学習）  
 復習：私小説的手法と語りの問題について学んだことをまとめ、課題4に取り組む  
 【第14回】  
 予習：前半部を読み直し、内容について考える  
 授業：「道化の華」を読む2（前半部の特徴と内容読解）  
 復習：前半部について学んだことをまとめる  
 【第15回】  
 予習：後半部を読み直し、内容について考える  
 授業：「道化の華」を読む3（後半部の特徴と内容読解・課題4解説）  
 復習：「道化の華」についての自分の意見をまとめる

|                  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|------------------|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習          | 授業で扱う作品は事前に必ず読んでおくこと。文庫本に収録されている他の作品や、解説、年譜なども読んでおくことと授業の理解に役立つ。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業で取り上げる4つの作品については、それぞれ授業内課題を提出してもらう。それをもとに解説を行い、個別の質問に回答する。     |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材          | 芥川龍之介『羅生門・鼻』（新潮文庫）・太宰治『晩年』（新潮文庫）                                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書              | 授業内で適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法         | 授業内課題（40%）と、学期末レポート（60%）で評価する。                                   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  | ○   |   |     |   |     |   |     |
| 関連科目             |  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他              |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | ☆外国文学／ヨーロッパの文学   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Foreign Literature／European Literature                     | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 糟谷 恵次  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 糟谷 恵次  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 10:40～13:40<br>後期 月曜日 10:50～13:00 木曜日 12:10～13:00   | 研究室   | 10-604  |
| 授業概要   | ヨーロッパ文学における個々の作品を取り上げながら、中世から現代に至る外国文学のテーマとその問題性を歴史的に概観する。 |       |         |
| 到達目標   | ヨーロッパの個々の文学作品を通史的に考察することで、中世から近世、現代に至る西欧の精神・思想の流れを把握する。    |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：これまでに読んだ経験のある外国文学について確認してみる。<br/> 授業：ヨーロッパの歴史と文学（概要）<br/> 復習：初めに配布する資料1の復習</p> <p>【第2回】<br/> 予習：ヨーロッパの古代から中世の歴史を調べてみる。<br/> 授業：中世の文学（愛の抒情詩、『トリストランとイゾルデ』）<br/> 復習：資料2の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：狐物語について調べてみる。<br/> 授業：中世～ルネサンス（『狐物語』『テイル・オイレンシュピーゲル』）<br/> 復習：資料3の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：ダンテについて調べてみる。<br/> 授業：中世～ルネサンス（ダンテの『神曲』と『新生』）<br/> 復習：資料4の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：チョーサーの『カンタベリー物語』の一篇を読んでみる。<br/> 授業：中世～ルネサンス（『デカメロン』『カンタベリー物語』他）<br/> 復習：資料5の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：資料6を通読し、シェイクスピアの四大悲劇について調べてみる。<br/> 授業：シェイクスピア（1）シェイクスピアとその作品について概観する。<br/> 復習：資料6の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：シェイクスピア（2）『ロミオとジュリエット』の原作にふれてみる。<br/> 授業：『ロミオとジュリエット』前半を鑑賞する。<br/> 復習：資料6を参考にしながら、鑑賞したバルコニーシーンを再読。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：シェイクスピア（3）『ロミオとジュリエット』の原作にふれてみる。<br/> 授業：『ロミオとジュリエット』後半を鑑賞する。<br/> 復習：資料6を参考にしながら、後半の別れの場面を再読。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：ゲーテの詩を読んでみる。<br/> 授業：ゲーテ（1）（抒情詩、『若きヴェルターの悩み』）<br/> 復習：資料7前半の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：資料で作品の梗概を読んでおく。<br/> 授業：ゲーテ（2）（『親和力』『ファウスト』）<br/> 復習：資料7後半の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：資料8に挙げられているペロージャグリム兄弟の童話を調べてみよう。<br/> 授業：寓話・童話の系譜（イソップ、ペロージャグリムの昔話）<br/> 復習：資料8の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：資料9に挙げられている『変身』の冒頭部を読んでおく。<br/> 授業：カフカ（1）『変身』を読み解く<br/> 復習：資料9前半の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |  |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第 13 回】<br/>         予習 : 資料 9 でカフカの短編作品を読んでおく。<br/>         授業 : カフカ(2) 短編作品を読み解く<br/>         復習 : 資料 9 後半の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第 14 回】<br/>         予習 : ゲーテンベルクの活版印刷術について調べてみる。<br/>         授業 : 書物の歴史・読書の文化史<br/>         復習 : 資料 10 の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習 : ここまでの資料を読み直してみる。<br/>         授業 : ヨーロッパ文学の歴史的流れの確認<br/>         復習 : 資料 11 の空所キーワードを確認しながら内容を再確認する。</p> |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 可能なかぎり作品にふれておくこと。少なくとも資料にある梗概には必ず目を通しておく必要がある。     |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 毎回行われる授業内容理解の確認課題に関しては次回の授業の冒頭で振り返る。               |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 初回時に資料を配布する。                                       |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 参考とすべき文学作品、評論、研究書等は配布資料に記載する。                      |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 毎回の授業の最後に行われる確認課題 (60%)と期末レポート (40%) によって総合評価する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                    |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎  | ○   |   |     |   |     |  |     |
| 関連科目  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週) |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 日本の歴史   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Japanese History  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 武廣 亮平   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 武廣 亮平   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 日本の中世において、内乱が繰り返されたのはなぜか。戦争の中世を、人々はどのように生き抜いたのか。日本の近世において、泰平の世はいかにして創出されたのか。近世の平和を、人々はどのように享受したのか。日本が、再び戦争の近代へと向かったのはどうしてか。中世から近代初頭に至る日本史を、戦争と平和をキーワードに読み直す。授業では課題解決型学習を行う。 |       |         |
| 到達目標   | 1. 歴史学とはどういう学問かについて理解できる。<br>2. 歴史を学ぶことの現代的な意義を発見できる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：シラバスを読み、学習内容を確認する<br/>授業：はじめに－戦争の中世と平和な近世－<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第2回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：中世の飢饉と戦争①－二毛作は農業生産力の発展か－<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第3回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：中世の飢饉と戦争②－二毛作は農業生産力の発展か－（課題解決型学習）<br/>復習：〈まとめの課題〉をフォームで提出する</p> <p>【第4回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：戦国の世を生きた民衆の実情①－村や町を守るために戦う民衆－<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第5回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：戦国の世を生きた民衆の実情②－村や町を守るために戦う民衆－（課題解決型学習）<br/>復習：〈まとめの課題〉をフォームで提出する</p> <p>【第6回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：平和をもたらした天下人たち①－I 刀狩りの意義と武器所有の実態－<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第7回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：平和をもたらした天下人たち②－I 刀狩りの意義と武器所有の実態－（課題解決型学習）<br/>復習：〈まとめの課題〉をフォームで提出する</p> <p>【第8回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：平和をもたらした天下人たち③－II 秀吉の惣無事から徳川の平和へ－（i 秀吉の関白任官、ii 秀吉の天下統一と惣無事）<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第9回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：輪読資料の解題と読解練習<br/>授業：平和をもたらした天下人たち④－II 秀吉の惣無事から徳川の平和へ－（i 秀吉の関白任官、ii 秀吉の天下統一と惣無事）（課題解決型学習）<br/>復習：〈まとめの課題〉をフォームで提出する</p> <p>【第10回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：平和をもたらした天下人たち⑤－II 秀吉の惣無事から徳川の平和へ－（iii 家康の国家戦略、iv バクス・トクガワナ）<br/>復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第11回】<br/>予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>授業：平和をもたらした天下人たち⑥－II 秀吉の惣無事から徳川の平和へ－（iii 家康の国家戦略、iv バクス・トクガワナ）（課題解決型学習）<br/>復習：〈まとめの課題〉〈考察とノート〉の課題をフォームで提出する</p> |   |       |         |

|  |
|--|
| <p>【第12回】<br/>         予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>         授業：平和を享受する近世の庶民と文化①－庶民も学ばなければならない時代－<br/>         復習：〈学習内容や感想〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>         授業：平和を享受する近世の庶民と文化②－庶民も学ばなければならない時代－（課題解決型学習）<br/>         復習：〈まとめの課題〉をフォームで提出する</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>         授業：おわりに①－近代化の波と日本－（i 再び戦争の道へ、ii 百姓を戦争に動員する論理）（課題解決型学習）<br/>         復習：〈考察とノート〉の課題をフォームで提出する</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキスト該当箇所の読解と用語などの下調べ<br/>         授業：おわりに②－近代化の波と日本－（iii 歴史を学ぶ意義とは）（課題解決型学習）<br/>         復習：〈考察とノート〉の課題をフォームで提出する</p> |
|--|

|                  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習          | 日本史の基本的な書籍を1冊読んでおくことが望ましい。                     |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 毎回の事前学習課題に対して、次回の授業時に受講者からの回答を紹介し、コメント・講評を行う。  |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材          | 駒沢女子大学教科書シリーズ『日本の歴史』<br>必要に応じてプリントを配付する。       |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書              | 適宜、授業に沿って推薦図書を紹介する。                            |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法         | 事前学習課題85%、平常点（感想等）15%で評価する。                    |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  | ○   |   |   |     |     |     |     |
| 関連科目             |  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他              |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週） |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    | 自治体史編纂の実務経験あり。中世から近代初頭に至る日本史を講義する。             |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 西洋文化史   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Cultural History of the West  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 河合 恵美   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 河合 恵美   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | ルネサンス以降の西洋社会における文化を衣・食・住の観点より学び、研究する。文化・生活に関連した装飾美術・工芸の分野にて、その発信地的役割を果たしたイギリス、フランスを中心に、バロック期から20世紀ミッド・センチュリーにおける装飾の歴史を俯瞰し、食であるテーブルウェア（陶磁器・銀器・ガラス）、住である建築と家具、衣であるモード（服飾）、ジュエリー、装飾小物などについて、映像・画像と共に、ものの見方、鑑定眼を身につけられるように研究する。 |       |         |
| 到達目標   | 西洋装飾美術の様式や特徴に関し、その歴史と背景、代表的な建築・美術品・工芸品について理解できるようになる。7月に実施される西洋アンティーク鑑定検定試験協会主催「アンティーク検定試験」3級の合格を目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>4/12<br/>第1回<br/>予習：シラバス全体を読み、装飾美術工芸とは何かを調べる<br/>授業：美術（純粋美術）と装飾美術（応用美術）の定義、共通点と相違点について理解する<br/>復習：西洋装飾美術工芸の世界を理解する</p> <p>4/19<br/>第2回<br/>予習：教科書 P12-21 を読み、「様式とは何か」について調べておく<br/>授業：バロックからモダニズムまでの装飾様式の特徴を俯瞰する<br/>復習：各様式の特徴について時代背景と共に理解する</p> <p>4/26<br/>第3回<br/>予習：教科書 P24-39 を読み、西洋の家具について調べておく<br/>授業：西洋家具の成り立ち、変遷と歴史について学ぶ<br/>復習：西洋家具の歴史と各時代の特徴について理解する</p> <p>5/10<br/>第4回<br/>予習：教科書 P66-71 を読み、陶磁器について調べておく<br/>授業：西洋陶磁について、陶器・磁器それぞれの誕生の歴史と特徴を学ぶ<br/>復習：陶磁器の歴史や種類について理解する</p> <p>5/17<br/>第5回<br/>予習：教科書 P110-115 を読み、ガラスについて調べておく<br/>授業：ヴェネツィアガラス、ボヘミアガラス、クリスタルガラスについて学ぶ<br/>復習：ガラスの歴史と種類、製法について理解する</p> <p>5/24<br/>第6回<br/>予習：教科書 P140-143 を読み、銀器について調べておく<br/>授業：イギリスとフランスの銀器の刻印の読み方について学ぶ<br/>復習：西洋における銀器の歴史、刻印について理解する</p> <p>5/31<br/>第7回<br/>予習：宝飾品（ジュエリー）について調べておく<br/>授業：貴石の種類とジュエリーの歴史について学ぶ<br/>復習：ジュエリーの歴史、ダイヤモンドの世界を理解する</p> <p>6/7 レポート1 出題<br/>第8回<br/>予習：モード（服飾）とジェンダーについて調べておく<br/>授業：西洋モードの歴史と変遷について学ぶ<br/>復習：生活様式の中でのモードの歴史を理解する</p> <p>6/14<br/>第9回<br/>予習：教科書 P19 を読みアール・ヌーヴォーについて調べておく<br/>授業：アール・ヌーヴォー芸術と、その工芸品について学ぶ<br/>復習：アール・ヌーヴォーの芸術様式を理解する</p> <p>6/21</p> |   |       |         |

|   |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>第 10 回<br/>         予習 : 教科書 P20 を読みアール・デコについて調べておく<br/>         授業 : アール・デコ様式と、その工芸品について学ぶ<br/>         復習 : アール・デコの芸術様式を理解する<br/>         6/28 レポート 1 の講評、レポート 2 出題<br/>         第 11 回<br/>         予習 : 教科書 P21 を読み北欧デザインについて調べておく<br/>         授業 : ミッド・センチュリーの家具工芸品について学ぶ<br/>         復習 : ミッド・センチュリーの家具工芸品を理解する<br/>         7/5<br/>         第 12 回<br/>         予習 : 19 世紀後半の万博について調べておく<br/>         授業 : 1851 年のロンドン博から 1900 年のパリ万博までを俯瞰する<br/>         復習 : 19 世紀後半の万博について、その意義と役割を理解する<br/>         7/12<br/>         第 13 回<br/>         予習 : 第 12 回までの授業につき復習をする<br/>         授業 : アンティーク検定対策<br/>         復習 : アンティーク検定試験に向けての総復習をする<br/>         7/19<br/>         第 14 回<br/>         予習 : テーブルウェアの歴史について調べておく<br/>         授業 : テーブルコーディネートの変遷について学ぶ<br/>         復習 : テーブルウェアの種類、テーブルコーディネートの歴史を理解する<br/>         7/26 レポート 2 の講評<br/>         第 15 回<br/>         予習 : 「アンティーク」とは何か、について調べておく<br/>         授業 : アンティーク、ヴィンテージ、コレクタブルなどの定義、その価値基準について学ぶ<br/>         復習 : アートマーケットにおける実情を理解する</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | 本授業にて触れる時代・地域は 17 世紀～20 世紀のヨーロッパの生活文化史であるため、ルネサンス以降の世界史、西洋美術史の通史を読み、基本的知識を学んでおくと、授業が理解しやすい。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 授業 8 回目、11 回目に提出するレポートについては、それぞれ授業 11 回目、15 回目に講評を行う。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | 「西洋骨董鑑定の教科書」ジュディス・ミラー著 (パイ インターナショナル)  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | 「フランステブルウェアの教科書」イネス・ウージェル著 (パイ インターナショナル)<br>「ヨーロッパの装飾と文様」海野弘著 (パイ インターナショナル)<br>「アール・ヌーヴォーの美術」岡部昌幸著 (東京美術)  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | 定期試験は実施せず、授業内を行う 2 回のレポート (60%) および外部検定試験「アンティーク検定試験 3 級」等 (40%) とする。授業内でのリアクションペーパーも随時行い、成績は絶対評価で加点方式とする。出席が 3 分の 2 以下の場合、また出席の改ざんが発覚した場合は成績にかかわらず単位取得不可。 |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   | ◎  | ○   |   |   |     |     |     |     |  |
| 関連科目  |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   | 「西洋骨董鑑定の教科書」: 3600 円 + 税<br>アンティーク検定試験 3 級: 受験料未定 (学生割引あり) 7 月 16 日 (日) に実施予定、本受験 (任意) は、成績評価の対象となる。   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした教育内容   |  |   |   |   |     |     |     |     |  |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 心理学 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-110-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Psychology I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 飯田 絵理子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 飯田 絵理子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | <p>私たちが普段の生活で何気なく考え、話し、行動している時、その背後には「こころ」の動きがある。心理学はその見えない「こころ」を探求する学問である。心理学 I では心理学の学問が扱う領域や歴史、探究方法について概説し、理解を深めていく。また、知覚、記憶、学習、思考などを中心に、人の基本となる心の仕組みについて説明し、身近な問題とも関連付けながら学んでいく。</p> |       |         |
| 到達目標   | <p>心理学の歴史や知覚、記憶、学習、思考など、人の基本的な心の動きや仕組みについて、鍵となる概念や代表的な理論を理解し、説明できるようになる。また、私たちの日常的な経験について、心理学的な観点から理解し、考察する力を身につける。</p>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：シラバス、テキスト i～xviii ページを読む<br/> 授業：ガイダンス 心理学 I で扱う内容について<br/> 復習：配布資料を確認し、自分が興味を持った心理学の領域について調べる</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：テキスト第 1 章（1～20 ページ）を読む<br/> 授業：心理学史① 心理学の成り立ち、歴史<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、心理学の成り立ちについて理解を深める</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：テキスト第 1 章（20～29 ページ）を読む<br/> 授業：心理学史② 心理学の研究手法、心理職<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、研究方法や心理職について理解を深める</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：テキスト第 10 章（169～185 ページ）を読む<br/> 授業：感覚 感覚とは、視覚や聴覚の仕組み<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、視覚や聴覚の仕組みについて理解を深める</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：テキスト第 11 章（187～204 ページ）を読む<br/> 授業：知覚 視知覚、錯視、運動視、知覚の恒常性<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、視知覚や知覚の恒常性について理解を深める</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：テキスト第 12 章（205～213 ページ）を読む<br/> 授業：記憶① 記憶の過程、感覚記憶、短期記憶<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、記憶の過程や短期記憶について理解を深める</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：テキスト第 12 章（213～220 ページ）を読む<br/> 授業：記憶② 長期記憶、記憶方略、知識とスキーマ<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、長期記憶や記憶方略について理解を深める</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：テキスト第 13 章（221～228 ページ）を読む<br/> 授業：学習① 学習とは、古典的条件づけ<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、古典的条件づけについて理解を深める</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：テキスト第 13 章（228～241 ページ）を読む<br/> 授業：学習② オペラント条件づけ、社会的学習、言語発達<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、オペラント条件づけについて理解を深める</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：テキスト第 14 章（243～250 ページ）を読む<br/> 授業：思考① 推論、確率の推定<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、推論や確率の推定について理解を深める</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：テキスト第 14 章（250～261 ページ）を読む<br/> 授業：思考② 問題解決、概念と言語<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、問題解決や概念と言語について理解を深める</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト第15章（263～283ページ）を読む<br/> 授業：脳と心① 脳と心的機能<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、脳と心的機能について理解を深める</p> <p>【第13回】<br/> 予習：テキスト第16章（285～301ページ）を読む<br/> 授業：脳と心② 高次脳機能障害、失認、健忘、失語<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、失認や健忘、失語について理解を深める</p> <p>【第14回】<br/> 予習：テキスト第17章（303～318ページ）を読む<br/> 授業：社会① 社会的促進・手抜き、同調、他者の認知<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、社会的促進や他者の認知について理解を深める</p> <p>【第15回】<br/> 予習：テキスト第18章（319～337ページ）を読む<br/> 授業：社会② ジレンマ、安心感と信頼<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ジレンマや安心感と信頼について理解を深める</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 人の「こころ」に関心を持ちながらテレビやニュースを見ておくと、授業内容を生活経験と結び付けて理解しやすくなる。       |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 毎回、授業内容について感想や疑問などのコメントを求め、次回の授業で取り上げる。                       |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020『はじめて出会う心理学 第3版』（有斐閣アルマ）        |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業の中で適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 每授業の小テスト40%（選択式）<br>每授業のコメント40%（授業意欲・授業態度）<br>定期試験20%（レポート課題） |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                               |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   | ○   | △   | △   |   |     |   |     |
| 関連科目   | 臨床心理学Ⅰ、臨床心理学Ⅱ   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）              |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 心理学Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-110-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | PsychologyⅡ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 飯田 絵理子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 飯田 絵理子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 私たちの思考や行動の背後にある「こころ」に焦点を当て、心理学Ⅱでは発達、性格、知能、臨床などの領域を取り上げ、心理学の重要な知見や概念を学んでいく。さらに、授業の終盤では教育や福祉、医療の現場をいくつか取り上げ、現場における心理的支援について概説する。 |       |         |
| 到達目標   | 人の心の発達や性格・知能などの個人差、ストレスや心理療法などについて、鍵となる概念や代表的な理論を理解し、説明できるようになる。また、これらの概念や理論を臨床現場でどのように活かせるか、心理学的な観点から考察していく力を身につける。           |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスを読む<br/> 授業：ガイダンス 心理学Ⅱで扱う内容について<br/> 復習：配布資料を確認し、関心を持ったテーマについて調べる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト第2章（33～50ページ）を読む<br/> 授業：心の進化 動物の心、人間のユニークさ<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、人の心の進化について理解を深める</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト第3章（51～64ページ）を読む<br/> 授業：発達① 乳幼児期の心の発達<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、乳幼児期の心の発達について理解を深める</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト第3章（64～70ページ）を読む<br/> 授業：発達② 心の理論、発達障害<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、心の理論や発達障害について理解を深める</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト第4章（71～85ページ）を読む<br/> 授業：発達③ ライフサイクル、発達課題<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ライフサイクルについて理解を深める</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト第5章（87～92ページ）を読む<br/> 授業：動機づけ① 動機づけ、生理的動機（摂食動機、睡眠動機、性動機）<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、動機づけや生理的動機について理解を深める</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト第5章（93～104ページ）を読む<br/> 授業：動機づけ② 内発的動機、社会的動機、情動<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、内発的動機や情動について理解を深める</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト第6章（105～113ページ）を読む<br/> 授業：性格① 性格の記述、性格をはかる方法<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、性格の記述やはかる方法について理解を深める</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト第6章（113～121ページ）を読む<br/> 授業：性格② 性格は変わるか、性格の類型論<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、性格の変化や類型論について理解を深める</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト第7章（123～136ページ）を読む<br/> 授業：知能 知能とは、知能検査<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、知能や知能検査について理解を深める</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト第8章（137～150ページ）を読む<br/> 授業：臨床① ストレス、心理病理とそのメカニズム<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、ストレスや心理病理について理解を深める</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト第9章（151～165ページ）を読む<br/> 授業：臨床② 精神分析療法、行動療法、認知療法、クライアント中心療法<br/> 復習：テキスト該当箇所と配布資料を照らし合わせ、各心理療法について理解を深める</p> |  |       |         |

|  |  |   |            |     |   |     |   |     |
|--|--|---|------------|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：学校や福祉施設で働く心理職について調べる<br/>         授業：教育・福祉 教育領域（学校）や福祉領域（児童相談所、介護施設）での心理支援<br/>         復習：配布資料を読み直し、教育領域や福祉領域での心理支援について理解を深める</p> <p>【第14回】<br/>         予習：心の病について調べる<br/>         授業：医療・健康 心の病、精神障害、心の健康<br/>         復習：配布資料を読み直し、心の病や心の健康について理解を深める</p> <p>【第15回】<br/>         予習：食や栄養士の仕事と心がどのように関わっているかを考える<br/>         授業：食と心 食に関わる心の働き<br/>         復習：配布資料を読み直し、食に関わる心の働きについて理解を深める</p> |  |   |            |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 心理学 I で学んだ内容を復習しておく、授業を理解しやすくなる。                                 |   |            |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 毎回、授業内容について感想や疑問などのコメントを求め、次回の授業で取り上げる。                          |   |            |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行著 2020『はじめて出会う心理学 第3版』（有斐閣アルマ）           |   |            |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業の中で適宜紹介する。   |   |            |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 毎授業の小テスト 40%（選択式）<br>毎授業のコメント 40%（授業意欲・授業態度）<br>定期試験 20%（レポート課題） |   |            |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎  | ○   | △          | △   |   |     |   |     |
| 関連科目   | 臨床心理学Ⅰ、臨床心理学Ⅱ  |   |            |     |   |     |   |     |
| その他  |  |   |            |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                   |   |            |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |            |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | ☆哲学／人間と思想 I  |       |         |
| 科目分類   | 100-120-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Philosophy／Humans and Thought I  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 鈴木 由加里   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 鈴木 由加里   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 人間とはどのような存在なのか、人間の本質はどのようなものなのか、を考察することがテーマである。古代ギリシアから中世までの哲学的知識を講義する予定である。学んだ学説や概念を使って、現代的な問題についての考察、演習問題を行う予定である。 |       |         |
| 到達目標   | 考える材料として西洋哲学を歴史的に学び、かつ現代社会の情報を踏まえつつ、学生が自分で考察ができるようになることが達成目標。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>1 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる<br/> 授業：人間と思想を学ぶということについて 授業の進め方評価基準などについて資料を配付<br/> 論述課題を実施<br/> 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる</p> <p>2 予習：人間とはどのような存在であるか<br/> 授業：人間学と哲学（映像資料を利用）<br/> 復習：授業で扱ったテーマについて考察を深めておく</p> <p>3 予習：ギリシアの歴史について調べておく<br/> 授業：ギリシア哲学 I 古代ギリシアの世界<br/> 復習：自然学とは何かをまとめておく</p> <p>4 予習：アテネの民主制について調べておく<br/> 授業：ギリシア哲学 II 自然哲学からソクラテスへ<br/> 復習：ソクラテスの刑死の意味を考えよう</p> <p>5 予習：プラトンの時代のギリシア世界について調べておく<br/> 授業：プラトンの思想<br/> 復習：イデア論について問題点をまとめておく</p> <p>6 予習：マケドニアとギリシアについての歴史を調べておく<br/> 授業：ヘレニズム期の哲学と文化<br/> 復習：アリストテレスと学問についてまとめる</p> <p>7 予習：コスモポリタンの意味を調べておく<br/> 授業：ヘレニズム期の思想<br/> 復習：ストア派についてまとめる</p> <p>8 予習：ヨーロッパ文化の特性を自分なりに語れるようにしておく<br/> 授業：ヘレニズムとヘブライズム<br/> 復習：文化論の意義について考えておく</p> <p>9 予習：『創世記』第一章の内容を調べておく<br/> 授業：原始キリスト教 宗教と人間について<br/> 復習：贖い、福音という言葉の説明できるようにする</p> <p>10 予習：宗教の力について考えておく<br/> 授業：キリスト教とローマ帝国 人生と哲学について<br/> 復習：布教活動の意味について再考しておく</p> <p>11 予習：中世の定義を調べておく<br/> 授業：中世ヨーロッパの人間観<br/> 復習：歴史区分の意味について再考しておく</p> <p>12 予習：現代における宗教の意義について考えてくる<br/> 授業：宗教と死について<br/> 復習：死の概念の違いを再解釈する</p> <p>13 予習：キリスト教と世俗権力について調べておく<br/> 授業：中世キリスト教神学と哲学<br/> 復習：キリスト教の多様さを再確認すること</p> <p>14 予習：「近代」という概念を調べておく<br/> 授業：古代・中世の人間観と現代の人間観について考察をする<br/> 復習：人文主義の意義について考えておく。</p> <p>15 予習：各自ノート及びレジュメ参考文献などを味読しておくこと<br/> 授業：1回から14回までの 授業内容確認レポートあるいはテスト形式での質問に答える<br/> （授業内でレポート作成）<br/> 復習：授業内容について不十分なところを補っておく</p> |  |       |         |
| * 学生の知識レベル興味関心に応じて内容を変更する可能性もある。   |  |       |         |

|                  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|------------------|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習          | <p>課題提出などで、GWE(Google Workspace for Education)など PC 操作を必要とするシステムを使用予定である。パソコンの基本的な知識 (Web の閲覧、メールの送受信、ファイルの種類についての知識など) を学んでおいて欲しい。</p> <p>授業内容に関しては、西洋の哲学史についての話になるので、常識のレベルでの西洋の歴史について学んでおいてもらいたい。</p>  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | <p>基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。</p> <p>レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業になった場合、GWE(Google Workspace for Education)を通じてオンデマンドで行う。クラス記号など詳細は「クラスプロファイル」を通じて連絡をする予定。「クラスプロファイル」の使い方を確認しておくこと。</p> |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材          | <p>GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジュメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。</p>   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書              | <p>熊野 純彦 『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書 2006</p> <p>その他 授業中に適宜指示する</p>   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法         | <p>GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。</p>  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎   | ○   |   | △   |   | ○   |   |     |
| 関連科目             | 人間と思想   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他              |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | ☆人間と思想／人間と思想Ⅱ   |       |         |
| 科目分類  | 100-120-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Humans and Thought／Humans and Thought Ⅱ   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 鈴木 由加里  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 鈴木 由加里  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 近代以降の西洋哲学についての知識を深めつつ、人間はどのような存在として考えられてきたかということを考える。倫理や道徳に関する現代的なテーマについてもとりあげて、知識を増やし、哲学的知識を実践で役立てる方法を講義する予定である。 |       |         |
| 到達目標  | 哲学史を覚えるだけでなく、その知識を活用して、現代社会における様々な事象や社会問題との関連の中で人間について考察を深めていくことができるようになること。                                      |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>1 予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象がどこにあるのかを考えてくる<br/> 授業：現代的視点で人間について考えることについて及び授業説明<br/> 授業の進め方評価基準などについて資料を配付 授業内で論述課題を行う<br/> 復習：自分がすでにもっている「人間」についてのイメージをまとめる</p> <p>2 予習：近代という言葉からイメージするものを考えてくる<br/> 授業：近代とは何か<br/> 復習：日本語で西洋のことについて学ぶことの意味について考える</p> <p>3 予習：自分が考える「科学的」ということの意味を考えること<br/> 授業：科学革命と人間<br/> 復習：現代の科学は人間の何を明らかにしているのかを考える</p> <p>4 予習：人権とは何か、箇条書きにしておく<br/> 授業：近代市民社会の成立 歴史的経緯と「市民」「社会」の意味<br/> 復習：現代社会における人権侵害の事例を調べる</p> <p>5 予習：人間にとって許されないこととは何かを考えてくる<br/> 授業：人間と悪についての小論文作成<br/> 復習：自分が言葉にできなかったことをもう一度考えてみよう</p> <p>6 予習：17世紀のヨーロッパ史について調べてくる<br/> 授業：デカルトと理性的存在としての人間について<br/> 復習：理性とは何かを考えてみよう</p> <p>7 予習：30年戦争の原因と結果を説明できるようにしておく<br/> 授業：17世紀ヨーロッパの哲学について パスカルについて<br/> 復習：人間の弱さと強さについて考える</p> <p>8 予習：17世紀のイギリスのことを調べておく<br/> 授業：イギリスの経験論 思考の方法<br/> 復習：授業内で学んだ概念を原語と日本語訳を覚え、活用できるようにしておく</p> <p>9 予習：「啓蒙」という漢字の意味を調べておくこと<br/> 授業：啓蒙主義 ①「百科全書派」とヴォルテール<br/> 復習：「リスボン大地震」について調べてみよう</p> <p>10 予習：権力と啓蒙について考えておく<br/> 授業：啓蒙主義 ② 啓蒙専制君主について<br/> 復習：ルソーの思想についてまとめておく</p> <p>11 予習：人間の定義と自分の違いについて考えてみる<br/> 授業：18世紀から19世紀の思想 自由と平等を中心に<br/> 復習：ジェンダーという概念を正しく理解しておく</p> <p>12 予習：「女性」の権利について調べておく<br/> 授業：「人間と女性」について<br/> 復習：「人間」=女性なのか、ということを考えてみる</p> <p>13 予習：日本の社会について考えておく<br/> 授業：現代の人間観 ①ジェンダー概念について<br/> 復習：自分と全く異なった人間観を持つ人たちとどうやって向き合うかを考える</p> <p>14 予習：マイノリティという言葉について調べておく<br/> 授業：現代の人間観 ②「性的マイノリティ」について<br/> 復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく</p> <p>15 予習：これまでのノート及び資料の味読しておく<br/> 授業：授業内容確認レポートもしくはテスト形式での質問（授業内でレポート作成）<br/> 復習：授業内容について不十分なところを補っておく</p> |   |       |         |
| * 学生の知識レベル興味関心理解度に応じて内容と講義の日程を変更する可能性がある。   |   |       |         |

|                      |   |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | ルネサンス以降の西洋の歴史について概略を学んでおくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。<br>対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。<br>レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。遠隔授業の場合の場合は、GWE(Google Workspace for Education)を通じて行う。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。 |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | GWE(Google Workspace for Education)Google Classroom にて、授業に必要な講義内容のレジメと資料を PDF 形式ファイルで配付。各資料を DL したものをプリントアウトするか、PC やタブレットなどデジタル機器でノートテイクするか、各自の学習方法にあわせて使用すること。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  | 授業概要のレジメやスライドで指示  |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | ◎   | ○   |   | △   |     | ○   |     |     |
| 関連科目                 | 哲学 人間と思想 I  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)  |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |   |   |   |   |     |     |     |     |

|                     |   |       |         |
|---------------------|---|-------|---------|
| 科目名称                | 倫理学   |       |         |
| 科目分類                | 100-120-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称                | Ethics  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者               | 鈴木 由加里  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員                | 鈴木 由加里  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー             | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要                | 本講義では、倫理学の概要と現代における倫理的テーマを考察する。現代社会に生きる個々人が直面する倫理的な判断をしなければならぬ具体的な諸問題を紹介し、それぞれに対して論議できるようになることを目的としたい。  |       |         |
| 到達目標                | 平等や正義に関する哲学的知識を身につけ、現実的な問題について議論できるようになることが到達目標。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習） |   |       |         |
| 1                   | <p>予習：シラバスの内容を吟味し、自分の興味対象はどこにあるのかを考えてくる<br/>         授業：倫理学を学ぶにあたって。レポートの書き方や単位取得条件及び勉強の仕方について説明する。<br/>         論述課題を実施<br/>         復習：配布したレジメを読む</p> |       |         |
| 2                   | <p>予習：配布した資料を読む<br/>         授業：倫理学の課題<br/>         復習：問題群を確認</p>   |       |         |
| 3                   | <p>予習：配布資料を読んでくる<br/>         授業：倫理学の歴史 ①古代ギリシア<br/>         復習：倫理学の歴史について知識を確認する</p>   |       |         |
| 4                   | <p>予習：配布資料を読んでくる<br/>         授業：倫理学の歴史 ②近代<br/>         復習：倫理学の歴史についての知識を確認する</p>  |       |         |
| 5                   | <p>予習：自由の価値について自分の考えをまとめる<br/>         授業：自由について① J・S・ミルの『自由論』を読む<br/>         復習：ミルとハリエット・テイラーについて確認する</p>   |       |         |
| 6                   | <p>予習：ミル自由主義の問題点を確認する<br/>         授業：自由について②<br/>         復習：自由が批判されるケースの確認</p>  |       |         |
| 7                   | <p>予習：功利主義という言葉調べてくる<br/>         授業：功利主義について<br/>         復習：功利主義と倫理の関係について確認</p>  |       |         |
| 8                   | <p>予習：19世紀以降の歴史を確認してくる<br/>         授業：倫理学の現代的展開 科学と倫理<br/>         復習：科学の中立性について考える</p>  |       |         |
| 9                   | <p>予習：技術なしの生活を考えてみる<br/>         授業：科学技術と倫理<br/>         復習：科学技術の問題点を確認</p>   |       |         |
| 10                  | <p>予習：医療に対する不満を考えてくる<br/>         授業：医療と倫理① 医療の課題<br/>         復習：医療における課題の具体像を確認</p>   |       |         |
| 11                  | <p>予習：終末期に何をしたいか考える<br/>         授業：医療と倫理② 人間の尊厳について<br/>         復習：尊厳ある死について確認</p>  |       |         |
| 12                  | <p>予習：日本における法的な自由の定義を調べる<br/>         授業：再び自由の問題について<br/>         復習：自由の価値について確認する</p>  |       |         |
| 13                  | <p>予習：意見の対立についての具体的なケースを考えてくる<br/>         授業：相対主義という問題<br/>         復習：倫理的に生きることについて考察する</p>   |       |         |
| 14                  | <p>予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく<br/>         授業 補足 授業内容確認レポート（授業内でレポート作成）<br/>         復習：授業内容について不十分なところを補っておく</p>                                     |       |         |
| 15                  | <p>予習：ノートと配布した資料、参考文献を読んで理解しておく<br/>         授業：授業内容確認小テスト（ノート レジメ 持ち込み可）<br/>         復習：小テストで答えられなかったところを復習しておく</p>                                   |       |         |

|                  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|------------------|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習          | この授業では、課題の提出などで GWE(Google Workspace for Education)を使用する可能性がある。使用法を各自学習しておくこと。基本的なパソコンの操作を学んでおくこと。Web の閲覧、ファイルの種類の違いや、ワープロソフトの使用法、メールの送受信など基本的な操作ができるようにしておくこと。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 基本的に、フィードバックは、GWE(Google Workspace for Education)を利用。対面授業の場合は、リアクションペーパーは手書き。授業時に回収し、返却はなし。レポート課題は、Google Classroom を利用して、出題、回収。また、連絡も Google Classroom を利用。クラス記号など詳細は「クラスプロフィール」を通じて連絡をする予定。「クラスプロフィール」の使い方を確認しておくこと。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材          | 授業概要についてのレジメと資料を授業項目ごとに配布。参考文献や必要な資料は授業時に配布もしくはデジタル版へのリンクを指示する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書              | 各テーマごとにレジメで指示。ブックリスト配布を配布するので、図書館などを利用し、より多くの参考文献に目を通して欲しい。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法         | GWE(Google Workspace for Education)において、課題を提出してもらう。課題を全部提出することが単位取得の前提条件。全て提出した場合のみ、各回の点数と授業内容確認テストの点数を合計し、100 点換算の上成績評価を行う。課題の詳細は授業時に説明。不備のあるレポートには再提出を指示する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  | ○   |   | △   |   | ○   |   |     |
| 関連科目             | 特になし   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他              |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 社会学 I   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Sociology I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 森島 由紀子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 森島 由紀子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 社会学の基本的な考え方を理解するために、社会学とは何か、相互行為と自己、社会秩序と権力、組織とネットワーク、メディアとコミュニケーション、文化と再生産、といったテーマを取り上げます。講義が中心となりますが、身近な話題と結びつけながら、ディスカッションを取り入れて、分かりやすい内容にします。 |       |         |
| 到達目標   | 社会学の基本的な考え方を理解することを目標とします。社会学的な概念、理論の理解を通じて、社会学的な「ものの考え方」を習得します。そして、自分の日常生活の「当たり前なこと」に対して、一歩引いて批判的な視点をもった柔軟な思考ができるようになることを最終目標とします。               |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：授業シラバスの確認<br/> 授業：オリエンテーション、授業の進め方の相談<br/> 復習：授業計画、授業の進め方の確認</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：「社会」について考える<br/> 授業：社会学とは何か（1）：社会学的分析の基本的アプローチ（輪読とディスカッション）<br/> 復習：コント、スペンサー、ウェーバー、デュルケムの理論の確認</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：公共空間の秩序について考える<br/> 授業：社会学とは何か（2）：電車の中の社会学（輪読とディスカッション）<br/> 復習：ホールやゴフマンの理論の確認</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：「自己」について考える<br/> 授業：相互行為と自己（1）：自己の 2 側面（ディスカッション）<br/> 復習：ミードやパーソンズの理論の確認</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：「役割」について考える<br/> 授業：相互行為と自己（2）：役割期待と役割距離（ディスカッション）<br/> 復習：相互行為と自己のまとめと整理</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：「ふつう」のなかの「秩序」について考える<br/> 授業：社会秩序と権力（1）：秩序問題（ディスカッション）<br/> 復習：ホブズやオルソンの理論の確認</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：社会にある「権力」について考える<br/> 授業：社会秩序と権力（2）：権力（ディスカッション）<br/> 復習：社会秩序と権力のまとめと整理</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：身のまわりの「組織」について考える<br/> 授業：組織とネットワーク（1）：官僚制と組織（ディスカッション）<br/> 復習：ウェーバーやバーナードの理論の確認</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：ネットワーク社会について考える<br/> 授業：組織とネットワーク（2）：NPO（ディスカッション）<br/> 復習：組織とネットワークのまとめと整理</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：社会のなかのメディア、メディアのなかの社会について考える<br/> 授業：メディアとコミュニケーション（1）：メディアの歴史（ディスカッション）<br/> 復習：ギデンズやマクルーハンの理論の確認</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：インターネットとコミュニケーションについて考える<br/> 授業：メディアとコミュニケーション（2）：インターネット（ディスカッション）<br/> 復習：メディアとコミュニケーションのまとめと整理</p> |   |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：「文化」について考える<br/> 授業：文化と再生産（1）：文化の概念（ディスカッション）<br/> 復習：ブルデューの理論の確認</p> <p>【第13回】<br/> 予習：文化の機能について考える<br/> 授業：文化と再生産（2）：文化の再生産（ディスカッション）<br/> 復習：文化と再生産のまとめと整理</p> <p>【第14回】<br/> 予習：今までの授業内容の確認<br/> 授業：これからの社会学（ディスカッション）<br/> 復習：社会学の課題について考える</p> <p>【第15回】<br/> 予習：授業内容をテーマとした文献資料を読み、意見、感想をまとめる<br/> 授業：期末レポート（文献資料に対する意見・感想）提出、レポート内容の発表とディスカッション<br/> 復習：授業内容の復習</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | 社会学の入門または概論について、本を読んでおくことで授業が理解しやすい。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | ディスカッションを通してのフィードバックとなります。期末レポートについては、各自の発表内容に対してコメントします。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | 特に指定しません。資料を配付します。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書   | 授業中に紹介します。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | 期末レポート（70%）、ディスカッション・授業態度（30%）  |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎   | △   |   | ○   |     |     |     |     |
| 関連科目  |   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他   | 授業の実施方法や受講者数により、授業の予定を変更することがあります。また、授業の進捗状況や理解度により、部分的に内容を変更することがあります。講義資料は事前に配付しますので、予習に活用してください。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |   |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 社会学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | SociologyⅡ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 森島 由紀子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 森島 由紀子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 社会学Ⅱでは、Ⅰで習得した社会学の基本的な理論や概念をもとに、より具体的な社会現象の理解ができるよう、家族、教育、労働といった身近なテーマを取り上げて、それらの歴史や現代の問題を学びます。授業後半では、テーマを選んで発表をし、ディスカッションを行います。 |       |         |
| 到達目標   | 社会学の理論や概念の習得を土台として、より具体的な社会現象の理解ができることを目標とします。家族、教育、労働の領域における歴史や現代の問題についての理解を深め、発表を通して、身のまわりの「社会」に対して、主体的、批判的にとらえる能力を養うようにします。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：授業シラバスの確認<br/> 授業：オリエンテーション<br/> 復習：授業計画の確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：「家族」について考える<br/> 授業：家族（1）：家族の社会学的定義<br/> 復習：家族の社会学的定義のキーワードの確認</p> <p>【第3回】<br/> 予習：核家族について調べる<br/> 授業：家族（2）：家族の類型<br/> 復習：家族の類型のキーワードの確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：家族の変化について考える<br/> 授業：家族（3）：家族の変化<br/> 復習：「家」制度と近代家族のキーワードの確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：同性婚について調べる<br/> 授業：家族（4）：家族の現代的問題（ディスカッション）<br/> 復習：家族のまとめと整理</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教育について考える<br/> 授業：前半：教育（1）：教育社会学<br/> 復習：教育社会学のキーワードの確認</p> <p>【第7回】<br/> 予習：日本の教育の歴史について考える<br/> 授業：前半：教育（2）：戦前の日本の教育<br/> 復習：日本の戦前の学校教育のキーワードの確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：教育の歴史について考える<br/> 授業：前半：教育（3）：戦後の日本の教育<br/> 復習：日本の戦後の学校教育のキーワードの確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：現代の教育の問題について考える<br/> 授業：教育（4）：教育の現代的問題（ディスカッション）<br/> 復習：教育のまとめと整理</p> <p>【第10回】<br/> 予習：男女共同参画について考える<br/> 授業：労働（1）：女性の社会参画の歴史<br/> 復習：女性の社会参画の歴史の確認</p> <p>【第11回】<br/> 予習：女性の社会進出について考える、発表の準備<br/> 授業：労働（2）：女性の社会進出と雇用の現状<br/> 復習：女性の社会進出と雇用の現状の確認</p> <p>【第12回】<br/> 予習：現代の労働の問題について考える、発表の準備<br/> 授業：労働（3）：労働の現代的問題（ディスカッション）<br/> 復習：労働のまとめと整理</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 13 回】<br/> 予習：発表の準備<br/> 授業：家族・教育・労働（発表とディスカッション）<br/> 復習：発表内容のまとめと整理</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習：発表の準備、レポートの準備<br/> 授業：家族・教育・労働（発表とディスカッション）<br/> 復習：発表内容のまとめと整理</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習：レポートの準備<br/> 授業：家族・教育・労働に関するレポートの提出（発表とディスカッション）<br/> 復習：発表内容のまとめと整理</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 社会学の入門または概論について、本を読んでおく授業が理解しやすい。社会学 I を履修した者は配付資料を復習するとよい。               |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | ディスカッションを通してフィードバックを行います。各自の発表の準備段階では、内容や進捗状況を確認しながらアドバイスを行い、発表後に講評を行います。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 特に指定しません。授業時に資料を配付します。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業中に紹介します。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 発表（40%）、レポート（発表レジュメを文章としてまとめたもの）（40%）、ディスカッション・授業態度（20%）                  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   | △   |   | ○   |   |     |   |     |
| 関連科目   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  | 受講者数により、授業の予定や内容を変更することがあります。例年、少人数授業のため、履修者の要望（関心あるテーマなど）に応えたいと思います。     |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                            |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 政治学 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Politics I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 野崎 孝弘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 野崎 孝弘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | この講義の目的は、(1) 政治学に関する基本的な知識を身につけていくこと、(2) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくこと、(3) 授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げていくことの三点にある。「大衆社会の成立と政治学の変貌」から「権力と支配」と「政治行動」を経て「政治制度」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。 |       |         |
| 到達目標   | (1) 政治学に関する基本的な知識を習得することができる。<br>(2) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。<br>(3) 授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げることができる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習 (予習・復習)   |  |       |         |
| 以下を予定している。   |  |       |         |
| 【第1回】<br>予習：なし<br>授業：ガイダンス、現代政治学概論 (1) —大衆社会の成立と政治学の変貌— (課題解決型学習)<br>復習：大衆社会の成立が政治学に及ぼした影響について説明してみる                 |  |       |         |
| 【第2回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：現代政治学概論 (2) —現代政治学の諸分野— (課題解決型学習)<br>復習：行動主義政治学の特色について説明してみる                                |  |       |         |
| 【第3回】<br>予習：権力とは何かについてイメージを膨らませてみる<br>授業：権力と支配 (1) —政治とは何か、権力とは何か— (課題解決型学習)<br>復習：正当的支配の三つの類型について実例に即して説明してみる       |  |       |         |
| 【第4回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：権力と支配 (2) —統治の形態— (課題解決型学習)<br>復習：三つの政治体制の特色を実例に即して説明してみる                                   |  |       |         |
| 【第5回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：権力と支配 (3) —権力構造論— (課題解決型学習)<br>復習：権力エリート論と権力多元論の論争について簡潔にまとめてみる                             |  |       |         |
| 【第6回】<br>予習：リーダーに必要な資質とは何かについてイメージしておく<br>授業：権力と支配 (4) —政治的リーダーシップ— (課題解決型学習)<br>復習：政治的リーダーシップの四つの類型について実例に即して説明してみる |  |       |         |
| 【第7回】<br>予習：適時指示する<br>授業：政治行動 (1) —政治意識— (課題解決型学習)<br>復習：授業で取り上げたパーソナリティについて実例に即して説明してみる                             |  |       |         |
| 【第8回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政治行動 (2) —政治的無関心— (課題解決型学習)<br>復習：政治的無関心の類型について実例に即して説明してみる                                 |  |       |         |
| 【第9回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政治行動 (3) —投票行動— (課題解決型学習)<br>復習：「アナウンス効果」について実例に即して説明してみる                                   |  |       |         |
| 【第10回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政治行動 (4) —マスメディアの機能— (課題解決型学習)<br>復習：マス・コミュニケーションの特色についてまとめてみる                             |  |       |         |
| 【第11回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政治行動 (5) —マスメディアの効果— (課題解決型学習)<br>復習：「沈黙の螺旋」について実例に即して説明してみる                               |  |       |         |

|  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|--|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：議会の機能についてイメージを膨らませておく<br/>         授業：政治制度（1）—議会制度の歴史と機能—（課題解決型学習）<br/>         復習：議会の機能について簡潔にまとめてみる</p> <p>【第13回】<br/>         予習：物事を多数決で決めるときに何に注意すべきかを考えておく<br/>         授業：政治制度（2）—議会のしくみ—（課題解決型学習）<br/>         復習：「多数派の専制」を最小限に抑えるための方途について考えてみる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる<br/>         授業：政治制度（3）—権力分立、議院内閣制と大統領制—（課題解決型学習）<br/>         復習：議院内閣制と大統領制の違いについて説明してみる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：適宜指示する<br/>         授業：政治制度（4）—イギリスの政治制度—（課題解決型学習）<br/>         復習：イギリスの政治制度の特色について簡潔に説明してみる</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。                               |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 毎回授業時にレジュメを配布する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書  | 適宜、授業内で指示する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 計3回の小テスト（合計30点分）と授業内課題（合計70点分）の累計で評価を行う。合格点は60点以上とする。  |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎  | △   |   | ○   |     |     |     |     |
| 関連科目   | 政治学Ⅱ、人間と思想Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他  | (1) あらためて言うまでもないことですが、授業中の私語は厳禁とします。<br>(2) 授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。<br>(3) 配布したプリントはクリアファイルなどに入れて毎回持参するようにしましょう。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 政治学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Politics Ⅱ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 野崎 孝弘   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 野崎 孝弘   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | この講義の目的は、(1) 政治学に関する基本的な知識を身につけていくこと、(2) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を身につけていくこと、(3) 授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げていくことの三点にある。「政治制度」から「政党」と「利益集団」を経て「選挙制度」にいたるまで、幅広い題材を扱っていきたい。 |       |         |
| 到達目標   | (1) 政治学に関する基本的な知識を習得することができる。<br>(2) 自らの考えを論理的にまとめ、発表することができる論理構成力を磨き上げることができる。<br>(3) 授業で学んだ知識や、習得したスキル・分析視角などを使って、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を磨き上げることができる。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>   |   |       |         |
| 以下を予定している。   |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：なし<br>授業：ガイダンス、政治制度（5）—アメリカの政治制度—（課題解決型学習）<br>復習：アメリカの政治制度の特色について簡潔に説明してみる                             |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政党（1）—政党の意義と機能—（課題解決型学習）<br>復習：政党の機能について簡潔にまとめる   |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政党（2）—政党と政党制の分類—（課題解決型学習）<br>復習：サルトルの分類に従って戦後の日本の政党制について考察してみる                            |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政党（3）—イギリスとアメリカの政党と政党制—（課題解決型学習）<br>復習：政党のありようの違いについて歴史的に考察してみる                           |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：政党（4）—日本の政党と政党制—（課題解決型学習）<br>復習：55年体制が崩壊する前と後の自民党のありようを比較してみる                             |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：利益集団（1）—利益集団の意義と機能—（課題解決型学習）<br>復習：利益集団の機能について簡潔にまとめる                                     |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：利益集団（2）—利益集団の分類—（課題解決型学習）<br>復習：利益集団の活動について実例に即して説明してみる                                   |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：適宜指示する<br>授業：利益集団（3）—多元主義とネオ・コーポラティズム—（課題解決型学習）<br>復習：コーポラティズムとネオ・コーポラティズムの同異点について説明してみる               |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：全米ライフル協会の活動について調べてみる<br>授業：利益集団（4）—アメリカの利益集団—（課題解決型学習）<br>復習：アメリカの利益集団に見られる特徴について説明してみる                |   |       |         |
| 【第10回】<br>予習：日本の利益集団にはどのようなものがあるのかを事前に調べておく<br>授業：利益集団（5）—日本の利益集団—（課題解決型学習）<br>復習：新聞記事などを参考にして族議員のありようについて再度確認してみる |   |       |         |
| 【第11回】<br>予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる<br>授業：選挙制度（1）—選挙の機能と原則—（課題解決型学習）<br>復習：選挙が担う機能について簡潔に説明してみる                     |   |       |         |

【第12回】  
 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる  
 授業：選挙制度（2）—選挙制度の分類—（課題解決型学習）  
 復習：ドント式やサン・ラゲ式などの計算方法について復習してみる

【第13回】  
 予習：高校までに学習してきた内容を思い出してみる  
 授業：選挙制度（3）—選挙制度の長所と短所—（課題解決型学習）  
 復習：それぞれの選挙制度の長所と短所について説明してみる

【第14回】  
 予習：「一票の格差」とは何かについて事前に調べておく  
 授業：選挙制度（4）—日本の選挙制度—（課題解決型学習）  
 復習：特定枠とはどのようなしくみのことなのかを説明してみる

【第15回】  
 予習：適宜指示する  
 授業：選挙制度（5）—選挙とインターネット—（課題解決型学習）  
 復習：インターネットを活用した選挙運動のありようについてさらに調べてみる

|                      |  |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 特に、論理構成力の育成をねらいとした授業内課題を実施するに際しては、その翌週に講評を行い、関係づけができていない箇所とできていない箇所を全員であぶり出す作業を行う。 |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | 毎回授業時にレジュメを配布する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  | 適宜、授業内で指示する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 計3回の小テスト（合計30点分）と授業内課題（合計70点分）の累計で評価を行う。合格点は60点以上とする。                              |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | ◎  | △   |   | ○   |     |     |     |     |
| 関連科目                 | 政治学Ⅰ、人間と思想Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  | 授業内課題は不定期に、しかも頻繁に実施します。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                                     |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 法学   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Law  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 福王 守   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 福王 守   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00<br>後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00   | 研究室   | 10-614  |
| 授業概要   | 法は、人々が社会生活をよりよく営むための手段です。また一方で、法は私たちの生活を強く制約することがあります。あるべき法の姿を方向づけていくのは、私たち一人ひとりの考えに裏づけられた、世論です。この授業では、法と社会の関わりについて基本的な知識を伝えます。未解決な社会問題を考える際に、ひとつの手がかりを提供できれば幸いです。後期の授業では、個々の法のあり方を具体的に紹介した上で、後半において現代社会の抱える高齢社会の問題について考えます。 |       |         |
| 到達目標   | 民社会における客観的な判断基準としての「法」の役割を踏まえて、異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題を考える力を身につけることを目標とします。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| ※ 毎回の授業後には、「問題解決型学習」の手段として課題レポートを作成してもらい、次回授業時にこれに対する解説と質問への回答を行います。   |  |       |         |
| 【第1回】<br>予習：本科目シラバスおよびテキストiii～x頁の講読<br>授業：法学とは：この授業の目的・内容・学習方法について【テキストiii～x頁】<br>復習：テキストiii～x頁の再読、【第1回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                  |  |       |         |
| 【第2回】<br>予習：テキスト7～21、83～85、210頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：市民社会と法：日本法体系の今日的起源と特徴【テキスト7～21、83～85、210～219頁】<br>復習：テキスト7～21、83～85、210～219頁の再読、【第2回】授業ノートおよび配布プリントの整理 |  |       |         |
| 【第3回】<br>予習：テキスト94～110頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：国家の基本法：日本国憲法制定の背景【テキスト94～110頁】<br>復習：テキスト94～110頁の再読、【第3回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                     |  |       |         |
| 【第4回】<br>予習：テキスト94～110頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：国家の基本法：日本憲法の抱える今日的課題【テキスト94～110頁】<br>復習：テキスト94～110頁の再読、【第4回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                  |  |       |         |
| 【第5回】<br>予習：テキスト141～156頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：財産と家族：民法（財産法）について【テキスト141～156頁】<br>復習：テキスト141～156頁の再読、【第5回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                  |  |       |         |
| 【第6回】<br>予習：テキスト128～140頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：財産と家族：民法（家族法）について【テキスト128～140頁】<br>復習：テキスト128～140頁の再読、【第6回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                  |  |       |         |
| 【第7回】<br>予習：テキスト111～127頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：犯罪と刑罰：刑法について【テキスト111～127頁】<br>復習：テキスト111～127頁の再読、【第7回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                       |  |       |         |
| 【第8回】<br>予習：テキスト118～119頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：犯罪と刑罰：未成年者の犯罪と処遇【テキスト118～119頁】<br>復習：テキスト118～119頁の再読、【第8回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                   |  |       |         |
| 【第9回】<br>予習：テキスト180～203頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：国家と国際機構：国際法について【テキスト180～204頁】<br>復習：テキスト180～203頁の再読、【第9回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                    |  |       |         |
| 【第10回】<br>予習：第2回～9回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：これまでの授業の総括と発展学習の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（問題解決型学習）【テキスト全学習頁】<br>復習：テキスト全学習頁の再読、【第10回】授業ノートおよび配布プリントの整理       |  |       |         |
| 【第11回】<br>予習：テキスト200～201頁の講読およびキーワードの確認<br>授業：国家と国際機構：国連とUNICEF【テキスト200～201頁】<br>復習：テキスト200～201頁の再読、【第11回】授業ノートおよび配布プリントの整理                                |  |       |         |

|   |
|---|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : テキスト 157～179 頁の講読およびキーワードの確認<br/> 授業 : 福祉と法 : 社会法の意義 【テキスト 157～179 頁】<br/> 復習 : テキスト 157～179 頁の再読、【第 12 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 13 回】<br/> 予習 : テキスト 157～161 頁の講読およびキーワードの確認<br/> 授業 : 高齢社会と法 : 少子高齢社会と社会保障法 【テキスト 157～161 頁】<br/> 復習 : テキスト 157～161 頁の再読、【第 13 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : テキスト 160～161 頁の講読およびキーワードの確認<br/> 授業 : 高齢社会と法 : 高齢者福祉のあゆみと課題 【テキスト 160～161 頁】<br/> 復習 : テキスト 160～161 頁の再読、【第 14 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : テキスト iii～x 頁の講読およびキーワードの確認<br/> 授業 : 「法と社会」発展学習の手引き : 授業全体の体系的整理と論証に向けて (問題解決型学習) 【テキスト 全学習頁】<br/> 復習 : テキスト全学習頁の再読、【第 15 回】授業ノートおよび配布プリントの整理</p> |
|---|

|                  |   |   |   |  |     |     |     |     |
|------------------|---|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習          | テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもって下さい。必ずどこかで授業理解の助けになります。   |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 適宜次回の授業冒頭において課題レポートに対する講評と質問への回答を述べます。また第 10 回および 15 回目において、レポート課題全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言等を行います。   |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材          | 伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門 (第 4 版)』(有斐閣、2005 年)<br>『ポケット六法 (令和 5 年版)』(有斐閣、2022 年)  |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書              | 授業を通じて適宜紹介します。  |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・15 回のレポートの総合点で評価します (10 点×15 回=150 点を 100 点満点に換算)。</li> <li>・単位取得の前提として、15 回の授業のうち 10 回以上の提出が必要です。</li> </ul> |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎   | △   |   | ○  |     |     |     |     |
| 関連科目             | 「法学」を基礎として、授業が組み立てられています。同授業を十分に参考にしてください。  |   |   |  |     |     |     |     |
| その他              |   |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)  |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |   |   |   |  |     |     |     |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 生物学 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Biology I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 齋藤 理佳   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 齋藤 理佳   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 本講義では、微生物学、栄養学、生化学などの専門科目を理解するための生物学の基礎知識を得ることを目的とし、「生物学の骨格」及び「ミクロの生物学」を講義テーマとします。    |       |         |
| 到達目標  | 本科目の目標としては、おもに細胞（がん細胞や iPS 細胞を含む）、代謝、遺伝のメカニズム及び遺伝子の働きについて学び、ミクロな生物学の内容を身につけることを目標とする。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：高校の生物の教科書に目を通しておくこと<br/> 授業：生物が共有する特徴 - 多様な生物の共通点 -<br/> 復習：ポイントとして示した「生物の特徴」についての内容をノートにまとめておくこと</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：細胞の構造と機能について調べておくこと<br/> 授業：生物の共通の構造 I - 細胞の構造と機能及びその特徴 -<br/> 復習：細胞の構造と機能及びその特徴についての内容をノートにまとめておくこと</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：細胞分裂について調べておくこと<br/> 授業：生物の共通の構造 II - 細胞分裂 -<br/> 復習：「体細胞分裂」と「減数分裂」についての内容をノートにまとめておくこと</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：iPS 細胞と再生医療についてどのようなところで生かされているか考えておくこと<br/> 授業：ES 細胞,iPS 細胞及び再生医療 I - 未分化性を維持した細胞 -<br/> 復習：ES 細胞,iPS 細胞についての内容をノートにまとめておくこと</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：ES 細胞,iPS 細胞以外の幹細胞について調べておくこと<br/> 授業：ES 細胞,iPS 細胞及び再生医療 II - 幹細胞 -<br/> 復習：様々な幹細胞についての内容をノートにまとめておくこと</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：細胞の挙動について調べておくこと<br/> 授業：細胞はどのように語り合うか？<br/> 復習：細胞間の情報交換についてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：生体とエネルギーの関係について考えておくこと<br/> 授業：- エネルギー代謝と酵素 -<br/> 復習：様々な働きを持った酵素についてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：光合成とは何かを復習しておくこと<br/> 授業：光合成と呼吸<br/> 復習：解糖系、クエン酸回路系、電子伝達系などについてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：DNA の構造とはたらきについて考えておくこと<br/> 授業：遺伝子 I - 遺伝情報と DNA -<br/> 復習：DNA の構造および修復機構と DNA 複製についてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：どのように遺伝子をはたらくのか、について考えておくこと<br/> 授業：遺伝子 II - 遺伝子からタンパク質へ -<br/> 復習：「遺伝子（暗号）からタンパク質（機能）への流れ」（機能）についてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：細胞に含まれる DNA は全て同じだが細胞ごとに異なる遺伝子が活性化されている、について考えておくこと<br/> 授業：遺伝子 III - 遺伝子発現の制御 -<br/> 復習：遺伝子発現はどのように制御されているかについてノートにまとめておくこと</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：身近なバイオ技術についてどのようなものがあるか考えておくこと<br/> 授業：DNA テクノロジー グループディスカッション<br/> 復習：今後 DNA 技術はどのような分野で応用されるか考えてみよう</p> <p>【第 13 回】</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>予習：生物の遺伝についてどのような遺伝様式があるのかについて調べておくこと<br/>         授業：遺伝の様式 I - 様々な遺伝様式 -<br/>         復習：ポイントとして示した「様々な遺伝様式」の内容をノートにまとめておくこと<br/>         【第 14 回】<br/>         予習：ヒトの遺伝にはどの遺伝な遺伝形式があるか考えておくこと<br/>         授業：遺伝の様式 II - 染色体とヒトの遺伝学 - 新しい遺伝学の理解のために -<br/>         復習：ヒトの遺伝病についてノートにまとめておくこと<br/>         【第 15 回】<br/>         予習：身近な腸内細菌について考えてみよう<br/>         授業：腸内細菌<br/>         復習：腸内細菌の特徴についてノートにまとめておくこと</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 生物の基礎的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。高校の生物の教科書を復習しておくことをお勧めします。                    |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内に「復習しよう」を実施します。翌週に全体の講評を行うと共に間違いが多かった点をみんなで繰り返し復習する。併せて個別の質問に対しても回答する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 予め講義中に使用するスライドと講義メモを配布します。その他、このほかに講義中に適宜必要に応じて追加資料を配布する。                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業中に必要に応じて適宜参考書類を紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | まとめの試験（80%）ならびに授業内に実施する「復習しよう」（小テスト）などの課題点を含む平常点（20%）により評価する。             |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     |   |     | ○                                       | △   |   |     |
| 関連科目   | 分子生物学、再生発生学、微生物学  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                          |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 生物学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-130-11 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | BiologyⅡ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 齋藤 理佳   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 齋藤 理佳   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 生物学Ⅱでは、前期の生物学Ⅰの細胞、代謝、遺伝のメカニズム、遺伝子などの学習内容に加え、病理学や解剖生理学を学ぶために必要な生物学の基礎知識を得ることを目的とし、生物学Ⅰが「生物学の骨格」及び「ミクロの生物学」を講義テーマであったのに対し、生物学Ⅱでは「マクロの生物学」および「応用」を講義テーマとします。 |       |         |
| 到達目標  | 本講義の目標としては、上記講義テーマに沿った項目、具体的に主にヒトのからだの構造や体内環境の維持、調節および刺激への応答や反応について理解できるようになる。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：高校の生物の教科書に目を通しておくこと<br/> 授業：体内環境の維持Ⅰ－血液の働き－<br/> 復習：ポイントとして示した、血液の働きについての内容をまとめる。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：動物全般のガス交換の意義について考えておくこと<br/> 授業：体内環境の維持Ⅱ－ガス交換－<br/> 復習：ポイントとして示した、ガス交換についての内容をノートにまとめておく。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：動物全般の恒常性の意義について考えておくこと<br/> 授業：体内環境の維持Ⅲ－恒常性（ホメオスタシス）<br/> 復習：ポイントとして示した、恒常性についての内容を整理する</p> <p>【第4回】<br/> 予習：私達の身近なホルモンにはどのような働きがあるかを考えておくこと。<br/> 授業：体内環境の調節－ホルモンによる調節－<br/> 復習：ポイントとして示した、ホルモンによる調節についての内容をノートにまとめる。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：動物全般における体内輸送のメカニズムの重要性について考えておくこと<br/> 授業：体内輸送<br/> 復習：ポイントとして示した、体内輸送についての整理する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：動物全般の神経系、感覚系の一般的性質について考えておくこと<br/> 授業：神経系、感覚系Ⅰ 神経系、感覚系の一般的性質<br/> 復習：ポイントとして示した、神経系、感覚系の一般的性質についてノートにまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：動物全般における脳の構造と機能について調べておくこと<br/> 授業：神経系、感覚系Ⅰ－脳の構造と機能－<br/> 復習：ポイントとして示した、脳の構造と機能についてまとめる。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：脳を構成している細胞がどのようなはたらきをしているのか考えておくこと<br/> 授業：神経系、感覚系Ⅰ－神経細胞とグリア細胞－<br/> 復習：ポイントとして示した、神経細胞とグリア細胞について比較しつつまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：ヒトの感覚受容器にはどのような種類があるか考えておくこと<br/> 授業：神経系と感覚系Ⅱ－視覚、味覚－<br/> 復習：ポイントとして示した、視覚、味覚 についての特徴をそれぞれまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：ヒトは様々な感覚をどのように受け取るかについて考えておくこと<br/> 授業：神経系と感覚系Ⅱ－体性感覚、聴覚、嗅覚－<br/> 復習：ポイントとして示した、体性感覚、聴覚、嗅覚 についての特徴をそれぞれまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：動物全般における発生・分化、特にヒトの発生・分化における過程について考えておくこと<br/> 授業：次世代個体の誕生－発生・分化－<br/> 復習：ポイントとして示した、発生と分化についてまとめる。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：動物全般における生殖の意義について考えておくこと<br/> 授業：次世代個体の誕生－生殖－<br/> 復習：ポイントとして示した、生殖についての内容を整理する</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：ヒトの免疫とアレルギーの違いについて考えておくこと<br/>         授業：免疫とアレルギー<br/>         復習：ポイントとして示した、免疫とアレルギーについてその関係を中心にまとめておくこと</p> <p>【第14回】<br/>         予習：ヒトの睡眠の意義について考えておくこと<br/>         授業：個体の制御 III - 睡眠の意義 - グループディスカッション<br/>         復習：ポイントとして示した、睡眠のメカニズムについて睡眠の意義を中心にまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：なにが睡眠をコントロールしているかについて考えておくこと<br/>         授業：個体の制御 III - 睡眠と特異的な体内物質 -<br/>         復習：ポイントとして示した、睡眠と特異的な体内物質との関係を体内物質名と共に整理してまとめる。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 生物の基礎的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。高校の生物の教科書を復習しておくことをお勧めします。                    |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内に「復習しよう」を実施します。翌週に全体の講評を行うと共に間違いが多かった点をみんなで繰り返し復習する。併せて個別の質問に対しても回答する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 講義中に適宜紹介します。予め講義中に使用する資料を配布します。その他、このほかに講義中に適宜必要に応じて追加資料を配布する。            |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業中に必要に応じて適宜参考書類を紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | まとめの試験（80%）ならびに授業内に実施する「復習しよう」（小テスト）などの課題点を含む平常点（20%）により評価する。             |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     |   |     | ○                                       | △   |   |     |
| 関連科目   | 生理学、病理学   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                          |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 脳腫瘍に関わる癌幹細胞（cancer stem cell）の研究を現在継続して実施している。そのため、脳、神経及び生殖や免疫を中心に講義する。   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 化学 I   |       |         |
| 科目分類   | 210-131-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Chemistry I  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 河合 忍   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 河合 忍   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 高校までの化学の学力を補い、食品学や栄養学について学ぶための化学の基礎を身につけることを目的とする。そのために化学の初歩から解説を始め学部専門科目や実習に必要な基礎を学ぶための講義を行う。「モル計算」、「酸、塩基とpH」、「化学反応式や化学式の書き方」などに自身のない人は、本講義を履修することを薦める。 |       |         |
| 到達目標   | 化学記号、化学式、化学反応、質量%濃度の計算、モル濃度の計算などの基本知識の習得し、管理栄養士の国家試験の試験問題解答に必要な基礎知識と計算力を身に付けることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：高校化学のテキストを持っている人は用意してください。ない人は、こちらが用意する資料でもよいです。<br/> 授業：ガイダンスと講義の進め方 化学が苦手な人のために化学を好きになるには、何が一番大事か。<br/> 復習：用意したプリントを毎回出してもらい、翌週に返します。それを使って復習してください。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：元素表の元素について原子番号の1番から20種類程度憶えておく。<br/> 授業：物質の構成元素（元素と元素記号）<br/> 復習：講義中に演習問題を行い翌週に返却するのでこれらを用いて不得意な分野を復習する。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：原子の構造について調べておくこと。<br/> 授業：原子の構造と電子配置<br/> 復習：講義で配付するプリントを活用し不得意の問題を復習すること。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：イオンとは何かを調べておくこと。<br/> 授業：陽イオンと陰イオンができる仕組み<br/> 復習：イオンについての演習問題を講義中に配付するので復習に活用すること。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：イオン結合と金属結合について調べておくこと。<br/> 授業：イオン結合及び金属結合<br/> 復習：イオン結合についての演習問題を行うので復習に活用すること。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：共有結合について調べておくこと。<br/> 授業：共有結合と分子の構造<br/> 復習：講義内容をまとめたプリントを配付するので復習に用いるとよい。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：原子量、分子量について調べておくこと。<br/> 授業：原子量とは何か、分子量、式量の定義と求め方<br/> 復習：分子量、式量についてのプリントを配付するので復習に活用するとよい。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：アボガド数について調べておくこと。<br/> 授業：アボガド数と物質量（モル）、質量と物質量の換算<br/> 復習：モル計算の演習問題を用意するので復習に活用するとよい。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：質量パーセント濃度について調べておくこと。<br/> 授業：溶液の濃度の表し方、質量パーセント濃度とモル濃度<br/> 復習：モル濃度の計算問題を用意するので復習に活用するとよい。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：モル濃度の定義と計算について<br/> 授業：質量パーセントとモル濃度の換算<br/> 復習：プリントによる計算問題を配布する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：モル濃度の計算について<br/> 授業：モル濃度と密度の計算問題<br/> 復習：配付プリントの問題による計算問題を復習すること。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：化学反応式について調べておくこと。<br/> 授業：化学反応式の規則と作り方<br/> 復習：配付プリントに解説した化学反応式について理解を深めること。</p> |  |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：化学反応の前後における物質の変化について<br/>         授業：化学反応式の量的関係<br/>         復習：講義中に配付するプリントを活用すること。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：酸、アルカリについて調べておくこと。<br/>         授業：酸と塩基の定義<br/>         復習：講義中に配付するプリントを活用するとよい。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：これまでの講義で分からなかったところを書きだし、質問すること。<br/>         授業：前期の講義のまとめを行う。<br/>         復習：前期の講義のプリントをよく読み返して復習すること。</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | 高校の化学を復習しておくこと。高校で化学を履修していなかった者にも講義中に参考資料などを紹介する。                   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 授業で行った内容を演習問題としたプリントにより授業の復習を行う。                                    |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | 特にテキストは定めない。講義ごとに毎回配付するプリント、資料、問題集などを用意する。                          |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書   | 高校で使用した化学の教科書、参考書等を準備してもよい。<br>そのほか、講義で紹介する。                        |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験は参照不可の試験を行い、60分の試験を70点満点で試験行う。これと講義毎に提出する課題30点、合わせて100点満点で評価する。 |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎   |   |   |   | ○   | △   |     |     |
| 関連科目  | 化学Ⅱ、生化学   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他   | 化学Ⅰは化学があまり得意ではない学生に特に履修することを進める。講義は高校での復習が主だが管理栄養士を目指すものは是非履修を進める。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間30時間(2時間×15週) + 予習・復習時間60時間(4時間×15週)                            |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |   |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 化学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-131-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Chemistry Ⅱ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 河合 忍   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 河合 忍   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 高校までの化学の学力を補い、生化学や生化学実験をはじめとする化学の基礎学力を必要とする専門科目に役立つ内容の講義を行う。また、生命科学や化学の役割を身の回りにあるものから学ぶ「化学とは何か」を本講義では紹介する。高校で化学を履修しなかった人や高校化学の学力に自信ない人は特に履修することを薦める。 |       |         |
| 到達目標  | 有機化学の基礎知識を中心に、炭化水素、アミノ酸、糖類の構造と性質を理解し、管理栄養士の国家試験とその応用に必要な知識を身に付けることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：モル濃度の計算方法について<br/> 授業：モル計算の応用<br/> 復習：講義で配付した問題集を復習すること。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：アルコールなど有機化学の基礎<br/> 授業：身の回りの化学<br/> 復習：講義内容のプリントを活用し復習するとよい。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：酸と塩基（アルカリ）について予習すること。<br/> 授業：中和反応と中和の公式<br/> 復習：講義で配布する演習問題の解答編をもとに復習すること。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：中和反応の計算法を理解しておくこと。<br/> 授業：中和の量的関係<br/> 復習：講義で配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：モル濃度の計算法と酸、塩基について<br/> 授業：酸と塩基の量的関係<br/> 復習：講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：pHとは何かについて調べておく。<br/> 授業：pHと中和<br/> 復習：講義で配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：炭化水素化合物について<br/> 授業：有機化合物（炭化水素：アルカン、アルケン、アルキン）<br/> 復習：講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：アルコールの特徴について調べておく。<br/> 授業：有機化合物（アルコール）<br/> 復習：講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：アルデヒドとは何か調べておく。<br/> 授業：有機化合物（アルデヒド）<br/> 復習：講義で配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：カルボン酸について調べておくこと。<br/> 授業：有機化合物（カルボン酸）<br/> 復習：講義中に配布する演習問題で復習するとよい。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：環式炭化水素について調べておくこと。<br/> 授業：芳香族（フェノール）<br/> 復習：講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：アミノ酸と蛋白質について調べておくこと。<br/> 授業：有機化合物（アミノ酸）<br/> 復習：講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |  |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第 13 回】<br/>         予習 : 糖類の種類を調べておくとよい。<br/>         授業 : 単糖類、二糖類、多糖類<br/>         復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第 14 回】<br/>         予習 : 溶解度とは何かしらべておく。<br/>         授業 : 溶解度 (個体の溶解度など)<br/>         復習 : 講義中に配布する演習問題を活用するとよい。</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習 : これまでの講義内容の質問<br/>         授業 : これまでの講義内容のポイントと質問への解答とまとめ<br/>         復習 : 講義で配布した全ての配布プリント</p> |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 高校化学の復習  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 授業で行った内容を演習問題としたプリントにより授業の復習を行う。                               |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | テキストは特に定めない。講義毎にプリント、資料等を配布する。また、演習問題も用意する。                    |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 高校で使用した化学の教科書や問題集、資料などでよい。                                     |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験 (参照不可の試験) と毎回の演習問題提出で評価する。定期試験 (70 点) と演習問題 (30 点) で評価する。 |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎  |     |   |     | ○                                       | △   |  |     |
| 関連科目  | 化学 I、生化学、食品学   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   | 化学 I と同様に化学 II でも苦手意識を持たないように。                                 |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)             |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養の基礎 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-110-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Introductory Nutrition I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 岡田昌己   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 松森 慎悟・岡田 昌己  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 本科目は栄養士・管理栄養士を目指す学生のための入門科目であり、栄養士・管理栄養士に必要な知識を修得するための専門基礎科目（食品学、調理学、解剖生理学など）を履修する上で、身に付けておくべき基礎学力を向上することを目標とする。具体的には化学・生物学について学び、定期的に基礎学力試験を行う。 |       |         |
| 到達目標   | 食品学、調理学、解剖生理学などの専門基礎科目を履修するうえで必要となる基礎化学（物質の構成、物質の変化）と有機化学、そして生物学の知識を修得する。また、比・割合などの基礎数学の知識も身につけることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：基礎ゼミ I・II 教科書 P14～25 を読んでおく。<br/> 授業：授業の概要説明、第 1 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、化学、基礎生物学）<br/> 復習：キーワードの確認、第 1 回基礎学力試験の復習</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：基礎化学（原子の構造、電子配置等）の自習<br/> 授業：第 1 回基礎学力試験の解説、基礎化学（原子の構造、電子配置等）<br/> 復習：基礎化学（原子の構造、電子配置等）の復習</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：基礎数学（比、割合）の自習<br/> 授業：基礎数学（比、割合等）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：基礎有機化学（有機化合物について）の自習<br/> 授業：基礎有機化学（有機化合物について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：基礎生物学（細胞と組織について）の自習<br/> 授業：基礎生物学（細胞と組織について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：これまでの授業の重要項目を確認しておく。<br/> 授業：第 2 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、基礎化学、有機化学）<br/> 復習：第 2 回基礎学力試験の復習</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：基礎有機化学（有機化合物の分類、官能基について）の自習<br/> 授業：第 2 回基礎学力試験の解説、基礎有機化学（有機化合物の分類、官能基について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：基礎生物学（消化管の構造について）の自習<br/> 授業：基礎生物学（消化管の構造について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：有機化学（炭水化物について）の自習<br/> 授業：有機化学（炭水化物について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：基礎生物学（消化・吸収・代謝について）の自習<br/> 授業：基礎生物学（消化・吸収・代謝について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：これまでの授業の重要項目を確認しておく。<br/> 授業：第 3 回基礎学力試験（試験科目：基礎数学、有機化学、基礎生物学）<br/> 復習：第 3 回基礎学力試験の復習</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：有機化学（炭水化物について）の自習<br/> 授業：第 3 回基礎学力試験の解説、有機化学（炭水化物について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：基礎化学（モルについて）の自習<br/> 授業：基礎化学（モルについて）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第14回】<br/> 予習：有機化学（脂質・たんぱく質について）の自習<br/> 授業：有機化学（脂質・たんぱく質について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第15回】<br/> 予習：基礎化学（モル濃度について）の自習<br/> 授業：基礎化学（モル濃度について）<br/> 復習：キーワードの確認</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 化学基礎、生物基礎について学習しておくが良い。                                |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 授業1回目、6回目、11回目に実施する基礎学力試験については、翌週に解説を行う。               |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 指定の教科書はなく、必要に応じて資料を配布する。                               |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 駒沢女子大学 教科書シリーズ『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』<br>『食べ物と健康Ⅰ 食品学総論』高岡素子編（八千代出版） |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 基礎学力試験、定期試験で評価する。配点（100点満点における）は基礎学力試験30%、定期試験70%とする。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                        |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎  |     |   |     | ○                                       | △   |   |     |
| 関連科目  | 基礎ゼミⅠ・Ⅱ、化学、生物学、食品学                                     |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）       |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養の基礎Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-110-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Introductory Nutrition II  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 岡田昌己   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 岡田 昌己・松本 雄宇  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 本科目は、前期と同様に専門基礎科目を履修する上で必要となる基礎知識を習得することを目標とする。具体的には基礎学力試験を定期的に行い、基礎学力の向上を図りながら、核酸化学、食の化学、実験化学、代謝について理解を深める。 |       |         |
| 到達目標   | 基礎栄養学、解剖生理学などの専門基礎科目を履修するうえで必要となる生物学と食品学、調理学の理解をより深めるための知識を習得する。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：栄養の基礎Ⅰで配布したプリント（物質量、モル濃度の計算）についての復習<br/> 授業：栄養の基礎Ⅰの復習（物質量、モル濃度の計算について）<br/> 復習：授業内配布プリントの確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：栄養の基礎Ⅰで配布したプリント（基礎化学、有機化学、三大栄養素）についての復習<br/> 授業：栄養の基礎Ⅰの復習（基礎化学、有機化学、三大栄養素について）<br/> 復習：授業内配布プリントの確認</p> <p>【第3回】<br/> 予習：生物学、化学、三大栄養素の復習<br/> 授業：第1回基礎学力試験（試験内容：生物学、化学（計算を含む）、三大栄養素）<br/> 復習：第1回基礎学力試験の復習</p> <p>【第4回】<br/> 予習：基礎化学の復習<br/> 授業：実験のための化学の基礎知識について（酸・塩基、中和滴定について）、第1回基礎学力試験の解説<br/> 復習：中和の公式の確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：食品学Ⅰについての復習<br/> 授業：水及び炭水化物（単糖類、少糖類）について、第1回基礎学力試験の解説<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第6回】<br/> 予習：基礎化学の復習<br/> 授業：実験のための化学の基礎知識について（酸・塩基、モル濃度、希釈について）<br/> 復習：中和の公式の確認</p> <p>【第7回】<br/> 予習：食品学Ⅰの復習<br/> 授業：炭水化物（多糖類）及び脂質について<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：基礎化学、有機化学の復習<br/> 授業：第2回基礎学力試験（化学（計算を含む）、水、炭水化物、脂質）<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：栄養の基礎Ⅰ（人体の構造）の復習<br/> 授業：基礎生物学（糖質の消化と吸収および代謝について）、第2回基礎学力試験の解説<br/> 復習：キーワードの確認</p> <p>【第10回】<br/> 予習：食品学Ⅰの復習<br/> 授業：タンパク質及び酵素について、第2回基礎学力試験の解説<br/> 復習：キーワードの確認</p> |  |       |         |

【第 11 回】  
 予習：栄養の基礎 I（人体の構造）の復習  
 授業：基礎生物学（脂質の消化と吸収および代謝について）  
 復習：キーワードの確認

【第 12 回】  
 予習：食品学 I の復習  
 授業：ビタミン及び無機質について  
 復習：キーワードの確認

【第 13 回】  
 予習：有機化学、基礎生物学の復習  
 授業：第 3 回基礎学力試験（代謝、タンパク質及び酵素、ビタミン及び無機質）  
 復習：第 3 回基礎学力試験の復習

【第 14 回】  
 予習：栄養の基礎 I（人体の構造）の復習  
 授業：基礎生物学（タンパク質の消化と吸収および代謝について）、第 3 回基礎学力試験の解説  
 復習：キーワードの確認

【第 15 回】  
 予習：生物学の復習  
 授業：ヌクレオチド及び核酸について、第 3 回基礎学力試験の解説  
 復習：キーワードの確認

|                  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|------------------|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 授業開始前学習          | 化学基礎、生物基礎について学習しておくが良い。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業 3 回目、8 回目、13 回目に実施する基礎学力試験については、翌週に解説を行う。   |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材          | 事前に資料を配布する。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書              | 駒沢女子大学 教科書シリーズ『基礎ゼミ I・II』<br>『食べ物と健康 I 食品学総論』高岡素子編（八千代出版）<br>『栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学』田地陽一編（羊土社） |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法         | 基礎学力試験、定期試験で評価する。配点（100 点満点における）は基礎学力試験 30%、定期試験 70%とする。                                     |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当            | ◎  |     |   |     | ○                                       | △   |  |     |
| 関連科目             | 基礎ゼミ I・II、化学、生物学、食品学、基礎栄養学、解剖生理学   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他              |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 統計の基礎   |       |         |
| 科目分類   | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Basic Statistics  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 田端 章明   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 田端 章明   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | この授業では統計学のなかでも、より基礎的な「記述統計学」の習得をテーマとします。記述統計学の狙いは、与えられたデータを、特徴がわかりやすくなるようにまとめることです。この授業では平均値のような単純なまとめ方からスタートして、より高度なまとめ方までを段階的に勉強していきます。 |       |         |
| 到達目標   | 記述統計学の基礎を理解し、目的に応じてデータを適切にまとめ、知見を引き出せるようになること。これを到達目標とします。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：このシラバスを読んでおくこと<br/> 授業：記述統計学とは何か<br/> 復習：シラバスと初回の授業を手がかりに、自分はこの授業を履修すべきかについて熟考すること</p> <p>【第2回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（1）」を読んでおくこと<br/> 授業：1変数の統計的分析（1） 代表値と散布度<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと（自力で解決できなかったところは質問すること。以下、同様）</p> <p>【第3回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（2）」を読んでおくこと<br/> 授業：1変数の統計的分析（2） 標準化得点と偏差値、変動係数<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第4回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（1） 1変数の統計的分析について<br/> 復習：問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること</p> <p>【第5回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（3）」を読んでおくこと<br/> 授業：2変数の統計的分析（1） 共分散と相関係数<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第6回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（4）」を読んでおくこと<br/> 授業：2変数の統計的分析（2） 相関関係と因果関係<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第7回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（2） 相関係数について<br/> 復習：問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること</p> <p>【第8回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（5）」を読んでおくこと<br/> 授業：量的変数と質的変数の違い、4つの尺度の区別<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第9回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（6）」を読んでおくこと<br/> 授業：2変数の統計的分析（3） 2×2のクロス表の関連性指標<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第10回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（7）」を読んでおくこと<br/> 授業：2変数の統計的分析（4） 2×2より大きなクロス表の関連性指標<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第11回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（3） クロス表について<br/> 復習：問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること</p> <p>【第12回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（8）」を読んでおくこと<br/> 授業：3変数の統計的分析（1） 多重クロス表の読み方<br/> 復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：「次回予告レジュメ(9)」を読んでおくこと<br/>         授業：3変数の統計的分析(2) 偏相関係数<br/>         復習：わからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第14回】<br/>         予習：授業内課題に向けて、復習をしておくこと<br/>         授業：ここまでのまとめと授業内課題(4) 3変数の統計的分析について<br/>         復習：問題用紙を見ながら、自分の解答についてふりかえること</p> <p>【第15回】<br/>         予習：この回は、予習は不要<br/>         授業：記述統計学から推測統計学へ<br/>         復習：期末試験に向けて、勉強すること</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内課題は翌週の授業で返却し、問題について解説します。                          |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | テキストは指定しません。代わりに授業内容をまとめたレジュメを配布します。                  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 参考書は折に触れて紹介します。                                       |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | コメントシート(30点満点)、授業内課題(40点満点)、期末試験(30点満点)で評価します。        |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                       |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     |   |     | ○                                       |     | ○  | △   |
| 関連科目   | 同じ講師による後期開講科目「統計の応用」では、統計学のもう1つの柱である「推測統計学」について学びます。  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  | 授業での計算には電卓を使います。8ケタ以上表示でき、平方根(ルート)の計算ができる電卓を用意してください。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)    |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 統計の応用   |       |         |
| 科目分類  | 210-130-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Applied Statistics  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 田端 章明   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 田端 章明   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | <p>同じ講師による「統計の基礎」の続編です。授業のテーマは「推測統計学のエッセンスに触れる」です。「推測統計学」とは、「限られたデータをもとにして、未知のデータも含む全体の傾向を推し測る（おしはかる）」ことを目的とした統計学です。</p> <p>最初の数週は基礎固めとして記述統計学について、推測統計学を学ぶのに必要な範囲を学習します。その後、推測統計学の主要な役割である、「統計的推定」と「統計的検定」について、じっくりと学習します。</p> |       |         |
| 到達目標  | 推測統計学の基礎を理解し、統計データを目にしたときに「この結果は統計的に意味があるのか」という判断ができるようになること。これを到達目標とします。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：このシラバスを読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学とは何か<br/> 復習：「自分にとってこの授業がプラスになるかどうか」を熟慮したうえで、履修を決めること</p> <p>【第2回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（1）」を読んでおくこと<br/> 授業：記述統計学の復習（1）：代表値と散布度<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決すること（解決できない疑問は質問すること。以下、同様）</p> <p>【第3回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（2）」を読んでおくこと<br/> 授業：記述統計学の復習（2）：標準化得点と変動係数<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決すること</p> <p>【第4回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、今までの内容を復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（1）：記述統計学のまとめと課題<br/> 復習：今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること</p> <p>【第5回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（3）」を読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学（1）：確率分布とは何か<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決すること</p> <p>【第6回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（4）」を読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学（2）：確率分布表のしくみと使い方<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第7回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（2）：確率分布のまとめと課題<br/> 復習：今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること</p> <p>【第8回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（5）」を読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学（3）：統計的推定の方法1（標準化正規分布を使った平均値の区間推定）<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第9回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（6）」を読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学（4）：統計的推定の方法2（t分布を使った平均値の区間推定）<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第10回】<br/> 予習：授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと<br/> 授業：ここまでのまとめと授業内課題（3）：統計的推定のまとめと課題<br/> 復習：今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること</p> <p>【第11回】<br/> 予習：「次回予告レジュメ（7）」を読んでおくこと<br/> 授業：推測統計学（5）：統計的検定の発想としくみ<br/> 復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：「次回予告レジュメ(8)」を読んでおくこと<br/>         授業：推測統計学(6)：統計的検定の方法1(カイ2乗検定)<br/>         復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第13回】<br/>         予習：「次回予告レジュメ(9)」を読んでおくこと<br/>         授業：推測統計学(7)：統計的検定の方法2(t検定)<br/>         復習：授業でわからなかったところを解決しておくこと</p> <p>【第14回】<br/>         予習：授業内課題に向けて、関係する内容を復習しておくこと<br/>         授業：ここまでのまとめと授業内課題(4)：統計的検定のまとめと課題<br/>         復習：今までのレジュメを参照しながら、「自分の答えはあれでよかったか」とふりかえること</p> <p>【第15回】<br/>         予習：この回は予習は不要<br/>         授業：より高度な統計的分析に向けて<br/>         復習：期末試験に向けて勉強すること</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 前期開講科目の「統計の基礎」を履修しないでこの科目を履修する場合には、記述統計学の基礎(平均値・分散・標準偏差・標準化得点など)について勉強しておくこと。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内課題は翌週の授業で返却し、問題について解説します。  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | テキストは指定しません。代わりに授業の流れをまとめたレジュメを配布します。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 参考書は折に触れて紹介します。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | コメントシート(30点満点)、授業内課題(40点満点)、期末試験(30点満点)で評価します。                                |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     |   |     | ○                                       |     | ○  | △   |
| 関連科目   | 同じ講師による前期開講科目「統計の基礎」では、統計学のもう1つの柱である「記述統計学」について学びます。                          |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  | 授業での計算には電卓を使います。8ケタ以上表示でき、平方根(ルート)の計算ができる電卓を用意してください。                         |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                            |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |  |     |

|                     |  |       |         |
|---------------------|--|-------|---------|
| 科目名称                | 情報処理   |       |         |
| 科目分類                | 210-130-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称                | Information Processing   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者               | 末木 俊之  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員                | 末木 俊之  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー             | 前期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30<br>後期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30   | 研究室   | 10-601  |
| 授業概要                | <p>コンピュータを利用するための情報処理の基本的知識（情報の表現、情報量の単位、コンピュータの仕組みなど）を学ぶ。またパソコンがインターネットに容易に接続されるようになり、コンピュータ利用の多様化・利便性はどんどん高まってはいるが、逆に利用上の問題点も多い。情報取扱い上のモラル・法的知識、ネットワークの知識、インターネットの問題点とそれに対応するためのセキュリティに関する知識も扱う。</p> <p>授業および予習／復習では、各自-googleスプレッドシート、シミュレーション、シミュレーションを動かした動画等を使用して課題に取り組むことがある。</p> |       |         |
| 到達目標                | <p>文字・数値・画像情報を2進数、16進数で表現できるようになる。アナログ情報からデジタル情報が生み出される流れを理解し、デジタル化の作業ができるようになる。</p> <p>電子回路により計算の回路、メモリーなどが作られコンピュータが構成されていることを理解し、説明できるようになる。</p> <p>またインターネットのネットワークの基本的な仕組み、性質を理解し、その問題点を解決するための暗号技術を基盤とする電子署名などの知識を身に付けることを目標とする。</p>   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業      | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習） |  |       |         |
| 第1回                 | <p>予習：教科書1頁から9頁、19頁から21頁を読むこと。</p> <p>授業：情報とコンピュータについて（教科書1頁から9頁、19頁から21頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：授業で使用するartisoCシミュレーションを使って慣れておくこと。</p>  |       |         |
| 第2回                 | <p>予習：教科書55頁から59頁、83頁から85頁を読むこと。</p> <p>授業：情報の表現（文字情報）（教科書55頁から59頁、83頁から85頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：自分の名前の文字コードなど調べてみる。</p>   |       |         |
| 第3回                 | <p>予習：教科書19頁から24頁を読むこと。</p> <p>授業：アナログとデジタル（教科書19頁から24頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：教科書74頁の課題3-②を自習すること。</p>  |       |         |
| 第4回                 | <p>予習：教科書58頁から66頁を読むこと。</p> <p>授業：2進数、16進数、10進数（教科書58頁から66頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：教科書80頁、81頁の課題を自習すること。</p>   |       |         |
| 第5回                 | <p>予習：教科書25頁から27頁を読むこと。</p> <p>授業：アナログ画像のデジタル化（教科書25頁から27頁）（googleスプレッドシート・シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：教科書77頁の課題4-⑦を自習すること。</p>  |       |         |
| 第6回                 | <p>予習：教科書66頁から70頁を読むこと。</p> <p>授業：電子回路（教科書66頁から70頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：教科書81頁の課題6-⑧を自習すること。</p>   |       |         |
| 第7回                 | <p>予習：教科書30頁から35頁を読むこと。</p> <p>授業：コンピュータの構成と歴史（教科書30頁から35頁）（実習）</p> <p>復習：教科書77頁の課題4-①から⑥を自習すること。</p>  |       |         |
| 第8回                 | <p>予習：教科書36頁から54頁を読むこと。</p> <p>授業：コンピュータの基本構成（教科書36頁から54頁）（実習）</p> <p>復習：教科書78頁の課題を自習すること。</p>   |       |         |
| 第9回                 | <p>予習：教科書10頁から15頁を読むこと。</p> <p>授業：インターネットネットワークの仕組み（教科書10頁から15頁）（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：教科書73頁の課題を自習すること。</p>   |       |         |
| 第10回                | <p>予習：『コンピュータネットワーク入門』などの本を読むこと。</p> <p>授業：TCP/IP、IPアドレス（シミュレーションを使った実習）</p> <p>復習：『コンピュータネットワーク入門』などの本を読み理解を深めること。</p>  |       |         |
| 第11回                | <p>予習：教科書12頁から14頁を読むこと。</p> <p>授業：DNS、ドメイン名について（教科書12頁から14頁）（実習）</p> <p>復習：教科書73頁の課題2-③を自習すること。</p>  |       |         |
| 第12回                | <p>予習：配付ワープロ資料に目を通して置くこと。</p> <p>授業：インターネット上の脅威、セキュリティ</p> <p>復習：『インターネット取引は安全か』などの本を読み理解を深めること。</p>   |       |         |
| 第13回                | <p>予習：『暗号攻防史』の前半を読むなどすると良い。</p> <p>授業：Webと暗号（Excelを使った実習）</p> <p>復習：『暗号の数理』などの本を読み理解を深めること。</p>  |       |         |
| 第14回                | <p>予習：『インターネット取引は安全か』などの本で、公開鍵暗号について予習しておくこと。</p> <p>授業：暗号とセキュリティ（実習）</p> <p>復習：『暗号の数理』などの本を読み理解を深めること。</p>  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>第 15 回 予習 : 教科書 15 頁から 19 頁を読むこと。<br/>         授業 : 個人情報とプライバシー・著作権など (教科書 15 頁から 19 頁)<br/>         復習 : 教科書 73 頁の課題を自習すること。</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 「コンピュータ演習 I / 情報処理入門」でも情報処理の基礎知識を少し扱っている。同じ教科書を使っているので少し先に読み進めておくと分かりやすい。                              |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 2 進数の足し算、2 進数・10 進数・16 進数相互の変換など、学生が苦手な事柄について課題を出す。その結果に基づき、次の授業にて解説をする。                               |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 楊国林、篠政之、明田川紀彦著『使って 学んで 知ろう PC のこころえ neo』(ポラーノ出版)。この他に classroom に、動画、スライドなどの資料を掲載する。                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 西井美鷹、神崎洋治著『体系的に学ぶインターネットセキュリティ』(日経 B P 社)、小口正人著『コンピュータネットワーク入門』(サイエンス社)、五味俊夫著『インターネット取引は安全か』(文藝春秋社) など |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 最終的な成績評価を 100 点満点とすると、評価の点数配分は、平常点 (授業態度) 20 点、課題 80 点の配分とする。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目   | 1 年生前期の「コンピュータ演習 I / 情報処理入門」でもコンピュータの基本構成、情報の単位などの話が登場するが、この科目ではさらにコンピュータ・ネットワークについてより詳細に学ぶ。           |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  | 理解を深めるため各自 1 台のコンピュータを使い授業を行う。10-27 教室を使う予定だが、履修者数多数の場合は履修制限を行うことがありうる。                                |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |          |
|--|---|-------|----------|
| 科目名称   | コンピュータ演習 I  |       |          |
| 科目分類   | 210-110-21  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Computer Laboratory I   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 末木 俊之   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 末木 俊之   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30<br>後期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30  | 研究室   | 10-601   |
| 授業概要   | ここ数年の情報を取り巻く環境とそれを取り扱う情報機器の変化が著しい。コンピュータ中心だった情報処理からスマートフォンやタブレット端末が主流の情報共有に変化し、情報そのものも複雑化してきた。コロナ禍における社会の変化はさまざま、テレワークや遠隔授業など私たちの生活を一変させるものでした。また、小中高においても情報活用能力の育成と ICT 活用が新学習指導要領のもと全面实施されました。こうした中、コンピュータ演習 I および II では、ICT（情報通信技術）を中心とした情報リテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を中心に広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのワープロとプレゼンテーションを中心に、基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて演習を行う。 |       |          |
| 到達目標   | コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトが使えるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、情報のやり取りができるようになる。  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |          |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>   |   |       |          |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：履修ガイド・学生生活ガイドを読んでおくこと<br/> 授業：コンピュータの仕組みと起動/KOMAJO ポータルの使い方/Google クラスルームの使い方/メールの使い方<br/> 復習：KOMAJO ポータルのログインやメールの送受信などおさらいして慣れておくこと</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：教科書 P10～P13 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：タイピング（課題 2-1-1）<br/> 復習：タイピングのホームポジションを振り返っておくこと</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：教科書 P14～P15 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：四字熟語・慣用句の入力（課題 2-1-2・課題 2-1-3）<br/> 復習：四字熟語・慣用句の意味を振り返っておくこと</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：教科書 P16～P17 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：文書作成とレイアウト（課題 2-1-4・課題 2-2-1・課題 2-2-5）<br/> 復習：さまざまな文章のレイアウトを確認すること</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：教科書 P18～P21 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（時間割）（課題 2-3-1）<br/> 復習：作成した時間割から操作方法を振り返ること</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：教科書 P22～P23 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（履歴書）（課題 2-3-2）<br/> 復習：作成した履歴書から操作方法を振り返ること</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：教科書 P24～P25 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2-3-3）<br/> 復習：作成したレシピから操作方法を振り返ること</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：教科書 P26～P27 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：罫線処理とレイアウト処理（レシピ）（課題 2-3-3）<br/> 復習：作成したレシピから画像の取り扱いを振り返ること</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：教科書 P28～P30 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（見積書）（課題 2-3-4）<br/> 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：教科書 P31～P32 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：図形描画（キャラクタ）（課題 2-4-1）<br/> 復習：図形描画の操作方法を振り返ること</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：教科書 P33～P35 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：図形描画（地図）（課題 2-4-2）<br/> 復習：さまざまな表組みと文章を組み合わせた文書を確認すること</p> |   |       |          |

|  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|--|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：教科書 P36～P40 を読んでおくこと<br/> 授業：ワープロ演習：ビジネス文書の作成（クラス会）（課題2-4-3）<br/> 復習：文字データと図形データが混在した書類等を確認すること</p> <p>【第13回】<br/> 予習：教科書 P41～P42 を読んでおくこと<br/> 授業：プレゼン演習：シナリオメイキングと情報収集（旅行計画）<br/> 復習：シナリオ（ストーリー）を何度も振り返ること</p> <p>【第14回】<br/> 予習：教科書 P43～P44 を読んでおくこと<br/> 授業：プレゼン演習：情報の構造化と構成（旅行計画）<br/> 復習：さまざまなプレゼン資料を確認すること</p> <p>【第15回】<br/> 予習：教科書 P45～P46 を読んでおくこと<br/> 授業：プレゼン演習：プレゼンテーションと演出（旅行計画）<br/> 復習：全体の流れの振り返りをする</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  | 高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にアドバイスを行う。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書  |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 毎回出される課題 40%、課題の内容および出来ばえ 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。  |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎  |   | △                                       |   |     |     | ○   |     |
| 関連科目   | コンピュータ演習Ⅱ<br>情報と科学   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他  | GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。<br>課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | コンピュータ演習Ⅱ  |       |          |
| 科目分類  | 210-130-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | Computer Laboratory II   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 末木 俊之  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 末木 俊之  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30<br>後期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30   | 研究室   | 10-601   |
| 授業概要  | コンピュータ演習Ⅰと同様に、総合的に ICT（情報通信技術）を活用する知識とリテラシーを身につけるため、基礎理論の講義とその演習を広範囲にわたって授業を行う。本演習では、オフィス系ソフトのエクセル（スプレッドシート）を中心に、特に、数値処理や統計処理など基礎ゼミや専門ゼミ、2 年次以降の授業で活かせるよう課題解決型学習に準じて実務的な演習を行う。 |       |          |
| 到達目標  | コンピュータとスマートフォン（タブレット）を連携し、適切な情報収集および情報処理ができるようになる。具体的には、オフィス系ソフトが使えるようになる。併せてメールやクラウドの概念を理解し、情報のやり取りができるようになる。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |          |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |  |       |          |
| <p>【第1回】<br/> 予習：教科書 P45～P46 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：作表（データ入力と罫線処理）（課題3-1-1）<br/> 復習：時間割、カレンダーなど格子状のデータを確認すること</p> <p>【第2回】<br/> 予習：教科書 P47～P48 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：作表（複雑な罫線処理）（課題3-1-2）<br/> 復習：フロアマップや料金表など複雑な表形式のデータを確認すること</p> <p>【第3回】<br/> 予習：教科書 P49～P50、P53～54 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：計算とグラフの基本（課題3-2-1～課題3-2-5）<br/> 復習：構造化された情報を紙に書き起こして見返すこと</p> <p>【第4回】<br/> 予習：教科書 P51～P52 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：世界の人口分布（課題3-3-1）<br/> 復習：総務省統計局のさまざまなデータを確認すること</p> <p>【第5回】<br/> 予習：教科書 P56～P57 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：世界の主要都市の平均気温（課題3-3-2）<br/> 復習：気象庁のさまざまなデータを確認すること</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教科書 P58～P59 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：成績表（課題3-3-3）<br/> 復習：基本統計量（その1）を振り返ること</p> <p>【第7回】<br/> 予習：教科書 P60～P62 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：成績表（課題3-3-3）<br/> 復習：基本統計量（その2）を振り返ること</p> <p>【第8回】<br/> 予習：教科書 P63～P64 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：身体測定表（課題3-3-4）<br/> 復習：複雑な理論式による求め方についてまとめておくこと</p> <p>【第9回】<br/> 予習：教科書 P65～P66 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：身体測定表（課題3-3-4）<br/> 復習：プログラミングの概念を振り返ること</p> <p>【第10回】<br/> 予習：教科書 P67～P68 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：レシート（課題3-4-1）<br/> 復習：さまざまなレシートを確認すること</p> <p>【第11回】<br/> 予習：教科書 P69～P71 を読んでおくこと<br/> 授業：表計算演習：レシピ（課題3-4-7）<br/> 復習：栄養管理について確認すること</p> |  |       |          |

【第 12 回】  
 予習 : 教科書 P72~P73 を読んでおくこと  
 授業 : 表計算演習 : ローンシミュレーション (課題 3 - 4 - 4)  
 復習 : 金利について確認すること

【第 13 回】  
 予習 : 教科書 P75~P77 を読んでおくこと  
 授業 : 表計算演習 : 歳入・歳出の概要 (課題 3 - 4 - 2)  
 復習 : それぞれの区分について理解すること

【第 14 回】  
 予習 : 次年度予算関連のニュース記事を確認すること  
 授業 : 表計算演習 : 歳入・歳出の概要 (課題 3 - 4 - 2)  
 復習 : 財政状況と時事問題を理解すること

【第 15 回】  
 予習 : いままでの課題について振り返ること  
 授業 : 表計算演習 : 見積書 (課題 3 - 4 - 3)  
 復習 : それぞれの課題について振り返ること

|                      |  |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 高校の教科「情報」の教科書を読んでおくこと全体像をつかみやすい。コンピュータ演習 I の内容をおさらいしておくこと  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 全体には、次の回に復習として解説を行う。個別には、課題返却時にアドバイスを行う。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | 『講義と演習 情報のこころえ』ポラーノ出版  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 毎時間出される課題 40%、課題の内容および出来映え 40%と授業に対する取り組み（授業態度）20%で評価を決める。   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | ◎  |   | △                                       |   | △   |     | ○   |     |
| 関連科目                 | コンピュータ演習 I<br>情報と科学  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  | GWE(Google Workspace for Education)を中心に、Microsoft オフィスもしくは、Google ドキュメント、スプレッドシート、スライドにて課題作成を行う。<br>課題の提出および資料の配布は、GWE を通して行う。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | 言語表現演習 I   |       |          |
| 科目分類  | 100-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | Seminar on Japanese Representation I   | 授業区分  | 演習・実習・実技 |
| 科目責任者   | 橋本 衆宝  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 橋本 衆宝  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 09:00～12:00<br>後期 水曜日 09:00～12:00   | 研究室   | 10-616   |
| 授業概要  | ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。敬語の使い方、文法上問題のある表現、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。 |       |          |
| 到達目標  | 敬語や文法などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |          |
| 【第1回】<br>予習：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの12～14頁を読んでおく。<br>授業：前期の授業の進め方について説明する。教科書a「敬語の種類と使い分け」（12～14頁）について説明する。<br>復習：教科書aの12～14頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第2回】<br>予習：教科書aの15～17頁の練習・応用問題を予習する。<br>授業：教科書a「敬語の種類と使い分け」の練習・応用問題（15～17頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの15～17頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第3回】<br>予習：教科書aの18～20頁を読み、21～23頁の練習・応用問題を予習しておく。<br>授業：教科書a「注意すべき敬語」（18～20頁）について説明し、練習・応用問題（21～23頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの18～23頁を復習する                           |  |       |          |
| 【第4回】<br>予習：教科書aの24～26頁と、教科書bの39～46頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「配慮を示す言葉」（24～26頁）について説明する。教科書b「手紙を書こう」（39～46頁）について説明する。<br>復習：教科書aの24～26頁と、教科書bの39～46頁を復習する。                          |  |       |          |
| 【第5回】<br>予習：教科書bの39～46頁を読み直す。<br>授業：教科書b「手紙を書こう」（39～46頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。作文課題1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。<br>復習：手紙文の書き方を復習する。                                      |  |       |          |
| 【第6回】<br>予習：教科書aの27～29頁の練習・応用問題を予習しておく。<br>授業：作文課題1を返却し、解説する。教科書a「配慮を示す言葉」の練習・応用問題（27～29頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの27～29頁を復習する。                                    |  |       |          |
| 【第7回】<br>予習：教科書aの32～34頁を読み、35～36頁の練習問題を予習しておく。<br>授業：教科書a「品詞・活用の種類」（32～34頁）について説明してから、練習問題（35～36頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの32～36頁を復習する。                            |  |       |          |
| 【第8回】<br>予習：教科書aの37頁の応用問題を予習しておく。教科書bの5～10頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「品詞・活用の種類」の応用問題（37頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書b「まずは書いてみよう」（5～10頁）について説明する。<br>復習：教科書aの37頁と、教科書bの5～10頁を復習する。     |  |       |          |
| 【第9回】<br>予習：教科書bの11～18頁を読んでおく。<br>授業：教科書b「よい文章を書くために」（11～18頁）の「(1)「文」を書くときの注意点」（11～13頁）について説明してから、作文課題2（原稿用紙に書く）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。<br>復習：「文」を書くときの注意点と、原稿用紙の使い方を復習する。 |  |       |          |
| 【第10回】<br>予習：教科書bの11～18頁を読み直す。<br>授業：作文課題2を返却し、解説する。教科書b「よい文章を書くために」（11～18頁）の「(2)「文」から「文章」へ」以降（13～18頁）について説明する。<br>復習：教科書bの11～18頁を復習する。                                     |  |       |          |

|  |
|--|
| 【第11回】<br>予習：教科書 a の 38～40 頁を読んでおく。教科書 b の 5～18 頁を読み直す。<br>授業：教科書 b「まずは書いてみよう」(5～10 頁)・「よい文章を書くために」(11～18 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 2 で確認する。<br>教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」(38～40 頁)について説明する。<br>復習：教科書 a の 38～40 頁と、教科書 b の 5～18 頁を復習する。 |
| 【第12回】<br>予習：教科書 a の 41～43 頁の練習・応用問題を予習し、44～46 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 a「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」の練習・応用問題 (41～43 頁)の答え合わせと解説を行い(課題解決型学習)、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」(44～46 頁)について説明する。<br>復習：教科書 a の 41～46 頁を復習する。                                |
| 【第13回】<br>予習：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 b「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁)を説明してから、作文課題 3 (論理的な文章)の下書き(構成)を考えさせた上で、宿題にする(課題解決型学習)。<br>復習：教科書 b の 19～21 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。   |
| 【第14回】<br>予習：教科書 a の 47～49 頁の練習・応用問題を予習する。<br>授業：教科書 a「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」の練習・応用問題 (47～49 頁)の答え合わせと解説を行う(課題解決型学習)。<br>教科書 a で前期に学んだことを振り返る。<br>復習：教科書 a の 47～49 頁と、教科書 a で前期に学んだことを復習する。  |
| 【第15回】<br>予習：教科書 b の 19～21 頁を読み直す。前期の授業内容を振り返る。<br>授業：教科書 b の「さあ文章を書いてみよう」(19～21 頁)の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。作文課題 3 を解説する。教科書 b で前期に学んだことを振り返る。<br>復習：教科書 b で前期の授業で学んだことを復習する。   |

|                      |   |   |            |     |   |  |     |     |
|----------------------|---|---|------------|-----|---|--|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。  |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。  |   |            |     |   |  |     |     |
| テキスト・教材              | a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK7 著(東京書籍)<br>b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著(翰林書房)<br>教科書は必ず 2 冊とも買うこと。 |   |            |     |   |  |     |     |
| 参考書                  |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 評価の基準と方法             | 定期試験(60%)と作文課題・授業内テスト(40%)で評価する。  |   |            |     |   |  |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力  | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | ○   |   | ◎          |     |   |  | ○   |     |
| 関連科目                 |   |   |            |     |   |  |     |     |
| その他                  | 毎回、国語辞典(電子辞書可)を持ってくること。   |   |            |     |   |  |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間(2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間(1 時間×15 週)  |   |            |     |   |  |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |   |   |            |     |   |  |     |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | 言語表現演習Ⅱ  |       |          |
| 科目分類  | 100-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | Seminar on Japanese Representation II  | 授業区分  | 演習・実習・実技 |
| 科目責任者   | 橋本 衆宝  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 橋本 衆宝  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 09:00～12:00<br>後期 水曜日 09:00～12:00   | 研究室   | 10-616   |
| 授業概要  | ふだん意識せずに使っている日本語の特徴や、自分の日本語に関する知識を確認しながら、コミュニケーションツールとしての日本語を適切に使いこなすための基礎的な技術を学ぶ。文の構造や文体、表記の仕方、文章の形式や構成などについて、教科書の問題を考え、実際に文章を書いて理解を深めていく。この授業では課題解決型学習を行う。 |       |          |
| 到達目標  | 文体、言葉の意味、表記などの日本語の基礎を身に付け、状況に応じて適切な文章を書けるようになる。日本語についての知識と教養を深め、専門分野での発表やレポート作成に必要な日本語力を身につけることを目標とする。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |          |
| 【第1回】<br>予習：教科書2冊（aとb）を準備して目を通す。教科書aの50～52頁を読み、53～54頁の練習問題を予習する。<br>授業：後期の授業の進め方について説明する。教科書a「接続語・指示語と文章」（50～52頁）について説明し、53～54頁の練習問題の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの50～54頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第2回】<br>予習：教科書aの55頁の応用問題を予習し、58～60頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「接続語・指示語と文章」の応用問題（55頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「類義語・対義語」（58～60頁）について説明する。<br>復習：教科書aの55頁、58～60頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第3回】<br>予習：教科書aの61～63頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの47～52頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「類義語・対義語」の練習・応用問題（61～63頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書bの「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）について説明する。作文課題1（電子メールの文章）を宿題にする（課題解決型学習）。<br>復習：教科書aの61～63頁、教科書bの47～52頁を復習し、作文課題1を書いてClassroomに提出する。 |  |       |          |
| 【第4回】<br>予習：教科書bの23～27頁を読んでおく。<br>授業：作文課題1について解説する。教科書bの「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）について説明する。<br>復習：電子メールの書き方と、教科書bの23～27頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第5回】<br>予習：教科書aの64～66頁を読んでおく。教科書bの23～27頁と47～52頁を読み直す。<br>授業：教科書b「効果的な電子メールとは？」（47～52頁）と「インターネットとデジタル機器を用いた文章作成」（23～27頁）の知識が身に付いているかを小テスト1で確認する。教科書aの「動詞の自他・視点」（64～66頁）について説明する。<br>復習：教科書aの64～66頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第6回】<br>予習：教科書aの67～69頁の練習・応用問題を予習し、70～72頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「動詞の自他・視点」の練習・応用問題（67～69頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文体・話し言葉・書き言葉」（70～72頁）について説明する。<br>復習：教科書aの67～72頁を復習する。   |  |       |          |
| 【第7回】<br>予習：教科書aの73～75頁の練習・応用問題を予習する。教科書bの53～57頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「文体・話し言葉・書き言葉」の練習・応用問題（73～75頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）について説明する。<br>復習：教科書aの73～75頁、教科書bの53～57頁を復習する。   |  |       |          |
| 【第8回】<br>予習：教科書bの53～57頁を読み直す。<br>授業：教科書b「効果的な文書作成」（53～57頁）の知識が身に付いているかを小テスト2で確認する。作文課題2（履歴書・エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。<br>復習：履歴書・エントリーシートの書き方について復習する。   |  |       |          |
| 【第9回】<br>予習：教科書aの76～78頁を読んでおく。<br>授業：作文課題2を返却し、解説する。教科書a「コロケーション」（76～78頁）について説明する。<br>復習：教科書aの76～78頁を復習する。  |  |       |          |
| 【第10回】<br>予習：教科書aの79～81頁の練習・応用問題を予習し、84～86頁を読んでおく。<br>授業：教科書a「コロケーション」の練習・応用問題（79～81頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「部首・音訓・熟語」（84～86頁）について説明する。<br>復習：教科書aの79～81頁と84～86頁を復習する。  |  |       |          |

|  |
|--|
| 【第11回】<br>予習：教科書 a の 87～89 頁の練習・応用問題を予習し、教科書 b の 59～63 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 a「部首・音訓・熟語」の練習・応用問題（87～89 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、教科書 b の「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）について説明する。<br>復習：教科書 a の 87～89 頁と、教科書 b の 59～63 頁を復習する。 |
| 【第12回】<br>予習：教科書 b の 59～63 頁を読み直す。教科書 a の 90～92 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 b「冠婚葬祭・贈答のしきたり」（59～63 頁）の知識が身に付いているかを小テスト 3 で確認する。教科書 a「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。<br>復習：冠婚葬祭について復習する。教科書 a の 90～92 頁を復習する。                 |
| 【第13回】<br>予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。<br>授業：教科書 a「仮名遣い・送り仮名」の練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。作文課題 3（授業で学んだこと）を宿題にする（課題解決型学習）。<br>復習：教科書の 93～95 頁を復習する。作文課題 3 を書いて Classroom に提出する。                    |
| 【第14回】<br>予習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 b「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）と「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）について説明する。<br>復習：教科書 b の 29～31 頁と 33～38 頁を復習する。   |
| 【第15回】<br>予習：教科書 b の 33～38 頁を読んでおく。<br>授業：教科書 b の「敬語を適切に使おう」（33～38 頁）の内容を理解しているか問題を出して確認する。教科書 a・b で後期の授業で学んだことを振り返る。<br>復習：後期の授業で学んだことを復習する。  |

|                  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習          | 教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材          | a『スキルアップ! 日本語力』名古屋大学日本語研究会 GK 7 著（東京書籍）<br>b『日本語表現法 新訂版』庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著（翰林書房）<br>教科書は必ず 2 冊とも買うこと。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書              |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法         | 定期試験（60 %）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。  |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            | ○  |   | ◎                                       |   |     |     | ○   |     |
| 関連科目             |  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他              | 毎回、国語辞典（電子辞書可）を持っていくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |  |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | 英語 I   |       |          |
| 科目分類  | 210-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | English I  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 田野尻 哲郎   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 田野尻 哲郎   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要  | <p>英語 4 技能「リスニング」、「スピーキング」、「リーディング」、「ライティング」に関する学習活動によって、総合的な英語力を向上させる。</p> <p>授業ではまず、リーディングとリスニングのスキル習得と、各技能の開発に必要なボキャブラリーの基礎を構築する。要約作成とディスカッション及びプレゼンテーションなど、高度なコミュニケーション英語とその活動へのリエゾンによって、4 技能の統合的向上を目指す。</p> <p>これらを可能とする英語力を全員に保証するために、リメディアルとしての英文法および栄養学の専門家としての教養英語を、授業内で並行して学習する。</p> |       |          |
| 到達目標  | <p>基本的な英語の文章を、英文構造理解を前提とするリーディングスキルによって読解できる。</p> <p>基礎的な英語の音声・映像の意味内容を、複数回にわたり聞き取る・視聴することで理解できる。</p> <p>英語によるコミュニケーション活動の方法を、読解とライティング、グループワーク等を通して理解できる。</p> <p>栄養学の専門家として必要となる「教養英語」を理解できる。</p>   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |          |
| <p>【第 1 回】</p> <p>予習：自分の英語学習を振り返る</p> <p>授業：オリエンテーションとして、第一に、授業のねらいと授業の進め方など、及び使用するリーディング教材、映像資料や紙資料について説明する。第二に、毎回の講義でいずれかを行う「プレゼンテーション」、「発表」、「グループワーク」の意義と方法、評価について説明する。</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認の意義と方法について説明する</p> <p>【第 2 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 1 の 1-2 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 1 の 1-2 ページ)、及び映像資料と紙資料を適宜使用する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 3 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 1 の 3 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 1 の 3 ページ)、及び映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 4 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 2 の 4-5 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 2 の 4-5 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 5 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 2 の 6 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 2 の 6 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 6 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 3 の 7-8 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 3 の 7-8 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 7 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 3 の 9 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 3 の 9 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 8 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 4 の 10-11 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 4 の 10-11 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 9 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 4 の 12-13 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 4 の 12-13 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 10 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 5 の 14-15 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 5 の 14-15 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> |  |       |          |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 11 回】<br/>           予習：リーディングテキスト(Unit 5 の 16 ページ)を読む<br/>           授業：リーディングテキスト(Unit 5 の 16 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>           復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 12 回】<br/>           予習：リーディングテキスト(Unit 6 の 17-18 ページ)を読む<br/>           授業：リーディングテキスト(Unit 6 の 17-18 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する<br/>           復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 13 回】<br/>           予習：リーディングテキスト(Unit 6 の 19 ページ)を読む<br/>           授業：リーディングテキスト(Unit 6 の 19 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>           復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 14 回】<br/>           予習：リーディングテキスト(Unit 7 の 20-21 ページ)を読む<br/>           授業：リーディングテキスト(Unit 7 の 20-21 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する<br/>           復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 15 回】<br/>           予習：リーディングテキスト(Unit 7 の 22 ページ)を読む<br/>           授業：リーディングテキスト(Unit 7 の 22 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>           復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | ボキャブラリーと文法事項の確認を中心とし、詳細は授業中に指示する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 教科書のユニットおよび配布・提示する紙媒体や映像媒体の資料のテーマに関連した演習を行い、提出する。<br>その解説や添削を通して、学習内容の理解を進化させ、確認する。                          |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 『やさしい栄養英語』（田中芳文・編著 中里菜穂子／松浦加寿子・著、講談社サイエンティフィック、2019 年）<br>その他、教師が作成した学習用プリントまたはインターネットサイトを、授業中に配布または指示／提示する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業中に指示する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 授業態度や提出物等の平常点を概ね 40 パーセント、定期試験を概ね 60 パーセントとして、総合的に評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎  |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   | 英語の辞書（電子辞書可）を毎回持参する。<br>実践的なコミュニケーション英語や栄養学専門家としての教養英語、TOEIC 対策を適宜行う。<br>その教材は、教員がその都度に用意する。                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 英語Ⅱ  |       |          |
| 科目分類   | 210-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | EnglishⅡ   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 田野尻 哲郎   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 田野尻 哲郎   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要   | <p>前期講義に引き続き、英語 4 技能「リスニング」、「スピーキング」、「リーディング」、「ライティング」に関する学習活動によって、総合的な英語力を向上させる。</p> <p>授業ではまず、リーディングとリスニングのスキル習得と、各技能の開発に必要なボキャブラリーの基礎を構築する。要約作成とディスカッション及びプレゼンテーションなど、高度なコミュニケーション英語とその活動へのリエゾンによって、4 技能の統合的向上を目指す。</p> <p>これらを可能とする英語力を全員に保証するために、リメディアルとしての英文法および栄養学の専門家としての教養英語を、授業内で並行して学習する。</p> |       |          |
| 到達目標   | <p>基本的な英語文を、時間をかけて読むことで理解できる。</p> <p>基本的な英語を、複数回にわたり聞き取ることで理解できる。</p> <p>英語によるコミュニケーション活動の方法を、読解と聞き取りとグループワークを通して理解できる。</p>  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| <p>【第 1 回】</p> <p>予習：前期の英語学習を振り返る</p> <p>授業：オリエンテーションとして、第一に、授業のねらいと授業の進め方など、及び使用するリーディング教材、映像資料や紙資料について説明する。第二に、毎回の講義でいずれかを行う「プレゼンテーション」、「発表」、「グループワーク」の意義と方法、評価について説明する。</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認の意義と方法について説明する</p> <p>【第 2 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 8 の 25 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 8 の 25 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 3 回】予習：リーディングテキスト(Unit 9 の 27-28 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 9 の 27-28 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 4 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 9 の 29 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 9 の 29 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 5 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 10 の 30-31 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 10 の 30-31 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 6 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 10 の 32 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 10 の 32 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 7 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 11 の 33-35 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 11 の 33-35 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 8 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 11 の 36 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 11 の 36 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 9 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 12 の 37-39 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 12 の 37-39 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 10 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 12 の 41 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 12 の 41 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第 11 回】</p> <p>予習：リーディングテキスト(Unit 13 の 42-44 ページ)を読む</p> <p>授業：リーディングテキスト(Unit 13 の 42-44 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する</p> <p>復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> |  |       |          |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：リーディングテキスト(Unit 14 の 47-49 ページ)を読む<br/>         授業：リーディングテキスト(Unit 14 の 47-49 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>         復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第13回】<br/>         予習：リーディングテキスト(Unit 14 の 50 ページ)を読む<br/>         授業：リーディングテキスト(Unit 14 の 50 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを提出する<br/>         復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第14回】<br/>         予習：リーディングテキスト(Unit 15 の 51-52 ページ)を読む<br/>         授業：リーディングテキスト(Unit 15 の 51-52 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>         復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> <p>【第15回】<br/>         予習：リーディングテキスト(Unit 15 の 53 ページ)を読む<br/>         授業：リーディングテキスト(Unit 15 の 53 ページ)、映像資料と紙資料を適宜使用し、レポートを講評する<br/>         復習：授業中に出てきた単語・構文の整理、リスニング箇所の確認</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | ポキャブラリーと文法事項の確認を中心とし、詳細は授業中に指示する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 教科書のユニットおよび配布・提示する紙媒体や映像媒体の資料のテーマに関連した演習を行い、提出する。<br>その解説や添削を通して、学習内容の理解を進化させ、確認する。             |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 『やさしい栄養英語』（田中芳文・編著 中里菜穂子／松浦加寿子・著、講談社サイエンティフィック、2019年）<br>その他、教師が作成した学習用プリント等を、授業中に配布または指示・提示する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業中に指示する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 授業態度や提出物等の平常点を概ね 40 パーセント、定期試験を概ね 60 パーセントとして、総合的に評価する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   | 英語の辞書（電子辞書可）を毎回持参する。<br>実践的なコミュニケーション英語や栄養学専門家としての教養英語、TOEIC 対策を適宜行う。<br>その教材は、教員がその都度に用意する。    |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |          |
|---|---|-------|----------|
| 科目名称  | 英語Ⅲ   |       |          |
| 科目分類  | 210-110-22  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | EnglishⅢ  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 薬師 英子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 薬師 英子   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -        |
| 授業概要  | 英語の運用能力を、今まで学んできた基礎力を背景に育成する。「話す・聞く・読む・書く」という英語の4技能の向上を目標とする。 |       |          |
| 到達目標  | 基本的な英語を一度で聞き取り、理解できる。基本的な英語文を読み、理解できる。                        |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |          |
| <p>【第1回】<br/> 予習：自分の英語学習を振り返る<br/> 授業：オリエンテーション（授業のねらい、授業の進め方等について）（グループワーク）<br/> 復習：家庭学習を考える</p> <p>【第2回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 1 Hungry Cat (pp.1~4)<br/> 復習：Unit 1 Hungry Cat の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第3回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 2 Chocolate Chip Cookies (pp.5~8)<br/> 復習：Unit 2 Chocolate Chip Cookies の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第4回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Review of Unit 1 &amp; 2（グループワーク）<br/> 復習：Unit 1 Hungry Cat・Unit 2 Chocolate Chip Cookies の英語要約と文法 Exercise</p> <p>【第5回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 3 Hollywood's Hero (pp.9~12)<br/> 復習：Unit 3 Hollywood's Hero の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 4 Miscommunication (pp.13~16)<br/> 復習：Unit 4 Miscommunication の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第7回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Review of Unit 3 &amp; Unit 4（グループワーク&amp;プレゼンテーション）<br/> 復習：Unit 3 Hollywood's Hero &amp; Unit 4 Miscommunication の英語要約と文法 Exercise</p> <p>【第8回】<br/> 予習：ここまでの授業を総復習する<br/> 授業：中間のまとめ<br/> 復習：まとめを振り返る</p> <p>【第9回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 5 The Lucky Ride (pp.17~19)<br/> 復習：Unit 5 The Lucky Ride の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第10回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 5 The Lucky Ride (p.20) Review &amp; Activity（グループワーク）<br/> 復習：Unit 5 The Lucky Ride の英語要約と文法 Exercise</p> <p>【第11回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 6 A Real Monster (pp.21~23)<br/> 復習：Unit 6 A Real Monster の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第12回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 6 A Real Mosnter (p.24) Review &amp; Activity（グループワーク）<br/> 復習：Unit 6 A Real Mosnter の英語要約と文法 Exercise</p> |   |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 7 Lunchbox Revolution (pp.25~27)<br/> 復習：Unit 7 Lunchbox Revolution の新出単語・重要熟語・文法事項の復習</p> <p>【第14回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 7 Lunchbox Revolution (p.28) Review &amp; Activity (グループワーク)<br/> 復習：Unit 7 Lunchbox Revolution の英語要約と文法 Exercise</p> <p>【第15回】<br/> 予習：今まで授業で学んだことを振り返る<br/> 授業：Review of Unit 1 The Hungry Cat ~ Unit 7 Lunchbox Revolution (プレゼンテーション)<br/> 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 学習予定のUnitの内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業7回目、13回目に提出するまとめについては、2週間後(授業9回目、15回目)に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | Robert Juppe, 馬場 幸雄『Premium Reader ~Elementary~』(金星堂)   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業中に紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 試験60%、平常点40%(小テスト、課題提出、Presentation、授業態度)   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目   | 英語  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  | 出席を重視する。全授業数の3分の1以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻3回で欠席1回とみなす。講義開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容は各自Googleclassroomに配信された授業資料やシラバス等を確認し、フォローアップをする。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間30時間(2時間×15週)+予習・復習時間15時間(1時間×15週)  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 英語Ⅳ  |       |          |
| 科目分類   | 210-110-22   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | EnglishⅣ   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 薬師 英子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 薬師 英子  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要   | 英語の運営能力を、今まで学んできた基礎能力を背景に育成する。「話す・聞く・読む・書く」という英語の4技能の向上を目指す。 |       |          |
| 到達目標   | 発展的な英語を複数回にわたり聞き取りをすると、理解できる。発展的な英語文を時間をかけて読み、理解できる。         |       |          |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業   | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| 【第1回】<br>予習：自分の英語学習を振り返る<br>授業：Talk about your Summer Vacation / Review of the first term & Introduction（グループワーク）<br>復習：家庭学習を考える                     |  |       |          |
| 【第2回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 8 How English Grew & Grows (pp.29~32)<br>復習：Unit 8 How English Grew & Grows の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                    |  |       |          |
| 【第3回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 9 Hudson River Miracle (pp.33~36)<br>復習：Unit 9 Hudson River Miracle の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                            |  |       |          |
| 【第4回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Review of Unit 8 & Unit 9（グループワーク）<br>復習：Unit 8 How English Grew & Grows・Unit 9 Hudson River Miracle の英語要約と文法 Exercise |  |       |          |
| 【第5回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 10 Odd Crimes (pp.37~40)<br>復習：Unit 10 Odd Crimes の新出単語・重要熟語・文法事項の復習  |  |       |          |
| 【第6回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 11 The Lucky Traveler (pp.41~44)<br>復習：Unit 11 The Lucky Traveler の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                              |  |       |          |
| 【第7回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Review of Unit 10 & 11（グループワーク&プレゼンテーション）<br>復習：Unit 10 Odd Crimes & Unit 11 The Lucky Traveler の英語要約と文法 Exercise      |  |       |          |
| 【第8回】<br>予習：ここまでの授業を総復習する<br>授業：中間のまとめ<br>復習：まとめを振り返る  |  |       |          |
| 【第9回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 12 Are Men Losing? (pp.45~48)<br>復習：Unit 12 Are Men Losing? の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                                    |  |       |          |
| 【第10回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 13 Super-Sized Dream (pp.49~52)<br>復習：Unit 13 Super-Sized Dream の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                               |  |       |          |
| 【第11回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Review of Unit 12 & 13（グループワーク）<br>復習：Unit 12 Are Men Losing?・Unit 13 Super-Sized Dream の英語要約と文法 Exercise             |  |       |          |
| 【第12回】<br>予習：教科書の該当箇所を読む<br>授業：Unit 14 It's Against the Law (pp.53~54)<br>復習：Unit 14 It's Against the Law の新出単語・重要熟語・文法事項の復習                         |  |       |          |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Unit 15 Black Sunday (pp.55~56)<br/> 復習：Unit 15 Black Sunday の新出単語・重要な熟語・文法事項の復習</p> <p>【第14回】<br/> 予習：教科書の該当箇所を読む<br/> 授業：Review of Unit 14 &amp; 15 (グループワーク)<br/> 復習：Unit 14 It's Against the Law &amp; Unit 15 Black Sunday の英語要約と文法 Exercise</p> <p>【第15回】<br/> 予習：今まで授業で学んだことを振り返る<br/> 授業：Overall Review (プレゼンテーション)<br/> 復習：自分の課題を見つけ対策を立てる</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 学習予定の Unit の内容・単語の予習と小テストに向けての学習を必ず行うこと。映画・音楽・テレビ・新聞記事など、英語に触れる機会を多く持ち、国際的な事柄に積極的に興味を持つこと。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 毎時間授業の冒頭で小テストを行う。授業 7 回目、13 回目に提出するまとめについては、2 週間後（授業 9 回目、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | Robert Juppe、馬場 幸雄『Premium Reader ~Elementary~』（金星堂）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業中に紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 試験 60%、平常点 40%（小テスト、課題提出、Presentation、授業態度）  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎  |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目  | 英語   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   | 出席を重視する。全授業数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を与えない。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなす。講義開始後 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。その他、1 回目の授業で説明する。欠席した回の授業内容は各自 Googleclassroom に配信された授業資料やシラバス等を確認し、フォローアップをする。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |          |
|--|---|-------|----------|
| 科目名称   | ☆ドイツ語Ⅰ／基礎ドイツ語Ⅰ  |       |          |
| 科目分類   | 210-130-21  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | German I / Basic German I   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 山中 慎太郎  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 山中 慎太郎  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -        |
| 授業概要   | 主にドイツ語未習者を対象に、ドイツ語文法の基礎内容を学習し、ドイツ語圏の歴史や文物などを通じてドイツ語に対する理解をひらくことができるような授業を実施する。具体的な文法事項としては、アルファベットの読み方から発音の確認をはじめ、簡単な挨拶の表現を経て、ドイツ語学習の基本である人称代名詞、動詞の現在形の活用、ドイツ語の語順、冠詞のつかいかたとその活用の習得までを予定している。この授業は秋学期の「ドイツ語Ⅱ」、またさらにその先の授業へと続いていくため、丁寧に内容を反復することで、学生の理解の徹底、授業内容の定着を確実にすることを目標としたい。また、各授業ごとに小テストや易しい文章の読解、作文などを盛り込むことで、ドイツ語の運用能力をバランスよく鍛え、文学作品や映画、ネットメディアなどで実際に用いられる表現などを取り上げることでドイツ語文化圏に対する学生の関心をより高めることを重要なことと考えている。 |       |          |
| 到達目標   | ドイツ語学習の基礎となる、人称代名詞の変化、動詞の現在形の活用、冠詞のつかいかたと活用について、それぞれの項目を覚え、自ら説明し、それを簡単な文章読解や作文の中で用いることができるようになることを最大の目標とする。また簡単な会話で用いられる表現をつかって学生同士で短いコミュニケーションをすることができること、短いインタビュー動画を見聞きし、その内容を理解できるようになることも重要な目標である。その他、身の周りの事物を中心とした単語の暗記や、辞書を正しく用いて単語を調べることができるようになることも大切な目標としたい。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |          |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスのチェック<br/> 授業：ガイダンスとして授業計画の説明を行う。<br/> ドイツ語について、その文化的な側面を中心に概観する。<br/> 復習：テキストの確認と授業計画の確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト p.1～9 を読んでおく。<br/> 授業：アルファベット、単語の発音の確認。ドイツ語文化圏の国々と数字の表現。よく使う挨拶の習得。<br/> 復習：アルファベットの読み方の確認、挨拶の表現を練習し、使えるようにする。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト p.10～11 を読んでおく。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion1. 人称代名詞と現在人称変化<br/> 復習：変化表の確認。問題のやり直しをする。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト p.12～13 を読んでおく。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion1. sein 動詞と haben 動詞の現在人称変化。ドイツ語の語順<br/> 復習：変化表の確認。国名など単語の復習。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト p.1～13 の既習事項の確認。<br/> 授業：前回の復習 + 小テスト(Lektion1)、Lektion2. 名詞の性と冠詞、格変化<br/> 復習：変化表の確認。単語の復習。テストの確認。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト p.16～18 を読んでおく。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion2. 疑問代名詞 was と wer. 並列の接続詞。<br/> 復習：動詞の活用と冠詞の活用の区別、それぞれの変化を覚える。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト p.20～21、24 を読んでおく。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion2. 職業についての対話 Was sind Sie von Beruf? + Lektion3. 不規則変化動詞の現在人称変化<br/> 復習：単語の復習。新しく習った活用の練習。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト p.24～26 の問題演習と内容確認。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion3. 不規則変化動詞の現在人称変化、人称代名詞の3格と4格、非人称の es<br/> 復習：作文練習と穴埋め問題による活用、語順の確認。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト p.26～29 の問題演習と内容確認。<br/> 授業：前回の復習 + 小テスト(Lektion2、3) Lektion3. 対話文 Was ist eigentlich dein Hobby?<br/> 復習：対話文中の単語と表現の確認。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト p.30～32 の内容確認。<br/> 授業：前回の復習 + Lektion4. 名詞の複数形、冠詞類<br/> 復習：作文練習と穴埋め問題による活用の確認。</p> |   |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第 11 回】<br/>         予習：テキスト p.31~33 の内容確認。<br/>         授業：前回の復習 + Lektion4. 冠詞類、kein と nicht、否定疑問文<br/>         復習：作文練習と穴埋め問題による活用の確認。</p> <p>【第 12 回】<br/>         予習：テキスト p.34~35 の内容確認。<br/>         授業：前回の復習 + Lektion4. 対話文の読解。数字の言い方。<br/>         復習：新しい表現の練習。数字の言い方の練習。</p> <p>【第 13 回】<br/>         予習：テキスト p.30~35、38 の内容確認。<br/>         授業：前回の復習 + 小テスト(Lektion4)、Lektion5. 前置詞のつかいかた<br/>         復習：テストのやり直し。前置詞の種類を確認する。</p> <p>【第 14 回】<br/>         予習：テキスト p.38~40 の内容確認。<br/>         授業：前回の復習 + Lektion5. 前置詞と慣用表現<br/>         復習：作文練習と穴埋め問題による活用の確認。</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習：これまで扱った内容の確認。<br/>         授業：前回の復習 + 単語の暗記テスト。動詞の活用の確認。冠詞の活用の確認<br/>         復習：それぞれの文法項目の暗記事項の確認と表現の練習。</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 適宜、ドイツ語文学作品の翻訳作品を読むことやドイツ語の映画を観ること、それに準ずるような歴史学や社会学、文化学的なドイツについての書籍を読むことでドイツ語文化圏についての知識を少しでも身につけられるような取り組みをしてください。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 各授業ごとに作文や読解の実践練習をおこない、その中で必要な内容を共有できるようにします。また定期的に小テストを行い、既習事項の中で定着していない項目や理解が追いついていないと思われる点に関しては補足していきます。  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 小野寿美子ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』(朝日出版社)   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 『クラウン独和辞典第 5 版』(三省堂)<br>参考図書として上記の辞書を挙げておきますが、必ずしもこの辞書である必要はありません。(例えば『アクセス独和辞典第 4 版』(三修社)なども可。)ただ、紙のもの、電子のものを問いませんが、必ず独和辞典を用意してください。<br>また、その他の参考図書については適宜授業内で説明します。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 授業での発言や課題への取り組みを含めた平常点 50% + 期末試験 50%を総合的に評価する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △  |     |
| 関連科目   |   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)  |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | ☆ドイツ語Ⅱ／基礎ドイツ語Ⅱ   |       |          |
| 科目分類  | 210-130-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | German II / Basic German II  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 岡野 史   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 岡野 史   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要  | ドイツ語Ⅰでの学習内容を復習しつつ、基礎文法についてさらに学習を進める。文法事項や単語などを繰り返し確認することで、初級ドイツ語の知識の定着を目指していく。前置詞・語法の助動詞・未来形・不定代名詞などの文法事項を新たに学び、ドイツ語の表現の幅を広げていく。また同時に、様々な資料を通してドイツ語圏の文化に対する理解を深める。動画や音声などを利用した学習により、ドイツ語の音に親しみ、自然なドイツ語の表現を学んでいく。 |       |          |
| 到達目標  | ドイツ語の初級文法を理解し、ドイツ語でさらに幅広い表現ができるようになる。ドイツ語の音に慣れ親しむことで、簡単な会話を聞き取り、さらにそれに答えることができるようになる。またドイツ語圏についての知識を得ることで、言葉だけでなくドイツ文化の理解も深める。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |          |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |  |       |          |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスの内容を確認。ドイツ語Ⅰでの既習事項について、復習と確認をすること。<br/> 授業：ガイダンス・Lektion 4までの復習と確認。<br/> 復習：授業計画の内容確認。Lektion 4までの範囲で不明点があるか確認。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：Lektion 4までの復習と確認。前回の授業での配布資料を確認。<br/> 授業：Lektion 4までの復習と確認、発音の確認<br/> 復習：Lektion 4までの範囲で不明点の再チェック。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト p.38「前置詞の格支配」の予習。<br/> 授業：Lektion 5：前置詞の格支配<br/> 復習：テキスト p.38-39の文法事項の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト p.40「前置詞と定冠詞の融合形」の予習。<br/> 授業：Lektion 5：前置詞と定冠詞の融合形、前置詞の練習<br/> 復習：テキスト p.40-41の文法事項と単語を確認すること。配布資料の確認。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト p.42-43 単語の意味を調べておく。<br/> 授業：Lektion 5：どう行けばいいですか？、p.82「Mozartstadt」<br/> 復習：テキスト p.42-43, p.82の表現と単語の確認、確認テストの準備。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト p.44「語法の助動詞、未来形」の予習。<br/> 授業：確認テスト（Lektion5）、Lektion 6：語法の助動詞、未来形<br/> 復習：テキスト p.44-45の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト p.46「従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man」の予習。<br/> 授業：Lektion 6：従属の接続詞と副文、時刻の表現、不定代名詞 man<br/> 復習：テキスト p.46-47の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト p.48-49 単語の性と意味を確認しておく。<br/> 授業：Lektion 6：ノイシュヴァンシュタイン城を見たい、p.82「Schloss Neuschwanstein」<br/> 復習：テキスト p.48-49, p.82の表現と単語の確認、確認テストの準備。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト p.52「形容詞の格変化」の予習。<br/> 授業：確認テスト（Lektion6）、Lektion7：形容詞の格変化<br/> 復習：テキスト p.52-53の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト p.54「形容詞・副詞の比較」の予習。<br/> 授業：Lektion 7：形容詞・副詞の比較<br/> 復習：テキスト p.54-55の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト p.56-57の単語の性と意味を確認しておく。<br/> 授業：Lektion 7：レストランでの料理の注文、p.83「Restaurants in Deutschland」<br/> 復習：テキスト p.56-57, p.83の表現と単語の確認、確認テストの準備。</p> |  |       |          |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：テキスト p.58「分離動詞、非分離動詞」の予習。<br/>         授業：確認テスト（Lektion7）、Lektion8：分離動詞、非分離動詞<br/>         復習：テキスト p.58-59 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト p.60「zu 不定詞・zu 不定詞句」の予習。<br/>         授業：Lektion8 :zu 不定詞・zu 不定詞句<br/>         復習：テキスト p.60-61 の文法事項と単語の確認をすること。配布資料の確認。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト p.62-63 単語の性と意味を確認しておく。<br/>         授業：Lektion8 :週末の予定は？、p.83.「Oktoberfest」<br/>         復習：テキスト p.62-63, p.83 の表現と単語の確認。Lektion8 まで全体の復習。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：ドイツ語 II で扱った内容について、不明点がないか確認。全体の復習。<br/>         授業：Lektion8 について理解度の確認、ドイツ語 II で扱った内容の確認<br/>         復習：Lektion5-8 の内容を確認、これまでの配布資料の確認。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | ドイツ語 I で学習した内容を確認しておくこと。<br>またドイツ文学、映画、音楽などにふれ、ドイツ語文化圏への理解を深めておくこと。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 一つの課が終わるごとに確認テストを行う。次週までに返却し、解説を行う。                                 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 小野寿美子ほか『アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語』（朝日出版社）                                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業内で適宜紹介<br>独和辞典を持参すること（紙、電子など媒体は問わず）                               |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 平常点（授業内での課題への取り組み、確認テスト）50%、期末試験 50%                                |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                     |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目  | 観光のドイツ語   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）                      |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |          |
|--|---|-------|----------|
| 科目名称   | ☆フランス語 I / 基礎フランス語 I  |       |          |
| 科目分類   | 210-130-21  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | French I / Basic French I   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 米金 孝雄   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 米金 孝雄   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | 前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00<br>後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00<br>木曜日 10:00～10:40 木曜日 12:10～13:00                               | 研究室   | 10-711   |
| 授業概要   | 基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の習得を目指す。特に、フランス語特有の音に慣れ親しみ、文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シミュレーション」など、コミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。 |       |          |
| 到達目標   | 初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。フランス語特有のアルファベットの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |          |
| 【第1回】<br>予習：自分の知っているフランス語、フランス文化の紹介 1<br>授業：自己紹介、授業概要、授業の進め方、勉強の仕方、教科書、辞書の紹介、注意点など<br>復習：アルファベットの復習  |   |       |          |
| 【第2回】<br>予習：自分の知っているフランス語、フランス文化を紹介する 2<br>授業：特有の音、フランス語の使われている国、フランス語に慣れ親しむ（テキスト6-7頁）<br>復習：基本的なフランス語表現、アルファベットの復習  |   |       |          |
| 【第3回】<br>予習：レッスン1の音声を聴くこと<br>授業：綴り字と発音の仕方、挨拶の仕方、名前を言う、国籍を言う、男性形と女性形（8-9頁）（ペアワーク）<br>復習：主語人称代名詞、s'appeler 動詞、Etre 動詞、国籍の表現  |   |       |          |
| 【第4回】<br>予習：レッスン1の音声を聴くこと<br>授業：国籍、数の数え方、職業、名前、数字、アルファベットの練習（10-11頁）（ペアワーク）<br>復習：職業名詞、形容詞性数に一致  |   |       |          |
| 【第5回】<br>予習：レッスン1,1+の音声を聴くこと、<br>授業：名前・国籍、数字、アルファベットの練習、基本表現、アクサン記号（11頁、76-77頁）（ペアワーク）<br>復習：名前の言い方、対話練習   |   |       |          |
| 【第6回】<br>予習：レッスン2の音声を聴くこと：<br>授業：綴り字と発音の仕方、国籍、職業（12-13頁）（ペアワーク）<br>復習：質問と答え  |   |       |          |
| 【第7回】<br>予習：レッスン2の音声を聴くこと<br>授業：数の数え方、職業（14-15頁）（ペアワーク）<br>復習：女性形、自己紹介、職業  |   |       |          |
| 【第8回】<br>予習：レッスン2,2+の音声を聴くこと<br>授業：国籍、職業、tuとvousの表現（78頁）（ペアワーク）<br>復習：女性形、自己紹介、職業  |   |       |          |
| 【第9回】<br>予習：レッスン3の音声を聴くこと<br>授業：発音の仕方、アポストロフ、名前・職業・国籍を言う、住んでいる場所を尋ねる、国名、都市、<br>人称代名詞強制形、En+国籍、冠詞の縮約形（16-17頁）（ペアワーク）<br>復習：Etre, Habiter, S'appeler 動詞の活用、対話練習、En+国籍、冠詞の縮約形 |   |       |          |
| 【第10回】<br>予習：レッスン3,3+の音声を聴くこと<br>授業：否定文の答え方、名前、職業、国籍、住んでいる場所の質問と答え。（18頁,79頁）（ペアワーク）<br>復習：対話練習   |   |       |          |
| 【第11回】<br>予習：レッスン3,3+の音声を聴くこと<br>授業：練習問題（19,79,91頁）（ペアワーク）<br>復習：練習問題の確認と再考  |   |       |          |
| 【第12回】<br>予習：レッスン4の音声を聴くこと<br>授業：アンシェンヌマン、この人は誰？、場所を示す疑問文、Parler, habiter, etre 動詞活用の確認（20-21頁）（ペアワーク）<br>復習：人・場所を示す質問と答え、Parler, habiter, etre 動詞活用                       |   |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：レッスン4の音声を聴くこと<br/>         授業：parler 動詞を使った質問と答え、数字、紹介と質問の仕方、練習問題（22-23頁）（ペアワーク）<br/>         復習：「名前、国籍、職業、住んでいる場所、話せる言語」についての質問と答え</p> <p>【第14回】<br/>         予習：レッスン4,4+の音声を聴くこと<br/>         授業：er 動詞の確認、quel を使った疑問文、練習問題（80頁）（ペアワーク）<br/>         復習：er 動詞(aimer,preferer), quel の用法、練習問題の確認と再考</p> <p>【第15回】<br/>         予習：フランス語を話す国・フランス語に慣れ親しむ・特有の音の確認と再考<br/>         授業：前期授業の復習と確認(Dans la classe1 から lecon4/4+), 場所の表現と都市(C'est ou?)(6-25頁,77-80頁)(ペアワーク)<br/>         復習：前期学習事項を再考し、自分の弱点を克服すること</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。                                |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 課題(レポート、練習問題、小テスト等)を提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の修得へと導く。  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | Petites Conversations(ブティック・コンヴェルサシオン) (駿河台出版社)             |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 適宜、授業内で資料を配布する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 【配点】：提出課題・レポート・小テスト 80点、平常点 20点                             |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                             |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △  |     |
| 関連科目   | 海外観光資源研究 A (フランス)<br>文化交流論 A(日本とヨーロッパ)<br>言葉と心理<br>観光のフランス語 |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  | 注意事項：<br>3回の遅刻で1回欠席とみなす<br>予習・復習を怠らないこと                     |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間 15時間（1時間×15週）                    |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |          |
|---|---|-------|----------|
| 科目名称  | ☆フランス語Ⅱ／基礎フランス語Ⅱ  |       |          |
| 科目分類  | 210-130-21  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | FrenchⅡ／Basic FrenchⅡ   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 米金 孝雄   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 米金 孝雄   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 10:10～10:40 木曜日 10:30～13:00<br>後期 水曜日 10:00～10:40 水曜日 12:10～13:00<br>木曜日 10:00～10:40 木曜日 12:10～13:00                               | 研究室   | 10-711   |
| 授業概要  | 基礎的なフランス語の表現・成句を通して、様々なシチュエーションを想定した日常会話の習得を目指す。特に、フランス語特有の音に慣れ親しみ、文を暗誦するだけでなく、現実的な練習「ロール・プレイ」「シミュレーション」など、コミュニケーションのための言語使用に重点を置いた授業である。 |       |          |
| 到達目標  | 初歩的なフランス語運用能力（話す・聞く・読む・書く）を習得することが目標である。フランス語特有のアルファベットの発音・基本的な挨拶の仕方・綴り字などを学び、積極的に使用する。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |          |
| <p>【第1回】<br/>予習：前期の復習(レッスン1-4)とレッスン5の音声を聴くこと<br/>授業：前期の復習、前期課題の確認、否定形の作り方と答え方、エリゾン(26-27頁,80頁)（ペアワーク）<br/>復習：国籍名詞、habiterの練習</p> <p>【第2回】<br/>予習：レッスン5の音声を聴くこと<br/>授業：どこに住んでいるの、否定形、名前、職業 数字、不定冠詞、男性名詞、女性名詞（27-28頁）（ペアワーク）<br/>復習：職業名詞、いいえの答え方、1-20の数字、C'est + 名詞の練習</p> <p>【第3回】<br/>予習：レッスン5,5+の音声を聴くこと<br/>授業：練習問題（女性形、否定文）、Etre de + 地名、対話練習（29頁、81頁）（ペアワーク）<br/>復習：地図、国籍と名前の言い方</p> <p>【第4回】<br/>予習：レッスン6の音声を聴くこと<br/>授業：発音、年齢を言う、数字、リエゾン（30-31頁）（ペアワーク）<br/>復習：1-30の数字、年齢表現</p> <p>【第5回】<br/>予習：レッスン6の音声を聴くこと<br/>授業：年号、曜日、科目名詞、練習問題（31-33頁）（ペアワーク）<br/>復習：年号、曜日、科目名を言う</p> <p>【第6回】<br/>予習：レッスン6,6+の音声を聴くこと<br/>授業：前回の復習、自己紹介、会話練習、（34頁、82頁、92頁）（ペアワーク）<br/>復習：自己紹介の練習</p> <p>【第7回】<br/>予習：予習：レッスン5,6の復習と確認<br/>授業：レッスン5,6の課題（27-34頁、81-82頁、92頁）（ペアワーク）<br/>復習：レッスン5,6の課題再考</p> <p>【第8回】<br/>予習：レッスン7の音声を聴くこと<br/>授業：中間試験再考、フランス語圏、体調を伝える、Onの用法、Avoir動詞の疑問文と答え（35-36頁）（ペアワーク）<br/>復習：onの用法、Aoir動詞の確認、</p> <p>【第9回】<br/>予習：レッスン7の音声を聴くこと<br/>授業：数字、形容詞の質問と答え、Etreの否定文（37-38頁）（ペアワーク）<br/>復習：1-40の数字、形容詞を使った表現</p> <p>【第10回】<br/>予習：レッスン7,7+の音声を聴くこと<br/>授業：練習問題(形容詞の用法とavoir/etre動詞)、（39頁、83頁）（ペアワーク）<br/>復習：練習問題、レッスン5-7の復習</p> <p>【第11回】<br/>予習：レッスン8の音声を聴くこと<br/>授業：不定冠詞の種類と用法、「C'est～」表現（40-41頁）（ペアワーク）<br/>復習：不定冠詞の練習、C'est～の練習</p> <p>【第12回】<br/>予習：レッスン8の音声を聴くこと<br/>授業：数字1～50、「C'est combien？」表現、練習問題（42-43頁）（ペアワーク）<br/>復習：数字表現の練習、C'est～の練習</p> |   |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：レッスン8の音声を聴くこと<br/>         授業：Revisions 会話表現, 練習問題(44-45頁), (ペアワーク)<br/>         復習：聞き取り練習、応答練習</p> <p>【第14回】<br/>         予習：レッスン8,8+の音声を聴くこと<br/>         授業：「Qu'est-ce que c'est?」の応答練習(84頁) (ペアワーク)<br/>         復習：「Qu'est-ce que c'est?」の練習、課題</p> <p>【第15回】<br/>         予習：後期授業の復習<br/>         授業：1年次授業内容・重要事項の確認<br/>         復習：1年次授業内容再考</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 前回の学習事項の復習と、次回の学習事項の予習をすること。                                  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 課題・レポート等提出後、内容を再考させ、各人の弱点を把握させ、確実な学習事項の習得へと導く。                |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | Petites Conversations(プティットゥ・コンヴェルサスイオン) (駿河台出版社)             |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 適宜、授業内で資料を配布する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 配点：：提出課題・レポート・小テスト80点, 平常点20点                                 |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                               |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   |     | ○   | ○   |   |     | △   |     |
| 関連科目   | 海外観光資源研究 A (ヨーロッパ1)<br>文化交流論 A(日本とヨーロッパ)<br>言葉と心理<br>観光のフランス語 |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  | 注意事項：<br>3回の遅刻で1回欠席とみなす<br>予習・復習を怠らないこと<br>必ず、「仏和辞典」を持参すること   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)            |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |          |
|---|---|-------|----------|
| 科目名称  | ｽﾎｰｯ I  |       |          |
| 科目分類  | 210-110-21  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | Physical Education I  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 小澤 多賀子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 小澤 多賀子  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 金曜日 13:00～16:10<br>後期 金曜日 09:00～12:10  | 研究室   | 16-103   |
| 授業概要  | バレーボールは、生涯にわたる健康や競技および娯楽という様々な点で優れたスポーツである。レジャー目的で行うバレーボールは、速歩きや水中運動と同等の運動強度であり、一定量を習慣的に行うことで体力の向上や健康の維持・改善効果が期待できる。本授業では、バレーボールを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践することで、運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解することを目的とする。また、創造力・コミュニケーション力を養うとともに、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。 |       |          |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。</li> <li>・バレーボールの基本技術を習得する。</li> <li>・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。</li> </ul>  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |          |
| <p>第1回<br/> 予習：バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備<br/> 運動・スポーツと健康との関係の下調べ<br/> 授業：講義 ガイダンス<br/> ・運動・スポーツ実践の意義と効果<br/> ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」の説明<br/> ・アンケート<br/> 復習：準備した服装と室内運動靴が授業に適しているかの確認<br/> 運動・スポーツ実践の意義とその効果についての整理</p> <p>第2回<br/> 予習：バレーボールのルールの下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（1）コートの準備方法とルールの理解（グループワーク）<br/> 復習：コートの準備方法とルールの再確認</p> <p>第3回<br/> 予習：パスの種類の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（2）ボールに慣れる（グループワーク）<br/> 復習：ボールやネットなどの保管場所の確認</p> <p>第4回<br/> 予習：オーバーハンドパスの方法の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（3）オーバーハンドパス（グループワーク）<br/> 復習：オーバーハンドパスの実践方法の確認</p> <p>第5回<br/> 予習：バレーボールに必要な体力の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（4）バレーボールに必要な体力の評価（1回目）<br/> 復習：自分の体力レベルの確認</p> <p>第6回<br/> 予習：アンダーハンドパスの方法の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（5）アンダーハンドパス（グループワーク）<br/> 復習：アンダーハンドパスの実践方法の確認</p> <p>第7回<br/> 予習：サーブの打ち方とレシーブの方法の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（6）アンダー/オーバーサーブの打ち方とレシーブ（グループワーク）<br/> 復習：アンダー/オーバーサーブの打ち方とレシーブの実践方法の確認</p> <p>第8回<br/> 予習：アタックの打ち方とレシーブの方法の下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（7）アタックの打ち方とレシーブ（グループワーク）<br/> 復習：アタックの打ち方とレシーブの実践方法の確認</p> <p>第9回<br/> 予習：6人制のゲームルールの下調べ<br/> 授業：実習 バレーボール（8）ゲームを楽しむ①：6人制（グループワーク）<br/> 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> <p>第10回<br/> 予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/> 授業：実習 バレーボール（9）ゲームを楽しむ②：6人制（グループワーク）<br/> 復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> |   |       |          |

|  |  |   |   |   |     |     |     |     |
|--|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>第11回<br/>         予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/>         授業：実習 バレーボール（10）リーグ戦①：6人制（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> <p>第12回<br/>         予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/>         授業：実習 バレーボール（11）リーグ戦②：6人制（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> <p>第13回<br/>         予習：バレーボールに必要な体力の評価結果（1回目）の振り返り<br/>         授業：実習 バレーボール（12）バレーボールに必要な体力の評価（2回目）<br/>         復習：1回目と2回目との体力の比較</p> <p>第14回<br/>         予習：ゲームで勝利するための作戦の検討<br/>         授業：実習 バレーボール（13）リーグ戦③：6人制（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> <p>第15回<br/>         予習：これまでの授業の振り返り<br/>         授業：講義 授業の振り返り<br/>         ・運動・スポーツの実践で得たものをレポートにまとめる<br/>         ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」の提出<br/>         ・アンケート<br/>         復習：授業を通して成長した点をまとめて、これからの生活や活動にて活かす</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  | バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 該当なし   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書  | 森田淳悟著：『わかりやすいバレーボールのルール』（成美堂出版）2011年<br>田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）2019年                    |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 成績評価：体力の評価15%、試合の戦績15%、課題の評価15%、到達目標に関するレポート15%および授業に対する姿勢や態度40%（チームキャプテンなどの役割10%、コートや用具の準備と片付け15%、試合の運営15%） |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |  | ○   | △                                       | ◎   |     |     |     |     |
| 関連科目   | スポーツⅡ  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他  |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | ｽﾎｰｯII   |       |          |
| 科目分類   | 210-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Physical Education II  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 小澤 多賀子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 小澤 多賀子   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | 前期 金曜日 13:00～16:10<br>後期 金曜日 09:00～12:10   | 研究室   | 16-103   |
| 授業概要   | バドミントンは、生涯にわたる健康や競技および娯楽という様々な点で優れたスポーツである。レジャー目的で行うバドミントンは、一定量を習慣的に行うことで体力の向上や健康の維持・改善効果が期待できる。本授業では、バドミントンを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践することで、運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解することを目的とする。また、創造力・コミュニケーション力を養うとともに、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践する意識と能力を高める。 |       |          |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。</li> <li>・バドミントンの基本技術を習得する。</li> <li>・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識と能力を高める。</li> </ul>  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| <p>第1回<br/> 予習：バドミントン実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備<br/> バドミントンのルールの下調べ<br/> 授業：講義 ガイダンス<br/> ・運動・スポーツ実践の意義と効果<br/> ・バドミントンのルールの理解<br/> ・アンケート<br/> 復習：準備した服装と室内運動靴が授業に適しているかの確認<br/> 運動・スポーツ実践の意義とその効果についての整理<br/> バドミントンのルールの確認</p> <p>第2回<br/> 予習：ラケットとシャトルの仕様の下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（1）ラケットとシャトルに慣れる（グループワーク）<br/> 復習：コートの準備方法とラケットやネットなどの保管場所の確認</p> <p>第3回<br/> 予習：ストロークの方法の下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（2）ストロークの実践（グループワーク）<br/> 復習：ストロークの実践方法の確認</p> <p>第4回<br/> 予習：サービスの打ち方の下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（3）サービスの打ち方とレシーブ（グループワーク）<br/> 復習：サービスの打ち方とレシーブの実践方法の確認</p> <p>第5回<br/> 予習：スマッシュの打ち方の下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（4）スマッシュの打ち方とレシーブ（グループワーク）<br/> 復習：スマッシュの打ち方とレシーブの実践方法の確認</p> <p>第6回<br/> 予習：シングルのゲームルールの下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（5）ゲームを楽しむ：シングルス①（グループワーク）<br/> 復習：シングルのゲームルールの確認</p> <p>第7回<br/> 予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/> 授業：実習 バドミントン（6）ゲームを楽しむ：シングルス② リーグ戦（グループワーク）<br/> 復習：ゲームでの良かった点と改善点の振り返り</p> <p>第8回<br/> 予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/> 授業：実習 バドミントン（7）ゲームを楽しむ：シングルス③ リーグ戦（グループワーク）<br/> 復習：ゲームでの良かった点と改善点の振り返り</p> <p>第9回<br/> 予習：ダブルスのゲームルールの下調べ<br/> 授業：実習 バドミントン（8）ダブルス基本練習（グループワーク）<br/> 復習：ダブルスのゲームルールの確認</p> <p>第10回<br/> 予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/> 授業：実習 バドミントン（9）ダブルス応用練習（グループワーク）<br/> 復習：ゲームで行いたいプレーの整理</p> |  |       |          |

|  |  |   |            |     |   |  |     |     |
|--|--|---|------------|-----|---|--|-----|-----|
| <p>第11回<br/>         予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/>         授業：実習 バドミントン（10）ゲームを楽しむ：ダブルス① リーグ戦（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とダブルスのペアでの振り返り</p> <p>第12回<br/>         予習：バドミントンに必要な体力の調べ<br/>         授業：実習 バドミントン（11）バドミントンに必要な技術と体力の評価<br/>         復習：技術と体力の変化の振り返り</p> <p>第13回<br/>         予習：ゲームで行いたいプレーの確認<br/>         授業：実習 バドミントン（12）ゲームを楽しむ：ダブルス② リーグ戦（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とダブルスのペアでの振り返り</p> <p>第14回<br/>         予習：団体戦で勝利するための作戦をチームで検討<br/>         授業：実習 バドミントン（13）ゲームを楽しむ：ダブルス③ 団体戦（グループワーク）<br/>         復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p> <p>第15回<br/>         予習：これまでの授業の振り返り<br/>         授業：講義 授業の振り返り<br/>         ・「身体活動不足の改善に向けた取り組みを考える」（グループワーク）<br/>         ・運動・スポーツの実践で得たものをレポートにまとめる<br/>         ・アンケート<br/>         復習：授業を通して成長した点をまとめて、これからの生活や活動にて活かす</p> |  |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業開始前学習  | バドミントンの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備。  |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 技術や体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。  |   |            |     |   |  |     |     |
| テキスト・教材  | 該当なし   |   |            |     |   |  |     |     |
| 参考書  | 阿部一佳、渡辺雅弘著：『基本レッスン バドミントン』（大修館書店）2002年<br>田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）2019年                            |   |            |     |   |  |     |     |
| 評価の基準と方法   | 成績評価：技術と体力レベルの評価15%、試合の戦績15%、課題の評価15%、到達目標に関するレポート15%<br>および授業に対する姿勢や態度40%（チームキャプテンなどの役割10%、コートや用具の準備と片付け15%、試合の運営15%） |   |            |     |   |  |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力  | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |  | ○   | △          | ◎   |   |  |     |     |
| 関連科目   | スポーツI  |   |            |     |   |  |     |     |
| その他  |  |   |            |     |   |  |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |   |            |     |   |  |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |            |     |   |  |     |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 基礎ゼミ I   |       |          |
| 科目分類   | 210-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Freshmen Seminar I   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 岡田 昌己  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 岡田 昌己  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 09:00～13:00<br>後期 木曜日 09:00～13:00   | 研究室   | 4-201    |
| 授業概要   | 本講義では、要約法、情報収集法、レポート作成法、発表方法などを学習することにより、与えられた問題に対する調査を適切に行い、得られた情報をわかりやすいレポートとして報告できる技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーションやグループワークを含みます。    |       |          |
| 到達目標   | 大学での学習を始めるにあたって必要とされる心構えや技法を身につけ、予習・復習等の自学自習を効率よく行えるようになることを目標とする。また、要約課題、インタビュー、レポート作成、個人発表等を通して「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得を目標とする。 |       |          |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業   | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| 【第 1 回】<br>予習：オリエンテーションで配布された各種資料を熟読する、自己紹介書を作成する<br>授業：授業の概要説明、健康栄養学科に入学した理由についての発表について説明する<br>復習：発表原稿の作成             |  |       |          |
| 【第 2 回】<br>予習：教科書 p.27-31 を読んでおく<br>授業：大学生活の基本マナーについて学ぶ（p.27-31）<br>復習：基本マナーに則り、メール送信の練習をする                            |  |       |          |
| 【第 3 回】<br>予習：作成した原稿を音読し、発表の練習を行う<br>授業：発表（1）：「健康栄養学科に入学した理由」について（p.61-62）（プレゼンテーション）<br>復習：自分の発表を振り返り、改善点をまとめる        |  |       |          |
| 【第 4 回】<br>予習：教科書 p.73-81 を読み、どのような大学生活を送りたいかを考える<br>授業：講演（1）：大学生活を送るにあたっての心構えを学ぶ<br>復習：講演内容を振り返り、それに対しての自分の考え・意見をまとめる |  |       |          |
| 【第 5 回】<br>予習：教科書 p.41-44 を読んでおく<br>授業：文章の要約：文章の要約を行う（p.41-44）<br>復習：練習問題を要約する   |  |       |          |
| 【第 6 回】<br>予習：教科書 p.45-59 を読んでおく<br>授業：レポート：レポートの書き方、説明構成、情報収集法を学ぶ（p.45-59）<br>復習：レポート作成に使用する資料を図書館等で調べる               |  |       |          |
| 【第 7 回】<br>予習：教科書 p.65-67 を読んでおく<br>授業：伝達・説明（1）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.65-67）（グループワーク）<br>復習：わかりやすい伝え方のポイントをレポートにまとめる          |  |       |          |
| 【第 8 回】<br>予習：前回の授業の内容を見直す<br>授業：伝達・説明（2）：物事の捉え方や見方を学ぶ（p.65-67）（グループワーク）<br>復習：授業で新たに学んだ物事の捉え方について、レポートにまとめる           |  |       |          |
| 【第 9 回】<br>予習：新聞などのインタビュー記事を読み、インタビューの方法を学ぶ<br>授業：情報収集（1）：取材法について学ぶ（p.45-48）（グループワーク）<br>復習：インタビュー内容や順序について整理しておく      |  |       |          |
| 【第 10 回】<br>予習：インタビューを行うための心構えを確認する<br>授業：情報収集（2）：教職員への取材を行う（p.45-48）（グループワーク）<br>復習：インタビューで得た情報をもとに構成を考え、発表原稿を作成する    |  |       |          |
| 【第 11 回】<br>予習：発表テーマについて、情報収集しておく<br>授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の準備をする（p.61-64）<br>復習：レジュメを使用し、音読で発表練習をする                      |  |       |          |
| 【第 12 回】<br>予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br>授業：発表（2）：取材内容のグループ発表（グループワーク）（プレゼンテーション）<br>復習：自分たちの発表の良かった点、改善点についてまとめる  |  |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>         授業：発表（3-1）：口頭発表（p.61-62）（プレゼンテーション）<br/>         復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>         授業：発表（3-2）：口頭発表（p.61-62）（プレゼンテーション）<br/>         復習：他の人の発表を聞いて、良い点、改善すべき点についてのアドバイスをレポートにまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：新聞、雑誌等で管理栄養士についての情報を集める<br/>         授業：講演（2）：管理栄養士について学ぶ（p.69-72,82-84）<br/>         復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』（駒沢女子大学教科書シリーズ）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 必要に応じて授業中に提示する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 課題等の提出状況 100%で評価する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | ◎   | ○   | △   | ○   |   |     |   |     |
| 関連科目   | 大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 基礎ゼミⅡ  |       |          |
| 科目分類   | 210-110-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Freshmen Seminar II  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 岡田 昌己  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 岡田 昌己  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 09:00～13:00<br>後期 木曜日 09:00～13:00   | 研究室   | 4-201    |
| 授業概要   | 本講義では、基礎ゼミⅠで学習した「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作について引き続き要約課題、レポート作成、グループ課題を通して学ぶ。特に、基礎ゼミⅡでは『話す』という基本動作に重点を置き、個人発表やグループワーク課題を通して他者にわかりやすく情報を伝達する技法について学ぶ。なお、本講義はプレゼンテーション、グループワーク等を含みます。 |       |          |
| 到達目標   | 「読む・聞く・書く・話す」という基本的動作の習得と、管理栄養士・栄養士に対する理解を深めながら、基本的知識を習得することを目標とする。2年次から開始される専門教育への導入科目となる授業を展開し、大学における学習の基礎を確立する。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| <p>【第1回】<br/>予習：教科書 p.39-67 を読んでおく<br/>授業：ガイダンス：授業の概要説明、発表原稿作成<br/>復習：発表原稿を推敲する</p> <p>【第2回】<br/>予習：教科書 p.43-44、p.62-64 を読んでおく<br/>授業：文章の要約（1）（p.43-44、p.62-64）<br/>復習：練習問題を要約する</p> <p>【第3回】<br/>予習：教科書 p.43-44、p.62-64 を読んでおく<br/>授業：文章の要約（2）（p.43-44、p.62-64）<br/>復習：練習問題を要約する</p> <p>【第4回】<br/>予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>授業：発表（1）：口頭発表（p.61-64）（プレゼンテーション）<br/>復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる</p> <p>【第5回】<br/>予習：新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める<br/>授業：講演（1）管理栄養士について学ぶ（p.69-84）<br/>復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる</p> <p>【第6回】<br/>予習：グループで発表のテーマについて資料を集める<br/>授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の練習をする（p.61-67）（グループワーク）<br/>復習：発表原稿を推敲し、音読の練習を行う</p> <p>【第7回】<br/>予習：新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める<br/>授業：講演（2）管理栄養士について学ぶ（p.69-84）<br/>復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる</p> <p>【第8回】<br/>予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>授業：発表（2）：口頭発表（p.61-64）（プレゼンテーション）<br/>復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる</p> <p>【第9回】<br/>予習：新聞、書籍等で管理栄養士についての情報を集める<br/>授業：講演（3）管理栄養士について学ぶ（p.69-84）<br/>復習：講演内容を踏まえて、自分の考えをレポートにまとめる</p> <p>【第10回】<br/>予習：発表テーマについての資料を集める<br/>授業：発表準備：レジュメを作成し、発表の練習をする（p.61-64）<br/>復習：発表原稿を推敲し、音読の練習を行う</p> <p>【第11回】<br/>予習：発表原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>授業：発表（3-1）：口頭発表（p.61-62）（プレゼンテーション）<br/>復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる</p> <p>【第12回】<br/>予習：発表する原稿を音読し、プレゼンテーションの練習を行う<br/>授業：発表（3-2）：口頭発表（p.61-62）（プレゼンテーション）<br/>復習：自分の発表の良かった点、改善すべき点についてレポートにまとめる</p> |  |       |          |

|   |   |     |   |     |   |     |  |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：教科書 p.69-71 を読む<br/>         授業：グループ活動（1）：グループ活動について学ぶ（p.65-67）（グループワーク）<br/>         復習：グループ活動における自分の役割について振り返る</p> <p>【第14回】<br/>         予習：グループ活動における自分の役割について、目標を考えておく<br/>         授業：グループ活動（2）：観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う（p.65-67）（グループワーク）<br/>         復習：自分のグループや他のグループの良かった点、改善点についてまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：スムーズにグループ活動が行えるよう準備しておく<br/>         授業：グループ活動（3）：観察力ゲームや情報伝達ゲームを行う（p.65-67）（グループワーク）<br/>         復習：グループ活動において大事なことをまとめる</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 授業前に『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』テキストの関連ページについて目を通しておくこと。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 各授業での課題（講演の感想などを含む）を期限までに提出させ、ゼミの担当教員が添削（訂正）を行い、後日の授業で学生に返却する。また、返却の際には、間違いが多かった箇所、全体の評価等も指導する。 |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 『基礎ゼミⅠ・Ⅱ』（駒沢女子大学 教科書シリーズ）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 必要に応じて授業中に提示する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 課題等の提出状況 100%で評価する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行できる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   | ◎   | ○   | △   | ○   |   |     |  |     |
| 関連科目  | 大学で学ぶための基礎科目であるので、教養教育科目を含めた全科目。  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 社会福祉概論   |       |         |
| 科目分類  | 210-211-14 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Introduction to Social Welfare   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 永井 亮   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 永井 亮   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要  | <p>本授業では 報道機関の特集記事や、講師の社会福祉実践など、事例を多く紹介しながら「社会福祉の実際」をイメージできるようにし、その上で社会福祉の法律・制度や相談援助体制の基本的知識を学ぶ。また、複雑多様な諸問題を抱える人間社会で生きる人々の「生活をめぐる問題」を発見し、そのような「社会福祉の相談援助を必要とする人々」の「心」を同情ではなく「共感的理解」の姿勢で受け止め、社会福祉という単語が意味する「社会における全ての人の幸せ」を管理栄養士としてどのように保障するかを探求する。</p> <p>なお「社会福祉学」は現在存在するあらゆる社会問題を対象とした幅広い学問であり、半期 15 回では到底学びきれないので、本授業はあくまで科目名にある「概論」にふさわしく各トピックの要点のみをおさえた内容である。但し、更に知識を深めたい場合や質問があれば授業中の積極的な発言、またはリアクションペーパーへ記述を歓迎する。その際には詳しい解説をする。</p> |       |         |
| 到達目標  | <p>①管理栄養士が社会福祉の視点を持って活躍する意義や重要性の理解を目標とする。<br/>                 ②社会福祉全般の様々な法律・制度や相談援助体制の基本的知識を暗記・理解できるようになる。<br/>                 ③「人間社会の諸問題」と「人々の生活課題」の事例から、社会福祉の相談援助を必要とする人々の「声にならない SOS」を想像、傾聴、そして共感的に理解できるようになる。<br/>                 ④授業内で紹介した事例に対し、自らの言葉で考察を論じることができるようになる。</p>   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |  |       |         |
| <p><b>【第1回】</b><br/>                 予習：シラバスの内容を確認し、本授業で学ぶポイントを理解しておく。<br/>                 授業：本授業の進行方法や注意点の説明 / 社会福祉とは何か、管理栄養士が社会福祉を学ぶ意義<br/>                 復習：管理栄養士が社会福祉の視点を持つとはどのようなことを確認する。</p> <p><b>【第2回】</b><br/>                 予習：社会福祉の基盤である「日本国憲法第 25 条（生存権）」について理解しておく。<br/>                 授業：社会福祉の基盤と専門職 / 現在の人間社会（少子高齢社会とその影響【例：ヤングケアラー】）<br/>                 復習：社会福祉の専門職（4つの国家資格）、介護支援専門員、社会福祉関連領域（医療・保健、など）の専門職の社会的役割を整理する。また、管理栄養士の中には社会福祉分野の「介護支援専門員」として社会で活躍している者がいることを確認する。</p> <p><b>【第3回】</b><br/>                 予習：現在の人間社会において「家庭・家族」が直面している諸問題を調べておく。<br/>                 授業：家庭福祉（ひとり親家庭、子どもの貧困、外国籍の家庭、保育所持機児童問題、家庭機能を支える社会福祉施設）<br/>                 復習：授業資料を読み返し、家庭・家族を支える保育所などの社会福祉施設における管理栄養士の専門的役割を整理する。</p> <p><b>【第4回】</b><br/>                 予習：現在の人間社会において「女性」が直面している諸問題を調べておく。<br/>                 授業：女性福祉 1（DV の定義・現状、被害者の心理、被害者保護の法律・制度）<br/>                 復習：授業資料を読み返し、DV に関する法律・制度の概要を整理する。被害者の心の傷への「共感的理解」を試みる。</p> <p><b>【第5回】</b><br/>                 予習：「望まない妊娠」や「10 代の妊娠」について調べておく。<br/>                 授業：女性福祉 2（内密出産、このとりのゆりかご、女性保護に関する相談援助機関、社会福祉施設）<br/>                 復習：授業資料を読み返し、「内密出産」や「このとりのゆりかご」が必要とされる理由を整理する。</p> <p><b>【第6回】</b><br/>                 予習：「児童虐待」に関する事件やトピックを新聞やニュースでチェックしておく。<br/>                 授業：児童福祉 1（児童虐待の定義・現状、被虐待児の心の傷と行動特性、虐待の世代間連鎖）<br/>                 復習：授業資料を読み返し、被虐待児の心の傷への「共感的理解」を試みた上で、「なぜ児童虐待が起きるのか？」を整理する。</p> <p><b>【第7回】</b><br/>                 予習：「児童虐待の防止等に関する法律」に、福祉（保育も含む）・医療・教育などの現場で働く管理栄養士には、なぜ「児童虐待の早期発見」の義務が課せられているかを調べておく。<br/>                 授業：児童福祉 2（代理によるミュンヒハウゼン症候群）、（児童を虐待から護るための各法律・制度 / 「児童の権利に関する条約」）<br/>                 復習：授業資料を読み返し、日本の児童虐待対策の概要を整理する。また、国連が制定した「児童の権利に関する条約」の重要ポイントをまとめる。</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |  |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第8回】<br/>           予習：「児童福祉法」に設置根拠がある「児童相談所」と「社会福祉施設(保育所も含む)」について調べておく。<br/>           授業：児童福祉3（児童虐待問題に関する相談援助機関と社会福祉施設）<br/>           復習：授業資料を読み返し、児童相談所や社会福祉施設に従事する管理栄養士が提供する「食」が、被虐待児へ専門的援助（＝日常生活場面における「心の傷への治療的関わり」）の重要な一環となることについて理解を深める。</p> <p>【第9回】<br/>           予習：「死別を体験した児童」を援助する「あしなが育英会」について調べておく。<br/>           授業：児童福祉4（死別を体験した児童の心理と行動特性、悲嘆からの回復への相談援助「グリーフケア」「グリーフワーク」）<br/>           復習：授業資料を読み返し、児童が「喪失体験」から「再起・再生」へと向かう上での管理栄養士の専門的役割を整理する。</p> <p>【第10回】<br/>           予習：「障害児・障害者」が持つ生活上の障壁について調べておく。<br/>           授業：障害福祉1（障害の概念「ICIDHからICFへ」、障害児の定義、障害者の定義、障害者虐待の定義）<br/>           復習：授業資料を読み返し、「障害とは何か」を暗記・理解する。また、「なぜ障害者虐待が起きるのか？」を整理する。</p> <p>【第11回】<br/>           予習：障害児の施設での相談援助技術である「療育」とは何かを調べておく。<br/>           授業：障害福祉2（国による障害児・障害者援助制度、相談援助機関、社会福祉施設、精神科病院）<br/>           復習：授業資料を読み返し、障害児への「療育」の実践における管理栄養士の専門的役割を整理する。</p> <p>【第12回】<br/>           予習：「ノーマライゼーション」、「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」、「ソーシャルインクルージョン」という単語の意味を調べておく。<br/>           授業：障害福祉3（障害児・障害者の権利擁護、障害の理念と各法律・制度とそれらに基づく社会での実践内容）<br/>           復習：授業資料を読み返し、日本の障害者福祉政策の概要を整理する。</p> <p>【第13回】<br/>           予習：「少年非行」に関する事件やトピックを新聞やニュースでチェックしておく。<br/>           授業：司法福祉（少年非行の裏側に潜む非行少年の心理状態と行動特性、少年法と児童福祉法、相談援助機関、社会福祉施設、少年院）<br/>           復習：授業資料を読み返し、「少年法の厳罰化は少年非行・少年犯罪の抑止力となるか？」について考えをまとめる。</p> <p>【第14回】<br/>           予習：「高齢化社会」、「高齢社会」、「超高齢社会」という単語の意味を調べておく。<br/>           授業：高齢者福祉（高齢者の権利擁護、介護保険、地域包括ケアシステム、高齢者虐待の定義、高齢者に関する各法律・制度）<br/>           復習：授業資料を読み返し、日本の高齢者福祉政策の概要を整理する。</p> <p>【第15回】<br/>           予習：「国民皆保険・皆年金」の意味を調べておく。まとめの確認テストのために第1回～第14回までを復習しておく。<br/>           授業：安全保障（医療保険・年金制度の概要） / まとめの確認テスト<br/>           復習：授業全体を総括し、「管理栄養士が社会福祉を学ぶ意義」を再考してまとめる。</p> |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 日ごろから新聞やニュースで人間社会の諸問題に関心を持つ習慣をつけておく、授業内容をスムーズに理解できる。但し、TwitterやInstagramなどのSNSを参照する場合には、正しく記述されているサイトのみを読むこと（例えば公的機関や企業、社会福祉施設、病院などの公式SNSなど）。投稿者の主観や感情的意見、憶測やデマが書き込まれていると思われるSNSは学習に利用しないこと。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 各授業回の内容に沿った「事例」（報道機関の特集記事または講師の社会福祉実践）について、毎授業中に考察をリアクションペーパーに論じて提出してもらい、そこに書かれた重要意見や質問事項に、次週授業冒頭で詳細に解説、回答する。  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 使用しない。毎授業時に配布する授業資料プリントを使って講義する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 山田美津子・稲葉光彦 編 『社会福祉を学ぶ』（株式会社みらい）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 以下の2点から評価する。<br>①受講姿勢・リアクションペーパー 30%<br>②まとめの確認テスト 70%   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   |  | ○   |   | △   | ◎                                       | ○   |  |     |
| 関連科目  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 精神保健福祉、児童福祉の分野でソーシャルワーカーとして勤務経験があり、現場でのエピソードを紹介しながら、人間と社会・環境を総合した視点から講義をする。  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 公衆衛生学 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-13 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Public Hygiene I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 井上 浩一  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 井上 浩一  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 09:00~12:00<br>後期 月曜日 09:00~12:00   | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要   | <p>公衆衛生の概念の理解、課題抽出のための情報収集と分析等の方法の提示<br/>         ○公衆衛生の意義、歴史、現状、課題を学び、公衆衛生活動の中での管理栄養士の役割を見出す。<br/>         ○保健統計、疫学研究方法を学ぶ。<br/>         ○「健康」を考え、人の暮らしや健康と環境との関連を知る。<br/>         ○健康に影響を与える要因、健康増進と疾病対策（がん、循環器疾患、脳血管疾患、心疾患等）を学び理解する。<br/>         ○管理栄養士に必要な公衆衛生の知識を修得する。</p> |       |         |
| 到達目標   | <p>教科書とは別に、簡潔に要点をまとめた整理ノートを作成し、予習・復習に使えるようにし、その週に最低限理解しておくべき内容を理解する。理解しているのかどうかの確認は3回の確認テストでその状況を把握する。</p>   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 1-6）<br/>         授業：健康の概念<br/>         復習：健康の概念内容確認</p> <p>【第 2 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 1-6）<br/>         授業：公衆衛生の意義と定、活動目的・方法<br/>         復習：公衆衛生の意義と定、活動目的・方法内容確認</p> <p>【第 3 回】<br/>         予習：講義内容確認（p 23-42）<br/>         授業：人口・保健統計①＜保健統計の概要、統計法、生命表、人口静態、人口動態＞<br/>         復習：人口・保健統計の内容確認</p> <p>【第 4 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 23-42）<br/>         授業：人口・保健統計②＜疾患別死亡統計、年齢調整死亡率、傷病統計＞<br/>         復習：人口・保健統計の内容確認</p> <p>【第 5 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 59-68）<br/>         授業：人口・保健統計③＜高齢者・介護統計、社会保障統計と情報とコミュニケーション＞<br/>         復習：人口・保健統計の内容確認、情報とコミュニケーションのあり方の内容確認</p> <p>【第 6 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 1-6、p 23-42、p 59-68）<br/>         授業：これまでの確認テスト<br/>         復習：【第 1 回】から【第 6 回】までの内容確認</p> <p>【第 7 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 43-58）<br/>         授業：疫学概念、研究デザイン①（観察研究）<br/>         復習：疫学概念、研究方法内容確認</p> <p>【第 8 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 43-58）<br/>         授業：研究デザイン（介入研究）、疫学研究の留意点とその特徴①<br/>         復習：疫学概念、研究方法内容確認</p> <p>【第 9 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 43-58）<br/>         授業：疾病・死亡の指標、疫学の効果指標<br/>         復習：疫学指標、バイアス制御確認</p> <p>【第 10 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 43-58）<br/>         授業：疫学の指標（オッズ比、相対危険、寄与危険等）<br/>         復習：疫学の指標（オッズ比、相対危険、寄与危険等）内容確認</p> <p>【第 11 回】<br/>         予習：講義範囲確認（p 43-58）<br/>         授業：スクリーニング＜疫学関連のデータ算出方法も含む＞<br/>         復習：スクリーニングの内容確認</p> |  |       |         |

|  |   |   |   |   |     |     |     |     |
|--|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 1-6、p 23-68）<br/> 授業：これまでの確認テスト<br/> 復習：【第7回】から【第12回】までの内容確認</p> <p>【第13回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 7-22）<br/> 授業：環境と健康①（環境汚染：大気、水質汚土壌）<br/> 復習：環境汚染（大気、水質汚土壌）の内容確認</p> <p>【第14回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 7-22）<br/> 授業：環境と健康②（環境衛生、上下水道・廃棄物処理）<br/> 復習：環境衛生（環境衛生、上下水道・廃棄物処理）の内容確認</p> <p>【第15回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 1-68）<br/> 授業：第1回～第14回までの最終確認まとめテスト<br/> 復習：最終確認テストにおいてできなかったところを再確認</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  | 教科書を一読して授業受けることが望ましい。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 確認テストにおいて、どれだけ授業内容を理解しているのが確認し、理解が不足している授業内容については、再度、時間を設けて追加授業を行う。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 柳川洋著 『社会・環境と健康 公衆衛生学』（医歯薬出版）  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書  | 松谷有希雄他著 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 3回の確認テストにより7割、課題提出2割、授業態度1割をもって単位を認定する。<br>確認テストでは1週前に事前に出題する関連資料を配布することから、再試は実施しない。  |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |   | △   |   | △   | ◎   | ○   |     |     |
| 関連科目   | 公衆栄養学 統計学の基礎 応用栄養学  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他  | 公衆衛生学は法的制度体系に基づく実践的な科目である。その法的体系の中での行政施策の内容・現状を把握し、その課題は何なのか理解してほしい。そのため、社会の中での様々な施策に関する社会情報に関心を持ち、学んだことと照らし合わせて批判的に見る目を養ってほしい。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 行政機関（国、県、保健所）の経験あり。<br>特に保健・医療・福祉制度・施策の現状と課題について講義する。   |   |   |   |     |     |     |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 公衆衛生学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-14 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Public Hygiene II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 井上 浩一   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 井上 浩一   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 09:00～12:00<br>後期 月曜日 09:00～12:00  | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要  | ○主要疾患の疫学と予防対策〈がん、循環器、代謝疾患、精神疾患等〉について学び、公衆衛生活動の中での管理栄養士の役割を見出す。<br>○保健・医療・福祉・介護制度及びその施策〈社会保障・医療制度・地域保健・母子保健等〉について学び、その制度の中で管理栄養士の役割について理解する。 |       |         |
| 到達目標  | 各種公衆衛生分野の制度に係る法規と施策について理解し、実践に結びつける。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：講義範囲確認（p139-144）<br>授業：母子保健制度の現状と課題<br>復習：母子保健法の概要の再確認・健やか親子21の再確認  |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：講義範囲確認（p167-176）<br>授業：学校保健制度の現状と課題<br>復習：学校保健安全法の概要・学校の健康管理の再確認  |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：講義内容確認（p149-154）<br>授業：高齢者保健・介護制度の現状と課題<br>復習：高齢者医療確保法の概要・現状・課題の再確認   |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：講義範囲確認（p149-154）<br>授業：高齢者保健・介護制度の現状と課題②<br>復習：介護保険法の概要・現状・課題の再確認   |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：確認テストの準備（p139-144）（p145-154）<br>授業：確認テスト〈少子高齢化の実態・母子・学校・高齢者保健制度〉<br>復習：確認テストでできなかったところの再確認  |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：講義範囲確認（p155-166）<br>授業：産業保健制度の現状と課題<br>復習：労働安全衛生法の概要・職場の健康管理の再確認  |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：講義範囲確認（p105-113）<br>授業：社会保障の体系と医療制度（医療体制と医療法を含む）<br>復習：少子高齢化の現状と課題、社会保障制度の概要の再確認  |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：講義範囲確認（p113-122）<br>授業：医療保障制度と介護保障制度<br>復習：社会保障制度の現状と課題、医療制度の現状と課題の再確認  |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：講義範囲確認（p123-132）<br>授業：社会福祉制度と障害者施策<br>復習：社会福祉制度と障害者施策の概要の再確認   |   |       |         |
| 【第10回】<br>予習：講義範囲確認（p87-94）<br>授業：感染症の現状・課題・予防対策<br>復習：感染症法と感染症制度の再確認   |   |       |         |
| 【第11回】<br>予習：確認テストの準備（p57-100）（p105-132）（p155-166）<br>授業：確認テスト〈産業保健・社会保障・医療制度・社会福祉制度・感染症〉<br>復習：確認テストのできなかったところの再確認                               |   |       |         |
| 【第12回】<br>予習：講義範囲確認（p67-72、p145-148）<br>授業：主要疾患とライフスタイルの現状と課題・予防対策①〈生活習慣病・身体活動・成人保健〉<br>復習：生活習慣病（がん、代謝疾患、循環器疾患）・身体活動（骨・関節疾患）・【第7回】から【第12回】までの内容確認 |   |       |         |

|   |   |   |            |     |   |  |     |     |
|---|---|---|------------|-----|---|--|-----|-----|
| <p>【第 13 回】<br/> 予習：講義範囲確認（p67-72）（p95-100）<br/> 授業：主要疾患とライフスタイルの現状と課題・予防対策②〈たばこ、飲酒、こころ〉<br/> 復習：たばこ、飲酒と心（精神疾患）制度の概要・現状・課題の再確認</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習：講義範囲確認（p67-72）（p177-185）<br/> 授業：歯科保健対策と国際保健対策の現状と課題<br/> 復習：歯科保健制度と対策、国際保健対策の概要の再確認</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習：最終テストの準備（前期の授業全範囲）<br/> 授業：第 1 回～第 14 回までの最終確認まとめテスト<br/> 復習：最終確認テストにおいてできなかったところを再確認</p> |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業開始前学習   | 教科書を一読して授業受けることが望ましい。   |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 確認テストにおいて、どれだけ授業内容を理解しているのか確認するために確認テストを行い、その結果状況をみながら、理解不足の部分については再度、時間を設けて追加授業を行う。  |   |            |     |   |  |     |     |
| テキスト・教材   | 柳川洋著 『社会・環境と健康 公衆衛生学』（医歯薬出版）  |   |            |     |   |  |     |     |
| 参考書   | 松谷有希雄他著 『国民衛生の動向』（厚生統計協会）   |   |            |     |   |  |     |     |
| 評価の基準と方法  | 3 回の確認テストにより評価する。3 回の確認テストにおいて、全得点合計の 6 割以上をもって評価する。確認テストでは 1 週前に事前に出題する関連資料を配布することから、再試は実施しない。   |   |            |     |   |  |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力  | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   |   | △   |            | △   | ◎                                       | ○  |     |     |
| 関連科目  | 公衆栄養学 統計学 臨床栄養学 社会福祉概論  |   |            |     |   |  |     |     |
| その他   | 公衆衛生学は法的制度体系に基づく実践的な科目である。保健医療福祉制度は毎年、新たな動きをしており、その動き・変化を踏まえた授業を、国、地方公共団体、民間での動きを捉えながら行う。社会の中の様々な保健・医療・福祉制度に関心をもち、その現状と課題を理解し、学んだことを活かして批判的に見る目を養ってほしい。 |   |            |     |   |  |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |   |            |     |   |  |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 行政機関（国、県、保健所）の経験あり。<br>特に保健・医療・福祉制度・施策の現状と課題について講義する。   |   |            |     |   |  |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 健康管理概論  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Introduction to Health Care   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 本川 佳子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 本川 佳子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 将来管理栄養士として働く際に、健康管理というのは職場に限らず共通のテーマとなる。本授業では、健康の概念、健康増進、疾病予防について学び、各ライフステージではどのような課題があるか理解し、将来現場で活用できる知識を習得する。 |       |         |
| 到達目標   | 健康管理について基本的用語と考え方を理解し、説明できるようになる。将来にわたり使える知識を身につける。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>   |   |       |         |
| <p><b>1回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：授業ガイダンス、健康管理概論の意義について<br/> 復習：健康管理の概念について考えをまとめる</p> <p><b>2回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：社会と健康 教科書 P1～9<br/> 復習：社会と健康について整理する</p> <p><b>3回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：環境と健康 教科書 P13～28<br/> 復習：環境と健康について整理する</p> <p><b>4回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：健康、疾病、行動に関わる統計資料 教科書 P31～45<br/> 復習：統計学について整理する</p> <p><b>5回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：健康状態・疾病の測定と評価① 教科書 P47～60<br/> 復習：疫学概念について理解する</p> <p><b>6回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：健康状態・疾病の測定と評価② 教科書 P47～60<br/> 復習：EBM について理解する</p> <p><b>7回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：健康状態・疾病の測定と評価③ 教科書 P47～60<br/> 復習：疫学、EBM について理解する</p> <p><b>8回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 教科書 P63～79<br/> 復習：健康に関連する生活習慣について理解する</p> <p><b>9回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：主要疾患の疫学と予防対策① 教科書 P85～114<br/> 復習：主要疾患の疫学について理解する</p> <p><b>10回目</b><br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：主要疾患の疫学と予防対策② 教科書 P85～114<br/> 復習：主要疾患の疫学について理解する</p> |   |       |         |

|  |  |   |   |  |     |     |     |     |
|--|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| <p>11 回目<br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：保険・医療・福祉の制度① 教科書 P117～173<br/> 復習：各種社会保障制度について整理する</p> <p>12 回目<br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：保険・医療・福祉の制度② 教科書 P117～173<br/> 復習：各種社会保障制度について整理する</p> <p>13 回目<br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：保険・医療・福祉の制度③ 教科書 P117～173<br/> 復習：各種社会保障制度について整理する</p> <p>14 回目（プリントで対応予定）<br/> 予習：日本人の食事摂取基準 2020 年版を調べる<br/> 授業：日本人の食事摂取基準、健康日本 2 1、国民健康・栄養調査<br/> 復習：栄養に大きく関わる調査・ガイドラインを整理する</p> <p>15 回目<br/> 予習：教科書を読んでくる<br/> 授業：授業のまとめ、試験対策<br/> 復習：試験対策</p> |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  | 事前に教科書を読み、授業の流れについて確認しておくこと。                   |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 期間中にレポート 1 回、小テスト 1 回を実施予定。レポートは採点后返却。         |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 『サクセス管理栄養士・栄養士 公衆衛生学・健康管理概論』（第一出版）             |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書  |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験（90%）、レポート（10%）                            |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  | ○  |   |   | △  | ◎   | △   |     |     |
| 関連科目   |  |   |   |  |     |     |     |     |
| その他  |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週） |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |   |   |  |     |     |     |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 生化学 I  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-12   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Biochemistry I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 西山 一郎  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西山 一郎  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 16:00~18:00 水曜日 16:00~18:00<br>後期 月曜日 16:00~18:00 水曜日 16:00~18:00   | 研究室   | 16-107  |
| 授業概要  | 生体を構成する種々の物質を化学的に理解するために必要な、生化学の基礎知識を習得することを目標とする。まず糖質、脂質、タンパク質、核酸等の主要な生体構成物質の化学構造や生化学的特性を学ぶ。また、酵素や補酵素の性質および酵素反応の基礎についても学習する。次いで、各種のホルモンについて、その分泌器官やそれぞれの生体調節機構について学ぶ。さらに、ビタミンの働きや欠乏症、過剰症について理解を深める。 |       |         |
| 到達目標  | 糖質、脂質、タンパク質、核酸等の化学構造と諸性質を理解する。酵素や補酵素の性質および酵素反応の基礎を理解する。各種ホルモンの分泌器官と生体調節機構を理解する。ビタミンの化学構造と生理機能を理解する。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：テキスト 1 頁～13 頁を読み、分子や細胞についての概念を確認する<br/> 授業：生体と細胞【テキスト p1～p13】<br/> 復習：生体と細胞に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：テキスト 14 頁～18 頁を読み、糖質の分類や単糖の化学構造および性質を確認する<br/> 授業：（糖質 I）糖質の分類、単糖類とその誘導体の生化学【テキスト p14～p18】<br/> 復習：単糖に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：テキスト 18 頁～20 頁を読み、二糖類ならびに多糖類の化学構造や性質を確認する<br/> 授業：（糖質 II）二糖類ならびに多糖類の生化学【テキスト p18～p20】<br/> 復習：二糖類や多糖類に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：テキスト 20 頁～23 頁を読み、脂肪酸やアシルグリセロールの化学構造や性質を確認する<br/> 授業：（脂質 I）脂肪酸とアシルグリセロールの生化学【テキスト p20～p23】<br/> 復習：脂肪酸とアシルグリセロールに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：テキスト 23 頁～27 頁を読み、リン脂質やステロイド化合物の化学構造や性質を確認する<br/> 授業：（脂質 II）複合脂質とステロイド化合物の生化学【テキスト p23～p27】<br/> 復習：リン脂質やステロイド化合物に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：テキスト 28 頁～31 頁を読み、アミノ酸の化学構造と分類を確認する<br/> 授業：（タンパク質 I）アミノ酸の構造とペプチド結合【テキスト p28～p31】<br/> 復習：アミノ酸やペプチド結合に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：テキスト 31 頁～36 頁を読み、タンパク質の立体構造を形成する化学結合を確認する<br/> 授業：（タンパク質 II）タンパク質の高次構造と変性【テキスト p31～p36】<br/> 復習：タンパク質の高次構造に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：テキスト 28 頁～36 頁を読み、両性電解質や等電点とは何かを確認する<br/> 授業：（タンパク質 III）両性電解質と等電点、タンパク質の分類【テキスト p28～p36】<br/> 復習：両性電解質や等電点に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：テキスト 36 頁～43 頁を読み、DNA や RNA の化学構造や性質を確認する<br/> 授業：（ヌクレオチド・核酸）ヌクレオチドと核酸の生化学【テキスト p36～p43】<br/> 復習：ヌクレオチドと核酸に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：テキスト 44 頁～48 頁を読み、酵素の基本的な諸性質を確認する<br/> 授業：（酵素 I）酵素の生化学的特性と分類【テキスト p44～p48】<br/> 復習：酵素に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：テキスト 48 頁～52 頁を読み、酵素反応速度論と酵素活性調節のしくみを確認する<br/> 授業：（酵素 II）酵素反応速度論と酵素活性の調節【テキスト p48～p52】<br/> 復習：酵素反応速度論と酵素活性調節に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：テキスト 52 頁～58 頁を読み、それぞれのホルモンの分泌器官や生理作用を確認する<br/> 授業：（ホルモン I）下垂体、副腎および甲状腺ホルモン【テキスト p52～p58】<br/> 復習：下垂体、副腎および甲状腺ホルモンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト58頁～62頁を読み、それぞれのホルモンの分泌器官や生理作用を確認する<br/>         授業：(ホルモンⅡ) Ca代謝調節ホルモン、膵臓および消化管ホルモン【テキストp58～p62】<br/>         復習：Ca代謝調節ホルモン、膵臓および消化管ホルモンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト62頁～66頁を読み、脂溶性ビタミンの化学構造や生理作用を確認する<br/>         授業：(ビタミンⅠ) 脂溶性ビタミンの生化学【テキストp62～p66】<br/>         復習：脂溶性ビタミンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキスト66頁～72頁を読み、水溶性ビタミンの化学構造や生理作用を確認する<br/>         授業：(ビタミンⅡ) 水溶性ビタミンの生化学【テキストp66～p72】<br/>         復習：水溶性ビタミンに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 化学や生物の基礎を復習し、弱い分野があれば補っておくこと。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 第13回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第14回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。                             |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 木元幸一・後藤潔・大西淳之 編著『Nブックス 四訂 生化学』（建帛社）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験期間中に行う筆記試験（100％）により評価を行う。筆記試験は、五肢択一問題（各4点）を25問出題する。<br>（ただし、緊急事態宣言等により遠隔授業となった場合は、授業中に行う複数回の確認小テストにより評価する。） |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | △   |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 生化学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-12  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Biochemistry II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 西山 一郎   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 西山 一郎   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00<br>後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00  | 研究室   | 16-107  |
| 授業概要   | 「生化学Ⅰ」で学んだ知識を基礎として、より発展的な内容を理解することを目標とする。具体的には、まず食物として摂取された糖質、脂質、タンパク質等の栄養素が生体内においてどのように代謝され、また、エネルギーを生じるかについて理解を深める。次いで遺伝子の本体であるDNAの構造と遺伝子発現機構についても学ぶ。さらに、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術についての知識も深める。 |       |         |
| 到達目標   | 生体内における糖質代謝（解糖系、TCA サイクル、ペントースリン酸回路、糖新生系など）、脂質代謝（β酸化、脂肪酸合成、コレステロール生成など）、タンパク質代謝（アミノ基転移反応、尿素サイクル、脱炭酸反応など）、核酸代謝（ヌクレオチド合成、プリン体からの尿酸生成など）を理解する。DNA の構造と遺伝子発現機構、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術について理解する。    |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：テキスト73頁～84頁を読み、生体エネルギーの概念や酸化的リン酸化について確認する<br>授業：生体エネルギー【p73～p84】<br>復習：生体エネルギーに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し   |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：テキスト85頁～91頁を読み、解糖系の概要について確認する<br>授業：（糖質の代謝Ⅰ）解糖系【p85～p91】<br>復習：解糖系に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し   |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：テキスト91頁～96頁を読み、TCA サイクル（クエン酸回路）の概要について確認する<br>授業：（糖質の代謝Ⅱ）TCA サイクル（クエン酸回路）【p91～p96】<br>復習：TCA サイクル（クエン酸回路）に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                        |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：テキスト96頁～100頁を読み、グリコーゲンの合成・分解と糖新生系の概要について確認する<br>授業：（糖質の代謝Ⅲ）グリコーゲンの合成・分解と糖新生系【p96～p100】<br>復習：グリコーゲンの合成・分解と糖新生系に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                   |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：テキスト100頁～108頁を読み、ペントースリン酸回路や血糖値の調節機構について確認する<br>授業：（糖質の代謝Ⅳ）ペントースリン酸回路、血糖値の調節【p100～p108】<br>復習：ペントースリン酸回路や血糖値の調節機構に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：テキスト109頁～115頁を読み、リポタンパク質や脂肪酸のβ酸化について確認する<br>授業：（脂質の代謝Ⅰ）リポタンパク質、脂肪酸のβ酸化【p109～p115】<br>復習：リポタンパク質や脂肪酸のβ酸化に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                          |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：テキスト116頁～121頁を読み、ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程について確認する<br>授業：（脂質の代謝Ⅱ）ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程【p116～p121】<br>復習：ケトン体の代謝や脂肪酸の生合成過程に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                    |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：テキスト121頁～126頁を読み、アシルグリセロール、リン脂質、コレステロールの代謝について確認する<br>授業：（脂質の代謝Ⅲ）アシルグリセロール、リン脂質とコレステロールの代謝【p121～p126】<br>復習：アシルグリセロールやコレステロールの代謝に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：テキスト127頁～133頁を読み、生体中におけるアミノ基窒素の排出について確認する<br>授業：（タンパク質の代謝Ⅰ）アミノ基転移反応と尿素サイクル【p127～p133】<br>復習：アミノ基転移反応と尿素サイクルに関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                      |   |       |         |
| 【第10回】<br>予習：テキスト134頁～144頁を読み、各種アミノ酸の利用とアミノ酸代謝異常症について確認する<br>授業：（タンパク質の代謝Ⅱ）各種アミノ酸の代謝と代謝異常【p134～p144】<br>復習：各種アミノ酸の代謝と代謝異常に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                    |   |       |         |
| 【第11回】<br>予習：テキスト162頁～170頁を読み、ヌクレオチドの代謝とその代謝異常に起因する痛風について確認する<br>授業：ヌクレオチドの合成・分解と代謝異常【p162～p170】<br>復習：ヌクレオチドの合成・分解と代謝異常に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し                     |   |       |         |
| 【第12回】<br>予習：テキスト171頁～182頁を読み、DNA の複製や遺伝子発現機構について確認する  |   |       |         |

授業：(遺伝子発現とその制御 I) DNAの複製と遺伝子発現【p171～p182】  
 復習：DNAの複製と遺伝子発現に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し  
 【第13回】  
 予習：テキスト182頁～186頁を読み、遺伝子発現の調節機構について確認する  
 授業：(遺伝子発現とその制御 II) 遺伝子発現の調節機構【p182～p186】  
 復習：遺伝子発現の調節機構に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し  
 【第14回】  
 予習：テキスト186頁～190頁を読み、「DNAの損傷と修復」や「栄養と遺伝子」について確認する  
 授業：(遺伝子発現とその制御 III) 「DNAの損傷と修復」や「栄養と遺伝子」【p186～p190】  
 復習：「DNAの損傷と修復」や「栄養と遺伝子」に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し  
 【第15回】  
 予習：テキスト190頁～196頁を読み、遺伝子多型と栄養との関連や遺伝子工学技術について確認する  
 授業：(遺伝子発現とその制御 IV) 遺伝子多型と栄養、遺伝子工学【p190～p196】  
 復習：遺伝子多型や遺伝子工学に関する重要用語の確認と、配付資料の例題の見直し

|                      |   |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 「生化学 I」で学んだ内容が基礎となるので、よく復習しておくこと。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 第13回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第14回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。                         |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | 木元幸一・後藤潔・大西淳之 編著『Nブックス 四訂 生化学』（建帛社）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 定期試験期間中に行う筆記試験（100％）により評価を行う。筆記試験は、五肢択一問題（各4点）を25問出題する。（ただし、緊急事態宣言等により遠隔授業となった場合は、授業中に行う複数回の確認小テストにより評価する。） |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | △   |   |   |   | ◎   | ○   |     |     |
| 関連科目                 | 「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。                                       |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |   |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 生化学実験 I  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-32   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Experiment in Biochemistry I   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 岡田 昌己  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 岡田 昌己  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 木曜日 09:00～13:00<br>後期 木曜日 09:00～13:00   | 研究室   | 4-201   |
| 授業概要  | まず、生化学実験において汎用される器具類や電子天秤等の測定機器類の使用法や試薬の調製法を習得する。次いで糖質、脂質、タンパク質などの生化学的な性状・性質を理解するための実験を行う。具体的には単糖類・二糖類の還元性と呈色反応、二糖類・多糖類の加水分解、脂質の抽出や定性分析、アミノ酸やタンパク質の呈色反応ならびに酵素に関する実験を行い、得られた結果について考察を加える。実験を通して、「生化学 I」で学んだ知識を確認し、発展させることを目標とする実験科目である。 |       |         |
| 到達目標  | 生化学 I で学んだ、糖質、脂質、タンパク質、酵素について、構造や性質・特徴の理解を深める。実験操作においては、正確なピペット操作、その他機器の使用技術を習得し、次年度以降の実験操作を円滑にするための基礎的な技術を身に付ける。レポートにおいては、結果を詳細にまとめ、特に考察を生化学的な観点からしっかりと考えられるようになることに加え、類似関連科目への理解も深める。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| 【第 1 回】<br>予習：テキスト 1 頁～13 頁を読み、安全に実験を行うための注意点について確認する<br>授業：安全に実験を行うための諸注意、小実験とレポートの書き方について【p1～p13】<br>復習：溶液の質量パーセント濃度やモル濃度に関する計算を復習する  |  |       |         |
| 【第 2 回】<br>予習：テキスト 15 頁～21 頁を読み、実験の概要について確認する<br>授業：（糖質 I）単糖類・二糖類・デンプンの定性反応【p15～p21】 「グループワーク」<br>復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する              |  |       |         |
| 【第 3 回】<br>予習：糖質 I の実験結果を整理し、理解に努める<br>授業：糖質 I の重要事項の確認と補足実験【テキスト p15～p21】<br>復習：糖質 I のレポートを作成する  |  |       |         |
| 【第 4 回】<br>予習：テキスト 23 頁～27 頁を読み、実験の概要について確認する<br>授業：（糖質 II）デンプン粒の調製とデンプンの糊化、デンプンの性質【テキスト p23～p27】 「グループワーク」<br>復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する |  |       |         |
| 【第 5 回】<br>予習：糖質 II の実験結果を整理し、理解に努める<br>授業：糖質 II の重要事項の確認と補足実験【テキスト p23～p27】<br>復習：糖質 II のレポートを作成する                                     |  |       |         |
| 【第 6 回】<br>予習：テキスト 29 頁～36 頁を読み、実験の概要について確認する<br>授業：（脂質 I）脂質の薄層クロマトグラフィー【テキスト p29～p36】 「グループワーク」<br>復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する            |  |       |         |
| 【第 7 回】<br>予習：テキスト 37 頁～40 頁を読み、実験の概要について確認する<br>授業：（脂質 II）卵黄中のリン脂質の抽出と定性分析【テキスト p37～p40】 「グループワーク」<br>復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する         |  |       |         |
| 【第 8 回】<br>予習：脂質 I および II の実験結果を整理し、理解に努める<br>授業：脂質 I および II の重要事項の確認と補足実験【テキスト p29～p40】<br>復習：脂質 I および II のレポートを作成する                   |  |       |         |
| 【第 9 回】<br>予習：テキスト 41 頁～44 頁を読み、実験の概要について確認する<br>授業：（タンパク質 I）アミノ酸、タンパク質の定性反応【テキスト p41～p44】 「グループワーク」<br>復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する        |  |       |         |

|  |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
|--|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>【第10回】<br/>         予習：テキスト47頁～52頁を読み、実験の概要について確認する<br/>         授業：(酵素 I) グルコースオキシダーゼ法による血糖の定量【テキスト p47～p52】 「グループワーク」<br/>         復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理する</p> <p>【第11回】<br/>         予習：タンパク質 I および酵素 I の実験結果を整理し、理解に努める<br/>         授業：タンパク質 I および酵素 I の重要事項の確認と補足実験【テキスト p41～p52】<br/>         復習：タンパク質 I および酵素 I のレポートを作成する</p> <p>【第12回】<br/>         予習：テキスト15頁～19頁、41頁～44頁を読み、糖質、タンパク質の定性実験について確認する<br/>         授業：(未知検体の定性実験)【テキスト p53～p54】<br/>         復習：実験結果をまとめ、確認できたことを整理し、レポートを作成する</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習  | テキストの該当部分を熟読した上で、毎回の授業に臨むこと。「生化学 I」の内容も、よく復習しておくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 各実験に対して解説を行い、レポートを作成させる。レポートを添削・修正を行い学生に返却する。また、返却したレポートの解説を行う。                                      |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材  | 「生化学実験 I」(無償配付)  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書  | Nブックス 生化学 (建帛社) 林淳三 監修 その他、授業の中で推薦図書を紹介する。   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法   | 各実験項目につきレポートの提出を求める。レポート点(70点満点)と授業態度(30点満点)の合計点として評価を行う。提出期限を過ぎてからレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。 |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当  |  |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | △   |  |
| 関連科目   | あらかじめ「生化学 I」の内容をよく理解しておくこと。「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。     |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他  |  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 45 時間   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |   |   |   |     |     |     |     |  |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 生化学実験Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-33  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Experiment in Biochemistry II   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 西山 一郎   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西山 一郎   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00<br>後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00  | 研究室   | 16-107  |
| 授業概要  | 本実験では、まず高速液体クロマトグラフィーによるビタミン類の分析や定量を試行し、生体機能成分の働きを理解する。次いで消化酵素の働きを中心として、至適温度、至適 pH、基質特異性などの酵素の生化学的性質についても理解を深める。また、生化学的手法によるタンパク質の分離・精製および定量分析を行う。さらに血清中の総タンパク質やアルブミンの濃度を測定し、A/G 比と各種疾病との関係を学ぶ。これらの実験を通して、生体の構造と機能についての生化学的な理解を深める。実験科目であるため、毎回グループ・ワークを行う。 |       |         |
| 到達目標  | ビタミン類の化学構造や生体中での機能を説明できるようになる。酵素の諸性質（pH 依存性、温度依存性や基質特異性など）を理解する。電気泳動法によるタンパク質の分析の理論を理解し、タンパク質の生化学的特性を説明できるようになる。タンパク質の定量を通じて血清中のアルブミンとグロブリンの比率を確認し、疾病との関連を理解する。クロロフィルやカロテノイドなどの色素についても理解を深める。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| 【第 1 回】<br>予習：ビタミン D の化学構造や生体内での機能について確認する<br>授業：（ビタミン I） ビタミン D の構造と機能（グループ・ワーク）<br>復習：ビタミン D の定量分析に関する実験結果やその生理機能についてまとめ、確認できたことを整理する           |   |       |         |
| 【第 2 回】<br>予習：ビタミン C の化学構造や生体内での機能について確認する<br>授業：（ビタミン II） ビタミン C（アスコルビン酸）の構造と機能（グループ・ワーク）<br>復習：アスコルビン酸の定量分析に関する実験結果やその生理機能についてまとめ、確認できたことを整理する  |   |       |         |
| 【第 3 回】<br>予習：酵素の性質や消化酵素の働きについて確認する<br>授業：（酵素 I） ペプシン、トリプシン、膵リパーゼによる人工消化（グループ・ワーク）<br>復習：人工消化に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する                            |   |       |         |
| 【第 4 回】<br>予習：トリプシンおよびキモトリプシンの基質特異性について確認する<br>授業：（酵素 II） トリプシンおよびキモトリプシンの基質特異性と至適 pH（グループ・ワーク）<br>復習：トリプシンおよびキモトリプシンに関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する    |   |       |         |
| 【第 5 回】<br>予習：タンパク質の生化学的性状について確認する<br>授業：（タンパク質 I-1） タンパク質の性質（塩析）（グループ・ワーク）<br>復習：卵白アルブミンの単離に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する                             |   |       |         |
| 【第 6 回】<br>予習：タンパク質の代表的な定性反応や定量反応について確認する<br>授業：（タンパク質 I-2） フェノール試薬法（Lowry 法）によるタンパク質の定量（グループ・ワーク）<br>復習：タンパク質の定量に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する        |   |       |         |
| 【第 7 回】<br>予習：タンパク質の構造や電気的性質について確認する<br>授業：（タンパク質 I-3） SDS-電気泳動法によるタンパク質の分子量算定（グループ・ワーク）<br>復習：電気泳動法による分子量算定の結果をまとめ、確認できたことを整理する                  |   |       |         |
| 【第 8 回】<br>予習：酵素の抽出方法やプロテアーゼの作用について確認する<br>授業：（酵素Ⅲ-1） 酵素の抽出とその食品タンパク質分解作用（グループ・ワーク）<br>復習：酵素の抽出とその食品タンパク質分解作用に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する            |   |       |         |
| 【第 9 回】<br>予習：SDS-電気泳動法について確認する<br>授業：（酵素Ⅲ-2） 食品タンパク質分解作用の電気泳動法による確認（グループ・ワーク）<br>復習：プロテアーゼによる食品タンパク質の分解作用に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する               |   |       |         |
| 【第 10 回】<br>予習：血液中のタンパク質の種類と働きについて確認する<br>授業：（タンパク質 II-1） アルブミン/グロブリン比（A/G 比）を測定する（グループ・ワーク）<br>復習：血清中の総タンパク質およびアルブミンの定量に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する |   |       |         |
| 【第 11 回】<br>予習：食物色素の種類とカロテノイド色素のプロビタミン A 活性について確認する<br>授業：（食物色素） カロテノイドやクロロフィルの分析（グループ・ワーク）<br>復習：色素の TLC 分析に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する             |   |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : アスタキサンチンの構造や抗酸化作用について確認する<br/> 授業 : (食物色素) アスタキサンチンの分析 (グループ・ワーク)<br/> 復習 : アスタキサンチンの TLC 分析に関する実験結果をまとめ、確認できたことを整理する</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | テキストの該当部分を熟読した上で、毎回の授業に臨むこと。「生化学 I」や「生化学 II」、「生化学実験 I」の内容も、よく復習しておくこと。                              |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 第 10 回目の授業で、それまでの授業内容に関する課題を出す。提出された課題は、添削した後に第 11 回目の授業で返却する。なお、この課題については、成績評価の対象としない。             |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | 冊子印刷した「生化学実験 II 第 5.2 版」を配付する。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | 木元幸一・後藤潔 編著『Nブックス 四訂 生化学』(建帛社)<br>その他の参考書は、配付するテキストに記載してある。   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | 筆記試験 (100%) により評価を行う。<br>(ただし、緊急事態宣言等により遠隔授業となった場合は、授業中に行う複数回の確認小テストにより評価する。)                       |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   |   |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | △   |  |
| 関連科目  | あらかじめ「生化学 I・II」の内容をよく理解しておくこと。「解剖生理学」、「食品学」および「基礎栄養学」と密接に関連する内容も含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが重要である。 |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 解剖生理学   |       |         |
| 科目分類   | 210-211-11 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Anatomy and Physiology  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 佐藤 勝重   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 佐藤 勝重   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10  | 研究室   | 16-108  |
| 授業概要   | 本講義では、人体の構造と生理機能の基礎事項を解説する。具体的には、マクロ解剖、細胞や組織の基礎知識を学習し、各器官の構造と機能を相互に関連付けながら解説する。本講義は、2 年以降の病理学、臨床栄養学、栄養生理学を理解するための基礎知識となる。 |       |         |
| 到達目標   | 「人体の構造と機能」について、その基本的事項を学習し知識を体系化して、将来、管理栄養士として活動していく際にその知識が具現化できるようにすることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「細胞の構造と機能、膜輸送」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：Introduction、細胞の構造と機能、膜輸送<br/> 復習：第 1 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「運動器の構造・筋収縮機構」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：運動器系（運動器の構造・筋収縮機構）<br/> 復習：第 2 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「神経系の構造、ニューロンの機能、運動系」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：神経系 I（神経系の構造、ニューロンの機能、運動系）<br/> 復習：第 3 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「感覚系、高次神経機能、自律神経系」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：神経系 II（感覚系、高次神経機能、自律神経系）<br/> 復習：第 4 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「心臓」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：循環器系 I（心臓）<br/> 復習：第 5 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「循環」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：循環器系 II（循環）<br/> 復習：第 6 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「呼吸器系の構造、呼吸運動と調節、換気、ガス交換と運搬」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：呼吸器系（呼吸器系の構造、呼吸運動と調節、換気、ガス交換と運搬）<br/> 復習：第 7 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「消化器系の構造、栄養素の消化と吸収」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：消化器系 I（消化器系の構造、栄養素の消化と吸収）<br/> 復習：第 8 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「肝臓、胆嚢、膵臓、血糖の調節」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：消化器系 II（肝臓、胆嚢、膵臓、血糖の調節）<br/> 復習：第 9 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「ホルモンの分泌・構造・作用機序、視床下部、下垂体」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：内分泌系 I（ホルモンの分泌・構造・作用機序、視床下部、下垂体）<br/> 復習：第 10 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓、性腺」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：内分泌系 II（甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓、性腺）<br/> 復習：第 11 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：指定参考書などで、「男性・女性、妊娠分娩、思春期と更年期、生殖器の発生」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：生殖器系（男性・女性、妊娠分娩、思春期と更年期、生殖器の発生）<br/> 復習：第 12 回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：指定参考書などで、「血液の組成、造血、物質輸送、止血、生態防御」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：血液・免疫系（血液の組成、造血、物質輸送、止血、生態防御）<br/> 復習：第13回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第14回】<br/> 予習：指定参考書などで、「泌尿器系の構造、尿の生成と排泄」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：泌尿器系（泌尿器系の構造、尿の生成と排泄）<br/> 復習：第14回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第15回】<br/> 予習：指定参考書などで、「ホメオスタシス、体液、基礎代謝と体温調節」について概要をつかんでおく。<br/> 授業：ホメオスタシス、体液、基礎代謝と体温調節<br/> 復習：第15回の講義内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 指定参考書を一読してくると理解が深まる。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 毎回講義終了時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験から作成した練習問題を課す。問題に対する解答に関して、講義内に講評する。                       |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 講義中に自作テキストを配布する。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 栄養科学イラストレイテッド解剖生理学（志村・岡・山田編）羊土社<br>栄養科学シリーズ栄養解剖生理学（河田・小澤・上田編）講談社<br>エスカパニック解剖生理学（奈良著）同文書院 |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験(配点100点)により評価する。  |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | △   |     |   |     | ◎                                       | ○   |  |     |
| 関連科目   |   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能について講義する。   |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 解剖生理学実験   |       |         |
| 科目分類   | 210-211-32 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Experiment in Anatomy and Physiology  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 佐藤 勝重   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 佐藤 勝重   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00~10:30 木曜日 09:00~10:30<br>後期 月曜日 09:00~10:30 木曜日 10:40~12:10  | 研究室   | 16-108  |
| 授業概要   | 「解剖生理学」で学んだ基礎知識をさらに深めるための実習・実験を行う。人体モデルや各臓器の組織標本を観察し、人体の解剖をマクロ、ミクロの両面から理解を深める。また、神経系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系の生理機能を測定することにより、人体の生命維持機構についての詳細を理解できるようにする。これらの内容の理解は、病理学や各病態での治療法、臨床栄養学に必要な不可欠である。 |       |         |
| 到達目標   | 解剖生理学の講義で学んだ「人体の構造と機能」について、その基本的事項を実験を通して体系化して、将来、管理栄養士として活動していく際にその知識が具現化できるようにすることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（細胞、膜輸送、運動器系）を復習する。<br/> 授業：Introduction/細胞・膜輸送/運動器系(I)（マクロ解剖）---マクロ標本観察（実習）<br/> 復習：実習レポート（細胞、膜輸送、筋肉、骨）を完成させる。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（運動器系）を復習する。<br/> 授業：運動器系(II)（骨格筋、平滑筋）---顕微鏡観察（実習）<br/> 復習：実習レポート（骨格筋と平滑筋の違い）を完成させる。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（神経Ⅰ）を復習する。<br/> 授業：神経系(I)（ニューロン、神経系の構造、運動系）---顕微鏡観察（実習）<br/> 復習：実習レポート（ニューロン、神経系の構造、運動系）を完成させる。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（神経Ⅱ）を復習する。<br/> 授業：神経系(II)（感覚系、自律神経系）---顕微鏡観察、腱反射、気導と骨導、マリOTTの盲点、皮膚の微細構造（実習）<br/> 復習：実習レポート（感覚器、腱反射）を完成させる。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（呼吸器系）を復習する。<br/> 授業：呼吸器系---顕微鏡観察、呼吸数測定、スパイロメトリー法による呼吸分析/血糖測定（実習）<br/> 復習：実習レポート（呼吸器系）を完成させる。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（心臓、循環、血液・免疫）を復習する。<br/> 授業：循環器系/血液・免疫 ---マクロ標本観察、顕微鏡観察（心臓/循環の構造と機能、血球細胞の種類と機能、血液像の観察）（実習）<br/> 復習：実習レポート（心臓、循環、血液・免疫）を完成させる。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（心臓、循環）を復習する。<br/> 授業：一般的診察方法/心電図 ---医療面接、バイタルサインの測定、聴診（心音、呼吸音）、心電図記録（実習）<br/> 復習：実習レポート（問診、聴診器の使い方、心電図）を完成させる。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（消化器系Ⅰ）を復習する。<br/> 授業：消化器系(I)（食道、胃、小腸、大腸）---消化管のマクロ解剖、顕微鏡観察（実習）<br/> 復習：実習レポート（消化管）を完成させる。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（肝・胆・膵）を復習する。<br/> 授業：消化器系(II)（肝、胆、膵）---肝・胆・膵のマクロ解剖、顕微鏡観察（実習）<br/> 復習：実習レポート（肝・胆・膵）を完成させる。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（腎臓）を復習する。<br/> 授業：泌尿器系（腎、膀胱）---顕微鏡観察、尿検査（実習）<br/> 復習：実習レポート（腎、膀胱）を完成させる。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：解剖生理学のプリント（内分泌系、生殖器系）を復習する。<br/> 授業：内分泌系/生殖器系---顕微鏡観察、血糖値測定、性周期と基礎体温表（実習）<br/> 復習：実習レポート（内分泌系、生殖器系）を完成させる。</p> |   |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : ラットの解剖について調べておく。<br/> 授業 : 小動物を用いた実験---ラットの臓器観察と血液成分の測定 (実習)<br/> 復習 : 実習レポート (ラットのマクロ解剖) を完成させる。</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | 解剖生理学で学習したことをよく復習する。解剖生理学で配布したテキストを実習の時に必ず持参すること。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 毎回、実験内容に関連したレポートを課す。提出されたレポートは添削の上返却し、実習時間内に講評する。 |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | 実験中に自作テキストを配布する。                                  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書   | 実験中に適宜紹介する。                                       |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | 小テスト (配点 40 点)、レポート提出 (配点 60 点) より評価する。           |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   |   |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | △   |
| 関連科目  | 解剖生理学   |   |   |   |     |     |     |     |
| その他   |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能について実習を行う。          |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養生理学   |       |         |
| 科目分類   | 210-211-13 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Nutritional Physiology  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 曾我部 夏子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 曾我部 夏子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10<br>後期 金曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30  | 研究室   | 16-102  |
| 授業概要   | 各種栄養素の代謝について理解を深めることを目的とする。摂食行動や水・電解質代謝、ビタミンの栄養学的作用などについて理解する。さらに、遺伝因子の個人差（遺伝子多型）と環境因子のひとつである栄養との関連についてディスカッションを交えて学習する。                              |       |         |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖質・脂質・タンパク質代謝の概要を説明できるようになる</li> <li>・水分、電解質代謝、ミネラル代謝について説明できるようになる</li> <li>・遺伝子多型と栄養についての関連を理解する</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：「基礎栄養学」の講義のノートを読み返す：「糖質・脂質・タンパク質」の消化・吸収の講義内容の部分<br/> 授業：栄養代謝の概要：糖質・脂質・タンパク質代謝の概要（グループワーク）（テキスト14頁～24頁）<br/> 復習：糖質・脂質・タンパク質代謝の概要を説明できるよう、自分なりに文章でまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト84～94頁を読む<br/> 授業：糖質の体内代謝について：食前・食後の糖質代謝（ディスカッション）（テキスト84頁～94頁）<br/> 復習：食前・食後の糖質代謝を説明できるようになる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト97～111頁を読む<br/> 授業：脂質の体内代謝：食前・食後の脂質代謝、コレステロール代謝の調節（ディスカッション）（テキスト97頁～111頁）<br/> 復習：授業内容を説明できるよう、自分で文章にまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト68～82頁を読む<br/> 授業：たんぱく質の体内代謝：食後・食間期のたんぱく質・アミノ酸代謝相互関係について（ディスカッション）（テキスト68～82頁）<br/> 復習：授業の内容を説明できるよう、自分なりに文章でまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト27～31頁を読む<br/> 授業：摂食行動：空腹感と食欲、味覚（ディスカッション）（テキスト27～31頁）<br/> 復習：：空腹感と食欲、味覚とは何かを説明できるよう、文章でまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト32～35頁を読む<br/> 授業：摂食行動：摂食中枢と満腹中枢、摂食を調節する要因（ディスカッション）（テキスト32～35頁）<br/> 復習：摂食中枢と満腹中枢について、摂食を調節する要因について説明できるよう、文章でまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト115～125頁を読む<br/> 授業：ビタミンの栄養：ビタミン代謝と栄養学的作用（ディスカッション）（テキスト115～125頁）<br/> 復習：ビタミン代謝と栄養学的作用を覚える</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト115～125頁を読む<br/> 授業：ビタミンの栄養：他の栄養素との関係（ディスカッション）（テキスト115頁～125頁）<br/> 復習：ビタミンと他の栄養素との関係について、文章でまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト129～132頁を読む<br/> 授業：無機質の栄養：無機質の栄養学的機能（ディスカッション）（テキスト129～132頁）<br/> 復習：無機質の栄養学的機能について覚える</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト133～136頁を読む<br/> 授業：無機質の栄養：吸収率に影響を与える要因（ディスカッション）（テキスト133頁～136頁）<br/> 復習：吸収率に影響を与える要因を理解し、文章にまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト138～144頁を読む<br/> 授業：水・電解質の代謝：水の出納（ディスカッション）（テキスト138～144頁）<br/> 復習：水の出納について理解し、文章にまとめる</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト144～150頁を読む<br/> 授業：水・電解質の代謝：体液のpHの調節（ディスカッション）（テキスト144～150頁）<br/> 復習：体液のpHの調節について理解し、文章にまとめる</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：生化学の講義で習った「遺伝子」の講義ノートを読み返す<br/>         授業：遺伝子発現と栄養：遺伝形質と栄養の相互作用（ディスカッション）<br/>         復習：遺伝子、DNAなどの用語の意味を理解し、説明できるようにまとめる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：授業で配布するプリントを事前に読んでおく<br/>         授業：遺伝子発現と栄養：生活習慣病と遺伝子多型（ディスカッション）<br/>         復習：遺伝子多型と関連のある栄養因子について説明できるよう、理解を深める</p> <p>【第15回】<br/>         予習：授業で配布するプリントを事前に読んでおく<br/>         授業：遺伝子発現と栄養：後天的遺伝子変異と栄養（ディスカッション）<br/>         復習：後天的遺伝子変異の原因物質について理解し、覚える</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 『基礎栄養学』、『基礎栄養学実習』の内容を復習しておくこと。また、授業の前にテキストの該当ページを読んでおくこと。                               |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 課題については採点の上、返却して解説を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 田地陽一編著『基礎栄養学』（羊土社）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業の中で適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 授業態度（小テストなど）10%、定期試験90%とし100点満点で評価する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | △   |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 基礎栄養学、解剖生理学、生化学   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 栄養生理学実験  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-33 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Experiment in Nutritional Physiology   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 曾我部 夏子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 曾我部 夏子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10<br>後期 金曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30   | 研究室   | 16-102  |
| 授業概要  | 「栄養生理学」で学んだ知識を、自らが実験者および被験者となって実験することによって、理解を深める。実験結果を解析し、考察することで、知識を定着させる。  |       |         |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・超音波による骨量測定を実施し、骨代謝に関与する要因について理解する</li> <li>・食品に含まれる栄養素の違いによる食後血糖値の変化の違いに関して理解する</li> <li>・24時間蓄尿を実施し、食事からの摂取量と尿中ミネラル排泄量との関連について理解する</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/>         予習：栄養生理学の講義で行った「遺伝子と栄養」の項目を復習する<br/>         授業：研究計画の立案、研究実験の進め方について、アルコールパッチテストの実施（実習）<br/>         復習：アルデヒド脱水素酵素 ALDH2 遺伝子多型の分布について調べる</p> <p>【第2回】<br/>         予習：糖質、脂質、たんぱく質摂取による血糖値への影響について復習する<br/>         授業：実験① 糖質、脂質、たんぱく質摂取による血糖値への影響（実験）<br/>         復習：血糖値変化測定の統計解析し、レポートを作成する</p> <p>【第3回】<br/>         予習：骨代謝に関する先行研究の文献を読み込む<br/>         授業：実験② 骨量と運動歴、体格等との関連の検討、骨量測定（実験）<br/>         復習：骨代謝に関する先行研究を紹介するための、レジメを作成する</p> <p>【第4回】<br/>         予習：栄養生理学の講義「水分・電解質代謝」の項目のノートを復習する<br/>         授業：実験③ 食事からの栄養素摂取量と尿中排泄量との関連（採尿、食事調査について）<br/>         復習：実験④ 体温の日内変動の結果解析のレポート作成</p> <p>【第5回】<br/>         予習：24時間蓄尿、食事内容を記録する<br/>         授業：遺伝子多型（アルコールパッチテスト）結果の解析<br/>         復習：遺伝子多型の結果解析のレポート作成</p> <p>【第6回】<br/>         予習：自由研究のプロトコルを完成させる<br/>         授業：骨代謝に関する先行研究のレジメの発表、解説（プレゼンテーション）<br/>         実験③ 食事からの栄養素摂取量と尿中排泄量との関連（食事記録の栄養素等の計算）<br/>         復習：食事記録の栄養素等を算出し、数値を確認する</p> <p>【第7回】<br/>         予習：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連についての先行研究の読み込み、レジメの作成<br/>         授業：実験② 骨量と運動歴、体格等との関連の検討 結果解析①<br/>         （骨量と運動経歴、骨量とBMIとではそれぞれどのような関連がみられるか、検定する）<br/>         復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成</p> <p>【第8回】<br/>         予習：栄養生理学の講義「ミネラル代謝」のノートを復習する<br/>         授業：実験 2-②骨量と運動歴、栄養素摂取状況との関連の検討 結果解析②<br/>         骨量と運動歴、栄養素摂取状況との関連の検討<br/>         （魚の摂取頻度とビタミンD摂取状況、牛乳・乳製品摂取頻度とカルシウム摂取状況、<br/>         高校時代および現在の牛乳・乳製品の摂取と骨量との関連について解析する）<br/>         復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成</p> |  |       |         |

|   |  |   |   |  |     |     |     |     |
|---|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第9回】<br/>           予習：国民健康・栄養調査の野菜、食塩相当量の摂取状況を調べる<br/>           授業：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連についての先行研究に関するレジュメの発表(プレゼンテーション)、および実験結果の解析①(野菜、食塩摂取に関する認識と栄養摂取状況との関連解析)<br/>           復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成</p> <p>【第10回】<br/>           予習：国民健康・栄養調査のカルシウム、カリウム、リン、たんぱく質の摂取状況を調べる<br/>           授業：栄養素摂取量と尿中排泄量との関連について実験結果の解析②<br/>           (尿中の排泄：ナトリウム、カルシウム、カリウム、リン、たんぱく質量を測定することによって、食事からのその栄養素の摂取量を推定することが可能であるのか、検討する)<br/>           復習：解析結果について、先行研究を踏まえて考察し、レポート作成</p> <p>【第11回】<br/>           予習：自由研究を各自で実施して、データを揃える<br/>           授業：自由研究の結果を解析し、グラフや表にまとめ、発表資料を作成する<br/>           復習：プレゼンテーション資料を完成させる</p> <p>【第12回】<br/>           予習：発表を制限時間内に行えるように、読みの練習を行う<br/>           授業：自由研究の発表(プレゼンテーション)、期末テスト<br/>           復習：期末テストで間違えた問題について、復習する</p> |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | テキストの該当部分を熟読した上で、実験内容を把握して授業に臨むこと。「基礎栄養学」、「栄養生理学」の講義内容も、よく復習しておくこと。                          |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 小テストは、採点した後に返却し、解説を行う。   |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | 授業用オリジナルテキストを配布する。   |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書   | 田地陽一編著「基礎栄養学」羊土社   |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | ・レポート(文献レジュメ含め)50%、小テストおよび期末試験25%、自由実験(レポート・プレゼンテーション資料)25%とする。                              |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   |  |   | △                                       |  | ◎   |     | ○   | △   |
| 関連科目  | 「基礎栄養学」、「栄養生理学」の内容をよく理解しておくこと。さらに、「解剖生理学」、「生化学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目と合わせて総合的に理解することが大切である |   |   |  |     |     |     |     |
| その他   | 4回以上の欠席、レポート課題の未提出は、単位取得できない場合がある。<br>なお、提出期限を過ぎてレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。           |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 45 時間   |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。      |   |   |  |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 微生物学  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-12  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Microbiology  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 松本 雄宇   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 松本 雄宇   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 13:00～16:10<br>後期 月曜日 13:00～16:10  | 研究室   | 4-103   |
| 授業概要   | 微生物の活動は、ヒトの生活と深いかわりがある。この講義では、微生物学の発展および多種多様な微生物の種類と特徴を学ぶことで微生物学の基礎を修得し、微生物の利用について理解を深める。 |       |         |
| 到達目標   | 微生物学の基礎から食品に関連する有用微生物の利用法を理解し、身近な微生物の特徴と性質を習得する。食品微生物に関連する現状の課題と今後の課題解決法について考察できる実力を獲得する。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習 微生物の定義について調べる<br/> 授業 微生物の定義と微生物学の歴史（教科書 P.1 - 5）<br/> 復習 微生物学の歴史についてまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習 微生物の分類方法について調べる<br/> 授業 微生物学の分類（教科書 P.6 - 13）<br/> 復習 教科書第2章のまとめ P.10を確認する</p> <p>【第3回】<br/> 予習 微生物の種類について調べる<br/> 授業 微生物の種類と特徴（教科書 P.14 - 31）<br/> 復習 教科書第3章のまとめ P.32を確認する</p> <p>【第4回】<br/> 予習 微生物の構造について調べる<br/> 授業 微生物の構造と機能（教科書 P.33 - 42）<br/> 復習 教科書第4章のまとめ P.43を確認する</p> <p>【第5回】<br/> 予習 微生物の代謝について調べる<br/> 授業 微生物の代謝（教科書 P.45 - 57）<br/> 復習 教科書第5章のまとめ P.58を確認する</p> <p>【第6回】<br/> 予習 微生物の増殖について調べる<br/> 授業 微生物の増殖（教科書 P.59 - 67）<br/> 復習 教科書第6章のまとめ（P.74 - 1, 2）を確認する</p> <p>【第7回】<br/> 予習 微生物の分化について調べる<br/> 授業 微生物の分化（教科書 P.68 - 73）<br/> 復習 教科書第6章のまとめ（P.74 - 3, 4）を確認する</p> <p>【第8回】<br/> 予習 遺伝子の基本構造について調べる<br/> 授業 微生物の遺伝（教科書 P.75 - 83）<br/> 復習 教科書第7章のまとめ P.94 - 1, 2を確認する</p> <p>【第9回】<br/> 予習 遺伝子組み換えについて調べる<br/> 授業 微生物の遺伝子組み換え（教科書 P.83 - 93）<br/> 復習 教科書第7章のまとめ P.94 - 3, 4を確認する</p> <p>【第10回】<br/> 予習 微生物の利用について調べる<br/> 授業 発酵食品（教科書 P.95 - 107）<br/> 復習 教科書第8章のまとめ P.119 - 1, 2を確認する</p> <p>【第11回】<br/> 予習 生理活性物質について調べる<br/> 授業 酵素・抗生物質の生産（教科書 P.108 - 119）<br/> 復習 教科書第8章のまとめ P.120 - 3, 4を確認する</p> <p>【第12回】<br/> 予習 食品の殺菌と保存について調べる<br/> 授業 食品の保存（教科書 P.121 - 129）<br/> 復習 教科書第9章のまとめ P.130を確認する</p> <p>【第13回】</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 予習 環境中の微生物について調べる<br>授業 環境における微生物の活動 (教科書 P.131-139)<br>復習 教科書第10章のまとめ P.140を確認する<br>【第14回】<br>予習 微生物の実験について調べる<br>授業 微生物の実験法、微生物の感染経路 (教科書 P.141-147)<br>復習 微生物の感染経路についてまとめる<br>【第15回】<br>予習 小テストの内容についてまとめる<br>授業 第1～14回講義のまとめ、課題の講評<br>復習 教科書・配布資料の重要なキーワードについてまとめる |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 授業内で行った小テストについて解説する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 別府輝彦 著 『新バイオテクノロジーテキストシリーズ 新・微生物学 [新装第2版] (ISBN978-4-06-156356-8)』 (講談社) |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験 (60%)、小テスト (40%) で評価する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | △  |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 生物学、生化学、解剖生理学の授業内容と関連する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                       |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 病理学  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Pathology  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 佐藤 勝重  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 佐藤 勝重  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10   | 研究室   | 16-108  |
| 授業概要   | 「解剖生理学」では、正常な人体の構造と機能について学んだが、これをふまえて、様々な疾患により人体が障害をうけるとどのようになるかに関して学習し、将来、管理栄養士として臨床栄養管理を行うにあたり、必要不可欠な知識を身につける。 |       |         |
| 到達目標   | 解剖生理学や解剖生理学実験を通して学んだ「人体の構造と機能」を基礎として、疾病に関する概念を学習し、将来、管理栄養士として活動していく際に必要不可欠な知識を身につけることを目標とする。                     |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：「解剖学」・「生理学」とは何であったかを再考する。<br/> 授業：Introduction: 病理学の概念、疾患の病因と病理学、病理組織細胞診断<br/> 復習：第1回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「細胞の機能と構造」について復習する。<br/> 授業：細胞障害と細胞増殖：細胞の増殖と細胞死、細胞障害、遺伝子傷害<br/> 復習：第2回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「組織の機能と構造」について復習する。<br/> 授業：組織、細胞の修復と再生：再生、化生、創傷治癒、異物の処理<br/> 復習：第3回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「心臓」について復習する。<br/> 授業：循環障害(I): 局所的循環障害<br/> 復習：第4回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「循環」について復習する。<br/> 授業：循環障害(II): 全身的循環障害<br/> 復習：第5回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「血液」について復習する。<br/> 授業：炎症：炎症の定義、急性炎症、慢性炎症、組織修復<br/> 復習：第6回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：細菌学で学んだ内容全般について復習する。<br/> 授業：感染症(I): 微生物の病原性、感染の成立、感染防御機構<br/> 復習：第7回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「血液」・「免疫」について復習する。<br/> 授業：感染症(II): 中和抗体と持続感染、日和見感染症、抗生物質<br/> 復習：第8回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ「免疫」について復習する。<br/> 授業：免疫機構の異常：免疫反応、アレルギー反応、自己免疫疾患<br/> 復習：第9回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：解剖生理学実験で観察した「細胞」について復習する。<br/> 授業：腫瘍(I): 腫瘍の形態、発生、転移<br/> 復習：第10回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：解剖生理学実験で観察した各臓器の微細構造について復習する。<br/> 授業：腫瘍(II): 腫瘍の組織学的分類、疫学<br/> 復習：第11回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：「遺伝」・「染色体」とは何かを復習する。<br/> 授業：遺伝と先天異常：先天異常の病因、遺伝病、染色体異常、遺伝子診断<br/> 復習：第12回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> <p>【第13回】</p> |  |       |         |

|   |   |   |            |     |   |     |   |     |
|---|---|---|------------|-----|---|-----|---|-----|
| <p>予習：解剖生理学で学んだ「肝臓」について復習する。<br/>         授業：代謝異常(I)：細胞外物質沈着、細胞内物質沈着、黄疸<br/>         復習：第13回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。<br/>         【第14回】<br/>         予習：解剖生理学で学んだ「消化と吸収」について復習する。<br/>         授業：代謝異常(II)：たんぱく質代謝異常症、脂質代謝異常症<br/>         復習：第14回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。<br/>         【第15回】<br/>         予習：解剖生理学で学んだ「脾臓」について復習する。<br/>         授業：代謝異常(III)：糖質代謝異常症、痛風<br/>         復習：第15回の授業内容に関する穴埋め問題、記述式問題を完成させる。</p> |   |   |            |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 解剖生理学で学習したことをよく復習する。  |   |            |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 毎回講義終了時に、その日の講義内容に相当する管理栄養士国家試験から作成した練習問題を課す。問題に対する解答に関して、講義内に講評する。     |   |            |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 講義中に自作テキストを配布する。  |   |            |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 笹野、岡田、石倉編「シンプル病理学」(南江堂)<br>山口和克著「病気の地図帳」(講談社)<br>その他適切な参考書を適宜、授業中に紹介する。 |   |            |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 授業中に行う小テスト(配点100点)により評価する。  |   |            |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | △   |   |            |     | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目  | 解剖生理学、解剖生理学実験   |   |            |     |   |     |   |     |
| その他   |   |   |            |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                      |   |            |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 内科、神経内科医としての実務経験有り。正常な人体の構造と機能が、病気の場合にどのように変化するかについて講義する。               |   |            |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 運動生理学   |       |         |
| 科目分類  | 210-211-14  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Athletic Physiology   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 小澤 多賀子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 小澤 多賀子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 金曜日 13:00～16:10<br>後期 金曜日 09:00～12:10  | 研究室   | 16-103  |
| 授業概要  | 近年、社会的問題となっている生活習慣病患者や要介護者の増加を抑制するためには、「予防」に関する知識を備えることが必要である。生活習慣病と要介護化の予防には、「食習慣の改善」と「運動の習慣化」が有効であり、両者をいかに両立できるかが予防を推進する上で鍵となる。<br>本講義では運動と栄養の密接な関係性について理解を深めるとともに、生活習慣病と要介護化の予防のための健康支援をする上で必要な運動・栄養生理学的知識を学ぶ。 |       |         |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病と要介護化の予防のための健康支援に関する基礎知識を身につける。</li> <li>ヘルスポモーションを推進できる基礎能力を身につける。</li> </ul>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：自分の食習慣と運動習慣についての振り返り<br/> 授業：ガイダンス～食事と運動の両面から健康を考える～<br/> 復習：「なぜ食事と運動の両面から健康を考える必要があるのか」について整理</p> <p>【第2回】<br/> 予習：キーワード（体組成、肥満、やせ、アセスメント）の下調べ<br/> 授業：健康状態のアセスメント（1）～体組成測定の意義と評価方法～<br/> 復習：体組成の評価方法と評価指標の整理</p> <p>【第3回】<br/> 予習：肥満度とメタボリックシンドロームの判定基準の事前確認<br/> 授業：健康状態のアセスメント（2）～体組成の正しい測り方～<br/> 復習：体組成計測の精度と再現性を向上させる方法の確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：糖質・脂質・たんぱく質の代謝過程の事前確認<br/> 授業：エネルギー代謝（1）～安静時と運動時のエネルギー代謝～<br/> 復習：運動種類別のエネルギー代謝の相違についての整理</p> <p>【第5回】<br/> 予習：肥満症、糖尿病、および脂質異常症の発症機序の下調べ<br/> 授業：エネルギー代謝（2）～糖・脂質代謝と運動～<br/> 復習：運動が糖・脂質代謝に及ぼす影響の整理</p> <p>【第6回】<br/> 予習：競技力向上のための栄養・食事指導の事例の下調べ<br/> 授業：スポーツ栄養（1）～競技力向上のための栄養・食事～<br/> 復習：運動パフォーマンス向上に関与する栄養素の整理</p> <p>【第7回】<br/> 予習：スポーツ選手のコンディション維持に対する栄養・食事指導の事例の下調べ<br/> 授業：スポーツ栄養（2）～コンディション維持のための栄養・食事～<br/> 復習：運動時に利用・消費される栄養素の整理</p> <p>【第8回】<br/> 予習：キーワード（血圧、心拍数、心拍出量、末梢血管抵抗）の下調べ<br/> 授業：心臓と血管（1）～血圧測定の意義と正しい測り方～<br/> 復習：血圧の正しい測り方の確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：高血圧症の発症機序と血圧の測定方法の下調べ<br/> 授業：心臓と血管（2）～血圧と運動の関係～<br/> 復習：運動時の血圧変動とその機序の整理</p> <p>【第10回】<br/> 予習：肺と血管の構造および機能の下調べ<br/> 授業：呼吸と循環～酸素の利用と運動の関係～<br/> 復習：最大酸素摂取量の意味とその変動要因の整理</p> <p>【第11回】<br/> 予習：骨格筋の種類と筋線維の種類の下調べ<br/> 授業：骨格筋の役割と機能<br/> 復習：筋線維の種類と加齢にともなう骨格筋の変化の整理</p> <p>【第12回】<br/> 予習：全身の内分泌腺とホルモンの種類の下調べ<br/> 授業：内分泌系（1）～ホルモンの役割と機能～</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 復習：ホルモンの役割と機能の整理<br>【第13回】<br>予習：運動時の血圧と血糖の変化の下調べ<br>授業：内分泌系（2）～運動時のホルモン動態～<br>復習：運動時に分泌されるホルモンの整理<br>【第14回】<br>予習：キーワード（活性酸素、抗酸化物質）の下調べ<br>授業：エイジングの生理学的メカニズム～老化、活性酸素、運動との関係～<br>復習：活性酸素と老化および運動との関係の整理<br>【第15回】<br>予習：健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイドの下調べ<br>授業：健康づくりのための身体活動基準と指針<br>復習：健康づくりのための身体活動基準2013とアクティブガイドの要点整理 |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 配布資料や参考書を閲読しておくこと。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業時に課すショートレポートは、採点后に授業内にて返却する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 適宜資料を配付する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | ・勝田茂、征矢英昭著：『運動生理学20講（第3版）』（朝倉書店）2015年<br>・鈴木志保子著：『理論と実践 スポーツ栄養学』（日本文芸社）2021年 |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 成績評価：試験40%、ショートレポート30%、および授業に対する姿勢や態度30%を総合的に判断して評価する。                       |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  | △  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目   | 健康管理論、解剖生理学、栄養生理学、臨床医学論、基礎栄養学、スポーツ栄養学  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                             |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床医学論  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Clinical Medicine  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 佐藤 勝重  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 佐藤 勝重  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10   | 研究室   | 16-108  |
| 授業概要   | 本講義では、臨床医学の基礎を学びます。1年生および、2年生の前期に学んだ、解剖生理学、病理学をマスターした上で、疾病の病因、病態、症状を学び、さらに、現代医学の最先端の検査法や治療法を理解することを求めます。ここでの学習は、臨床栄養学、応用栄養学を理解するための基礎知識となります。種々の疾病の治療や予防のための食事療法、食事指導を行う、管理栄養士として知って置くべき、基本的な医学の常識を学ぶ、重要な教科です。 |       |         |
| 到達目標   | 管理栄養士として必要な病気の成り立ちや症状についての基本的な知識を身につける   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| 【第1回】<br>予習：指定教科書で、「診断のための検査」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：診断のための検査 テキスト(P) 14-39<br>復習配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                      |  |       |         |
| 【第2回】<br>予習：指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 1」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：栄養・代謝系疾患 1（高尿酸血症、その他） テキスト(P) 40-51<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。      |  |       |         |
| 【第3回】<br>予習：指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 2」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：栄養・代謝系疾患 1（糖尿病） テキスト(P) 52-62<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。            |  |       |         |
| 【第4回】<br>予習：指定教科書で、「栄養・代謝系疾患 3」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：栄養・代謝系疾患 2（脂質異常、肥満） テキスト(P) 62-73<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。        |  |       |         |
| 【第5回】<br>予習：指定教科書で、「内分泌系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：内分泌系疾患 テキスト(P) 69～79<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                         |  |       |         |
| 【第6回】<br>予習：指定教科書で、「消化管疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：消化管疾患 テキスト(P) 80～98<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                           |  |       |         |
| 【第7回】<br>予習：指定教科書で、「肝胆膵疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：肝胆膵疾患 テキスト(P) 99～116<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                          |  |       |         |
| 【第8回】<br>予習：指定教科書で、「腎・尿路系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：腎・尿路系疾患 テキスト(P) 155-180<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                     |  |       |         |
| 【第9回】<br>予習：指定教科書で、「神経・精神系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：神経・精神系疾患 テキスト(P) 181-191<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                   |  |       |         |
| 【第10回】<br>予習：指定教科書で、「循環器系疾患 1」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：循環器系疾患 1（心不全、動脈硬化、虚血性心疾患） テキスト(P) 117～124<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。 |  |       |         |
| 【第11回】<br>予習：指定教科書で、「循環器系疾患 2」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：循環器系疾患 2（高血圧、不整脈、脳血管障害） テキスト(P) 125～135<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。   |  |       |         |
| 【第12回】<br>予習：指定教科書で、「呼吸器系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br>授業：呼吸器系疾患 テキスト(P) 192-206<br>復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。                      |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：指定教科書で、「血液・造血器系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br/>         授業：血液・造血器系疾患 テキスト(P) 207-222<br/>         復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：指定教科書で、「免疫・アレルギー系疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br/>         授業：免疫・アレルギー系疾患 テキスト(P) 243-252<br/>         復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：指定教科書で、「婦人科疾患」の項目を、前もって読み、内容を理解しておくこと。<br/>         授業：婦人科疾患・乳幼児・小児疾患 テキスト(P) 253-262<br/>         復習：配布資料「学習のポイント」を各自まとめること。</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 一年で学んだ解剖生理学の講義、実習のテキストおよび、病理学の講義の復習を必ず行うこと。また、教科書の予習を行う。 |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 毎回、講義の「学習のポイント」を自分でまとめるように指導する。学ぶべき基礎知識を積み重ねるよう努力させる。    |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 田中 明、藤岡 由夫 編 『臨床医学. 疾病の成り立ち』第3版 (羊土社)                    |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 高久 史磨、尾形 悦郎、黒川 清、矢崎 義雄 監修 『新臨床内科学』 (医学書院)                |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験 (配点 100 点) により評価する。                                 |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                          |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  | △   |   |     | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目  | 解剖生理学、病理学、臨床栄養学  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)       |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 内科、神経内科医としての実務経験有り。管理栄養士として、理解しておく必要のある疾病について講義する。       |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 食品学 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-211-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Science I  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 小林 亘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 小林 亘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 12:00～15:00<br>後期 月曜日 12:00～15:00  | 研究室   | 4-203   |
| 授業概要  | <p>栄養士，管理栄養士の資格を取得するにあたり，人体や健康に影響する食品成分について理解し，さらに実践的な専門科目で食品に関する基礎的知識を活用できるようにするための専門基礎科目である。</p> <p>主な食品成分の化学的，物理的性質について学び，食品の調理，加工，保存中の成分間反応に関する理解を深める。さらに食品の色，味，香気成分についても食品の嗜好性，機能性と関連づけて学習し，食品表示や日本食品標準成分表についても学習する。</p> |       |         |
| 到達目標  | <p>食品成分の構造，化学的性質，成分間反応について理解し，さらに嗜好成分，食品の機能性についての知識が身につく。栄養学や生化学とも関連付けて，食品に関する化学的な理解が可能になることを目標とする。</p> <p>また，食品表示や日本食品標準成分表に関する理解が，実践的な専門科目に活用できるようになることを目標とする。</p>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/>予習：テキストを読む。<br/>授業：「人間と食品」食文化と食生活・食生活と健康・食料と環境問題・食品の安全性（テキスト P1～9）<br/>復習：食生活と健康、食料と環境問題について現状を把握し、自分の考えをまとめておく。</p> <p>【第 2 回】<br/>予習：テキスト（水分）を読む。<br/>授業：水分と水分活性（テキスト P56～60）<br/>復習：重要語句の確認、水分活性と食品の保存性についてまとめておく。</p> <p>【第 3 回】<br/>予習：テキスト（炭水化物）を読む。<br/>授業：炭水化物の分類と構造（テキスト P10～16）<br/>復習：重要語句の確認、主な二糖類の結合様式、でんぷんの構造についてまとめておく。</p> <p>【第 4 回】<br/>予習：テキスト（炭水化物）を読む。<br/>授業：炭水化物の加熱変化（テキスト P108～111）<br/>復習：重要語句の確認、でんぷんの糊化と老化についてまとめておく。</p> <p>【第 5 回】<br/>予習：テキスト（食物繊維）を読む。<br/>授業：食物繊維（テキスト P16～21）<br/>復習：重要語句の確認、食物繊維の機能についてまとめておく。</p> <p>【第 6 回】<br/>予習：テキスト（脂質）を読む。<br/>授業：脂質と脂肪酸（テキスト P35～37）<br/>復習：重要語句の確認、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸についてまとめておく。</p> <p>【第 7 回】<br/>予習：テキスト（脂質）を読む。<br/>授業：脂質の種類、油脂の理化学的性質（テキスト P37～42）<br/>復習：重要語句の確認、トリアシルグリセロールの構造、レシチンの構造を理解しておく。</p> <p>【第 8 回】<br/>予習：テキスト（脂質）を読む。<br/>授業：油脂の加工、油脂の酸化（テキスト P101～105）<br/>復習：重要語句の確認、ヨウ素価とケン化価、油脂の酸化要因とその防止法についてまとめておく。</p> <p>【第 9 回】<br/>予習：テキスト（タンパク質）を読む。<br/>授業：たんぱく質とアミノ酸（テキスト P22～27）<br/>復習：重要語句の確認、アミノ酸の一般式とアミノ酸の種類、ペプチド結合について理解しておく。</p> <p>【第 10 回】<br/>予習：テキスト（たんぱく質）を読む。<br/>授業：たんぱく質の分類、構造、変性、栄養価（テキスト P27～35）<br/>復習：重要語句の確認、単純たんぱく質の種類、窒素－たんぱく質換算係数について理解しておく。</p> <p>【第 11 回】<br/>予習：テキスト（無機質）を読む。<br/>授業：無機質（テキスト P50～55）<br/>復習：重要語句の確認、主な無機質の欠乏症、生理機能、含有量の多い食品をまとめておく。</p> |   |       |         |

|   |  |   |   |   |     |     |     |     |
|---|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：テキスト（脂溶性ビタミン）を読む。<br/>         授業：脂溶性ビタミン（テキストP42～45）<br/>         復習：重要語句の確認、脂溶性ビタミンの欠乏症と過剰症、生理作用、含有量の多い食品をまとめておく。</p> <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト（水溶性ビタミン）を読む。<br/>         授業：水溶性ビタミン（テキストP46～50）<br/>         復習：重要語句の確認、水溶性ビタミンの欠乏症、生理作用、含有量の多い食品をまとめておく。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト（食品の二次機能・三次機能）を読む。<br/>         授業：食品中の色素成分、呈味成分、香気成分（テキストP60～69）<br/>         復習：主な食品の嗜好成分、食品の褐変反応についてまとめておく。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキスト（食品表示・食品成分表）を読む。<br/>         授業：食品表示・栄養成分表示・日本食品標準成分表（テキストP89～100, P117～125）<br/>         復習：食品表示、栄養成分表示、アレルギー表示、食品成分表などの概要をまとめておく。</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | 高校で学んだ化学を復習しておくことが大切である。特に、有機化学の基礎的な知識を復習しておくことと授業が理解しやすい。授業前に必ずテキストを一読し、わからない箇所をチェックしておくことを勧める。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 小テストおよびリアクションペーパーの内容について、次回授業内で適宜返答及び授業内容に反映をする。   |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | 高岡 素子 編著『食べ物と健康 I [食品学総論]』（八千代出版）  |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書   | 中村 宣督 他編著『エッセンシャル 食品化学』（講談社）<br>有井 康博 他著『食と栄養を学ぶための化学』（化学同人）<br>その他適宜紹介する。                       |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験 50%，小テスト 30%，授業態度 20%とし、総合評価 60 点以上を合格とする。<br>遅刻および欠席は減点対象とする。                              |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   | △  |   |   |   | ◎   | ○   |     |     |
| 関連科目  | 食品学Ⅱ（各論）の内容を理解するためにも重要な科目である。食品学実験Ⅰ・Ⅱにも関わりの深い内容で、調理学，基礎栄養学，生化学，食品衛生学等と関連する部分も多い。                 |   |   |   |     |     |     |     |
| その他   |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |  |   |   |   |     |     |     |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 食品学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-11  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Science II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 小林 亘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 小林 亘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 12:00～15:00<br>後期 月曜日 12:00～15:00  | 研究室   | 4-203   |
| 授業概要  | 栄養士、管理栄養士の資格を取得するにあたり、食品素材についての知識を得ることを目的とし、穀類・イモ類・マメ類・野菜類・果実類・キノコ類・藻類などの植物性食品、魚介類・肉類、乳類・卵類などの動物性食品、その他香辛料、嗜好飲料、微生物利用食品などについて、その成分特性、加工特性および保蔵法などに関する理解を深める。さらに食品中の生理機能成分についても学習する。 |       |         |
| 到達目標  | 食料と環境問題、日本における食品の供給と消費の現状などを理解した上で、穀類、イモ類、マメ類、野菜類、果実類、キノコ類、藻類、魚介類、肉類、卵類、乳類、調味料、香辛料および嗜好飲料等の成分特性、加工特性、保存性に関する知識を身につける。<br>食品の機能性についても理解を深めることを目標とする。                                 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：食料自給率，食品ロス，フードマイレージ，地産地消について調べる。<br/> 授業：食料と環境問題（テキストP1～11）<br/> 復習：食糧自給率，フードマイレージ，地産地消，食品ロスなどについてまとめておく。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキストを読む。穀類・米<br/> 授業：米の性状と形態，成分特性，加工と貯蔵（テキストP13～16）<br/> 復習：米の炭水化物，たんぱく質について食品学Ⅰと関連づけて理解しておく。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキストを読む。穀類・小麦<br/> 授業：小麦の性状と種類，成分特性，加工特性（テキストP12～17）<br/> 復習：小麦の炭水化物，たんぱく質について食品学Ⅰと関連づけて理解しておく。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキストを読む。穀類・雑穀<br/> 授業：大麦，トウモロコシ，そば，その他の雑穀類の種類と成分特性（テキストP18～22）<br/> 復習：大麦，トウモロコシ，そば，その他の雑穀類の成分特性，利用についてまとめておく。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキストを読む。イモ類<br/> 授業：イモ類の成分特性，加工と利用（テキストP22～27）<br/> 復習：サツマイモとジャガイモの成分特性，でんぷん以外を主成分とするイモ類についてまとめておく。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキストを読む。マメ類<br/> 授業：マメ類の成分特性，加工特性（テキストP27～32）<br/> 復習：大豆のたんぱく質，生理機能成分，豆腐の製造，小豆の成分特性，あんの製造についてまとめておく。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキストを読む。野菜類・果実類<br/> 授業：野菜・果実類の種類と成分特性（テキストP37～53）<br/> 復習：野菜・果実類の生理機能成分・植物性色素についてまとめておく。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキストを読む。種実類・キノコ類・藻類<br/> 授業：種実類・キノコ類・藻類の種類と成分特性（テキストP32～37，P53～62）<br/> 復習：種実類・キノコ類・藻類の生理機能成分についてまとめておく。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキストを読む。魚介類<br/> 授業：魚肉の筋肉構造，成分特性（テキストP75～77）<br/> 復習：魚肉のたんぱく質，脂質の特徴をまとめておく。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキストを読む。魚介類<br/> 授業：魚の死後変化と鮮度，加工特性（テキストP77～88）<br/> 復習：魚の死後硬直の進行と筋肉の生化学的変化，K値についてまとめておく。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキストを読む。肉類<br/> 授業：食肉の筋肉構造，成分特性（テキストP65～69）<br/> 復習：食肉のたんぱく質，脂質の特徴をまとめておく。</p> |   |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：テキストを読む。肉類<br/> 授業：食肉成分の変化，食肉加工品（テキスト P69～74）<br/> 復習：肉色の変化，食肉の死後硬直・解硬・熟成および食肉加工品についてまとめておく。</p> <p>【第13回】<br/> 予習：テキストを読む。乳類<br/> 授業：乳類の成分特性，乳製品（テキスト P89～96）<br/> 復習：牛乳のたんぱく質，脂質，カルシウム供給源として優れている要因，乳製品についてまとめておく。</p> <p>【第14回】<br/> 予習：テキストを読む。卵類<br/> 授業：卵類の成分特性，加工特性，鮮度判定（テキスト P96～103）<br/> 復習：鶏卵のたんぱく質についてまとめておく。</p> <p>【第15回】<br/> 予習：テキストを読む。<br/> 授業：調味料・香辛料・嗜好飲料の特徴（テキスト P115～123）<br/> 復習：香辛料の成分，アルコール飲料の特徴をまとめておく。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 食品学 I で学んだ栄養素の化学的性質および食品成分の理化学的変化などについて復習し，具体的な食品と関連づけて理解できるように準備しておくことが大切である。            |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 小テストおよびリアクションペーパーの内容について，次回授業内で適宜返答及び授業内容に反映をする。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 下橋 淳子 編『食べ物と健康 II [食品学各論]』（八千代出版）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 川上 美智子・西川 陽子 編著『食品の科学各論』（理工図書）<br>中島 一郎 著『初心者のための食品製造学』（光琳）<br>『日本食品大辞典』（医歯薬出版）           |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験 50%，小テスト 30%，授業態度 20%とし，総合評価 60 点以上を合格とする。<br>遅刻および欠席は減点対象とする。                       |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | △   |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目  | 食品学 I で学んだ栄養素に関する化学的性質の理解が基礎となる。調理学，食品加工学，食品機能論，食品衛生学などフードスペシャリスト資格認定試験関連科目とも関わりの深い内容である。 |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 食品学実験 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-211-32   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Experiment in Food Science I   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 小林 亘   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 小林 亘   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 12:00～15:00<br>後期 月曜日 12:00～15:00   | 研究室   | 4-203   |
| 授業概要   | 食品学分野の基礎となる化学的知識の理解につながる初歩的な理化学実験である。実験器具の基本的な取り扱いを習得し、標準溶液の標定、食品を試料とした中和反応、酸化還元反応などに関する実験を行う。さらに食品の塩分測定、褐変現象に関する実験、油脂の特数および主なビタミンの定性実験も行う。                      |       |         |
| 到達目標   | 実験を通し、酸と塩基、中和反応の理論、酸化剤と還元剤、酸化還元反応の理論を理解し、食品中の成分含量を求める計算式について説明できるようにする。<br>さらに、食品中の塩分含量の測定や食品の褐変反応の要因と防止法および主なビタミンの化学的性質についての実験を通して、理論を実践的な場で活用できるようになることを目標とする。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/>予習：配布資料 1 を読む。<br/>授業：実験に関するガイダンス・溶液の濃度（配布資料 1）<br/>復習：質量パーセント濃度、モル濃度について確認する。</p> <p>【第 2 回】<br/>予習：配布資料 2 を読む。<br/>授業：0.1M-水酸化ナトリウム標準溶液の標定（配布資料 2）（グループ・ワーク）<br/>復習：ファクターの意味を理解する。</p> <p>【第 3 回】<br/>予習：配布資料 3 を読む。<br/>授業：食酢中の酢酸の定量（配布資料 3）（グループ・ワーク）<br/>復習：中和反応について確認する。</p> <p>【第 4 回】<br/>予習：配布資料 4 を読む。<br/>授業：柑橘類のクエン酸の定量（配布資料 4）（グループ・ワーク）<br/>復習：中和反応の演習問題の確認</p> <p>【第 5 回】<br/>予習：配布資料 5 を読む。<br/>授業：牛乳の比重測定・0.02M-過マンガン酸カリウム標準溶液の調製と標定（配布資料 5）（グループ・ワーク）<br/>復習：牛乳比重補正表を使っての牛乳比重の求め方を確認する。酸化還元反応について確認する。</p> <p>【第 6 回】<br/>予習：配布資料 6 を読む。<br/>授業：オキシドール中の過酸化水素の定量（配布資料 6）（グループ・ワーク）<br/>復習：過酸化水素と過マンガン酸カリウムによる酸化還元反応を理解する。</p> <p>【第 7 回】<br/>予習：配布資料 7 を読む。<br/>授業：水中の過マンガン酸カリウム消費量の測定（配布資料 7）（グループ・ワーク）<br/>復習：シュウ酸と過マンガン酸カリウムによる酸化還元反応を理解する。</p> <p>【第 8 回】<br/>予習：配布資料 8 を読む。<br/>授業：みそ汁中の食塩の定量（配布資料 8）（グループ・ワーク）<br/>復習：食塩摂取量と生活習慣病の関係、減塩についてまとめておく。</p> <p>【第 9 回】<br/>予習：配布資料 9 および食品学 I の教科書 P111～113 を読む。<br/>授業：非酵素的褐変反応と酵素的褐変反応（配布資料 9）（グループ・ワーク）<br/>復習：アミノカルボニル反応の影響因子、食品の褐変防止についてまとめておく。</p> <p>【第 10 回】<br/>予習：配布資料 10 および食品学 I の教科書 P37～38 を読む。<br/>授業：油脂の特数・ケン化価の測定（配布資料 10）（グループ・ワーク）<br/>復習：ケン化価・ヨウ素価に関する演習問題の確認</p> <p>【第 11 回】<br/>予習：配布資料 11 を読む。<br/>授業：脂溶性ビタミン（VA・VE・VD）の定性反応（配布資料 11）（グループ・ワーク）<br/>復習：食品学 I の教科書 P109～113 を読む。</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習：配布資料 12 を読む。<br/> 授業：水溶性ビタミン（チアミン・リボフラビン・アスコルビン酸）の定性反応（配布資料 12）（グループ・ワーク）<br/> 復習：食品学 I の教科書 P113～120 を読む。</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 高校の化学で学んだ溶液の濃度，中和反応，酸化還元反応および食品学 I で学んだ成分間反応等について復習しておく<br>と理解しやすい。<br>授業前にテキストを読んで，実験の目的や内容を把握しておくことを勧める。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 実験レポートを数回課し，添削して返却する。返却に当たっては，質疑応答および全体の講評も行う。  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 高岡 素子 編著『食べ物と健康 I [食品学総論]』（八千代出版）<br>資料を適宜配布する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 松井 徳光・小野 廣紀 著『わかる化学 知っておきたい食とくらしの基礎知識』（化学同人）<br>中川 徹夫 著『化学の基礎』（化学同人）<br>土居 純子 著『基礎化学』（羊土社）<br>その他授業の中で紹介する。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | レポート 60%，授業態度 40%（準備，片付け，授業への取り組み）とし，総合評価 60 点以上を合格とする。<br>遅刻，欠席は減点の対象とする。                                  |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○  | △   |
| 関連科目   | 食品学 I・II や化学で学んだ理論を深めるための内容である。<br>食品学実験 II およびその他の理化学関係の実験を履修するための基礎となる実験科目である。                            |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 食品学実験Ⅱ   |       |         |
| 科目分類  | 210-211-32   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Experiment in Food Science II  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 小林 亘   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 小林 亘   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 12:00～15:00<br>後期 月曜日 12:00～15:00   | 研究室   | 4-203   |
| 授業概要  | 食品の一般成分分析について学習し、食品成分に関する理解を深めることを主な目的とする。分析データの取り扱いに関する知識を身につけ、論理的なものの考え方が出来るようにする。分光光度計やガスクロマトグラフィーを使用した機器分析も行い、測定原理についても学習する。 |       |         |
| 到達目標  | 食品の一般成分および水などの分析実験に基づく、重量分析、容量分析、機器分析の基礎的知識を身につける。さらに主な実験法の原理を理解し、科学的な思考能力を身につけることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：食品学Ⅰの教科書 P120～125 を読む。<br/>授業：一般食品成分分析について（教科書 P120～125）<br/>復習：食品学Ⅰの教科書 P120～125 を読む。</p> <p>【第2回】<br/>予習：配布資料1を読む。<br/>授業：水分・灰分・粗脂肪・粗たんぱく質・ミネラル定量のための試料採取（配布資料1）<br/>復習：重量分析法の確認</p> <p>【第3回】<br/>予習：配布資料2を読む。<br/>授業：重量分析・湿式分解法による試料液の調製とカルシウムの定量前半（配布資料2）<br/>復習：重量分析値の算出法を理解する。</p> <p>【第4回】<br/>予習：配布資料3を読む。<br/>授業：カルシウムの定量（配布資料3）<br/>復習：過マンガン酸カリウム容量法の原理を理解する。</p> <p>【第5回】<br/>予習：配布資料4を読む。<br/>授業：モリブデンブルー吸光光度法によるリンの検量線の作成（配布資料4）<br/>復習：吸光光度法の理解</p> <p>【第6回】<br/>予習：配布資料5を読む。<br/>授業：モリブデンブルー吸光光度法によるリンの定量（配布資料5）<br/>復習：試料中のリンの分析値を算出する。</p> <p>【第7回】<br/>予習：配布資料6を読む。<br/>授業：ケルダール窒素蒸留装置による硫酸アンモニウムの定量（配布資料6）<br/>復習：ケルダール法による窒素の定量について理解する。</p> <p>【第8回】<br/>予習：配布資料7を読む。<br/>授業：ケルダール法による粗たんぱく質の定量（配布資料7）<br/>復習：窒素-たんぱく質換算係数の意味を理解し、試料中の粗たんぱく質含量を算出する。</p> <p>【第9回】<br/>予習：配布資料8を読む。<br/>授業：牛乳成分の分離（配布資料8）<br/>復習：牛乳成分、たんぱく質・糖質の定性反応について理解する。</p> <p>【第10回】<br/>予習：配布資料9を読む。<br/>授業：飲料水の硬度・残留塩素の測定（配布資料9）<br/>復習：水の硬度・残留塩素について理解する。</p> <p>【第11回】<br/>予習：配布資料10を読む。<br/>授業：さらし粉中の有効塩素の定量（配布資料10）<br/>復習：ヨードメトリーについて理解する。</p> <p>【第12回】<br/>予習：配布資料11を読む。<br/>授業：ガスクロマトグラフィーによるアルコールの定量（配布資料11）<br/>復習：ガスクロマトグラフィーの原理について理解する。アルコール飲料の製造法、分類について確認する。</p> |  |       |         |

|                      |  |   |   |  |     |     |     |     |
|----------------------|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 食品学Ⅰの教科書にある「食品成分表の利用方法」を良く読んでおくこと。<br>授業前に実験テキストを読んで実験内容を把握しておくことを勧める。             |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 実験レポートを数回課し、添削して返却する。返却に当たっては、質疑応答および全体の講評も行う。                                     |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | 高岡 素子 編著『食べ物と健康Ⅰ [食品学総論] 』（八千代出版）<br>資料を適宜配布する。                                    |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書                  | 適宜紹介する。  |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | レポート60%、授業態度40%（準備、片付け、授業への取り組み）とし、総合評価60点以上を合格とする。<br>遅刻、欠席は減点の対象とする。             |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                |  |   | △                                       |  | ◎   |     | ○   | △   |
| 関連科目                 | 食品学実験Ⅰで学んだことを基礎とし、卒業研究の実験などより発展的な実験を行うためにも必要な内容である。<br>食品学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をより深めるための授業である。 |   |   |  |     |     |     |     |
| その他                  |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 45 時間   |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |   |   |  |     |     |     |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 食品衛生学  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-12   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Hygienics   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 松本 雄宇  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 松本 雄宇  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 13:00～16:10<br>後期 月曜日 13:00～16:10   | 研究室   | 4-103   |
| 授業概要  | 食品は体の成長や健康維持に欠かせないものではあるが、食品中の有毒成分を喫食することで危害が発生している。食品による健康被害を防止するために法律はどうなっているのか、食中毒の原因となる微生物（細菌・ウイルス・寄生虫等）あるいは動物（有毒魚介類）、植物（有毒植物・毒キノコ）、化学物質（カビ毒・重金属等）等についてそれぞれの形態・作用機序・化学的性状・防止法等を学習する。また、食品製造における食品衛生管理、食品添加物、新しい食品の安全性問題（遺伝子組み換え食品）、放射性物質等）についても学習する。 |       |         |
| 到達目標  | 食品衛生の概念を理解し、食品による健康被害を起こさないという視点で予防・リスク軽減を中心に理解・実施できるようにする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキスト 1 頁～22 頁の下読み<br/> 授業：食品衛生行政と法規<br/> 復習：23 頁～24 頁の練習問題を自習</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト 25 頁～37 頁の下読み<br/> 授業：食品の変質 I<br/> 復習：41 頁～42 頁の練習問題を自習</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト 37 頁～41 頁の下読み<br/> 授業：食品の変質 II<br/> 復習：92 頁～95 頁の練習問題を自習</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト 43 頁～52 頁の下読み<br/> 授業：食中毒の概要～自然毒食中毒 I<br/> 復習：98 頁～100 頁の練習問題を自習</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト 53 頁～66 頁の下読み<br/> 授業：自然毒食中毒 II<br/> 復習：98 頁～100 頁の練習問題を自習</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト 67 頁～77 頁の下読み<br/> 授業：微生物性食中毒 I<br/> 復習：98 頁～100 頁の練習問題を自習</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト 77 頁～86 頁の下読み<br/> 授業：微生物性食中毒 II<br/> 復習：98 頁～100 頁の練習問題を自習</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト 86 頁～97 頁の下読み<br/> 授業：微生物性食中毒 III<br/> 復習：98 頁～100 頁の練習問題を自習</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト 101 頁～119 頁の下読み<br/> 授業：食品による感染症・寄生虫症<br/> 復習：119 頁～120 頁の練習問題を自習</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト 121 頁～140 頁の下読み<br/> 授業：食品衛生管理<br/> 復習：141 頁の練習問題を自習</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト 143 頁～148 頁の下読み<br/> 授業：食品中の汚染物質 カビ毒<br/> 復習：171 頁～172 頁の練習問題を自習</p> |  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト148頁～170頁の下読み<br/> 授業：食品中の汚染物質 化学物質<br/> 復習：171頁～172頁の練習問題を自習</p> <p>【第13回】<br/> 予習：テキスト187頁～214頁の下読み<br/> 授業：食品添加物<br/> 復習：215頁～216頁の練習問題を自習</p> <p>【第14回】<br/> 予習：テキスト173頁～185頁の下読み<br/> 授業：食品の器具と容器包装<br/> 復習：186頁の練習問題を自習</p> <p>【第15回】<br/> 予習：テキスト217頁～230頁の下読み<br/> 授業：新しい食品の安全性問題<br/> 復習：230頁の練習問題を自習</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 毎回講義の前に教科書に目を通しておくと、講義の内容が理解しやすく疑問点も発見できる。       |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 小テストの内容について授業で解説する。                              |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 小塚論編「イラスト食品の安全性」（東京教学社）                          |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験60%、小テスト40%で評価する。                            |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | △  |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週） |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 食品衛生学実験  |       |         |
| 科目分類  | 210-211-33   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Experiment in Food Hygienics   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 宮本 雄基  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 宮本 雄基  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 食品衛生学実験の理化学実験・微生物実験を行うことによって、講義で学習した内容について理解を深める。普段食べている食品中の食品添加物、腐敗アミン、細菌数や油脂の変質度等について実験手法を学ぶとともに関連する法律についても理解する。また、実験結果を班でまとめプレゼンテーションも行う。 |       |         |
| 到達目標  | 基礎的な実験手法を身につけ、実験をとおして講義で学んだ食品衛生の内容について、より理解を深める。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキスト1頁～2頁の下読み<br/> 授業：1. 理化学実験の基礎<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト7頁～10頁の下読み<br/> 授業：3. 食品中の発色剤（亜硝酸塩）の検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト11頁～13頁の下読み<br/> 授業：4. 食品中の保存料（ソルビン酸）の検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト14頁～15頁の下読み<br/> 授業：5. 食品中の漂白剤（亜硫酸）の検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト16頁～18頁の下読み<br/> 授業：6. 食品の腐敗・変質試験（ヒスタミンの検査）<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第6回】<br/> 予習：1～5の実験についてレポートを復習する<br/> 授業：1～5の実験の1つについて班で内容をまとめプレゼンテーションを行う<br/> 復習：発表内容についてレポートを作成し提出する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト19頁～22頁の下読み<br/> 授業：7. 油脂の変質試験（酸価、過酸化価の検査）<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト23頁～26頁の下読み<br/> 授業：8. 食器の洗浄度検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト27頁～29頁の下読み<br/> 授業：9・10. 細菌検査①・② 生菌数測定法・ふき取り検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト27頁～29頁の下読み<br/> 授業：9・10. 細菌検査①・② 生菌数測定法・ふき取り検査<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> <p>【第11回】<br/> 予習：7～10の実験についてレポートを復習する<br/> 授業：7～10の実験の1つについて班で内容をまとめプレゼンテーションを行う<br/> 復習：発表内容についてレポートを作成し提出する</p> <p>【第12回】<br/> 予習：手の洗い方について予習する<br/> 授業：11. 手の洗浄試験<br/> 復習：実験内容をノートにまとめ理解を深める</p> |  |       |         |

|                      |  |     |   |     |   |     |  |     |
|----------------------|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 授業開始前学習              | テキストの該当部分を熟読した上で、毎回の授業に臨むこと。「食品衛生学」の内容も、よく復習しておくこと。                  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 実験レポートについて、個別に添削し解説する。プレゼンテーションについては、授業後に講評を行う。                      |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材              | 実験開始前に自前テキストを配布する  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書                  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法             | 実験は出席して自分で実施することが重要であるので、実験への取り組み姿勢（30%）、プレゼンテーション及びレポート（70%）により評価する |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                      |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当                |  |     | △   |     | ◎                                       |     | ○  | △   |
| 関連科目                 |  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他                  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 45 時間   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 食品加工学   |       |         |
| 科目分類  | 210-431-13  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Processing   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 津久井 学   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 津久井 学   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | [テーマ]食品加工（保蔵）学の主たる意義は、食品の生産から消費に至る間の品質制御にある。各種食品は多成分から成り、その品質は物理・化学的、生化学的および生物学的な要因により変質（腐敗）する。この変質要因とその防止法を学ぶとともに、各種加工食品の製造方法について学ぶ。 |       |         |
| 到達目標  | [目標]本講義では、食品の変質要因について理解した上で、その品質制御法（保蔵・加工方法）について学ぶとともに、各種農産、畜産、水産加工食品の製造方法について学ぶ。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキストの構成（目次）と1~4ページの講読<br/> 授業：ガイダンス&amp;食品加工・保蔵の意義を理解する [テキスト p1~p4]<br/> 復習：食品を理解し、その変質要因を覚える</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト5~42ページの講読<br/> 授業：食品の変質Ⅰ：物理・化学的要因 [テキスト p5~p42]<br/> 復習：水分・pH・酸素・温度・光等の食品への影響を理解し、覚える</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト5~42ページの講読<br/> 授業：食品の変質Ⅱ：生化学的要因&amp;Ⅲ：生物学的要因 [テキスト p5~p42]<br/> 復習：酵素や微生物を中心とした生物による食品への影響を理解し、覚える</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト43~93ページの講読<br/> 授業：食品加工・保蔵の原理と方法 [テキスト p43~p93]<br/> 復習：食品加工・保蔵技術を理解し、覚える</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト94~109ページの講読<br/> 授業：第1-4回の復習（課題解決型学習）、加工食品の規格基準と品質表示、保健機能食品など [テキスト p94~p109]<br/> 復習：食品関連法令、規格基準、表示を理解し、覚える</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト110~121ページの講読<br/> 授業：農産加工（穀類～イモ類、デンプン） [テキスト p110~p121]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト121~124ページの講読<br/> 授業：農産加工（豆類） [テキスト p121~p124]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト124~134ページの講読<br/> 授業：第5-7回の復習（課題解決型学習）、農産加工（野菜類、果実類、キノコ類など） [テキスト p124~p134]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト135~159ページの講読<br/> 授業：畜産加工（畜肉製品、乳製品、卵製品） [テキスト p135~p159]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト160~170ページの講読<br/> 授業：水産加工（乾製品、塩蔵品、練り製品、調味加工品、海藻加工品など） [テキスト p160~p170]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト171~189ページの講読<br/> 授業：第8-10回の復習（課題解決型学習）、発酵食品（酒類、味噌、醤油、食酢など） [テキスト p171~p189]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト190~201ページの講読<br/> 授業：調味料 [テキスト p190~p201]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：テキスト201～205ページの講読<br/> 授業：第11-12回の復習（課題解決型学習）、嗜好食品（茶類、コーヒー、ココア、清涼飲料など） [テキスト p201～p205]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第14回】<br/> 予習：テキスト206～221ページの講読<br/> 授業：インスタント食品、食用油脂など [テキスト p206～p221]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第15回】<br/> 予習：第1回～第14回の講義内容の復習<br/> 授業：各種食品の映像を通して、再度、食品の意義を整理・考察する<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 食品学（総論・各論）、食品関連実験・実習、食品衛生学などこれまで学んだ食品関連科目を整理・理解しておく              |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 実施した小テストについて授業時に解説するとともに、課題についてはオンラインツールの GSE クラスルーム上で評価しコメントする。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 北尾悟・鍋谷浩志編『N ブックス 五訂 食品加工学』（建帛社：ISBN978-7679-0719-2）              |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 杉田・平・田島・安井編『日本食品大辞典』（医歯薬出版）<br>『食品加工総覧』（農文協）                     |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 課題（5回） 60%<br>小テスト（5回） 40%                                       |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  | △  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目   | 食品関連科目全て   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 食品機能論  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-14   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Function  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 津久井 学  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 津久井 学  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 食品の役割が一次機能（栄養性）、二次機能（嗜好性）、三次機能（生体調節機能）として認知されるようになり、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品といった保健機能食品や特別用途食品といった機能性食品が認可され、市販されている。しかし、この分野の発展は著しく、広がりも大きい。そこで、管理栄養士、栄養士、フードスペシャリスト養成課程において必要な機能（作用）性で分類し、考察する。 |       |         |
| 到達目標  | 食品の特性、機能を理解し、機能性食品を説明できるようになる。また、機能性を成分や作用性に分類して説明できるようになる知識を修得する。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキストの構成（目次）と1～7ページの講読<br/> 授業：ガイドランス&amp;食品の特性と機能、機能性食品を理解する [テキスト p1～p7]<br/> 復習：食品の特性・機能・機能性食品の分類を覚える</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト8～18ページの講読<br/> 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（1） [テキスト p8～p18]<br/> 復習：基底状態酸素と活性酸素、活性酸素の生成を理解し、覚える</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト18～35ページの講読<br/> 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（2） [テキスト p18～p35]<br/> 復習：活性酸素と生体、抗酸化物質を理解し、覚える</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト36～43ページの講読<br/> 授業：抗酸化（活性酸素除去）機能（2） [テキスト p36～p43]<br/> 復習：抗酸化機能食品を理解し、覚える</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト44～53ページの講読<br/> 授業：消化吸収促進機能（1） [テキスト p44～p53]<br/> 復習：消化と吸収のメカニズム、ミネラル吸収のメカニズムを理解し、覚える</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト53～63ページの講読<br/> 授業：消化吸収促進機能（2） [テキスト p53～p63]<br/> 復習：ミネラル吸収機能食品、ビタミン吸収のメカニズムを理解し、覚える</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト64～81ページの講読<br/> 授業：難消化、吸収阻害と微生物活性機能（1） [テキスト p64～p81]<br/> 復習：難消化成分と生体、微生物活性機能、難消化性炭水化物を理解し、覚える</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト81～87ページの講読<br/> 授業：難消化、吸収阻害と微生物活性機能（2） [テキスト p81～p87]<br/> 復習：その他の難消化成分、食物繊維機能食品を理解し、覚える</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト88～106ページの講読<br/> 授業：脂質関連代謝機能（1） [テキスト p88～p106]<br/> 復習：n-3系脂肪酸とn-6系脂肪酸を理解し、覚える</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト106～114ページの講読<br/> 授業：脂質関連代謝機能（2） [テキスト p106～p114]<br/> 復習：ジアシルグリセロール、植物性ステロールを理解し、覚える</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト115～121ページの講読<br/> 授業：酵素阻害機能（1）：レニンアンジオテンシン系と血圧 [テキスト p115～p121]<br/> 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト121～125ページの講読<br/> 授業：酵素阻害機能（2）：消化関連酵素阻害と糖尿病 [テキスト p121～p125]</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える<br>【第13回】<br>予習：テキスト125～126ページの講読<br>授業：酵素阻害機能(3)：酵素阻害機能性食品 [テキストp125～p126]<br>復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える<br>【第14回】<br>予習：テキスト127～145ページの講読<br>授業：免疫系に及ぼす機能 [テキストp127～p145]<br>復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える<br>【第15回】<br>予習：テキスト146～155ページの講読<br>授業：神経系に及ぼす機能 [テキストp146～p155]<br>復習：上記におけるキーワードを理解し、覚える |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 食品学(総論・各論)、食品加工学などこれまで学んだ食品関連科目を整理・理解しておく。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 実施した課題は、原則、授業時に返却します。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | ※本授業では、随時プリントを配布しますので、特に必要ありません。食品学総論および各論と食品加工学を履修していた学生は教科書をお持ちください。              |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | Nブックス 改訂食品機能学【第3版】青柳康夫編 建帛社 (ISBN/978-4-7679-0579-2)<br>その他、食品学総論、食品加工学など食品関連科目の教科書 |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 平常点(課題実施状況) 40%<br>課題 60%   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目   | 食品学総論、食品加工学など食品関連科目すべて  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                                  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|                     |  |       |         |
|---------------------|--|-------|---------|
| 科目名称                | 調理学  |       |         |
| 科目分類                | 210-211-11   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称                | Cooking Science  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者               | 松森 慎悟  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員                | 松森 慎悟  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー             | 前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30<br>後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 4-116   |
| 授業概要                | 食品の歴史の変遷や食文化などの「人間と食べ物の関わりについて」からはじまり、調理の意義や調理操作の原理、そして調理機器の使用方法などの「調理の基本」となる知識を学び、さらに「調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化」を学び理解を深める。 |       |         |
| 到達目標                | 調理系関連科目の基礎科目に当たるため、調理における基本的知識を修得する。すなわち、調理の意義、調理操作の原理、調理器具の使用法、食品の調理特性などについて理解することを目標とする。                               |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業      | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習） |  |       |         |
| 第1回                 | 予習：テキストP1～9を読んでおく。<br>授業：第1章：人間と食品（食べ物）【P1～9】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。  |       |         |
| 第2回                 | 予習：テキストP9～19を読んでおく。<br>授業：第1章：人間と食品（食べ物）、第2章：食事設計の基礎/食事設計の意義・内容【P9～19】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                           |       |         |
| 第3回                 | 予習：テキストP18～24を読んでおく。<br>授業：第2章：食事設計の基礎/嗜好性の主観的評価・客観的評価【P18～24】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                                   |       |         |
| 第4回                 | 予習：テキストP24～31を読んでおく。<br>授業：第2章：食事設計の基礎/嗜好性の主観的評価・客観的評価【P24～31】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                                   |       |         |
| 第5回                 | 予習：テキストP33～45を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/調理の意義～代表的な調理器具の使用法【P33～45】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                                  |       |         |
| 第6回                 | 予習：テキストP44～57を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/代表的な調理器具の使用～代表的な調理操作【P44～57】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                                |       |         |
| 第7回                 | 予習：テキストP58～61を読んでおく。<br>授業：中間テスト、第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性【P58～61】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                                |       |         |
| 第8回                 | 予習：テキストP61～69を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品：米、小麦）【P61～69】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                          |       |         |
| 第9回                 | 予習：テキストP69～75を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品：小麦～いも類）【P69～75】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                        |       |         |
| 第10回                | 予習：テキストP75～82を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品：豆類～果実類）【P75～82】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                        |       |         |
| 第11回                | 予習：テキストP82～91を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品、動物性食品）【P82～91】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                            |       |         |
| 第12回                | 予習：テキストP91～100を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品：魚介類、卵類、乳類）【P91～100】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                   |       |         |
| 第13回                | 予習：テキストP100～111を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品、抽出食品素材）【P100～111】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                    |       |         |
| 第14回                | 予習：テキストP111～122を読んでおく。<br>授業：第3章：調理の基本/食品の特徴に応じた調理の特性（抽出食品素材）【P111～122】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                          |       |         |
| 第15回                | 予習：テキストP123～169を読んでおく。<br>授業：第4章：調理操作による食品組織、物性と栄養成分の変化、第5章：食卓構成・食事環境【P123～169】<br>復習：重要語句の確認、配布資料の見直し。                  |       |         |

|                      |  |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 事前に上記の授業内容に該当する箇所を読んでおく学習効果が高い。                  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 授業 7 回目を実施する中間テストについては、翌週に解説を行う。                 |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | 『食べ物と健康 マスター調理学（第 4 版）』西堀すき江他編（建帛社）              |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  | 必要に応じて紹介する。                                      |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 中間テスト 30%、定期試験 70%で評価する。                         |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション                               | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                | △  |   |   |   | ◎   | ○   | △   |     |
| 関連科目                 | 「調理学実習 I・II」、「調理学実験」、「食品学 I・II」、「官能評価論」          |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週） |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 調理学実験   |       |         |
| 科目分類   | 210-211-33  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Experiment in Cooking Science   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 松森 慎悟   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 松森 慎悟   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30<br>後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10  | 研究室   | 4-116   |
| 授業概要   | これまでに学んできた調理学、調理学実習Ⅰ、Ⅱにおける知識と技術を結び付け、様々な調理科学現象を理論的・科学的に理解することで、より確実な技術をスムーズに身につけることが可能となる。そのために、植物性食品の調理性、動物性食品の調理性、調理と酵素、食品の物性などに関する実験を行う。また、実験科目であるため、毎回グループワークを行う。 |       |         |
| 到達目標   | 調理は長年の経験によるコツをうまく利用している部分が多く、これを理論的・科学的に理解することで、より確実な技術をスムーズに身につけることが可能となる。<br>そこで本実験では、各種の測定・観察・分析・評価を行うことにより、食品を最適な状態に再現性良く調理することが可能な素養を身につけることを目標とする。              |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：テキストP1～P10を読んでおく。<br/>授業：実験を行うに当たって、官能評価について【テキストP1～P10】<br/>復習：実験上の留意点及び官能評価について確認</p> <p>【第2回】<br/>予習：テキストP12,19,20を読んでおく。<br/>授業：調理学に関する基礎実験（計量・計測に関する実験）、5味の識別（Ⅰ）【テキストP12,19,20】<br/>復習：レポート作成（課題P12,20を含む）</p> <p>【第3回】<br/>予習：テキストP22,23を読んでおく。<br/>授業：米の調理性に関する実験（吸水試験、炊飯試験）【テキストP22,23】<br/>復習：レポート作成（課題P23を含む）</p> <p>【第4回】<br/>予習：テキストP54,55を読んでおく。<br/>授業：食品の物性に関する実験（ゾル及びゲルの特性）【テキストP54,55】<br/>復習：レポート作成（課題P55を含む）</p> <p>【第5回】<br/>予習：テキストP57,58を読んでおく。<br/>授業：介護食に関する実験（増粘剤及びゲル化剤の特性）【テキストP57,58】<br/>復習：レポート作成（課題P58を含む）</p> <p>【第6回】<br/>予習：テキストP14,15,25,26を読んでおく。<br/>授業：小麦粉の調理性に関する実験（ドウの引張試験）、2点比較法【テキストP14,15,25,26】<br/>復習：レポート作成（課題P26を含む）</p> <p>【第7回】<br/>予習：テキストP17,45,46を読んでおく。<br/>授業：砂糖の調理性に関する実験（キャンデーテスト）、3点比較法【テキストP17,45,46】<br/>復習：レポート作成（課題P46を含む）</p> <p>【第8回】<br/>予習：テキストP39,40を読んでおく。<br/>授業：食肉の調理性に関する実験（ハンバーグにおける副材料の役割）【テキストP39,40】<br/>復習：レポート作成（課題P40を含む）</p> <p>【第9回】<br/>予習：テキストP36,37を読んでおく。<br/>授業：卵の調理性に関する実験（鮮度鑑別、卵白の気泡性）【テキストP36,37】<br/>復習：レポート作成（課題P37を含む）</p> <p>【第10回】<br/>予習：テキストP42,43を読んでおく。<br/>授業：乳及び乳製品の調理性に関する実験（生クリームの泡立てと分離）【テキストP42,43】<br/>復習：レポート作成（課題P43を含む）</p> <p>【第11回】<br/>予習：テキストP31,32を読んでおく。<br/>授業：野菜の調理性に関する実験（吸水・放水試験）【テキストP31,32】<br/>復習：レポート作成（課題P32を含む）</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 12 回】<br/>         予習 : テキスト P13,34 を読んでおく。<br/>         授業 : 果実の調理性に関する実験 (ペクチン含量)、5 味の識別 (Ⅱ) 【テキスト P13,34】<br/>         復習 : レポート作成 (課題 P34 を含む)</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 事前に上記の授業内容に関連する箇所を「調理学」、「食品学」等のテキストで復習しておく学習効果が高い。      |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 授業 2 回目から 10 回目にあるレポートについては、翌々週に解説を行う。                  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 駒沢女子大学 教科書シリーズ「調理学実験」                                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 『調理科学実験 (第 2 版)』早淵仁美他編 (医歯薬出版)<br>『調理科学実験』大羽和子他編 (学建書院) |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | レポート点 5 5 %、授業態度 4 5 % で評価する。                           |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                         |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | ○   |     |
| 関連科目   | 「調理学」、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」、「食品学」、「官能評価論」                          |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 調理学実習 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-211-31  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Cooking Science I   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 松森 慎悟   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 松森 慎悟   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 10:40~12:10 水曜日 13:00~14:30<br>後期 月曜日 13:00~14:30 月曜日 14:40~16:10  | 研究室   | 4-116   |
| 授業概要  | 調理学で学んだ理論を基に、調理の目的に沿った各種調理操作を実践的にを行い、その技術を修得する。すなわち、日本料理、西洋料理、中国料理における基本的な調理操作を行い、食品を衛生上安全でおいしい食べ物にし、食品の持つ栄養素を十分に利用し、さらに消化・吸収を助けるために食べやすくする調理技術を学ぶ。また、実習科目であるため、毎回グループワークを行う。 |       |         |
| 到達目標  | 調理における一連の操作技術を修得する。すなわち、計量の方法、基本的な包丁の扱い方などの非加熱調理操作、煮物、揚げ物などの加熱調理操作を修得する。また、日本料理、西洋料理、中国料理における基本的な調理操作技術を身につけることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキストP1~9を読んでおく。<br/> 授業：授業の概要説明、計量・調味パーセントについて【P1~9】<br/> 復習：実習上の留意点及び調理の基本の確認をする。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキストP10~12を読んでおく。<br/> 授業：準備操作・加熱操作について、切り方について【P10~12】<br/> 復習：調理の基本についてのまとめレポートを作成する。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキストP13~21を読んでおく。<br/> 授業：日本料理：炊飯方法、和風だしのとり方、汁物・蒸し物・和え物の特徴について【P13~21】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキストP22~29を読んでおく。<br/> 授業：日本料理：味付飯の炊飯方法、巻き焼き卵、乾物の扱い方、味噌汁、煮物の特徴について【P22~29】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキストP30~35を読んでおく。<br/> 授業：日本料理：めん類の茹で方、乾物の戻し方、薄焼き卵、揚げ物・酢の物の特徴について【P30~35】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキストP36~41を読んでおく。<br/> 授業：日本料理：強飯の炊飯方法、焼き物・炒め物（炒り煮）・和え物の特徴について【P36~41】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：日本料理編について復習しておく。<br/> 授業：小テスト、実技試験、魚のさばき方について<br/> 復習：小テスト及び実技試験の見直し</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキストP48~57を読んでおく。<br/> 授業：中国料理：炒飯の作り方、中国風だしの取り方、湯菜・炒菜・点心の特徴について【P48~57】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキストP58~65を読んでおく。<br/> 授業：中国料理：お粥の作り方、寒天の扱い方、湯菜・炒菜・点心の特徴について【P58~65】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキストP72~79を読んでおく。<br/> 授業：西洋料理：洋風だし（ブイヨン）の取り方、卵料理、サラダについて【P72~79】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキストP80~87を読んでおく。<br/> 授業：西洋料理：ルウ及びソース、ムニエルについて、ゼラチンの扱い方について【P80~87】<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> |   |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <b>【第 12 回】</b><br>予習 : 中国及び西洋料理編について復習しておく。<br>授業 : 小テスト、実技試験、まとめについて<br>復習 : 小テスト及び実技試験の見直し |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | 事前に上記の授業内容に該当する箇所を読んでおく和学习効果が高い。                      |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 実施する小テストについては、翌週に解説を行う。また、レポートは、返却時に解説を行い、個別の質問に回答する。 |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | 駒沢女子大学 教科書シリーズ「調理学実習Ⅰ」                                |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | 「図解による基礎調理」下村道子、中里トシ子編（同文書院）                          |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | レポート30%、小テスト30%、実技試験30%、平常点10%で評価する。                  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                       | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   |   |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | ○   |  |
| 関連科目  | 「調理学」、「調理学実習Ⅱ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」、「給食経営管理実習」    |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 調理学実習Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-211-32   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Practice in Cooking Science II   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 加藤 伸子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 加藤 伸子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 調理学実習Ⅰで修得した調理の基礎知識、技術を基に応用展開を図る。食品素材や食品の物性の違い、分析能力を養う。幅広い料理のレパートリーを習得し、季節性を取り入れた調理形態や行事食のほか、盛りつけを通して食卓のセッティング、応用性に役立つ実践例を学ぶ。授業は、グループワークが中心となる。 |       |         |
| 到達目標   | 調理の作業にまつわる基礎的知識及び技術をしっかりと習得し定着させる。調理を通じ、献立展開の実践に向けて必要となる知識と技術も身につけることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：調理学実習Ⅰで学んだ事を復習しておく。<br/> 授業：授業の概要説明、アントルメ実習 紅茶のいれ方。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：中国料理Ⅰ 湯菜、焼菜、蒸菜の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：中国料理Ⅱ 点心、炸菜の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：日本料理Ⅰ 精進料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：日本料理Ⅱ 行事食①正月料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：西洋料理Ⅰ ポタージュ、ソース、アントルメの実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：西洋料理Ⅱ 行事食②クリスマス料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：世界の料理 タイ料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：世界の料理 韓国料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：薬膳料理 季節の薬膳料理の実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：事前に説明する実技試験内容について内容を理解しておく<br/> 授業：実技試験①<br/> 復習：実技試験についての反省点等をまとめる。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：配布資料の該当箇所を読んでおく。<br/> 授業：アントルメの実習、庖丁研ぎの講義及び実習。<br/> 復習：実習した内容についてレポートを作成する。</p> |  |       |         |

|                      |   |     |   |     |   |     |   |     |
|----------------------|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習              | 調理学および調理学実習 I で学んだ内容を復習しておくこと学習効果が高い。                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | レポートにより実習の理解度を確認。返却時に必要箇所の解説を行う。個別の質問にも回答する。            |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材              | 配布プリント  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書                  | 駒沢女子大学 教科書シリーズ「調理学実習 I」<br>「図解による基礎調理」下村道子、中里トシ子編（同文書院） |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法             | レポート40%、実技テスト40%、授業態度20%で評価する。                          |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                         |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当                |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目                 | 「調理学」、「調理学実習 I」、「調理学実験」、「食品学 I・II」、「官能評価論」、「給食経営管理実習」   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他                  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 基礎栄養学  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-11 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Basic Nutrition  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 曾我部 夏子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 曾我部 夏子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10<br>後期 金曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30   | 研究室   | 16-102  |
| 授業概要   | 栄養学の基本的な概念を理解する。各種栄養素の特徴および生理的意義、消化・吸収機構やエネルギー代謝などをディスカッションを交えて学習することにより、栄養素が生体で利用される過程を理解する。                      |       |         |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 大栄養素の消化、吸収について理解する</li> <li>・ビタミンやミネラルの体内での働き、欠乏症や過剰症について理解する</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：日本の食生活の問題点を考える<br/> 授業：栄養学の概念、日本の食生活の現状について（ディスカッション）<br/> 復習：授業の内容をノートを見直して理解を深める</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト『栄養の概念』の項目を読む<br/> 授業：栄養の概念（テキスト2～4頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト『糖質の種類』の項目を読む(テキスト74～85頁)<br/> 授業：糖質の栄養①：糖質の種類と特徴について<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト『脂質の種類・代謝』の項目を読む(テキスト87～100頁)<br/> 授業：脂質の栄養②：脂質の種類と特徴について<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト『タンパク質の種類・代謝』の項目を読む<br/> 授業：タンパク質の栄養①：タンパク質の種類と特徴について(テキスト58～72頁)<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト『ビタミンの栄養』の項目を読む<br/> 授業：ビタミン・無機質の種類と特徴について（ディスカッション）（テキスト107～121頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト『消化・吸収』の章を読む<br/> 授業：消化吸収機構①：消化・吸収の基本概念（テキスト23～33頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト『消化・吸収』の章を読む<br/> 授業：消化吸収機構②：管腔内消化とその調節(テキスト33～35頁)<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト『消化・吸収』の章を読む<br/> 授業：消化吸収機構③：膜消化・吸収（テキスト35～37頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト『消化・吸収』の章を読む<br/> 授業：吸収された栄養素の体内動態（ディスカッション）(テキスト37～46頁)<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト『糖質の代謝』の章を読む<br/> 授業：糖質の栄養②：糖質の体内での代謝について（ディスカッション）（テキスト76～85頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト『脂質の代謝』の章を読む<br/> 授業：脂質の栄養②：脂質の体内での代謝について（ディスカッション）（テキスト89～95頁）<br/> 復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> |  |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト『タンパク質の代謝』の章を読む<br/>         授業：タンパク質の栄養②：タンパク質の体内での代謝について(ディスカッション) (テキスト 60～67 頁)<br/>         復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト『ビタミンの代謝』の章を読む<br/>         授業：ビタミンの栄養：ビタミンの体内での代謝について (ディスカッション) (テキスト 109～119 頁)<br/>         復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキスト『エネルギー代謝』の章を読む<br/>         授業：エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について (ディスカッション) (テキスト 146～157 頁)<br/>         復習：授業の内容をノート、教科書を見直して理解を深める</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | テキストの指定ページを読んでから、授業に臨むこと  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 小テストは採点した後、返却して解説を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 田地陽一編著『基礎栄養学』（羊土社）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業の中で適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 授業態度（レポートや小テストなど）10%、定期試験 90%とし 100 点満点で評価する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   | △   |     |   |     | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目  | 基礎栄養学実習、解剖生理学、栄養生理学、栄養生理学実験   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 基礎栄養学実習   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-32 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Basic Nutrition   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 曾我部 夏子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 曾我部 夏子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10<br>後期 金曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30  | 研究室   | 16-102  |
| 授業概要  | 「基礎栄養学」で学んだエネルギー、栄養素の代謝について、グループワークやディスカッションを通して理解を深める。基礎代謝量の概念や算出方法、安静時代謝量の測定法と実測、体組成の評価、栄養素摂取量の算出および評価ができるようになる。  |       |         |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎代謝量、活動時代謝量の測定方法について理解する</li> <li>・エネルギー代謝量を呼気ガス分析法やメッツ値を使って算出することができる</li> <li>・それぞれの栄養素の給源食品について理解する</li> <li>・消化・吸収について、自分の言葉で説明できるようになる</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：基礎栄養学の講義時のノート「エネルギー代謝」の項目を読む<br/> 授業：実習を行うための諸注意、機器の取り扱いについて<br/> 復習：実習内容をレポートにまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：安静時代謝とは何か、自分で調べてノートにまとめる<br/> 授業：エネルギー代謝① 安静時代謝量の測定方法の習得（実習）<br/> 復習：実習内容をレポートにまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：安静時代謝を推定する方法を調べてノートにまとめる<br/> 授業：エネルギー代謝② 呼気ガス分析法による安静時代謝量、活動代謝量の測定（グループワーク）<br/> 復習：測定結果をレポートにまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：自分の行動記録を7週間、記録用紙に記入する、また、携帯型の活動量計を7週間装着する<br/> 授業：エネルギー代謝③ 行動記録法による活動代謝量の算出1<br/> 復習：行動記録法と活動計法の方法の違いによって、同じ日のエネルギー消費量にどの程度の差があるのか、自分の7日間の結果をもとにレポートにまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：基礎栄養学の講義時のノート「活動代謝量の測定方法」の項目を読む<br/> 授業：エネルギー代謝④ 活動代謝量の算出2（クラス全員のエネルギー消費量について、統計的に解析する）<br/> 復習：解析結果をもとに、考察してレポートにまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：自分の2日分の食事内容を記録用紙に記録する<br/> 授業：食事記録の解析① 重量換算と栄養計算<br/> 復習：自分の2日間の食事内容について、エネルギー摂取量、栄養素摂取量を算出する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：20歳代女性の食事摂取基準での各種栄養素の推奨量、目安量を調べる<br/> 授業：食事記録の解析② 栄養素等摂取量についての評価<br/> 復習：自分の栄養素等摂取量を食事摂取基準値と比較し、評価する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：国民健康栄養調査の結果(エネルギー、各種栄養素摂取量)を調べる<br/> 授業：食事調査による栄養摂取量の評価<br/> 復習：自分の栄養素等摂取量と国民健康栄養調査の結果を比較する</p> <p>【第9回】<br/> 予習：国民健康栄養調査の結果(各種栄養素の給源食品摂取量)を調べる<br/> 授業：各種栄養素の給源食品についての検討①<br/> 復習：クラス員の結果を国民健康栄養調査の結果と比較する</p> |   |       |         |

|   |   |   |            |     |   |   |     |     |
|---|---|---|------------|-----|---|---|-----|-----|
| <p>【第10回】<br/> 予習：国民健康栄養調査と実習での調査結果を比較する<br/> 授業：各種栄養素の給源食品についての検討②（ディスカッション）<br/> 復習：自分が発表担当になった栄養素について、働きや給源食品について調べる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：統計処理のための検定方法について調べる<br/> 授業：各種栄養素の給源食品についての検討③<br/> 復習：自分が担当になった栄養素について、発表原稿を作成する</p> <p>【第12回】<br/> 予習：発表原稿の推敲、プレゼンテーションの練習を行う<br/> 授業：実習結果の発表（プレゼンテーション）、期末試験<br/> 復習：すべての実習を通して学んだことをレポートにまとめる</p> |   |   |            |     |   |   |     |     |
| 授業開始前学習   | 1年次の基礎栄養学の講義の内容を復習してくること<br>事前に配布したプリントは熟読してくること  |   |            |     |   |   |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 小テストは採点した後、返却して解説を行う。   |   |            |     |   |   |     |     |
| テキスト・教材   | プリントを配布する   |   |            |     |   |   |     |     |
| 参考書   | 田地陽一編著『基礎栄養学』（羊土社）  |   |            |     |   |   |     |     |
| 評価の基準と方法  | 授業態度（小テストなど）15%、レポート45%、発表15%、期末試験25%とし、100点満点で評価する。提出期限を過ぎてレポートが提出された場合は、その遅れた日数にしたがって減点とする。 |   |            |     |   |   |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力   | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   |   |   | △          |     | ◎                                       |   | ○   | △   |
| 関連科目  | 基礎栄養学(講義)、栄養生理学(講義)、栄養生理学実験   |   |            |     |   |   |     |     |
| その他   |   |   |            |     |   |   |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |            |     |   |   |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者に対する保健指導、栄養教育において、本授業で学ぶ糖質代謝、消化吸収等の知識をどのように活かすのか、授業で実例を挙げて紹介する。       |   |            |     |   |   |     |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 応用栄養学 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-12  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practical Nutrition I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 三浦 麻子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 三浦 麻子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 木曜日 10:30~12:00 金曜日 14:40~16:10<br>後期 水曜日 13:00~14:30 木曜日 10:30~12:00  | 研究室   | 4-104   |
| 授業概要  | 応用栄養学分野の授業ではヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学 I では、栄養ケア・マネジメントの定義や意義、プロセスなど、栄養管理の基本となる考え方を説明し、特にヒトの栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）のために必要な知識について詳しく解説する。また、栄養管理をする上で重要な日本人の食事摂取基準については、策定目的や基本方針、活用のための理論と方法について詳しく解説する。 |       |         |
| 到達目標  | 応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学 I では、栄養ケア・マネジメントの定義や意義、栄養管理の基本となる考え方を理解し、栄養ケア・マネジメントの意義やプロセスについて概説できるようになる。また、食事摂取基準の策定目的と基本方針、活用のための理論と方法を理解し、各指標の意味や策定プロセスについて説明できるようになる。        |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：テキストのシラバスや目次を一読しておく<br/> 授業：応用栄養学の概要<br/> 復習：応用栄養学のキーワードを確認する</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：栄養管理の目的について調べる<br/> 授業：栄養管理の基礎（テキスト 1 頁～5 頁）<br/> 復習：栄養管理の目的や栄養ケア・マネジメントの概念・概要をまとめる</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：栄養アセスメントの意義・目的を調べる<br/> 授業：栄養アセスメントの意義・目的と分類、身体計測（テキスト 6 頁～9 頁）<br/> 復習：栄養アセスメントのポイントをまとめる</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：栄養アセスメントの分類を調べる<br/> 授業：栄養アセスメント 臨床診査および臨床検査（テキスト 9 頁～11 頁）<br/> 復習：栄養アセスメントの分類について整理する</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：栄養アセスメントの分類を調べる<br/> 授業：栄養アセスメント 食事調査（テキスト 12 頁～14 頁）<br/> 復習：食事調査の特徴を整理する</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：栄養アセスメントのキーワードを確認する<br/> 授業：栄養管理のまとめ<br/> 復習：栄養管理の基礎についてまとめる</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：食事摂取基準の目的を調べる<br/> 授業：食事摂取基準の意義・目的（テキスト 16 頁～18 頁）<br/> 復習：食事摂取基準の策定根拠についてまとめる</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：食事摂取基準の指標の特徴を調べる<br/> 授業：食事摂取基準策定の基礎理論- 1（テキスト 19 頁～21 頁）<br/> 復習：食事摂取基準の指標の特徴をまとめる</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：食事摂取基準の指標の特徴を調べる<br/> 授業：食事摂取基準策定の基礎理論- 2（テキスト 21 頁～24 頁）<br/> 復習：食事摂取基準の指標の特徴をまとめる</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：食事摂取基準の活用について調べる<br/> 授業：食事摂取基準活用の基礎理論（テキスト 25 頁～28 頁）<br/> 復習：食事摂取基準活用の個人と集団の違いをまとめる</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：エネルギー・栄養素の食事摂取基準を調べる<br/> 授業：エネルギー・栄養素別食事摂取基準（テキスト 29 頁～34 頁）<br/> 復習：エネルギー・栄養素の食事摂取基準のポイントをまとめる</p> |   |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：ビタミンの食事摂取基準を調べる<br/>         授業：ビタミンの食事摂取基準（テキスト34頁～37頁）<br/>         復習：ビタミンの食事摂取基準のポイントをまとめる</p> <p>【第13回】<br/>         予習：ミネラルの食事摂取基準を調べる<br/>         授業：ミネラルの食事摂取基準（テキスト37頁～41頁）<br/>         復習：ミネラルの食事摂取基準のポイントをまとめる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：食事摂取基準の活用の仕方について調べる<br/>         授業：食事摂取基準の活用 主要な栄養素<br/>         復習：食事摂取基準の活用のポイントをまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：栄養管理と食事摂取基準について総復習する<br/>         授業：栄養管理と食事摂取基準についてのまとめ<br/>         復習：栄養管理と食事摂取基準の重要ポイントをまとめる</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 1年次の関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。              |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 授業項目ごとに小テストを実施し、小テスト終了後に解説をして重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 小切間美保・栗原晶子 編『応用栄養学』（中山書店）<br>日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020年版）』（厚生労働省）      |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験の成績（50%）、課題の成績（30%）、授業内小テストの成績（20%）によって評価する。                                |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   | △   |
| 関連科目  | 解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                                |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 応用栄養学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-311-12  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practical Nutrition II  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 三浦 麻子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 三浦 麻子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00  | 研究室   | 4-104   |
| 授業概要  | 応用栄養学分野では主にヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学Ⅱでは、ヒトの成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化について詳しく説明し、それらに応じた栄養管理の考え方を解説する。本講では特に、妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、幼児期における各ライフステージの生理的特徴や栄養アセスメントに法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を詳しく解説する。  |       |         |
| 到達目標  | 応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学Ⅱでは、成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化について理解する。ライフステージの中でも、妊娠期・授乳期、新生児期・乳児期、幼児期における生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を理解する。そして、個人の状況に応じた栄養ケア・マネジメントの過程や疾病の予防と改善のための方法を説明できるようになることを目標とする。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：ライフステージの概念について調べる<br/> 授業：成長・発達、加齢とライフステージの概念<br/> 復習：成長・発達、加齢のポイントをまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：女性の性周期とホルモン分泌について調べる<br/> 授業：女性の性周期とホルモン分泌（テキスト42頁～44頁）<br/> 復習：性周期とホルモンの種類や働きをまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：妊娠の成立について調べる<br/> 授業：妊婦の生理的・身体的変化（テキスト44頁～47頁）<br/> 復習：妊娠による母体の変化についてまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：胎児の変化について調べる<br/> 授業：母体の変化と胎児の成長（テキスト47頁～50頁）<br/> 復習：胎児の変化についてまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：授乳期について調べる<br/> 授業：乳汁産生・分泌の機序と乳汁成分（テキスト57～62頁）<br/> 復習：乳汁産生・分泌の機序と乳汁成分についてまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：妊娠期・授乳期の栄養アセスメントについて調べる<br/> 授業：妊娠期・授乳期の栄養ケア（テキスト53頁～56頁）<br/> 復習：妊娠期・授乳期の栄養ケアのポイントをまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：妊娠期・授乳期の病態・疾患について調べる<br/> 授業：妊娠期・授乳期の病態・疾患（テキスト56頁～62頁）<br/> 復習：妊娠期・授乳期の病態・疾患についてまとめる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：新生児期・乳児期の生理的特徴を調べる<br/> 授業：新生児期・乳児期の発育・発達①（テキスト64頁～69頁）<br/> 復習：新生児期・乳児期の生理的特徴をまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：新生児期・乳児期の生理的特徴を調べる<br/> 授業：新生児期・乳児期の発育・発達②（テキスト64頁～69頁）<br/> 復習：新生児期・乳児期の生理的特徴をまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：新生児期・乳児期の病態・疾患について調べる<br/> 授業：新生児期・乳児期の栄養ケア（テキスト70頁～71頁）<br/> 復習：新生児期・乳児期の病態・疾患についてまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：新生児期・乳児期の栄養ケアについて調べる<br/> 授業：授乳・離乳の支援（テキスト72頁～75頁）<br/> 復習：離乳の進め方についてまとめる</p> |   |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：成長期の生理的特徴について調べる<br/> 授業：幼児の成長・発達（テキスト76～81頁）<br/> 復習：幼児の成長・発達についてまとめる</p> <p>【第13回】<br/> 予習：幼児期の病態・疾患について調べる<br/> 授業：幼児の疾病予防の栄養管理（テキスト82頁～85頁）<br/> 復習：幼児期の病態・疾患についてまとめる</p> <p>【第14回】<br/> 予習：幼児期の栄養ケアについて調べる<br/> 授業：幼児の栄養アセスメント（テキスト87頁～93頁）<br/> 復習：幼児期の栄養ケアについてまとめる</p> <p>【第15回】<br/> 予習：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理のキーワードを確認する<br/> 授業：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理のまとめ<br/> 復習：妊娠・授乳期から幼児期までの栄養管理について復習し、まとめる</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。             |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 授業項目ごとに小テストを実施し、重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。         |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 小切間美保・栗原晶子 編『応用栄養学』（中山書店）<br>日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020年版）』（厚生労働省） |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験の成績（50%）、課題の成績（30%）、授業内小テストの成績（20%）によって評価する。                           |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   | △   |
| 関連科目  | 解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                           |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   |  |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 応用栄養学Ⅲ  |       |         |
| 科目分類  | 210-311-13  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practical Nutrition Ⅲ   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 三浦 麻子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 三浦 麻子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00  | 研究室   | 4-104   |
| 授業概要  | <p>応用栄養学分野では主にヒトの栄養管理に必要な知識や技術について概説する。応用栄養学Ⅲでは、ヒトの成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化や環境による変化について詳しく説明し、それらに応じた栄養管理の考え方を解説する。本講では特に、学童期・思春期、成人期・更年期、高齢期における各ライフステージの生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を解説する。また、運動やストレス、特殊環境時における生理的特徴や栄養ケアの基本的考え方を解説する。</p>   |       |         |
| 到達目標  | <p>応用栄養学では“栄養”の基礎的知識や意義を理解した上で、ヒトの栄養管理に必要な知識を修得する。特に応用栄養学Ⅲでは、成長・発達・加齢に伴う身体状況の変化や環境による変化について理解する。ライフステージの中でも、学童期・思春期、成人期・更年期、高齢期における生理的特徴や栄養アセスメント法、病態・疾患、さらに個々の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアの基本的考え方を理解する。また、運動や特殊環境時における生理的特徴や栄養ケアの基本的考え方を理解する。そして、個人の状況に応じた栄養ケア・マネジメントの過程や疾病の予防と改善のための方法を説明できるようになることを目標とする。</p> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>           予習：ライフステージの概念や特殊環境について調べる<br/>           授業：ライフステージの確認と特殊環境について<br/>           復習：栄養管理のポイントを確認する</p> <p>【第2回】<br/>           予習：成長期の生理的特徴について調べる<br/>           授業：学童期の成長・発達（テキスト 76 頁～81 頁）<br/>           復習：学童期の成長・発達の特徴についてまとめる</p> <p>【第3回】<br/>           予習：学童期の病態・疾患について調べる<br/>           授業：学童期の疾病予防の栄養管理（テキスト 82 頁～85 頁、100 頁～105 頁）<br/>           復習：学童期の病態・疾患についてまとめる</p> <p>【第4回】<br/>           予習：学童期の栄養ケアについて調べる<br/>           授業：学童期の栄養ケア（テキスト 94 頁～98 頁）<br/>           復習：学童期の栄養ケアのポイントについてまとめる</p> <p>【第5回】<br/>           予習：思春期の特徴について調べる<br/>           授業：思春期の生理的特徴と病態・疾患<br/>           復習：思春期の特徴についてまとめる</p> <p>【第6回】<br/>           予習：加齢による変化について調べる<br/>           授業：成人期・高齢期の生理的特徴①（テキスト 106 頁～112 頁）<br/>           復習：成人期・高齢期の生理的特徴についてまとめる</p> <p>【第7回】<br/>           予習：加齢による変化について調べる<br/>           授業：成人期・高齢期の生理的特徴②（テキスト 106 頁～112 頁）<br/>           復習：成人期・高齢期の生理的特徴についてまとめる</p> <p>【第8回】<br/>           予習：更年期について調べる<br/>           授業：更年期の生理的特徴<br/>           復習：更年期の特徴についてまとめる</p> <p>【第9回】<br/>           予習：成人期の病態・疾患について調べる<br/>           授業：成人期の病態・疾患と栄養ケア（テキスト 113 頁～127 頁）<br/>           復習：成人期の病態・疾患と栄養ケアについてまとめる</p> <p>【第10回】<br/>           予習：高齢期の病態・疾患について調べる<br/>           授業：高齢期の病態・疾患と栄養ケア（テキスト 128 頁～135 頁）<br/>           復習：高齢期の病態・疾患と栄養ケアについてまとめる</p> |   |       |         |

|  |
|--|
| <p>【第 11 回】<br/>         予習：運動時のエネルギー代謝の変化について調べる<br/>         授業：運動時の身体の変化と身体活動基準（テキスト 137～150 頁）<br/>         復習：運動時の代謝の変化についてまとめる</p> <p>【第 12 回】<br/>         予習：ストレス時の生理的变化について調べる<br/>         授業：ストレスと栄養ケア（テキスト 152 頁～155 頁）<br/>         復習：ストレス時の栄養ケアについてまとめる</p> <p>【第 13 回】<br/>         予習：特殊環境下の生理的变化について調べる<br/>         授業：特殊環境と栄養ケア（テキスト 157 頁～162 頁）<br/>         復習：特殊環境時の栄養ケアについてまとめる</p> <p>【第 14 回】<br/>         予習：災害時の管理栄養士の役割について調べておく<br/>         授業：災害時の栄養ケア（テキスト 164 頁～170 頁）<br/>         復習：災害時の栄養ケアについてまとめる</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアのポイントを確認する<br/>         授業：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアのまとめ<br/>         復習：学童期から成人期・高齢期と特殊環境時の栄養ケアについて復習し、まとめる</p> |
|--|

|                  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|------------------|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習          | 関連科目ですでに学習した内容については、しっかり理解しておくこと。各回の授業までに、該当部分の基本的内容を把握しておくこと。              |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業項目ごとに小テストを実施し、重要なポイントの確認を行う。また、間違いの多かった問題については、後日改めて復習をして理解を深める。          |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材          | 小切間美保・栗原晶子 編『応用栄養学』（中山書店）<br>日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020 年版）』（厚生労働省） |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書              | 授業中に適宜紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法         | 定期試験の成績（50%）、課題の成績（30%）、授業内小テストの成績（20%）によって評価する。                            |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当            |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   | △   |
| 関連科目             | 解剖生理学、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など。  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他              |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                            |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 応用栄養学実習  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-33   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Practice in Practical Nutrition  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 三浦 麻子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 三浦 麻子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00   | 研究室   | 4-104   |
| 授業概要   | 応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて学習した各ライフステージの生理的特徴や栄養ケア・マネジメントおよびプロセスの一連の流れについて確認する。また、実際の症例を通して、栄養アセスメントの方法や栄養管理、食事管理の考え方を確認し、献立作成や調理実習（グループワーク）を通して、より実践的な技能を身に付けられるようにする。また、栄養管理を行う際に用いる食事摂取基準について詳細を解説し、実際に活用しながら理解を深める。 |       |         |
| 到達目標   | 栄養ケア・マネジメントの一連の流れや各ライフステージの生理的特徴についてより深く理解し、説明できるようになる。実際の症例について、それぞれの身体状況や栄養状態に応じた栄養アセスメントや栄養管理・食事管理ができるよう、献立作成や実習を通して、より実践的な技能を修得する。また、栄養管理を行う際に用いる食事摂取基準について、その数値の意味を理解した上で、実際に活用できるようになることを目標とする。      |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：応用栄養学Ⅰ～Ⅲで使用した『応用栄養学』（中山書店）を一読しておく<br/> 授業：栄養管理(栄養ケア・マネジメントおよびプロセス)および食事摂取基準の概要 P.1～69<br/> 復習：栄養管理および食事摂取基準の要点のまとめ</p> <p>【第2回】<br/> 予習：栄養ケア・マネジメントと食事摂取基準の復習<br/> 授業：栄養ケア計画と推定エネルギー必要量の算出 P.70～76、84～88<br/> 復習：栄養ケア計画のまとめ</p> <p>【第3回】<br/> 予習：対象特性別アセスメントのポイントの確認<br/> 授業：対象特性別アセスメントの実施（グループワーク）<br/> 復習：対象特性別アセスメントのポイントの復習</p> <p>【第4回】<br/> 予習：妊娠期・授乳期の特性のまとめ<br/> 授業：妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメント P.75～76、90～93、105～113<br/> 復習：妊娠期・授乳期の栄養ケア計画のまとめ</p> <p>【第5回】<br/> 予習：乳児期の特性のまとめ<br/> 授業：乳児期の栄養ケア・マネジメント P.76、94～96、105～113、115～120<br/> 復習：乳児期の栄養ケア計画のまとめ</p> <p>【第6回】<br/> 予習：乳児期の栄養ケア計画の確認<br/> 授業：乳児期の食事（調乳）＜調理実習＞（グループワーク）<br/> 復習：乳児期の食事の実習後レポートの作成</p> <p>【第7回】<br/> 予習：乳児期の栄養ケア計画の確認<br/> 授業：乳児期の食事（離乳食）＜調理実習＞（グループワーク）<br/> 復習：乳児期の食事の実習後レポートの作成</p> <p>【第8回】<br/> 予習：成長期（幼児～学童期・思春期）の特性のまとめ<br/> 授業：成長期（幼児～学童期・思春期）の栄養ケア・マネジメント P.76、98～100、105～113、121～123<br/> 復習：成長期（幼児～学童期・思春期）の栄養ケア計画のまとめ</p> <p>【第9回】<br/> 予習：成長期（幼児～学童期・思春期）の栄養ケア計画の確認<br/> 授業：成長期（幼児～学童期・思春期）の食事＜調理実習＞（グループワーク）<br/> 復習：幼児期の食事の実習後レポートの作成</p> <p>【第10回】<br/> 予習：運動時の栄養管理のまとめ<br/> 授業：運動時の食事＜調理実習＞（グループワーク）<br/> 復習：運動時の食事の実習後レポートの作成</p> <p>【第11回】<br/> 予習：非常時の食料備蓄の確認<br/> 授業：非常時の食事＜調理実習＞（グループワーク） P.124～126<br/> 復習：非常時の食事の実習後レポートの作成</p> |  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：各ライフステージの栄養ケア・マネジメントの考え方の確認<br/> 授業：各ライフステージの栄養ケア・マネジメントの応用<br/> 復習：各ライフステージの栄養ケア・マネジメントのまとめ</p> |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱの内容の復習と、同時進行の応用栄養学Ⅲの内容についてしっかりと理解して臨むこと。                      |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 実習課題を実施後、授業時間内で解答を確認する。課題提出後は課題の内容をチェックをした上で、ライフステージが変わるごとにそのポイントを復習する。    |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 三浦麻子『応用栄養学実習』（駒沢女子大学教科書シリーズ）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 小切間美保・森原晶子 編『応用栄養学』（中山書店）<br>日本人の食事摂取基準策定検討会報告書『日本人の食事摂取基準（2020年版）』（厚生労働省） |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 課題の成績（70%）、授業内の確認テストの成績（30%）によって評価する。                                      |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     | △   |     | ◎                                       |     | ○  | △   |
| 関連科目   | 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 45 時間   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | スポーツ栄養学   |       |         |
| 科目分類  | 210-430-14  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Sports Nutrition  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 大滝 千香子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 大滝 千香子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | アスリートの栄養マネジメントに必要な運動生理学・栄養学に基づいた基礎知識を得る。また、アスリートからの栄養相談を想定したロールプレイングを行い、実践力を養う。チームスタッフとの連携をとることの必要性を学ぶ    |       |         |
| 到達目標  | アスリートの栄養マネジメントに必要なアセスメント方法（エネルギー消費量の推定、食事調査、血液検査・体力測定データの見方）を習得する。また、ウエイトコントロールの方法、シーズンや競技特性に見合った食事の特徴を学ぶ |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：アスリート栄養とは P4<br/> スポーツ現場での栄養士の役割を知る<br/> 復習：授業時のキーワード確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキストを読んでくる<br/> 授業：運動時のエネルギー供給機構と食事 P6-16<br/> 復習：アスリートのタイムスタディデータを基にエネルギー消費量を推定してみる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：体組成測定方法を知る P19-30<br/> 授業：スポーツ選手の栄養マネジメント・体格<br/> 復習：授業時のキーワードを確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：糖質摂取について P32-41<br/> 授業：アスリートの糖質摂取とリカバリー<br/> 復習：アスリート（または自身の）1日の糖質摂取量をと主食量を考えてみる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：たんぱく質と脂質について P44-69<br/> 授業：アスリートのたんぱく質と脂質の摂取について<br/> 復習：食材のたんぱく質含有量と1日のたんぱく質摂取スケジュールを立ててみる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：基礎栄養学のビタミン P100-110<br/> 授業：アスリートのビタミン摂取とコンディション<br/> 復習：アスリートのビタミン、ミネラル必要量について文献報告をまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：食事摂取基準について確認してくる P134-145<br/> 授業：目的別の栄養管理① 増量・減量<br/> 復習：増量の栄養プランを作成する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：骨と貧血について確認してくる P74-96<br/> 授業：目的別の栄養管理② エネルギーアベイラビリティについて、骨の健康と貧血<br/> 復習：LEAについてまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：基礎栄養学水分補給部分<br/> 授業：体温調節と水分補給 P114-122<br/> 復習：発汗による体液損失を補う方法をまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：遠征時・試合前の食事について調べる P160-173</p> |   |       |         |

授業：試合前の食事調整とリハビリ  
 復習：試合中の栄養トラブルについて調べてみる

【第 11 回】

予習：サプリメントの種類を調べる  
 授業：使用目的別のサプリメント P176-188  
 復習：使用実態をまとめる

【第 12 回】

予習：アスリートの年間スケジュールを確認してくる  
 授業：スポーツ選手のトレーニングスケジュール p 124-130  
 復習：年間のトレーニング計画に食事計画を立案してみる

【第 13 回】

予習：食事記録をしておく  
 授業：アスリートの実践食事管理・栄養相談ロールプレイング p 234-245  
 復習：献立作成

【第 14 回】

予習：これまでの課題の整理  
 授業：アスリートの栄養マネジメント：まとめ、テーブルメモの提出  
 復習：競技特性を考慮した給与栄養目標量の設定と献立作成（最終レポートの作成）

【第 15 回】

予習：これまでの課題の整理  
 授業：アスリートの栄養マネジメント：まとめ、テーブルメモの提出  
 復習：競技特性を考慮した給与栄養目標量の設定と献立作成（最終レポートの作成）

|                  |   |   |   |  |     |     |     |     |
|------------------|---|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習          | アスリートの栄養マネジメントは一般個人・集団に対するものと同じである。応用栄養学で学んだ栄養マネジメントの進め方について復習すること。 |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 講義期間内の課題においては期間中に確認し対応する  |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材          | スポーツ栄養学<br>理論と実践 田口素子 編著<br>市村出版                                    |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書              | 授業時に紹介する  |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法         | 授業時の取り組み態度（40%）、レポート内容（30%）と提出状況（30%）で評価する。                         |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            |   |   |   | △  | ◎   | ○   |     | △   |
| 関連科目             | 応用栄養学、運動生理学   |   |   |  |     |     |     |     |
| その他              |   |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                    |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |   |   |   |  |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養教育論 I   |       |         |
| 科目分類   | 210-311-11 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Nutritional Education I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 上杉 幸世   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 上杉 幸世   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 栄養教育を行うためには、各種指針、法律や制度等を適切に活用する能力が不可欠です。今後、管理栄養士として活躍するために必要となる栄養教育の基礎知識の習得を目指します。      |       |         |
| 到達目標   | 管理栄養士として栄養教育を実施するために必要な指針や指導媒体について理解、説明ができるようになります。また、栄養関係の法規の概要を理解しその重要性を認識できるようになります。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスを読み確認しておくこと<br/> 授業：ガイダンス、食行動変容と管理栄養士の役割<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第2回】<br/> 予習：教科書のページを一読<br/> 授業：栄養教育の歴史（P272～278）、レポート課題①提示<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第3回】<br/> 予習：レポート課題①準備<br/> 授業：栄養教育の場「活躍する栄養士たち」（グループワーク）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第4回】<br/> 予習：プレゼンテーションの練習をしておく<br/> 授業：栄養教育の場「職域別管理栄養士の職務と役割」（プレゼンテーション）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第5回】<br/> 予習：教科書の該当ページを一読<br/> 授業：栄養教育の概念「目的、目標」（P3～5）（アクティブラーニング・ディスカッション）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教科書の該当ページを一読<br/> 授業：栄養教育と健康教育、わが国の健康問題他（P6～10）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第7回】<br/> 予習：教科書の該当ページを一読<br/> 授業：栄養教育の機会と対象「ライフステージ、健康状態」（P11）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第8回】<br/> 予習：教科書の該当ページを一読<br/> 授業：栄養教育の機会と対象「個人・組織・地域社会」（P12～13）<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> <p>【第9回】<br/> 予習：教科書の該当ページを一読<br/> 授業：栄養教育のための理論的基礎「日本人の食事摂取基準」（P14～27）<br/> レポート課題②提示<br/> 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする</p> |   |       |         |

- 【第10回】  
 予習：レポート課題②準備  
 授業：食環境づくりと栄養教育「食環境整備に関する施策、資源、ツール、取り組みの現状」（P73～77）（グループワーク、プレゼンテーション）  
 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする
- 【第11回】  
 予習：教科書の該当ページを一読  
 授業：栄養教育のためのツール-1「食品群、食事バランスガイド、食生活指針」（P279～281）、  
 レポート課題③提示  
 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする
- 【第12回】  
 予習：レポート課題準備  
 授業：栄養教育のためのツール-2「食品群、食事バランスガイドの活用」（アクティブラーニング）  
 次回の授業で使用する資料収集に関する説明  
 復習：レポート作成
- 【第13回】  
 予習：授業用資料の収集  
 授業：栄養情報のとらえ方（アクティブラーニング）  
 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする
- 【第14回】  
 予習：教科書のページと該当する配布資料を一読  
 授業：栄養教育と関係法規（P257～271）  
 復習：授業で提示したポイントを確認して不明な点を明らかにする
- 【第15回】  
 予習：1回～14回までの内容で不明な部分を再確認して整理しておく  
 授業：栄養教育と健康日本21（第2次）（P282～287）  
 復習：管理栄養士にとり栄養教育がなぜ必要なのかを自分なりに整理し「まとめ」を作成しておく。

|                  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|------------------|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 授業開始前学習          | 教科書を目を通しておいください。また、管理栄養士を目指したきっかけを思い出し、自分の管理栄養士像をイメージしてください。          |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | classroomにて提出とフィードバックをします   |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材          | 辻とみ子・堀田千津子編「新版ヘルス21 栄養教育・栄養指導論」（医歯薬出版株式会社）2,800円＋税                    |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書              | 授業内で紹介します   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法         | 授業参加状況（出席状況、授業参加態度）を踏まえ、レポートなどの提出物で50%（期限に遅れた場合は減点）、定期試験50%の配点で評価します。 |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                       |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当            |   |     | △   |     | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目             | 栄養教育論Ⅱ、栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ、栄養教育論実習Ⅱの基礎となる科目です。                            |     |   |     |   |     |  |     |
| その他              |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                        |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容    | 企業に管理栄養士として勤務した経験を活かして、管理栄養士の職務・役割と求められる資質や能力について講義します。               |     |   |     |   |     |  |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 栄養教育論Ⅱ   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Nutritional Education II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 大坂 裕子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 大坂 裕子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30   | 研究室   | 16-101  |
| 授業概要  | 授業の前半では栄養教育のための理論的基礎知識（行動科学理論及びモデル）を学ぶ。それを踏まえ、後半では栄養教育プログラムの目標設定や計画、実施、評価の一連の流れを解説する。授業では理解を深めるため、課題解決型学習に取り組む時間がある。 |       |         |
| 到達目標  | 行動科学の理論やモデルについて正確に説明できるようになる。また、学習した行動科学理論やモデルを用いて実際の栄養教育プログラムを構築し実践できる力を習得する。                                       |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |  |       |         |
| <p>*テキスト p28-54 及び p84-131 が授業の範囲である。<br/>* 授業欄に印（*）がある回の授業開始時に小テストを実施する。</p> <p>【第1回】<br/>予習：栄養教育論Ⅰで学んだ内容の確認<br/>授業：栄養教育論Ⅰの要点（栄養教育教材）確認<br/>復習：授業内容を復習する課題に取り組む</p> <p>【第2回】<br/>予習：テキスト p28-31 を一読<br/>授業：行動科学の理論とモデル（刺激－反応理論・ヘルスピーラモデル）（テキスト p28-34）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第3回】<br/>予習：テキスト p34-36 を一読<br/>授業：行動科学の理論とモデル（トランスセオレティカルモデル）（テキスト p34-36）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第4回】（*）<br/>予習：テキスト p36-38 を一読<br/>授業：行動科学の理論とモデル（計画的行動理論・社会的認知理論）（テキスト p36-38）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第5回】<br/>予習：テキスト p39-42 を一読<br/>授業：行動科学の理論とモデル（ソーシャルサポート・イノベーション普及理論）（テキスト p39-42）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第6回】（*）<br/>予習：テキスト p44-47 を一読<br/>授業：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル（プリシード・プロシードモデル・ソーシャルマーケティング）（テキスト p44-47）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第7回】<br/>予習：テキスト p47-48 を一読<br/>授業：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル（生態学的モデル）/ヘルスリテラシー（テキスト p47-48）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第8回】（*）<br/>予習：授業内配布資料やテキストの確認<br/>授業：行動科学変容技法と概念（テキスト p49-54）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第9回】<br/>予習：テキスト p84-101 を一読<br/>授業：栄養教育マネジメント（アセスメント）【課題解決型学習】（テキスト p84-97）<br/>復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第10回】（*）</p> |  |       |         |

|  |
|--|
| <p>予習 : テキスト p98-101 を一読<br/>         授業 : 栄養教育マネジメント (栄養教育の目標) 【課題解決型学習】 (テキスト p98-101)<br/>         復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第 11 回】<br/>         予習 : テキスト p102-108 を一読<br/>         授業 : 栄養教育プログラムの作成について【課題解決型学習】 (テキスト p102-108)<br/>         復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第 12 回】 (*)<br/>         予習 : テキスト p109-116 を一読<br/>         授業 : 学習形態の選択や教材について (テキスト p109-116)<br/>         復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第 13 回】<br/>         予習 : テキスト p120-125 を一読<br/>         授業 : 栄養教育マネジメント (栄養教育の評価) (テキスト p120-125)<br/>         復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第 14 回】 (*)<br/>         予習 : テキスト p98-131 を一読<br/>         授業 : 栄養教育プログラムの作成について (学習指導案) 【課題解決型学習】 (テキスト p98-131)<br/>         復習 : 授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習 : 第 2～14 回ノート見直し<br/>         授業 : 第 2 回～14 回までの総復習 (国家試験に向けたキーワードの確認)<br/>         復習 : 栄養教育論 II のキーワード整理</p> |
|--|

|                  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|------------------|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業開始前学習          | 授業前までに栄養教育論 I で学習したことを振り返っておくこと。                                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 授業内で取り組んだ課題は評価後授業内で返却する。小テストは授業内で解説する。                             |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材          | 辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス 21 栄養教育・指導論』(医歯薬出版)                              |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書              |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法         | 授業内での小テスト (6 回実施) …30% 提出課題…10% 定期試験…60%                           |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                    |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当            |  |     | △   |     | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目             | 「心理学」や「臨床心理学」で学習する内容は、管理栄養士として対象者にアプローチする方法 (特に行動科学理論) を学ぶ上で役立ちます。 |     |   |     |   |     |   |     |
| その他              |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容    | 栄養教育プログラム立案の講義においては、学生の理解が深まるよう栄養教育講座の講師経験を活かし授業を行う。               |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養教育論Ⅲ  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-13 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Nutritional EducationⅢ  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 大坂 裕子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 大坂 裕子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30                          | 研究室   | 16-101  |
| 授業概要   | この授業では、栄養カウンセリングやコーチングを学ぶことで栄養教育に必要なコミュニケーション力の向上を目指す。さらに、ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育に関しては、実践力の育成を目指す。   |       |         |
| 到達目標   | カウンセリングやコーチングの技法を学び、対象者に合わせた話し方を身につける。また、ライフステージやライフスタイルに合わせた栄養教育の方法を学び自ら考えることで栄養教育を実践できる能力を習得する。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキストp55-63を一読<br/> 授業：栄養カウンセリング①【実習】<br/> 復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：第1回授業内容の振り返り<br/> 授業：栄養カウンセリング②（テキストp55-63）<br/> 復習：栄養カウンセリングのキーワードの意味をまとめておく</p> <p>【第3回】<br/> 予習：配布資料を一読<br/> 授業：コーチング①【実習】<br/> 復習：授業で提示した今日のポイントを確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：配布資料を一読<br/> 授業：コーチング②【課題解決型学習】<br/> 復習：コーチングのキーワードの意味をまとめておく</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキストp65-71を一読<br/> 授業：組織づくり・地域づくりの展開・発展（テキストp65-71）<br/> 復習：授業内容に沿う具体的事例を探しまとめておく</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキストp73-77を一読<br/> 授業：食環境づくりと栄養教育（テキストp73-77）<br/> 復習：授業内容に沿う具体的事例を探しまとめておく</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキストp78-83を一読<br/> 授業：栄養教育の国際的動向（テキストp78-83）<br/> 復習：インターネットを用い、各国のフードガイドを調べてみる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキストp135-143を一読<br/> 授業：ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（妊娠・授乳期）（テキストp135-143）<br/> 復習：妊娠・授乳期の栄養指導内容をまとめておく</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキストp144-147を一読<br/> 授業：ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（乳児期）（テキストp144-147）<br/> 復習：乳児期の栄養指導内容をまとめておく</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキストp148-155を一読<br/> 授業：ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育（幼児期）（テキストp148-155）<br/> 復習：幼児期の栄養指導内容をまとめておく</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |  |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第 11 回】<br/>           予習 : テキスト p156-166 を一読<br/>           授業 : ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育 (学童・思春期) (テキスト p156-166)<br/>           復習 : 学童・思春期の栄養指導内容をまとめておく</p> <p>【第 12 回】<br/>           予習 : テキスト p167-179 を一読<br/>           授業 : ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育 (成人期) (テキスト p167-179)<br/>           復習 : 成人期の栄養指導内容をまとめておく</p> <p>【第 13 回】<br/>           予習 : テキスト p180-193 を一読<br/>           授業 : ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育 (高齢期) (テキスト p180-193)<br/>           復習 : 高齢期の栄養指導内容をまとめておく</p> <p>【第 14 回】<br/>           予習 : テキスト p203-215, 249-253 を一読<br/>           授業 : その他の栄養教育 (テキスト p203-215, 249-253)<br/>           復習 : 自分の将来に向けて調べたいことをまとめる</p> <p>【第 15 回】<br/>           予習 : 第 1 回から 15 回の授業内容の確認<br/>           授業 : 国家試験ガイドラインについて<br/>           復習 : 国家試験の過去問に取り組む</p> |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 課題及び復習ノートの振り返りは、classroom を通じて行う。<br>小テストは、授業内で解説する。        |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス 21 栄養教育・指導論』(医歯薬出版)                       |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | 授業内提出課題 10% 授業復習ノート 10% 授業内小テスト 20% 定期試験 60%                |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                             |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     | △   |     | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目   | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育では、「応用栄養学」で学んだ知識をもとに栄養教育の実際を学習する。       |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)          |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の実際の講義では、栄養教育講座の講師経験を活かしてより実践的な授業を展開する。 |     |   |     |   |     |  |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 栄養教育論実習 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-32 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Practice in Nutritional Education I  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 大坂 裕子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 大坂 裕子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30                               | 研究室   | 16-101  |
| 授業概要   | 対象者に適切な栄養教育を行うために必要な知識と技術を実習や演習を通じて学ぶ。特にこの授業では、①各種栄養アセスメント方法の習得②教材作成の技術の習得や対象者に合わせたプレゼンテーション技術の習得を目指す。 |       |         |
| 到達目標   | ①各種栄養アセスメント方法を実際に活用できるようになる。<br>②対象者に合わせた栄養教育を展開するための教材の作成技術やプレゼンテーション能力を身につける。                        |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：食品成分表及び食事摂取基準を一読。<br/> 授業：栄養アセスメントの方法の習得<br/> 栄養教育を実践するための基本的技術（栄養健康情報の収集とプレゼンテーション）の方法の習得<br/> 復習：授業で提示したポイントの確認と不明な点を整理する</p> <p>【第2回】<br/> 予習：配布プリントを一読し、身体計測に必要な事項を確認する<br/> 授業：栄養アセスメントの方法（身体計測）【実習】<br/> 復習：身体計測方法の確認</p> <p>【第3回】<br/> 予習：食事調査の実施<br/> 授業：食事調査の実際【実習】<br/> 復習：調査内容の確認と各調査方法の整理</p> <p>【第4回】<br/> 予習：栄養価計算ソフトの利用方法の確認<br/> 授業：食事調査の集計（栄養価計算）【実習】<br/> 復習：栄養素等摂取量の栄養価計算方法の確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：食事摂取基準及び食事バランスガイドの復習<br/> 授業：食事調査の評価（データシート作成）【実習】<br/> 復習：食事調査結果評価の確認</p> <p>【第6回】<br/> 予習：栄養や健康に関わるポスターやちらしの情報収集<br/> 授業：栄養教育啓発教材づくりの検討【課題解決型学習】<br/> 復習：選択したテーマ内容と授業で提示したポイントの確認</p> <p>【第7回】<br/> 予習：作成教材の下書き<br/> 授業：栄養教育啓発教材づくり【実習】<br/> 復習：選択したテーマ内容と授業で提示したポイントの確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：栄養教育論Ⅱで学んだ栄養教育プログラムの復習<br/> 授業：栄養教育計画作成【ディスカッション】<br/> 復習：授業で作成した学習指導案の再確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：栄養教育論Ⅱで学んだ学習指導案の復習<br/> 授業：栄養教育発表準備（シナリオ作成）【グループワーク】<br/> 復習：授業で提示したポイントの確認</p> <p>【第10回】<br/> 予習：インターネットを用いて食育教材を調べまとめる<br/> 授業：栄養教育発表準備（媒体作成）【グループワーク】</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 復習：授業で提示したポイントの確認<br><br>【第 11 回】<br>予習：教育媒体の種類の確認<br>授業：栄養教育発表準備（リハーサル）【グループワーク】<br>復習：授業で提示したポイントの確認<br><br>【第 12 回】<br>予習：発表準備（原稿や資料の確認）<br>授業：教育媒体を使用時のロールプレイによる栄養教育の実践【発表】<br>授業の振り返り（重要ポイントの確認）<br>復習：発表の振り返り及び授業内容の確認 |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 「食品成分表」「食事摂取基準」「三色食品群」「食事バランスガイド」について復習しておいてください。             |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 提出課題については、授業終了後コメントをつけて返却します。<br>プレゼン内容に関しては授業内でコメントします。      |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 『食事摂取基準 2020 年版』（第一出版），『日本食品標準成分表』（医歯薬出版）                     |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 調理のためのベーシックデータ  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 提出課題 70%、プレゼンテーション 30%  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                               |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目   | 「給食経営管理実習」で学ぶ行事食献立作成や「応用栄養学」で学ぶ食事摂取基準やライフステージ別栄養と関連付けて学んでほしい。 |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 栄養教育講座の講師の経験を、対象者への適切な栄養教育の在り方（教材選択やプレゼン方法）の講義に活かし授業を行う。      |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 栄養教育論実習Ⅱ  |       |         |
| 科目分類  | 210-311-33 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Nutritional Education II  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 大坂 裕子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 大坂 裕子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30  | 研究室   | 16-101  |
| 授業概要  | 栄養教育論の講義を踏まえ、対象者に適切な栄養教育を行うために必要な知識と技術を学ぶ。特にこの授業では、①栄養アセスメント方法の1つである質問紙調査について ②対象者に適した栄養教育の実際を学ぶ。すべての授業が「課題解決型学習」「グループワーク」「発表」「実習」のいずれかで行われる。 |       |         |
| 到達目標  | ①質問紙調査の計画から実施、評価に必要な能力を身につける。<br>②栄養教育に必要な媒体作成能力及びプレゼンテーション能力を高める。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| * 授業はすべて「課題解決型学習」「グループワーク」「発表」「実習」のいずれかによって行われる。  |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：栄養教育論実習Ⅰ（資料）の復習<br>授業：データ解析（パソコン演習）方法の習得<br>復習：データ解析方法の習得                           |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：食事摂取基準の復習<br>授業：集団の栄養素等摂取量アセスメント<br>復習：女子大生の栄養素等摂取状況の問題点をまとめる                       |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：新聞記事やインターネット記事の中で研究報告を探す<br>授業：先行研究の調べ方／研究倫理について<br>復習：先行研究を調べてまとめる                 |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：質問紙調査の計画の確認<br>授業：質問紙調査用紙の計画・作成<br>復習：作成した質問紙の確認                                    |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：Google フォームの利用方法の確認<br>授業：質問紙調査の作成・実施<br>復習：授業で提示したポイントの確認                          |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：図表作成のポイントの確認<br>授業：質問紙調査の集計・評価（統計処理，図表作成）<br>復習：報告会準備                               |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：論文の書き方の見直し<br>授業：質問紙調査のまとめ（報告会用資料作成，論文作成）<br>復習：報告会準備                               |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：報告会準備<br>授業：質問紙調査結果の報告会<br>復習：論文作成  |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：第2回のアセスメント結果及び質問紙調査結果より問題点抽出<br>授業：栄養教育の実際（計画）<br>復習：アセスメント情報からの問題点の抽出と計画・目標設定方法の整理 |   |       |         |

|   |   |   |            |     |   |     |  |     |
|---|---|---|------------|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第10回】<br/> 予習：教育媒体作成の方法の復習<br/> 授業：栄養教育の実際（教育媒体作成）<br/> 復習：授業で提示したポイントの確認</p> <p>【第11回】<br/> 予習：教育計画の見直し<br/> 授業：栄養教育の実際（教育の実践）<br/> 復習：実践内容の振り返り</p> <p>【第12回】<br/> 予習：評価方法について確認<br/> 授業：栄養教育の実際（評価）と授業の振り返り<br/> 復習：12回で行った授業内容の整理</p> |   |   |            |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 「食事摂取基準」について復習しておくこと。   |   |            |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 授業内で行う発表については、終了後授業内でコメントする。<br>提出物に関しては、評価をつけて授業終了後返却する。<br>確認テストは終了後解説する。 |   |            |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』（第一出版）  |   |            |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 必要に応じ授業内で紹介する   |   |            |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 課題取り組み状況（提出物）50%、課題取り組み状況（プレゼンテーション）20%、授業内課題テスト 30%                        |   |            |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   |   |   | △          |     | ◎                                       |     | ○  | ○   |
| 関連科目  |   |   |            |     |   |     |  |     |
| その他   |   |   |            |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |            |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 栄養教育講座の講師経験を媒体作成能力やプレゼンテーション能力の向上を目指す講義に活かしている。                             |   |            |     |   |     |  |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床栄養学概論  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Introduction to Clinical Nutrition   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 工藤 美香  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 工藤 美香  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10<br>後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 16-106  |
| 授業概要   | 臨床栄養学では、傷病者・要介護者の病態や栄養状態に基づいた総合的な栄養管理を理解する。<br>そこで臨床栄養学概論では、臨床栄養学の基礎である意義・目的を把握し、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養などの関係を理解したうえで、臨床栄養学に必要な傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスの手法を学ぶ。 |       |         |
| 到達目標   | 臨床栄養学の基礎である意義・目的を把握し、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養などの関係と臨床栄養学に必要な傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスの基本を理解できるようになる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキスト P1-P4 を熟読する<br/> 授業：臨床栄養学の意義と目的【テキスト P1-P4】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト P5-P12 を熟読する<br/> 授業：医療と臨床栄養【テキスト P5-P12】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト P13-P22 を熟読する<br/> 授業：福祉・介護と臨床栄養【テキスト P13-P22】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト P23-P29 を熟読する<br/> 授業：栄養ケアプロセス【テキスト P23-P29】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト P30-P34 を熟読する<br/> 授業：栄養スクリーニング・栄養アセスメント（問診、観察）【テキスト P30-P34】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト P35-P37 を熟読する<br/> 授業：栄養アセスメント（身体計測）【テキスト P35-P37】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト P38-P39 を熟読する<br/> 授業：栄養アセスメント（臨床検査）【テキスト P38-P39】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト P40-P43 を熟読する<br/> 授業：栄養アセスメント（栄養食事調査・栄養必要量の算定）【テキスト P40-P43】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト P43-P48 を熟読する<br/> 授業：栄養ケア計画と実施、栄養モニタリングと評価【P43-P48】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト P49-P51 を熟読する<br/> 授業：栄養ケアの記録【P49-P51】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト P53-P65 を熟読する<br/> 授業：栄養・食事療法、栄養補給法【テキスト P53-P65】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト P66-P72 を熟読する<br/> 授業：経腸栄養補給法と経静脈栄養補給法の実践【テキスト P66-P72】<br/> 復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> |  |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：テキストP73-P81を熟読する<br/>         授業：傷病者・要介護者への栄養教育【テキストP73-P81】<br/>         復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキストP82-P88を熟読する<br/>         授業：薬と栄養・食事の相互作用【テキストP82-P88】<br/>         復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキストP1-P104を熟読する<br/>         授業：第1回～第14回までのまとめ<br/>         復習：テキスト及び配布資料により復習する</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 事前学習・復習を行い、十分に理解した上で受講すること  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 課題の内容によるが、主として個別対応とする。また、全員が知っておくべき課題内容や質問等の場合には、授業で説明、講義を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第4版』（光生館）<br>「臨床栄養管理ポケット辞典 3訂」<br>このほかに適宜資料を配布する   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 小テスト及び提出物 20%，まとめ課題又はテスト 80%とし、総合的に評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目  | 解剖生理学、病理学、基礎栄養学など専門科目全般   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。<br>実際の症例をもとに傷病者・要介護者の栄養ケアプロセスについて学ぶ。<br>患者個々における栄養管理法を具体的に立案できるように治療食、経腸栄養剤、総合栄養食品の使い方などを学ぶ。さらに医療介護スタッフと連携して行う栄養管理について考える。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 臨床栄養管理論  |       |         |
| 科目分類  | 210-311-14 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Clinical Nutrition Management  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 西村 一弘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西村 一弘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10 | 研究室   | 16-105  |
| 授業概要  | 臨床栄養学の実践を講義と演習から学ぶ<br>講義の中で臨床栄養学に臨む姿勢も同時に学ぶ<br>病院や施設における実際の栄養管理業務を学ぶ     |       |         |
| 到達目標  | 臨床栄養学の知識を基に、臨床現場で行う臨床栄養管理の基礎を身につける。                                      |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：教科書と参考書を確認する<br/>授業：オリエンテーション、診療報酬・介護報酬制度（教科書 567-576）<br/>復習：診療報酬・介護報酬制度について復習する</p> <p>【第2回】<br/>予習：栄養評価と栄養補給を確認する<br/>授業：栄養評価と栄養補給について講義（教科書 577-596）<br/>復習：栄養評価と栄養補給の確認</p> <p>【第3回】<br/>予習：栄養記録と栄養障害・肥満を確認する<br/>授業：栄養記録と栄養障害・肥満について講義（教科書 597-604）<br/>復習：記録・栄養障害・肥満の確認</p> <p>【第4回】<br/>予習：糖尿病と脂質異常症を確認する<br/>授業：糖尿病と脂質異常症について演習（教科書 605-618）<br/>復習：糖尿病と脂質異常症の確認</p> <p>【第5回】<br/>予習：肝疾患と高血圧を確認する<br/>授業：肝疾患と高血圧について講義（教科書 619-645）<br/>復習：肝疾患と高血圧の確認</p> <p>【第6回】<br/>予習：腎疾患を確認する<br/>授業：腎疾患について演習（教科書 646-661）<br/>復習：腎疾患の確認</p> <p>【第7回】<br/>予習：特殊な疾患を確認する<br/>授業：特殊な疾患について講義（教科書 662-682）<br/>復習：特殊な疾患の確認</p> <p>【第8回】<br/>予習：検査値と疾患を確認する<br/>授業：検査値と疾患について講義（教科書 673-682）<br/>復習：検査値と疾患の確認</p> <p>【第9回】<br/>予習：くすりと疾患を確認する<br/>授業：くすりと疾患について演習（教科書 215-238）<br/>復習：くすりと疾患の確認</p> <p>【第10回】<br/>予習：栄養指導・医療安全・感染症対策を確認する<br/>授業：栄養指導・医療安全・感染症対策について講義（参考書 247-261）<br/>復習：栄養指導・医療安全・感染症対策の確認</p> <p>【第11回】<br/>予習：衛生管理・災害対策・指導力を確認する<br/>授業：衛生管理・災害対策・指導力について講義（参考書 262-275）<br/>復習：衛生管理・災害対策・指導力の確認</p> <p>【第12回】<br/>予習：栄養管理計画書・栄養補給法・医療連携・チーム医療を確認する<br/>授業：栄養管理計画書・栄養補給法・医療連携・チーム医療について演習（参考書 225-246）<br/>復習：栄養管理計画書・栄養補給法・医療連携・チーム医療の確認</p> <p>【第13回】</p> |  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 予習：事例検討の準備<br>授業：事例検討（肝疾患、脾疾患、消化器疾患）の演習（教科書・参考書）<br>復習：演習の振り返りを行う<br>【第 14 回】<br>予習：事例検討の準備<br>授業：事例検討（肥満、内分泌疾患、代謝疾患）の演習（教科書・参考書）<br>復習：演習の振り返りを行う<br>【第 15 回】<br>予習：事例検討の準備<br>授業：事例検討（腎・尿路疾患、循環器疾患）の演習（教科書・参考書）<br>復習：全体の振り返りを行う |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 臨床の教科書を読み、基本用語を予習する  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | レポート提出を課題として、採点した内容をフィードバックする  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 『クエスチョン・バンク 2022 第 17 版』（メディックメディア）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 『臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック』（東京医学）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | レポート 20%、授業内テスト 70%とし、授業態度 10%を含め総合的に評価する  |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目   | 臨床栄養学論、栄養食事療法実習、解剖生理学、生化学  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  | コミュニケーションの重要性についても学ぶ   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 病院、診療所、介護施設における栄養介入の経験を活かし、実際の患者を通じた事例をもとに講義や演習を行う。医師、看護師、薬剤師、セラピストなど多職種との連携についても伝える。地域包括ケアシステムを見据えて職域が異なる管理栄養士の同職種連携の実際を伝える |     |   |     |   |     |  |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 臨床栄養学 I  |       |         |
| 科目分類  | 210-311-13 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Clinical Nutrition I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 西村 一弘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西村 一弘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30<br>後期 月曜日 09:00~10:30 月曜日 10:40~12:10 | 研究室   | 16-105  |
| 授業概要  | 臨床栄養学の基本を講義と演習から学ぶ<br>講義の中で臨床栄養学に臨む姿勢も同時に学ぶ                              |       |         |
| 到達目標  | 臨床栄養学の専門用語を覚え、臨床栄養学の基礎を身につける。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：臨床栄養学の教科書を確認する<br/> 授業：オリエンテーション、栄養障害について講義（教科書 105-115）<br/> 復習：栄養障害について復習する</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：肥満と代謝疾患を確認する<br/> 授業：肥満と代謝疾患について講義（教科書 117-161）<br/> 復習：肥満と代謝疾患の確認</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：消化器疾患を確認する<br/> 授業：消化器疾患について講義（教科書 117-161）<br/> 復習：消化器疾患の確認</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：消化器疾患を確認する<br/> 授業：消化器疾患について演習（教科書 163-194）<br/> 復習：消化器疾患の確認</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：循環器疾患を確認する<br/> 授業：循環器疾患について講義（教科書 195-213）<br/> 復習：循環器疾患の確認</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：循環器疾患を確認する<br/> 授業：循環器疾患について演習（教科書 195-213）<br/> 復習：循環器疾患の確認</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：腎・尿路疾患を確認する<br/> 授業：腎・尿路疾患について講義（教科書 215-238）<br/> 復習：腎・尿路疾患の確認</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：腎・尿路疾患を確認する<br/> 授業：腎・尿路疾患について講義（教科書 215-238）<br/> 復習：腎・尿路疾患の確認</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：腎・尿路疾患を確認する<br/> 授業：腎・尿路疾患について演習（教科書 215-238）<br/> 復習：</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：内分泌疾患を確認する<br/> 授業：内分泌疾患について講義（教科書 239-243）<br/> 復習：内分泌疾患の確認</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：内分泌疾患を確認する<br/> 授業：内分泌疾患について講義（教科書 239-243）<br/> 復習：内分泌疾患の確認</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：内分泌疾患を確認する<br/> 授業：内分泌疾患について演習（教科書 239-243）<br/> 復習：内分泌疾患の確認</p> <p>【第 13 回】</p> |  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 予習：乳幼児・小児の疾患を確認する<br>授業：乳幼児・小児の疾患について講義と演習（教科書 371－383）<br>復習：乳幼児・小児の確認<br>【第 14 回】<br>予習：事例検討の準備<br>授業：肥満・代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患の演習<br>復習：演習の振り返りを行う<br>【第 15 回】<br>予習：事例検討の準備<br>授業：内分泌疾患、腎・尿路疾患の演習<br>復習：全体の振り返りを行う |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習  | 臨床の教科書を読み、基本用語を予習する  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | レポート提出を課題として、採点した内容をフィードバックする  |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材  | 『最新 臨床栄養学 第 3 版』（光生館）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書  | 『臨床栄養認定管理栄養士のためのガイドブック』（東京医学）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法   | レポート 20%、定期テスト 70%とし、授業態度 10%を含め総合的に評価する   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目   | 解剖生理学、生化学  |     |   |     |   |     |  |     |
| その他  | コミュニケーションの重要性についても学ぶ   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 病院、診療所、介護施設における栄養介入の経験を活かし、実際の患者を通じた事例をもとに講義や演習を行う。医師、看護師、薬剤師、セラピストなど多職種との連携についても伝える。地域包括ケアシステムを見据えて職域が異なる管理栄養士の同職種連携の実際を伝える |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床栄養学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-13 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Clinical Nutrition II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 工藤 美香   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 工藤 美香   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10<br>後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10  | 研究室   | 16-106  |
| 授業概要   | 各疾病に対する病態をはじめとする栄養素の体内代謝を踏まえ、栄養必要量の算出、栄養補給法の検討をはじめとする栄養管理計画を作成し、実施、評価を行い、臨床栄養教育の実施できる知識、技術を習得する。  |       |         |
| 到達目標   | 臨床栄養管理は、各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、栄養・食事療法により疾病の治癒促進や再発の予防を図ることである。また、栄養教育により自己管理能力を高めることである。栄養治療を適切に行うためには、栄養必要量の算出と栄養補給法の選択により栄養摂取を図ることである。栄養管理を行った行為は適切に記録に残すことが求められる。これらの内容を行うために必要な知識と技術を修得することを目標とする。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：栄養ケアプロセスの方法について確認する。<br/> 授業：栄養ケアプロセスの復習【P23～P72】<br/> 復習：教科書及び配布資料により栄養ケアプロセスの方法について復習する。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：国家試験の問題を確認する。<br/> 授業：国家試験問題に取り組む QB2024<br/> 復習：国家試験問題の解説を読み、復習する。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：糖尿病、要尿病性腎症の病態、治療栄養管理についてまとめておく。<br/> 授業：糖尿病、要尿病性腎症の復習（臨床栄養学実習Ⅱで実施する症例）【P103～P139, P223～P227】<br/> 復習：糖尿病、要尿病性腎症の病態、治療栄養管理について復習する。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：神経疾患、摂食障害【P245～P261】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：呼吸器疾患【P262～P274】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：高血圧、脂質異常症の病態、治療栄養管理についてまとめておく。<br/> 授業：高血圧、脂質異常症の復習（臨床栄養学実習Ⅱで実施する症例）【P103～P139, P185～P194】<br/> 復習：高血圧、脂質異常症の病態、治療栄養管理について復習する。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：血液系の疾患・病態【P275～P288】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：筋・骨格筋疾患、免疫・アレルギー疾患【P289～P314】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：感染症、癌【P315～P322】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：手術・周術期患者の管理、クリティカルケア【P333～P349】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する。<br/> 授業：摂食機能の障害【P385～P395】<br/> 復習：教科書及び配布資料により復習する。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：シラバスの内容をよく確認し予習する<br/> 授業：身体・知的障害、乳幼児・小児疾患【P350～P354 P366～P384】</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 復習：教科書及び配布資料により復習する<br>【第13回】<br>予習：シラバスの内容をよく確認し予習する<br>授業：妊産婦・授乳婦の疾患【P355～P365】<br>復習：教科書及び配布資料により復習する<br>【第14回】<br>予習：シラバスの内容をよく確認し予習する<br>授業：高齢者【P396～P411】<br>復習：教科書及び配布資料により復習する<br>【第15回】<br>予習：シラバスの内容をよく確認し予習する<br>授業：授業のまとめ<br>復習：教科書及び配布資料により復習する |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 教科書をよく読み、理解できなかつたところはポケット辞典等の参考資料で調べておく。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 課題の内容によるが、主として個別対応とする。また、全員が知っておくべき課題内容や質問等の場合には、授業で説明、講義を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第4版』（光生館）<br>『QB 管理栄養士 国家試験問題解説』（メディックメディア）<br>『臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社）<br>このほかに適宜資料を配布する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 小テスト及び提出物 40%，定期テスト 60%とし、総合的に評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △   |     |
| 関連科目   | 解剖生理学、病理学、基礎栄養学など専門科目全般  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。<br>医療現場において、患者の外来、入院から退院後における栄養管理は、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士など各分野の専門職からなる栄養サポートチーム（NST）で行う。<br>各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、多職種と連携して行う患者個々の栄養管理の手法を学ぶ。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 臨床栄養学実習 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-33 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Clinical Nutrition I  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 工藤 美香   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 工藤 美香   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 木曜日 14:40~16:10 金曜日 10:40~12:10<br>後期 火曜日 10:40~12:10 木曜日 14:40~16:10  | 研究室   | 16-106  |
| 授業概要  | 病院や介護保健施設で実際に行われる身体計測や臨床検査、臨床診査などのアセスメントや栄養補給、栄養教育、食事介助の実際について学び、病院での管理栄養士の役割について理解を深める。カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方まで幅広く学ぶ。また、栄養アセスメントで必要な身体計測、バイタルチェックなどを実践的に行い、データに基づく栄養管理計画を立案する。<br>また授業では、毎回ペアワークを行う。 |       |         |
| 到達目標  | 病院や介護保健施設で実際に行われる身体計測や臨床検査、臨床診査などのアセスメントや栄養補給、栄養教育、食事介助の実際について学び、病院での管理栄養士の役割について理解できる。カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方と栄養管理計画を立案できる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>授業の進め方<br/>1回 180分×12回</p> <p>【第1回】<br/>予習：臨床栄養学の教科書全般を熟読する<br/>授業：オリエンテーション 臨床栄養管理の意義、技術、診療記録の作成（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：外来カルテ、初診記録の英語で書かれた略語の意味を調べる</p> <p>【第2回】<br/>予習：自分自身の身体計測などの評価方法を検討しておく<br/>授業：身体計測（メタボリックアナライザー、体組成計）、バイタルチェック、血液生化学検査などによる栄養状態の評価を行う。第2回～第14回まで、身体計測およびバイタルチェックを行い、経過記録に記載しモニタリングを行う。（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：生化学・血液・免疫・一般検査の基準値、疾患名、正式名を覚える。個々の検査結果を評価する</p> <p>【第3回】<br/>予習：食事調査記録と一週間の食事内容を調べる<br/>授業：栄養管理システムの実際（患者管理、献立管理、24時間食事摂取量調査、必要栄養量の算定、栄養指導記録等）（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：栄養管理システムからプリントアウトした帳票の内容を復習する。</p> <p>【第4回】<br/>予習：栄養ケア・プロセスの方法を予習する。<br/>授業：栄養ケア・プロセスの手法を学ぶ（栄養診断） 症例を用いて栄養補給法の選択、アセスメントとプランを立案する。（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：栄養ケア・プロセスの方法を復習する。</p> <p>【第5回】<br/>予習：栄養ケア・プロセスの方法を予習する。<br/>授業：ケーススタディー① SGA（主観的包括的アセスメント） 事例を用いて学ぶ。（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：SGAの手法について復習する。</p> <p>【第6回】<br/>予習：栄養ケア・プロセスの方法を予習する。<br/>授業：ケーススタディー② ODA（客観的包括的アセスメント） 事例を用いて学ぶ。（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：ODAの手法について復習する。</p> <p>【第7回】<br/>予習：周術期の栄養管理について調べる。<br/>授業：外科手術と栄養管理について学ぶ（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：術後の栄養管理について復習する。</p> <p>【第8回】<br/>予習：経腸栄養剤の種類と利用方法を調べる<br/>授業：経腸栄養補給法の選択、手技（経腸栄養ポンプ、半固形栄養剤）、栄養剤の試飲、アセスメントとプラン、（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：最新の経腸栄養補給法の情報提供によるレポートを作成する</p> <p>【第9回】<br/>予習：経静脈栄養補給法の種類と利用方法を調べる<br/>授業：経静脈栄養補給法と選択、手技（輸液ポンプ）、アセスメントとプラン（ペアワーク及びグループワーク）<br/>復習：最新の経静脈栄養補給法の情報提供によるレポートを作成する</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第10回】<br/>         予習：嚥下機能評価と口腔ケアを実習するための資料を確認する<br/>         授業：嚥下機能評価と口腔ケアの手法、嚥下調整食（ペアワーク及びグループワーク）<br/>         復習：個々の実習した口腔ケア、嚥下機能評価を復習する。</p> <p>【第11回】<br/>         予習：要介護者の疑似体験を行うため、要介護者の特質を調べる。<br/>         授業：リハビリテーションと栄養、チーム医療、高齢者疑似体験（ペアワーク及びグループワーク）<br/>         復習：個々で体験した要介護者の評価と感想をまとめる。</p> <p>【第12回】<br/>         予習：これまでの学習内容について確認する。<br/>         授業：栄養管理の手法のまとめ（ペアワーク及びグループワーク）<br/>         復習：個々の栄養管理についてのレポートを作成</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 主にグループ作業なので、お互いに事前学習を行い、協力しながら実習・演習に臨むこと  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 提出した課題等は講評し、個別の質問回答する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 適宜、資料を配布する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 臨床栄養学実習 第3版【栄養科学シリーズNEXT】（講談社）<br>『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第4版』（光生館）<br>『臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 提出物(40%)・授業態度(20%)・まとめテスト(40%)を総合的に評価する   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目   | 臨床栄養学概論 臨床栄養学 臨床医学論 食介護論 栄養食事療法実習等専門科目全般  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。<br>学生同士がペアとなり、フィジカルアセスメントを行い、患者を『見る』『見る』『診る』力をつける。<br>カルテや臨床検査値の見方からベッドサイドで患者教育の仕方まで幅広く学ぶ。また、栄養アセスメントで必要な身体計測、バイタルチェックなどを実践的にを行い、データに基づく栄養管理計画を立案する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床栄養学実習Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-311-33 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Practice in Clinical Nutrition II  | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 工藤 美香  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 工藤 美香  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10<br>後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 16-106  |
| 授業概要   | <p>病者・要介護者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うための知識を習得する。栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、具体的な疾患ごとの栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、栄養補給、栄養教育、クリニカルパスの概念等について理解する。さらに臨床栄養学実習Ⅰで実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施する。</p> |       |         |
| 到達目標   | 臨床栄養学実習Ⅰで実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施し、臨地実習に活かすことができる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>授業の進め方<br/>1回 180分×12回</p> <p>【第1回】<br/>予習：臨床栄養学のテキスト全般を熟読する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント）<br/>傷病者のスクリーニング、アセスメント、栄養ケア計画、モニタリング、評価の復習、症例検討の方法について学ぶ。<br/>復習：グループにて症例検討、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第2回】<br/>予習：臨床栄養学のテキスト全般を熟読する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント）<br/>症例検討において、栄養ケアの記録及び情報提供の方法について学ぶ。<br/>復習：グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第3回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイングの準備 グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第4回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第5回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第6回】<br/>予習：対象症例の入院栄養管理の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第7回】<br/>予習：対象症例の入院栄養管理の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(外来) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第8回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第9回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第10回】<br/>予習：対象症例の外来栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。<br/>授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討(入院) グループワーク<br/>復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> |  |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第11回】<br/> 予習：対象症例の入院栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。<br/> 授業：栄養ケアプロセス（栄養ケア・マネジメント） ロールプレイング、症例検討（入院） グループワーク<br/> 復習：ロールプレイングの内容を復習する。グループにて症例検討し、ロールプレイングの準備を行う。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：対象症例の入院栄養管理（モニタリング）の方法の手順について確認する。<br/> 授業：ロールプレイングのまとめ（まとめテスト）<br/> 復習：全症例のまとめ</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 主にグループ作業なので、お互いに事前学習を行い、協力しながら実習・演習に臨むこと  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 提出した課題（SOAP など）等は講評し、個別の質問に回答する   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 適宜、資料を配布する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 臨床栄養学実習 第3版【栄養科学シリーズNEXT】（講談社）<br>『最新 臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 第4版』（光生館）<br>『臨床栄養管理ポケット辞典』（建帛社）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 提出物(40%)・授業態度(20%)・まとめテスト（40%）で総合的に評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目  | 臨床栄養学概論 臨床栄養学 臨床医学論 食介護論 栄養食事療法実習等専門科目全般  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。<br>栄養サポートチーム(NST)の専従メンバーとしての役割と栄養管理の実際を学ぶ。<br>さらに臨床栄養学実習 I で実践した経験をもとに疾患別栄養管理の症例検討とロールプレイングを実施し臨地実習に生かす。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 栄養食事療法実習 I   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-33 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Diet Therapy I   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 西村 一弘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西村 一弘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 10:40~12:10 火曜日 13:00~14:30<br>後期 月曜日 09:00~10:30 月曜日 10:40~12:10   | 研究室   | 16-105  |
| 授業概要  | 臨床における栄養食事療法の実際について、講義で修得した理論をもとに実践的に学ぶ。栄養食事療法が必要とされる主な疾患の治療食（一般治療食・特別治療食）については、食事形態や栄養成分別管理を中心に栄養治療計画に必要な献立作成、調理技法、さらには医療施設で採用されている治療食の展開の方法など栄養食事療法の実践における基礎知識と技術を習得する実習科目である。<br>授業は、グループワークが中心となる。 |       |         |
| 到達目標  | 栄養食事療法における適切な献立の提案を行うことが可能になる、知識と技術の習得を目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習： 栄養食事療法の重要性の確認<br/> 授業： オリエンテーション・食事記録とその評価<br/> 復習： 栄養食事療法の確認（教科書 1~25）</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習： 教科書の確認（教科書 1~43）<br/> 授業： 医療制度の変遷における栄養士・管理栄養士の役割、病院・施設の献立作成<br/> 復習： 食品成分表の確認（教科書 26~43）</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習： 糖尿病の病態を確認<br/> 授業： 糖尿病食品交換表を用いたエネルギーコントロール食への展開<br/> 復習： 糖尿病食品交換表の確認（教科書 122~145）</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習： 実習献立の確認<br/> 授業： [調理実習]エネルギーコントロール食<br/> 復習： 調理方法の確認</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習： 腎臓病食品交換表を読む<br/> 授業： 腎臓病食品交換表の使い方とたんぱく質コントロール食への展開<br/> 復習： 腎臓病食品交換表の確認</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習： 治療用特殊食品の確認<br/> 授業： たんぱく質調整米を用いたたんぱく質コントロール食の献立作成<br/> 復習： 作成した献立のレシピ確認（教科書 55~73）</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習： CKD の病態を確認<br/> 授業： たんぱく質調整パン・めんを用いたたんぱく質コントロール食の献立作成<br/> 復習： 作成したパン・めん献立のレシピ確認</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習： 実習献立の確認<br/> 授業： [調理実習]たんぱく質調整米を用いたたんぱく質コントロール食調理<br/> 復習： たんぱく質調整の調理方法の確認</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習： 実習献立の確認<br/> 授業： [調理実習] たんぱく質調整パン・めんを用いたたんぱく質コントロール食調理<br/> 復習： たんぱく質調整パン・めんの調理方法の確認</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習： 肝臓・胆嚢・膵臓疾患の病態を確認<br/> 授業： 脂質コントロール食への展開と実習用献立作成<br/> 復習： 食品成分表の確認（教科書 44~47）</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習： 実習献立の確認<br/> 授業： [調理実習]脂質コントロール食<br/> 復習： 脂質調整食の調理方法の確認</p> |  |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <b>【第 12 回】</b><br>予習 : 栄養食事療法<br>授業 : 栄養食事療法のまとめ、レポート作成<br>復習 : 教科書の確認 |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | この授業の準備としては、臨床栄養学ならびに栄養食事療法に関する科目の基礎知識をマスターしておくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 実習で作成した献立や料理、レシピを冊子として配布する  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | 長浜幸子他編『実践 臨床栄養学実習』（第一出版）  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | 鈴木吉知他監修『臨床栄養認定管理栄養士ガイドブック』（東京医学社）<br>『糖尿病食品交換表』（文光堂）、『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版）  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | 1.最終レポート 20 点 2.実習技術 50 点 3.授業態度 30 点による総合評価を行う。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   |   |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | ○   |  |
| 関連科目  | 臨床栄養学、献立作成  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   | 治療食献立に関する本を読む   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 病院と介護老人保健施設における 35 年以上の経験があり、入院・外来・在宅、個別・集団における栄養食事指導経験から、一人ひとりの患者に適合したおいしい治療食への展開のコツと、治療食を調理する際のコツを伝える。治療用特殊食品の活用方法も伝える。 |   |   |   |     |     |     |     |  |

|                     |   |       |         |
|---------------------|---|-------|---------|
| 科目名称                | 栄養食事療法実習Ⅱ   |       |         |
| 科目分類                | 210-311-33 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称                | Practice in Diet TherapyⅡ   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者               | 藤原 恵子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員                | 藤原 恵子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー             | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要                | 臨床における栄養食事療法の実際について、講義で習得した理論をもとに実践的に学ぶ。栄養食事療法が必要とされる主な疾患の治療食（一般治療食・特別治療食）については、食事形態や栄養成分管理を中心に栄養治療計画に必要な献立作成、調理技法、さらには医療施設で採用されている治療食の展開の方法など栄養食事療法の実際における基礎知識と技術を習得する科目である。授業は、グループワークが中心となる。   |       |         |
| 到達目標                | 栄養食事療法における適切な献立の提案を行うことが可能になる、知識と技術の習得を目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業      | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習） |   |       |         |
| 授業内容                | <p>【第1回】<br/> 予習：栄養食事療法の重要性の確認、糖尿病食品交換表の確認<br/> 授業：オリエンテーション、糖尿病食品交換表を用いたエネルギーコントロール食への展開（個人課題）<br/> 復習：栄養食事療法の確認（教科書 1～12）、糖尿病食品交換表の確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：嚥下調整食や一般常食から分粥食について確認（教科書 13～25、112～166）<br/> 授業：嚥下調整食、一般常食から分粥食、特別治療食への展開食についての講義<br/> グループワークによる献立作成①展開食（エネルギーコントロール食）<br/> 復習：介護食の調理方法確認（教科書 112～121）</p> <p>【第3回】<br/> 予習：たんぱく質コントロール食について確認（教科書 55～71、139～142）<br/> 授業：グループワークによる献立作成②展開食（たんぱく質コントロール食）<br/> 復習：たんぱく質コントロール食の献立作成について確認（教科書 55～71）</p> <p>【第4回】<br/> 予習：実習献立の確認<br/> 授業：【調理実習①】展開食（エネルギーコントロール食）<br/> 復習：調理方法の確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：実習献立の確認<br/> 授業：【調理実習②】展開食（たんぱく質コントロール食）<br/> 復習：調理方法の確認</p> <p>【第6回】<br/> 予習：脂質コントロール食について確認（教科書 75～84、142～144）<br/> 授業：グループワークによる献立作成③展開食（脂質コントロール食）<br/> 復習：脂質コントロール食の献立作成について確認（教科書 75～84）</p> <p>【第7回】<br/> 予習：治療食、介護食について確認（教科書 30-109、112～119）<br/> 授業：地域ケア会議について、事例についての講義<br/> グループワークによる地域ケア会議を想定した事例検討、発表<br/> 復習：事例検討内容の確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：実習献立の確認<br/> 授業：【調理実習③】展開食（脂質コントロール食）<br/> 復習：調理方法の確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：五分粥、嚥下調整食について確認（教科書 21-25、113-119、134-137）<br/> 授業：【調理実習④、五分粥食、嚥下調整食への展開食、献立についての講義】<br/> 展開食の献立説明と実習（五分粥食、嚥下調整食）、水分のとり方について説明と実習<br/> 復習：調理方法の確認</p> <p>【第10回】<br/> 予習：これまでの実習内容の振り返り、発表内容の確認<br/> 授業：グループでのこれまでの調理実習内容のまとめ発表<br/> 復習：展開食の 献立作成、調理方法の確認</p> |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>【第11回】<br/>         予習：メタボリックシンドローム、糖尿病、腎臓病、高血圧（減塩食）、貧血について食事療法の確認（教科書 26～84）<br/>         授業：グループワークによる集団栄養食事指導の指導内容の検討や媒体作成<br/>         復習：栄養食事療法の確認（教科書 26～84）</p> <p>【第12回】<br/>         予習：発表内容の確認<br/>         授業：グループでの集団栄養食事指導演習<br/>         復習：栄養食事療法の確認（教科書 26～84）</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | 臨床栄養学ならびに栄養食事療法に関する科目の基礎知識をマスターしておくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 実習で作成した献立や料理、レシピを配布する。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長浜幸子他編『実践 臨床栄養学実習』（第一出版）</li> <li>・『糖尿病食品交換表』（光文堂）</li> <li>・日本食品成分表（八訂）</li> </ul> |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | 授業の中で随時紹介する。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | 1.最終レポート 20点 2.実習技術 30点 3.授業態度 50点 による総合評価を行う。  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   |   |   | △                                       |   | ◎   |     | ○   | ○   |  |
| 関連科目  | 臨床栄養学   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 45 時間  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 病院管理栄養士の実務経験を活かして実習を行う。   |   |   |   |     |     |     |     |  |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 公衆栄養学 I   |       |         |
| 科目分類   | 210-311-13 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Public Health Nutrition I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 井上 浩一   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 井上 浩一   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 09:00～12:00<br>後期 月曜日 09:00～12:00  | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要   | 公衆栄養学の目的や概念を理解し、国や地域、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題に関する動向とそれらに対応した栄養政策について習得する。また国や地域、および諸外国の健康づくりとしたヘルスプロモーションのための公衆栄養活動について学ぶ。 |       |         |
| 到達目標   | 教科書とは別に、簡潔に要点をまとめた整理ノートを作成し、予習・復習に使えるようにし、その週に最低限理解しておくべき内容を理解する。理解しているのかどうかの確認は3回の確認テストでその状況を把握する。                 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 1-4）<br/> 授業：公衆栄養学の概念・意義目的（p1-4）<br/> 復習：公衆栄養学の概念・意義目的理解とポイント確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 8-16）<br/> 授業：公衆栄養活動の視点・少子高齢化疾病予防地域づくり等（p8-16）<br/> 復習：公衆栄養活動の視点理解とポイント確認</p> <p>【第3回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 5-7）<br/> 授業：公衆栄養活動の歴史（p 5-7）<br/> 復習：公衆栄養活動の歴史理解とポイント確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 63-66）<br/> 授業：栄養士制度の変遷・現状・課題と方向性、職業倫理＞（p 63-66）<br/> 復習：栄養士制度の変遷・現状・課題と方向性、職業倫理の再確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：確認テスト＜第1回～第4回までの理解度確認＞（p 1-16、p 63-66）<br/> 授業：確認テスト（p1-16、p63-66）<br/> 復習：第1回～第4回までの確認テストでできなかったところを再確認する</p> <p>【第6回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 17-30）<br/> 授業：健康・栄養問題の現状と課題（p17-30）<br/> 復習：疾病構造と健康問題の現状と課題の再確認</p> <p>【第7回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 30-37）<br/> 授業：食生活・環境の推移と現状①（p30-37）<br/> 復習：食生活の推移と現状の再確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 37-44）<br/> 授業：食生活・環境の推移と現状②（p37-44）<br/> 復習：食環境の推移と現状の再確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 44-48）<br/> 授業：食生活・環境の推移と現状③（p44-48）<br/> 復習：食料需給表による食生活の推移と現状の再確認</p> <p>【第10回】<br/> 予習：確認テストまとめ準備と講義範囲確認（p 17-48）<br/> 授業：確認テスト（p17-48）<br/> 復習：第6回～第9回までの確認テストでできなかったところを再確認する</p> <p>【第11回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 49-55）<br/> 授業：栄養政策①＜公衆活動と組織・役割＞（p 49-55）<br/> 復習：法体系・組織体制・活動内容の再確認</p> <p>【第12回】<br/> 予習：講義範囲確認（p 56-63）<br/> 授業：栄養政策②＜栄養政策と関係法規＞（p56-63）<br/> 復習：栄養政策に関連する法規の再確認</p> |   |       |         |

|   |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>【第 13 回】<br/> 予習 : 講義範囲確認 (p 66-70)<br/> 授業 : 栄養政策③ &lt;国民健康・調査の実施内容&gt; (p66-70)<br/> 復習 : 国民健康栄養調査の実施方法・組織の再確認</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : 講義範囲確認 (p 77-81)<br/> 授業 : 栄養政策④ &lt;特定給食施設の指導方法・内容&gt; (p77-81)<br/> 復習 : 特定給食施設の指導方法・内容・法規の確認</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : 1 週前に事前に配布する最終テスト用資料を用いて準備 (p 1-70、p 77-81)<br/> 授業 : まとめテスト (p 1-82)<br/> 復習 : : まとめテスト結果において間違ったところを再確認</p> |   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習   | あなたの地域の保健所、保健センターの場所の確認とどんな事を行っているところか確認しておく。公衆栄養は国、都道府県、市町村が行っている健康づくりについて栄養面を中心に学ぶ。                                       |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 確認テストにおいて、どれだけ授業内容を理解しているのか確認し、理解が不足している授業内容については、再度時間を設け追加授業を行う。   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材   | 井上浩一、小林実夏他著『N ブックス 公衆栄養学』（建帛社）  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 参考書   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・井上浩一、草間かおる、村山伸子著 『サクセス管理栄養士講座（第一出版）』</li> <li>・厚生労働省編『国民健康・栄養調査報告』（第一出版）</li> </ul> |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法  | 3 回の確認テストにより 7 割、課題提出 2 割、授業態度 1 割をもって単位を認定する。確認テストでは 1 週前に事前に出題する関連資料を配布することから、再試は実施しない。                                   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当   |   |   |   | △   | ◎   | ○   | △   |     |  |
| 関連科目  | 公衆衛生学、栄養教育論、地域栄養活動論   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| その他   | 公衆栄養学は実践的な科目です。集団の健康・栄養改善のために社会の中でどんな取り組みが行われているのか、関心を持ってみるようにする。学生の理解状況によって授業を変更することもある。                                   |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |   |   |   |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした教育内容   | 行政機関（国、県、保健所）の経験あり<br>特に保健医療、食品保健分野についても課題、計画、実践について講義する。   |   |   |   |     |     |     |     |  |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 公衆栄養学Ⅱ   |       |         |
| 科目分類   | 210-311-13 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Public Health Nutrition II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 井上 浩一  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 井上 浩一  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 09:00～12:00<br>後期 月曜日 09:00～12:00   | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要   | 公衆栄養活動は多くの理論、科学的根拠に基づいて行われている。国や地域、職域などにおける健康・栄養問題とその規定要因、当事者のニーズを把握し、地域社会や組織で目標達成のための、より効果的・効率的な公衆栄養プログラムを計画、実施、評価する公衆栄養マネジメントの理論と手法について習得する。また栄養疫学で地域栄養アセスメントに必要なの食事摂取量の測定方法、評価方法について学ぶ。 |       |         |
| 到達目標   | 教科書とは別に、簡潔に要点をまとめた整理ノートを作成し、予習・復習に使えるようにし、その週に最低限理解しておくべき内容を理解する。<br>理解しているかどうかの確認は3回の小テストでその状況を把握する。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：授業範囲確認（p 159-167）<br/>授業：公衆栄養マネジメントと公衆栄養アセスメント（p 159-167）<br/>復習：該当ページの教科書を再確認</p> <p>【第2回】<br/>予習：授業範囲確認（p 118-128）<br/>授業：公衆栄養アセスメント（p 159-167）と食事摂取基準使用に当たっての基本的考え方（p 118-128）<br/>復習：食事摂取基準の活用にあつたての基本的再確認</p> <p>【第3回】<br/>予習：授業範囲確認（p 118-128）<br/>授業：集団における食事摂取基準の実践と運用（p118-128）<br/>復習：食事摂取基準の活用のあり方の再確認</p> <p>【第4回】<br/>予習：授業範囲確認（p 129-158）<br/>授業：栄養疫学の考え方と解釈①（疫学の基本、抽出法、誤差、妥当性等）（p 129-158）<br/>復習：栄養疫学の概要・方法の再確認</p> <p>【第5回】<br/>予習：授業範囲確認（p 129-158）<br/>授業：栄養疫学の考え方・解釈②（食事調査法、評価法）（p129-158）<br/>復習：栄養調査・栄養アセスメントの再確認</p> <p>【第6回】<br/>予習：授業範囲確認（p 129-158）<br/>授業：栄養疫学の考え方・解釈③（関連問題と解釈・栄養疫学のまとめ）（p129-158）<br/>復習：食事摂取基準、エネルギー調整、食事調査法の再確認</p> <p>【第7回】<br/>予習：確認テスト&lt;第1回～第6回までの理解度確認&gt;（p 118-158）<br/>授業：確認テスト（栄養マネジメントとアセスメント、栄養疫学）<br/>復習：第1回から第5回までの確認テストでできなかったところの再確認</p> <p>【第8回】<br/>予習：授業範囲確認（p 82-92）<br/>授業：健康・食育対策と地方計画①（健康増進対策）（p82～92）<br/>復習：健康増進計画とその目標の再確認</p> <p>【第9回】<br/>予習：授業範囲確認（p 93-102）<br/>授業：健康・食育対策と地方計画②（食育対策）（p93～102）<br/>復習：食育推進計画とその目標の再確認</p> <p>【第10回】<br/>予習：授業範囲確認（p 103-109）<br/>授業：世界の健康栄養問題の実態と施策①（p103-109）<br/>復習：諸外国の栄養問題の現状と課題の再確認</p> <p>【第11回】<br/>予習：授業範囲確認（p 103-109）<br/>授業：世界の健康栄養問題の実態と施策②（p110-117）<br/>復習：国際的な栄養行政組織、公衆栄養関連計画の再確認</p> <p>【第12回】<br/>予習：確認テストの準備（p93-117）</p> |  |       |         |

|  |  |   |   |  |     |     |     |     |  |
|--|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|--|
| <p>授業：確認テスト（健康・食育対策と世界の健康栄養問題・行政組織）<br/> 復習：第 8 回から第 11 回までの確認テストでできなかったところの再確認<br/> 【第 12 回】<br/> 予習：授業範囲確認（p 167-183）<br/> 授業：地域診断と公衆栄養マネジメント①&lt;アセスメント・目標設定&gt;（p167～183）<br/> 復習：マネジメントの考え方と栄養アセスメント、目標設定の再確認<br/> 【第 13 回】<br/> 予習：授業範囲確認（p 167-183）<br/> 授業：地域診断と公衆栄養マネジメント②&lt;計画・実施と評価&gt;（p167-183）<br/> 復習：公衆栄養施策プログラムの計画・実施・評価の再確認<br/> 【第 14 回】<br/> 予習：授業範囲確認（p 184-212）<br/> 授業：地域診断と公衆栄養マネジメント③&lt;各種事業の展開&gt;（p184-212）<br/> 復習：公衆栄養施策プログラムの展開の再確認<br/> 【第 15 回】<br/> 予習：最終まとめテストの準備（教科書全範囲）<br/> 授業：最終まとめテスト<br/> 復習：全般の内容確認</p> |  |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 授業開始前学習  | マネジメント、また P D C A マネジメントについて基本的知識を学習しおくと授業が理解しやすい。   |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 確認テストにおいて、どれだけ授業内容を理解しているか、理解が不足している授業内容については、再度、時間を設け追加授業行う。  |   |   |  |     |     |     |     |  |
| テキスト・教材  | 井上浩一、小林果夏他著『公衆栄養学』（建帛社）  |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 参考書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>井上浩一、草間かおる、村山伸子著『サクセス管理栄養士講座』（第一出版）</li> <li>厚生労働省編『国民健康・栄養調査報告』（第一出版）</li> </ul> |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 評価の基準と方法   | 3 回の確認テストにより 7 割、課題提出 2 割、授業態度 1 割をもって単位を認定する。確認テストでは 1 週前に事前に出題する関連資料を配布することから、再試は実施しない。                                |   |   |  |     |     |     |     |  |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |  |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |  |
| 科目の該当  |  |   |   | △  | ◎   | ○   | △   |     |  |
| 関連科目   | 公衆栄養 I の理解を前提にして、また公衆衛生の授業内容も考慮しながら授業を行う。  |   |   |  |     |     |     |     |  |
| その他  | 公衆栄養学は実践的な科目である。主体的に取り組み、論理的に考える能力を高める。また、社会の中の様々な栄養情報にも関心を持ち、学んだことを活かして批判的に見る目を養うこと。学生の理解状況によって授業を変更することがある。            |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |   |   |  |     |     |     |     |  |
| 実務経験を活かした教育内容  | 行政機関（国、県、保健所）の経験あり<br>特に保健医療、食品保健分野については課題、計画、実践について講義する。  |   |   |  |     |     |     |     |  |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 公衆栄養学実習   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-33 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Practice in Public Health Nutrition   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者   | 井上 浩一   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 井上 浩一   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 09:00～12:00<br>後期 月曜日 09:00～12:00  | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要  | 公衆栄養活動には、その活動に必要な理論と方法の修得に加え、適切な公衆栄養活動計画の提供と展開のマネジメント能力が求められる。このことから、本授業では地域社会の実態把握から地域診断、計画作成・実施・評価を適切に行える公衆栄養マネジメント能力を実習・演習により修得する。 |       |         |
| 到達目標  | 地域の実態把握を把握し、そのアセスメント結果をもとに目標を立て、計画づくり、事業内容の組立、事業の評価（統計解析）までをできるようにすることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| 第1 2回においては、アクティブラーニングとして、前述の内容を特定の地方公共団体の既存データをもとに、グループにおいてまとめ、その内容をプレゼンテーションし、学生、一般住民、専門家等で評価する。                                       |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：公衆栄養Ⅱで学んだ公衆栄養マネジメント、プリシード・プロシードモデルについての理解（p 1～3）<br>授業：実習の進め方に関するオリエンテーション、住民参加型の計画策定ツールについて<br>復習：住民参加型の計画策定ツールの理解とポイントの確認 |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 3～6）<br>授業：自治体の公衆栄養活動計画を策定するに当たっての基本について<br>復習：自治体の公衆栄養活動計画の理解とポイントの確認                             |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 7～10）<br>授業：既存資料、アンケート調査などからの課題抽出とアセスメントについて<br>復習：既存資料、アンケート調査などからの課題抽出の理解とポイントの確認                |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 10～14）<br>授業：アンケート調査の設計方法と留意点<br>復習：アンケート調査の設計方法と留意点の理解とポイントの確認                                    |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：第1回～第4回までの確認テストの準備<br>授業：確認テスト（マネジメント・情報収集・課題の明確化・アンケート調査設計）<br>復習：確認テストにおいてできなかったところの再確認                                   |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 15～18）<br>授業：事業の実施計画と予算の組み立て方について<br>復習：予算の組み立て方の再確認   |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 19～27）<br>授業：統計データの算出と解析・統計処理①（修正・置換・チェック）<br>復習：食物摂取状況等のデータ算出と解析・統計処理の理解とポイントの再確認                 |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 19～27）<br>授業：統計データの算出と解析・統計処理②（入力方法・相関・回帰分析）<br>復習：食物摂取状況等のデータ算出と解析・統計処理の理解とポイントの再確認               |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：授業予定箇所について、「公衆栄養学実習」で確認（p 19～27）<br>授業：統計データの算出と解析・統計処理③（ピボットテーブル）<br>復習：食物摂取状況等のデータ算出と解析・統計処理の理解とポイントの再確認                  |   |       |         |
| 【第10回】<br>予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p 19～27）<br>授業：統計データの算出と解析・統計処理④（検定・相対危険・寄与危険）<br>復習：食物摂取状況等のデータ算出と解析・統計処理の理解とポイントの再確認              |   |       |         |
| 【第11回】<br>予習：第6回～第10回までの確認テストの準備<br>授業：確認テスト（統計処理全般）<br>復習：確認テストにおいてできなかったところの再確認   |   |       |         |

|  |   |   |            |     |   |  |     |     |
|--|---|---|------------|-----|---|--|-----|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：授業予定箇所について「公衆栄養学実習」で確認（p58～75）<br/> 授業：地域健康・栄養活動の評価とプレゼンテーション準備・発表<br/> 復習：既存データに基づくプレゼンテーション資料の確認</p> <p>【第13回】<br/> 実習予備日①（実習の進み具合、理解度によって追加授業・演習）</p> <p>【第14回】<br/> 実習予備日②（実習の進み具合、理解度によって追加授業・演習）</p> <p>【第15回】<br/> 実習予備日③（実習の進み具合、理解度によって追加授業・演習）</p> |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業開始前学習  | 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、特に公衆栄養学Ⅱで学んだ公衆栄養マネジメント、PDCAマネジメントサイクル、栄養疫学、食事摂取量の測定の方法、評価方法について復習、理解しておく。          |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | レポートについては問題場所を指摘し、再提出させる。<br>確認テストの結果で悪い場合には、再度、テストし、できるまで繰り返す。                             |   |            |     |   |  |     |     |
| テキスト・教材  | 井上浩一、川野因他著『公衆栄養学実習』（建帛社）<br>必要に応じて関連資料を配布します。   |   |            |     |   |  |     |     |
| 参考書  | 厚生労働省編『国民健康・栄養調査報告』（第一出版）<br>人口動態統計、人口静態統計、患者調査、国民生活基礎調査等の統計資料                              |   |            |     |   |  |     |     |
| 評価の基準と方法   | 確認テスト2回で8割、学生全員で評価するプレゼンテーション点数で1割、授業態度で1割をもとに評価し、6割以上をもって評価する。6割取れない者には、時間外で再試する。          |   |            |     |   |  |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力  | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |   |   | △          |     | ◎                                       |  | ○   | ○   |
| 関連科目   | 公衆栄養学Ⅰ・Ⅱでの学びを基本にして、また公衆衛生の授業内容を考慮しながら授業を行います  |   |            |     |   |  |     |     |
| その他  | 参加・体験型、また1回からの積み重ねによる実習です。前回までの確認をしながら主体的に、積極的に取り組むこと。実習内容によっては各メンバーの協力・協働によるグループワークである。    |   |            |     |   |  |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 45 時間  |   |            |     |   |  |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 行政機関（国、県、保健所）の経験あり。<br>特に保健医療分野の課題、計画、実践に関する講義・実習・演習を行う他、エクセル統計や統計解析ソフトを用いて統計データの解析・評価方法を学ぶ |   |            |     |   |  |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称                                       | 給食経営管理論 I   |       |         |
| 科目分類                                       | 210-311-12  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称                                       | Theory of Food Service Management I   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者                                      | 土岐田 佳子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員                                       | 土岐田 佳子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー                                    | 前期 月曜日 14:40～17:50<br>後期 金曜日 14:40～17:50  | 研究室   | 16-109  |
| 授業概要                                       | 給食経営管理論 I の講義では、基礎として、給食経営管理の意義や概要を理解し、給食運営に必要な栄養・食事管理、食材管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理等、給食経営の実務及び給食計画について学ぶ。  |       |         |
| 到達目標                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定給食施設における管理栄養士・栄養士の役割と業務内容を説明できるようになる。</li> <li>・喫食者に適した栄養・食事計画を立て、献立を作成できるようになる。</li> <li>・大量調理の特性を踏まえた生産管理ができるようになる。</li> <li>・大量調理における安全・衛生対策を身につける。</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業                             | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）                        |   |       |         |
| 【第 1 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書を一読する                                |   |       |         |
| 授業：給食経営管理論のオリエンテーション、給食の概念①（給食の定義、集団給食の歴史） |   |       |         |
| 復習：給食の定義についての確認                            |   |       |         |
| 【第 2 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 7～10                              |   |       |         |
| 授業：給食の概念②（給食経営管理に係る関係法規）                   |   |       |         |
| 復習：健康増進法の確認                                |   |       |         |
| 【第 3 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 11～18                             |   |       |         |
| 授業：給食の概念③（特定給食施設の特徴と管理栄養士・栄養士の業務と役割）       |   |       |         |
| 復習：各施設における管理栄養士の業務内容の確認                    |   |       |         |
| 【第 4 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 47～59                             |   |       |         |
| 授業：給食の栄養・食事管理①（施設別栄養・食事計画の立案）              |   |       |         |
| 復習：栄養・食事管理におけるアセスメント方法の確認                  |   |       |         |
| 【第 5 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 60～68                             |   |       |         |
| 授業：給食の栄養・食事管理②（食事計画の実施・評価・改善）              |   |       |         |
| 復習：PDCA サイクルの確認                            |   |       |         |
| 【第 6 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 91～98                             |   |       |         |
| 授業：給食の生産管理①（生産管理における食材料管理）                 |   |       |         |
| 復習：食材の購入方法、保管・在庫管理方法の確認                    |   |       |         |
| 【第 7 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 99～110                            |   |       |         |
| 授業：給食の生産管理②（生産管理における調理管理）                  |   |       |         |
| 復習：調理システムの確認                               |   |       |         |
| 【第 8 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 111～117                           |   |       |         |
| 授業：給食の安全・衛生管理①（安全・衛生管理の意義と目的、給食と食中毒・感染症）   |   |       |         |
| 復習：食中毒菌の特徴と予防法の確認                          |   |       |         |
| 【第 9 回】                                    |   |       |         |
| 予習：教科書 p 118～124                           |   |       |         |
| 授業：給食の安全・衛生管理②（施設・設備の保守と安全・衛生管理、危機管理対策）    |   |       |         |
| 復習：危機管理対策の確認                               |   |       |         |
| 【第 10 回】                                   |   |       |         |
| 予習：教科書 p 125～133                           |   |       |         |
| 授業：給食の安全・衛生管理③（HACCP と大量調理施設衛生管理マニュアル）     |   |       |         |
| 復習：大量調理施設衛生管理マニュアルの確認                      |   |       |         |
| 【第 11 回】                                   |   |       |         |
| 予習：教科書 p 111～133                           |   |       |         |
| 授業：給食の安全・衛生管理④（安全・衛生管理のまとめ）                |   |       |         |
| 復習：大量調理施設衛生管理マニュアルの確認                      |   |       |         |
| 【第 12 回】                                   |   |       |         |
| 予習：教科書 p 149～155                           |   |       |         |
| 授業：給食の施設・設備管理①（施設・設備の関連法規、作業区域の区分）         |   |       |         |
| 復習：作業区域の区分の確認                              |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：教科書 p156～164<br/> 授業：給食の施設・設備管理②（大量調理機器の種類と特徴、食事環境の設計）<br/> 復習：大量調理機器の種類と特徴の確認</p> <p>【第14回】<br/> 予習：教科書 p69～75、p85～90<br/> 授業：給食における品質管理、情報・事務管理（給食経営管理における品質管理、事務管理）<br/> 復習：品質管理方法の確認</p> <p>【第15回】<br/> 予習：教科書を一読する<br/> 授業：栄養・食事管理から品質管理までの給食経営管理業務の一連の流れを確認する（給食経営管理論Ⅰのまとめ）<br/> 復習：前期授業の確認と整理</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 特定給食施設の種類や特徴について調べておくが良い。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 講義内容について個別の質問に対し、随時回答する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮原公子・細山田洋子編『給食経営管理論 給食のマネジメントを総合的に理解するために』（化学同人）</li> <li>・片山尚美・原正美編『給食経営管理論』（みらい）</li> </ul> |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 給食経営管理用語辞典：日本給食経営管理学会（第一出版）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 授業態度（10%）、小テスト（30%）、定期試験（60%）   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 「給食経営管理論Ⅱ」の内容を理解するうえで重要な科目である。また、「給食経営管理実習」、「臨地実習」の基礎となる科目でもあるため、内容を十分に理解する必要がある。   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 給食経営管理論Ⅱ   |       |         |
| 科目分類  | 210-311-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Theory of Food Service Management II   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 土岐田 佳子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 土岐田 佳子・西村 一弘   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -  | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 給食経営管理論Ⅱでは、給食経営管理論Ⅰで学習した栄養・食事管理、生産管理、安全・衛生管理、施設・設備管理を踏まえ、給食運営に必要な経営管理について学ぶ。給食の運営や経営に関わる組織、会計・原価管理、マーケティングの手法について理解を深め、効率的かつ安全に運営するための給食経営管理全般のマネジメント能力を養う。また、特論として、各特定給食施設の特徴と管理栄養士の役割や業務内容についても学習する。 |       |         |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>給食経営管理を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面を考慮した給食マネジメント能力を身につける。</li> <li>各特定給食施設の特徴、管理栄養士の役割について説明できるようになる。</li> </ul>   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：教科書 p135～148<br/> 授業：給食の危機管理（事故発生時の対応、災害時の給食の役割と対策）<br/> 復習：災害時の対応方法の確認</p> <p>【第2回】<br/> 予習：教科書 p19～24<br/> 授業：給食の経営管理①（経営と組織）<br/> 復習：経営管理の機能と組織の確認</p> <p>【第3回】<br/> 予習：教科書 p25～37<br/> 授業：給食の経営管理②（給食とマーケティング）<br/> 復習：マーケティング手法の確認</p> <p>【第4回】<br/> 予習：教科書 p39～41<br/> 授業：給食の人事、組織管理①（人事管理と人事考課）<br/> 復習：人事管理の確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：教科書 p42～46<br/> 授業：給食の人事、組織管理②（組織構造）<br/> 復習：組織構造の確認</p> <p>【第6回】<br/> 予習：教科書 p77～80<br/> 授業：給食における会計・原価管理①（ABC分析と損益分岐点分析）<br/> 復習：損益分岐点分析の確認</p> <p>【第7回】<br/> 予習：教科書 p78～83<br/> 授業：給食における会計・原価管理②（財務諸表、原価管理）<br/> 復習：原価計算の確認</p> <p>【第8回】<br/> 予習：教科書 p197～198<br/> 授業：入院時食事療<br/> 復習：入院時食事療養費の確認</p> <p>【第9回】<br/> 予習：教科書 p199～200、p207～208<br/> 授業：診療報酬・介護報酬<br/> 復習：診療報酬・介護報酬の確認</p> <p>【第10回】<br/> 予習：教科書 p194～202<br/> 授業：特論【医療施設】<br/> 復習：医療施設における管理栄養士の役割について確認する</p> <p>【第11回】<br/> 予習：教科書 p203～214<br/> 授業：特論【高齢者・介護福祉施設】<br/> 復習：高齢者・介護福祉施設における管理栄養士の役割について確認する</p> <p>【第12回】<br/> 予習：教科書 p215～223<br/> 授業：特論【児童福祉施設】（グループワーク）<br/> 復習：児童福祉施設における管理栄養士の役割について確認する</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |  |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：教科書 p 231～242<br/> 授業：特論【学校】（プレゼンテーション）<br/> 復習：学校給食における管理栄養士の役割について確認する</p> <p>【第14回】<br/> 予習：教科書 p 243～250<br/> 授業：特論【事業所】（プレゼンテーション）<br/> 復習：事業所における管理栄養士の役割について確認する</p> <p>【第15回】<br/> 予習：教科書を一読する<br/> 授業：給食経営管理の一連の流れを理解する<br/> 復習：後期授業全体の確認と整理</p> |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 食関連ビジネスの動向や食料経済（食の生産・流通・消費・価格）などについて、日頃より情報収集しておくが良い。  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 講義内容等の個別の質問に対し、随時回答する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 宮原公子・細山田洋子他編『給食経営管理論 給食のマネジメントを総合的に理解するために』（化学同人）<br>片山尚美・原正美編『給食経営管理論』（みらい）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 給食経営管理用語辞典：日本給食経営管理学会（第一出版）  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 授業態度（10%）、小テスト（30%）、定期試験（60%）  |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   |  |     |
| 関連科目  | 「給食経営管理論Ⅰ」と密接に関連している。また、「給食経営管理実習」、「臨地実習」の基礎となる科目でもあるため、内容を十分に理解する必要がある。   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 本科目は、複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員のうち、西村は病院および介護老人保健施設において長年の実務経験を有する。また、日本栄養士会では診療報酬・介護報酬を担当しており、厚生労働省との連携を行っている。本科目では、第 9 回目に最新の診療報酬・介護報酬について講義を行う。 |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 給食経営管理実習  |       |         |
| 科目分類   | 210-311-32  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Practice in Food Service Management   | 授業区分  | 実習・実験   |
| 科目責任者  | 土岐田 佳子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 土岐田 佳子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 14:40～17:50<br>後期 金曜日 14:40～17:50  | 研究室   | 16-109  |
| 授業概要   | 給食経営管理論 I・II で得た知識をもとに大量調理の基本と経営資源（人・物・金）を活用した効果的な給食経営管理の実際を学ぶ。対象者の栄養アセスメントによる栄養・食事計画から、実際の調理・提供、評価・改善までの給食経営管理の一連のプロセスを実習を通して学習する。   |       |         |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食経営管理における、PDCA サイクルに基づいた栄養・食事計画から食事の提供、評価・改善までの知識・技術を習得する。</li> <li>・HACCP システムに基づいた大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、安全な食事の提供と衛生管理・危機管理に対応できる力を身につける。</li> <li>・グループワークを通じて、コミュニケーション能力および協働性を身につける。</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：給食経営管理論の教科書を一読する<br/> 授業：実習オリエンテーション（実習概要、実習日程など）<br/> 復習：給食経営管理実習の一連の流れを確認する</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：栄養・食事管理の確認<br/> 授業：栄養・食事管理に必要な業務を理解する（給与栄養目標量の設定、献立作成）<br/> 復習：給与栄養目標量の設定方法と献立作成のポイントについて確認する</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：特定給食施設で使用する帳票の確認<br/> 授業：帳票の種類と記入方法および管理方法について理解する<br/> 復習：帳票の記入方法の確認</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：特定給食施設の施設・設備の確認、大量調理施設衛生管理マニュアルの確認<br/> 授業：厨房見学を通して特定給食施設の施設・設備について理解する、衛生管理について理解する<br/> 復習：厨房の図面の確認、大量調理施設衛生管理マニュアルの確認</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：実施献立内容の確認<br/> 授業：試作と作業指示書、作業工程表の作成、その他帳票類の作成<br/> 復習：作業指示書、作業工程表の確認</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：事業所向け献立（通常献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：事業所向け献立（通常献立）の大量調理実習<br/> 復習：事業所向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：事業所向け献立（行事食献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：事業所向け献立（行事食献立）の大量調理実習<br/> 復習：事業所向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：保育所向け献立（通常献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：保育所向け献立（通常献立）の大量調理実習<br/> 復習：保育所向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：保育所向け献立（行事食献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：保育所向け献立（行事食献立）の大量調理実習<br/> 復習：保育所向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：高齢者向け献立（通常献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：高齢者向け献立（通常献立）の大量調理実習<br/> 復習：高齢者向け献立（通常献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：高齢者向け献立（行事食献立）の作業指示書・作業工程表の確認<br/> 授業：高齢者向け献立（行事食献立）の大量調理実習<br/> 復習：高齢者向け献立（行事食献立）の大量調理実習の評価と改善点の確認</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：食品群別加重平均栄養成分表の確認</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>授業：食品群別加重平均栄養成分表の作成方法について理解する<br/> 復習：食品群別加重平均栄養成分表の作成方法の確認<br/> 【第13回】<br/> 予習：栄養出納表、食品構成表の確認<br/> 授業：栄養出納表、食品構成表の作成方法について理解する<br/> 復習：栄養出納表、食品構成表の作成方法の確認<br/> 【第14回】<br/> 予習：帳票の確認<br/> 授業：喫食者アンケートの集計と報告会資料の作成<br/> 復習：食材原価、労働生産性の算出方法、危機管理対策の確認<br/> 【第15回】<br/> 予習：報告書の記載方法の確認<br/> 授業：リーダーを務めた大量調理実習についてまとめと評価を行う（報告会の実施）<br/> 復習：給食経営管理実習のまとめ</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大量調理を行う上で、衛生管理の基本となる「大量調理施設衛生管理マニュアル」について理解を深めておく。</li> <li>・日頃から食材や料理、献立作成や市場の食材価格に関心を持つとともに、自ら調理をする習慣をつけておく。</li> </ul> |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | <p>実習内容について個別の質問に対し、随時回答する。<br/> 講義内容について個別の質問に対し、随時回答する。</p>   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 適宜、資料を配布する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | <p>伊藤貞嘉・佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年度版』（第一出版）<br/> 『大量調理施設衛生管理マニュアル』厚生労働省<br/> 『食品成分表』改訂最新版（医歯薬出版）<br/> 『調理のためのベーシックデータ』第6版（女子栄養大学出版社）</p>                             |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 実習態度・課題提出（50%）、最終レポート（50%）  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     | △   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目   | 給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ、給食計画論演習、献立作成演習、調理学実習Ⅰ・Ⅱ  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 45 時間  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 給食計画論演習  |       |          |
| 科目分類   | 210-311-21   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Seminar on Food Service Planning   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 奥 裕乃   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 奥 裕乃   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要   | <p>栄養士・管理栄養士にとって献立作成はすべての業務の基盤である。給食施設における献立作成は、利用者のアセスメントから始まる栄養管理プロセスの流れの中で立案されなければならない。本演習では、アセスメントの方法、栄養・献立計画の作成、栄養・献立計画の評価について学び、各給食施設における給食の目標に沿った献立作成を行うために必要となる基礎的な知識と技術を修得する。</p> |       |          |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のアセスメントを行うことができる。</li> <li>・アセスメントの結果に基づき栄養・献立計画を作成することができる。</li> <li>・栄養・献立計画の評価の方法が説明できる。</li> </ul>  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| <p>第1回<br/> 予習：自身が気になる給食施設の献立内容を調べる<br/> 授業：栄養管理プロセスの全体像<br/> 復習：特定給食施設における栄養管理を確認する</p> <p>第2回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：日本人の食事摂取基準の基礎<br/> 復習：食事摂取基準の指標の意味を確認する</p> <p>第3回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：アセスメント：アセスメントの方法<br/> 復習：課題①を仕上げる</p> <p>第4回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（1）：給与栄養目標量の設定（エネルギー・たんぱく質・脂質・炭水化物）<br/> 復習：課題②を仕上げる</p> <p>第5回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（2）：給与栄養目標量の設定（ビタミン・ミネラル）<br/> 復習：課題③を仕上げる</p> <p>第6回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（3）：給与栄養目標量の設定（1食あたりの給与栄養目標量の設定）<br/> 復習：課題④を仕上げる</p> <p>第7回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（4）：食品構成表の作成（食品構成の算出①）<br/> 復習：課題⑤を行う</p> <p>第8回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（5）：食品構成表の作成（食品構成の算出②）<br/> 復習：課題⑤を仕上げる</p> <p>第9回<br/> 予習：配布資料を読んでおく<br/> 授業：栄養・献立計画（6）：食品構成表の作成（食品構成表の作成）<br/> 復習：課題⑥を仕上げる</p> <p>第10回</p> |  |       |          |

|   |
|---|
| 予習 : 配布資料を読んでおく<br>授業 : 栄養・献立計画 (7) : 食品類別荷重平均成分表の作成 (食品類別荷重平均成分表の算出①)<br>復習 : 課題⑦と⑧を仕上げる<br><br>第 11 回<br>予習 : 配布資料を読んでおく<br>授業 : 栄養・献立計画 (8) : 食品類別荷重平均成分表の作成 (食品類別荷重平均成分表の算出②)<br>復習 : 課題⑨と⑩を仕上げる<br><br>第 12 回<br>予習 : 配布資料を読んでおく<br>授業 : 栄養・献立計画の評価 (1) : 栄養出納表の作成<br>復習 : 課題⑪を仕上げる<br><br>第 13 回<br>予習 : 配布資料を読んでおく<br>授業 : 栄養・献立作成の評価 (2) : 栄養管理報告書の作成<br>復習 : 栄養管理報告書の内容を確認する<br><br>第 14 回<br>予習 : 配布資料を読んでおく<br>授業 : 栄養・献立計画の評価 (3) : 利用者の満足度に関わる調査<br>復習 : 課題⑫を仕上げる<br><br>第 15 回<br>予習 : 練習問題を解く<br>授業 : 小テスト: 専門用語の説明と計算問題<br>復習 : 小テストを振り返る |
|---|

|                  |  |     |   |     |   |     |  |     |
|------------------|--|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 授業開始前学習          | 栄養の基礎、食品学の内容を復習しておく                                  |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | 課題の提出により理解度を判定する。課題は速やかに学生に返却し、必要があれば再度提出させ繰り返し添削する。 |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材          | 『日本食品成分表』改訂最新版 (医歯薬出版)                               |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書              |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法         | 授業態度 (10%)、課題提出状況および内容 (70%)、小テスト (20%)              |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                      |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針             | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当            |  |     |   |     | ◎                                       |     | ○  | ○   |
| 関連科目             | 献立作成演習、給食経営管理論、給食経営管理実習                              |     |   |     |   |     |  |     |
| その他              |  |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)   |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |  |     |   |     |   |     |  |     |

|  |   |       |          |
|--|---|-------|----------|
| 科目名称   | 献立作成演習  |       |          |
| 科目分類   | 210-311-22  | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Seminar on Menu Creation  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 奥 裕乃  | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 奥 裕乃  | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -        |
| 授業概要   | 管理栄養士業務の基礎であり重要な業務のひとつが献立作成である。献立作成には栄養学、調理学、食品学、経済学、心理学といった数多くの知識が求められる。本演習では、献立作成のための基礎知識、手順や評価方法を学び、対象者の特性や抱える問題に合わせた献立を作成することができる応用力を身につける。 |       |          |
| 到達目標   | 献立作成に必要な知識を修得し、対象者の特性や抱える問題に応じた献立を作成することができるようになることを目標とする。  |       |          |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業   | 無   |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |          |
| <p>第1回<br/> 予習：栄養価計算、エネルギー比率、調味パーセントを復習する<br/> 授業：献立作成に必要な基礎知識の確認①<br/> 復習：演習問題を復習する</p> <p>第2回<br/> 予習：栄養価計算、エネルギー比率、調味パーセントを復習する<br/> 授業：献立作成に必要な基礎知識の確認②<br/> 復習：演習問題を復習する</p> <p>第3回<br/> 予習：献立作成の流れを復習する<br/> 授業：献立作成の手順と評価方法<br/> 復習：配布プリントを復習する</p> <p>第4回<br/> 予習：個人献立案を考える<br/> 授業：献立作成①個人献立<br/> 復習：献立が対象者に適するか確認する</p> <p>第5回<br/> 予習：個人献立案を考える<br/> 授業：献立作成①個人献立の評価<br/> 復習：立てた献立を実際に調理し評価する</p> <p>第6回<br/> 予習：事業所給食の役割と献立形態について調べてくる<br/> 授業：献立作成②事業所給食：栄養管理計画<br/> 復習：事業所で提供される献立の特徴をまとめる</p> <p>第7回<br/> 予習：栄養管理計画を基に事業所向け献立案を考える<br/> 授業：献立作成②事業所給食：献立作成（常食）<br/> 復習：献立が事業所向けであるか確認する</p> <p>第8回<br/> 予習：栄養管理計画を基に事業所向け献立案を考える<br/> 授業：献立作成②事業所給食：献立の評価（常食）<br/> 復習：立てた献立を実際に調理し評価する</p> <p>第9回<br/> 予習：栄養管理計画を基に事業所向け献立案を考える<br/> 授業：献立作成③事業所給食：献立作成（行事食）<br/> 復習：献立が事業所の行事食に適するか確認する</p> <p>第10回<br/> 予習：栄養管理計画を基に事業所向け献立案を考える<br/> 授業：献立作成③事業所給食：献立の評価（行事食）<br/> 復習：立てた献立を実際に調理し評価する</p> |   |       |          |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>第 11 回<br/>         予習 : 保育所給食の位置づけと特徴について調べる<br/>         授業 : 献立作成④保育所給食: 栄養管理計画<br/>         復習 : 保育所給食における給与栄養目標量についてまとめる</p> <p>第 12 回<br/>         予習 : 栄養管理計画を基に保育所給食向け献立案を考える<br/>         授業 : 献立作成④保育所給食: 献立作成 (常食)<br/>         復習 : 献立が保育所給食向きであるか確認する</p> <p>第 13 回<br/>         予習 : 栄養管理計画を基に保育所給食向け献立案を考える<br/>         授業 : 献立作成⑤保育所給食: 献立作成 (イベント食)<br/>         復習 : 献立が保育所のイベント食に適するか確認する</p> <p>第 14 回<br/>         予習 : 栄養管理計画を基に保育所給食向け献立案を考える<br/>         授業 : 献立作成⑤保育所給食: 献立の評価 (イベント食)<br/>         復習 : 立てた献立を実際に調理し評価する</p> <p>第 15 回<br/>         予習 : 第 1~14 回の授業内容を復習する<br/>         授業 : 献立作成における手順と評価方法について確認する<br/>         復習 : これまで立てた献立を確認し、より良いものに修正する</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 献立作成に必要な知識である調理学、栄養学、給食経営管理論の分野をよく復習しておく  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | <ul style="list-style-type: none"> <li>作成した献立について添削をし、すみやかに返却する。</li> <li>演習の内容についての個別の質問に対し、随時回答する。</li> </ul> |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 『日本食品成分表』改訂最新版 (医歯薬出版)<br>『調理のためのベーシックデータ』第 6 版 (女子栄養大学出版社) 2022  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 実習態度 (30%)、課題提出 (60%)、小テスト (10%)  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   |     | ◎                                       |     | ○   | ○   |
| 関連科目   | 調理学、調理学実習、給食計画論演習、給食経営管理論 I、栄養教育論、臨床栄養学   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 総合演習 I   |       |          |
| 科目分類   | 210-311-34   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Comprehensive Seminar I  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 岡田昌己   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 健康栄養学科専任   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要   | 管理栄養士として必要とされる専門知識や技術について、総まとめを行う。すなわち、3年次までに習得したすべての専門基礎科目について演習形式で要点の復習を行い、それぞれの科目の基礎的な知識や技術の確認を行うとともに定着を図る。この演習により、それぞれの科目で学んだ内容を総合的に活用し、応用力を養うための基礎を固めることを目標とする。 |       |          |
| 到達目標   | 専門基礎科目（公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論、解剖生理学、病理学、臨床医学、生化学、食品学、食品衛生学、調理学）の各分野の内容を、管理栄養士の水準で理解する。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：公衆衛生学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：社会・環境と健康①（公衆衛生学などの総まとめ）<br/> 復習：社会・環境と健康①の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：公衆衛生学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：社会・環境と健康②（公衆衛生学などの総まとめ）<br/> 復習：社会・環境と健康②の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：社会福祉概論で学んだ内容を復習する<br/> 授業：社会・環境と健康③（社会福祉概論などの総まとめ）<br/> 復習：社会・環境と健康③の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：社会福祉概論で学んだ内容を復習する<br/> 授業：社会・環境と健康④（社会福祉概論などの総まとめ）<br/> 復習：社会・環境と健康④の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①（解剖生理学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：解剖生理学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（解剖生理学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：病理学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③（病理学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：病理学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④（病理学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：生化学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤（生化学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：生化学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥（生化学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：生化学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦（生化学などの総まとめ）<br/> 復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 12 回】<br/> 予習：食品学で学んだ内容を復習する<br/> 授業：食べ物と健康①（食品学などの総まとめ）<br/> 復習：食べ物と健康①の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 13 回】</p> |  |       |          |

|   |  |   |   |   |     |     |     |     |
|---|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| <p>予習：食品学で学んだ内容を復習する<br/>         授業：食べ物と健康②（食品学などの総まとめ）<br/>         復習：食べ物と健康②の配布資料に記載されている要点を復習する<br/>         【第14回】<br/>         予習：食品衛生学で学んだ内容を復習する<br/>         授業：食べ物と健康③（食品衛生学などの総まとめ）<br/>         復習：食べ物と健康③の配布資料に記載されている要点を復習する<br/>         【第15回】<br/>         予習：食品衛生学で学んだ内容を復習する<br/>         授業：食べ物と健康④（食品衛生学などの総まとめ）<br/>         復習：食べ物と健康④の配布資料に記載されている要点を復習する<br/>         【第16回】<br/>         予習：調理学で学んだ内容を復習する<br/>         授業：食べ物と健康⑤（調理学などの総まとめ）<br/>         復習：食べ物と健康⑤の配布資料に記載されている要点を復習する<br/>         【第17回】<br/>         予習：調理学で学んだ内容を復習する<br/>         授業：食べ物と健康⑥（調理学などの総まとめ）<br/>         復習：食べ物と健康⑥の配布資料に記載されている要点を復習する<br/>         【第18回】<br/>         予習：これまでの17回の授業内容を見直す<br/>         授業：総括<br/>         復習：全般の例題を解き、理解度が乏しい項目について復習を行う</p> |  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業開始前学習   | 3年終了時までに学んだすべての専門基礎科目並びに専門科目について、可能な範囲で復習をしておくことが望ましい。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 定期的に確認テストを行い、どこまで理解しているのか確認し、その結果に応じて、個別指導を行う。<br>場合によっては再度、試験、またはレポートを提出させる。                            |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材   | それぞれの授業で使用したテキストを持参すること。その他、適宜資料を配布する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書   | それぞれの授業で使用した参考書や配布資料を持参すること。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験期間中に行う筆記試験の結果を100%として評価する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当   |  |   |   | △   | ◎   | △   |     | ○   |
| 関連科目  | すべての専門基礎科目並びに専門科目が関連する。  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他   | 開講日時が変則的になる場合があります。教員からの連絡や掲示に注意してください。それぞれの専門基礎科目並びに専門科目に用いたテキスト、ノート、配布資料等を整理して、必要な時に持参できるよう準備しておきましょう。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |  |       |          |
|--|--|-------|----------|
| 科目名称   | 総合演習Ⅱ  |       |          |
| 科目分類   | 210-311-34   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称   | Comprehensive Seminar I  | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者  | 岡田昌己   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員   | 健康栄養学科専任   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー  | -  | 研究室   | -        |
| 授業概要   | 管理栄養士として必要とされる専門知識や技術について、総まとめを行う。すなわち、3年次までに習得したすべての専門基礎科目について演習形式で要点の復習を行い、それぞれの科目の基礎的な知識や技術の確認を行うとともに定着を図る。この演習により、それぞれの科目で学んだ内容を総合的に活用し、応用力を養うための基礎を固めることを目標とする。 |       |          |
| 到達目標   | 専門基礎科目（公衆衛生学、社会福祉論、健康管理概論、解剖生理学、病理学、臨床医学、生化学、食品学、食品衛生学、調理学）の各分野の内容を、管理栄養士の水準で理解する。   |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |          |
| 【第1回】<br>予習：公衆衛生学で学んだ内容を復習する<br>授業：社会・環境と健康①（公衆衛生学などの総まとめ）<br>復習：社会・環境と健康①の配布資料に記載されている要点を復習する                   |  |       |          |
| 【第2回】<br>予習：公衆衛生学で学んだ内容を復習する<br>授業：社会・環境と健康②（公衆衛生学などの総まとめ）<br>復習：社会・環境と健康②の配布資料に記載されている要点を復習する                   |  |       |          |
| 【第3回】<br>予習：社会福祉概論で学んだ内容を復習する<br>授業：社会・環境と健康③（社会福祉概論などの総まとめ）<br>復習：社会・環境と健康③の配布資料に記載されている要点を復習する                 |  |       |          |
| 【第4回】<br>予習：社会福祉概論で学んだ内容を復習する<br>授業：社会・環境と健康④（社会福祉概論などの総まとめ）<br>復習：社会・環境と健康④の配布資料に記載されている要点を復習する                 |  |       |          |
| 【第5回】<br>予習：解剖生理学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①（解剖生理学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち①の配布資料に記載されている要点を復習する |  |       |          |
| 【第6回】<br>予習：解剖生理学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②（解剖生理学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち②の配布資料に記載されている要点を復習する |  |       |          |
| 【第7回】<br>予習：病理学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③（病理学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち③の配布資料に記載されている要点を復習する     |  |       |          |
| 【第8回】<br>予習：病理学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④（病理学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち④の配布資料に記載されている要点を復習する     |  |       |          |
| 【第9回】<br>予習：生化学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤（生化学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑤の配布資料に記載されている要点を復習する     |  |       |          |
| 【第10回】<br>予習：生化学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥（生化学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑥の配布資料に記載されている要点を復習する    |  |       |          |
| 【第11回】<br>予習：生化学で学んだ内容を復習する<br>授業：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦（生化学などの総まとめ）<br>復習：人体の構造と機能及び疾病の成り立ち⑦の配布資料に記載されている要点を復習する    |  |       |          |
| 【第12回】<br>予習：食品学で学んだ内容を復習する<br>授業：食べ物と健康①（食品学などの総まとめ）<br>復習：食べ物と健康①の配布資料に記載されている要点を復習する                          |  |       |          |

|  |
|--|
| <p>【第 13 回】<br/>         予習 : 食品学で学んだ内容を復習する<br/>         授業 : 食べ物と健康② (食品学などの総まとめ)<br/>         復習 : 食べ物と健康②の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 14 回】<br/>         予習 : 食品衛生学で学んだ内容を復習する<br/>         授業 : 食べ物と健康③ (食品衛生学などの総まとめ)<br/>         復習 : 食べ物と健康③の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 15 回】<br/>         予習 : 食品衛生学で学んだ内容を復習する<br/>         授業 : 食べ物と健康④ (食品衛生学などの総まとめ)<br/>         復習 : 食べ物と健康④の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 16 回】<br/>         予習 : 調理学で学んだ内容を復習する<br/>         授業 : 食べ物と健康⑤ (調理学などの総まとめ)<br/>         復習 : 食べ物と健康⑤の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 17 回】<br/>         予習 : 調理学で学んだ内容を復習する<br/>         授業 : 食べ物と健康⑥ (調理学などの総まとめ)<br/>         復習 : 食べ物と健康⑥の配布資料に記載されている要点を復習する</p> <p>【第 18 回】<br/>         予習 : これまでの 17 回の授業内容を見直す<br/>         授業 : 総括<br/>         復習 : 全般の例題を解き、理解度が乏しい項目について復習を行う</p> |
|--|

|                      |  |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|--|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | 3 年終了時まで学んだすべての専門基礎科目並びに専門科目について、可能な範囲で復習をしておくことが望ましい。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 定期的に確認テストを行い、どこまで理解しているのか確認し、その結果に応じて、個別指導を行う。<br>場合によっては再度、試験、またはレポートを提出させる。                            |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              | それぞれの授業で使用したテキストを持参すること。その他、適宜資料を配布する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  | それぞれの授業で使用した参考書や配布資料を持参すること。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 定期試験期間中に行う筆記試験の結果を 100% として評価する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                |  |   |   | △   | ◎   | △   |     | ○   |
| 関連科目                 | すべての専門基礎科目並びに専門科目が関連する。  |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  | 開講日時が変則的になる場合があります。教員からの連絡や掲示に注意してください。それぞれの専門基礎科目並びに専門科目に用いたテキスト、ノート、配布資料等を整理して、必要な時に持参できるよう準備しておきましょう。 |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 15 時間 (1 時間×15 週)   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |  |   |   |   |     |     |     |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | フードスペシャリスト論   |       |         |
| 科目分類   | 210-431-12 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Introduction to Food Specialist   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 加藤 伸子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 加藤 伸子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 多様化する食生活の中で、フードスペシャリストが果たす役割、業務について解説する。食品業者と消費者との間に立って、主に経済性、安全性、文化的側面から食生活に総合的に関わることの出来る知識と情報を身につけ、食の専門職としてフードサービス、フードビジネスの分野においても社会に貢献できる能力を得る機会とする。 |       |         |
| 到達目標   | 本科目は、フードスペシャリスト資格認定試験に関わる教科である。<br>授業を通して、フードスペシャリスト資格認定試験に対応できる為の知識を習得し、各自が授業で得た知識を自分のものとし、応用できる能力を身につける。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキストを全体的に見て、これから学ぶ内容を確認しておく。<br/> 授業：フードスペシャリストとは(専門職の成立～フードスペシャリストの養成と資格) テキスト 1～14 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：フードスペシャリストの活躍分野～フードスペシャリストの責務 テキスト 14～26 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：人類と食物 テキスト 27～44 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：世界の食（食作法～食の禁忌と忌避） テキスト 45～52 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：世界各地の食事情 テキスト 53～60 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：日本の食（日本の食物史） テキスト 61～71 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、おそれに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：食の地域差 テキスト 71～78 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：現代日本の食生活（戦後の食生活の変化～食生活の変化と食産業） テキスト 79～93 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：現代の日本の食生活（食料の供給と食料自給率～環境と食） テキスト 94～102 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：食品産業の役割（フードシステムと食品産業～外食産業） テキスト 103～122 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：食品の品質規格と表示（食品の品質規格、表示にかかわる法律～J A S法による規格） テキスト 123～135 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/> 授業：食品の品質規格と表示（食品表示法による表示） テキスト 135～156 頁<br/> 復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/>         授業：食品の品質規格と表示（健康や栄養に関する表示制度～その他の法律による表示） テキスト 156～172 頁<br/>         復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト該当ページを読んでおく。<br/>         授業：食情報と消費者保護（食情報の発信と受容～消費者保護の制度） テキスト 173～189 頁<br/>         復習：授業で学んだこと、それに関連している事項を調べノートにまとめる。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：テキストとノートの内容確認<br/>         授業：総まとめと過去問題<br/>         復習：授業で学んだ内容を整理し、認定試験に向けて過去問題を解いてみる。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 予習ではテキストを良く読み、関連事項をある程度調べておく姿勢で授業にのぞむことを期待する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内で到達度の確認を行う小テストを実施し、随時解説を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | (株)フードスペシャリスト協会編『四訂フードスペシャリスト論』（建帛社）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 必要に応じて紹介する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 小テスト 30%、試験 50%、平常点（授業態度、課題提出） 20%  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 調理学、食品学、栄養学、食品衛生学、官能評価論、食品流通論、フードコーディネーター論など食に関わる教科は、認定試験に関わるので各教科の復習が大切である。                    |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 加工食品の商品開発、飲食店でのメニュー開発、メニュープロデュース、メディアでのフードコーディネーター、食育活動の実務経験あり。<br>様々な実務経験から得た、現場の実情等も交えた講義を行う。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | フードコーディネイト論   |       |         |
| 科目分類   | 210-431-12 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Food Coordination   | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 森野 恵子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 森野 恵子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要   | 食を提供する際、食べる側の人間の嗜好や習慣等を理解し、よりおいしく快適に食事ができるよう、メニュー、食空間全体をコーディネートするには、何が必要なのか、フードコーディネートの基礎知識を学ぶ。フードコーディネイト論では「より質の高い食生活はどのようなものか」という視点に立ち、食と感性、食文化、メニュープランニング、サービスマナー、店舗経営、食育について解説する。 |       |         |
| 到達目標   | フードコーディネイトが食生活に果たしている役割と 価値について理解し、フードスペシャリストとして食の感性を磨き、見極める力を身につける。<br>広範囲な食場面において必要とされる知識や技術に加えて、人の心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性を磨く諸事項を習得する。                             |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 無   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：テキスト1頁～13頁を講読する<br/> 授業：1・フードコーディネートの基本理念（テキスト1頁～13頁）<br/> 復習：「おいしさの本質」また「もてなし」について実生活の中で振り返り、事例を見つけ再確認する。</p> <p>【第2回】<br/> 予習：テキスト15頁～27頁を講読する<br/> 授業：2・食事の文化・日本食の歴史（テキスト15頁～27頁）<br/> 復習：日本の食文化を時代背景ごとに特徴をまとめる。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：テキスト27頁～33頁を講読する<br/> 授業：3・特別な日の食事・各国の料理（テキスト27頁～33頁）<br/> 復習：年中行事食、諸外国の食事特徴、現在の傾向をまとめる。</p> <p>【第4回】<br/> 予習：テキスト35頁～43頁を講読する<br/> 授業：4・食卓のコーディネート（テキスト35頁～43頁）<br/> 復習：コーディネートの要点、和食器の特徴を覚える。</p> <p>【第5回】<br/> 予習：テキスト43頁～55頁を講読する<br/> 授業：5・テーブルウエア・スタイル（テキスト43頁～55頁）<br/> 復習：中国、西洋の食器、グラス、テーブルウエアの特徴を覚え、スタイルを理解する。</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テキスト57頁～66頁を講読する<br/> 授業：6・食卓のサービスとマナー・日本料理・席次（テキスト57頁～66頁）<br/> 復習：サービスとマナーの基本を理解する。日本料理の箸、椀のマナー実践する。</p> <p>【第7回】<br/> 予習：テキスト67頁～80頁を講読する<br/> 授業：7・中国・西洋・プロトコル（テキスト67頁～80頁）<br/> 復習：中国、西洋のマナー、パーティーの種類、プロトコル理解する。</p> <p>【第8回】<br/> 予習：テキスト81頁～98頁を講読する<br/> 授業：8・メニュープランニング（テキスト81頁～98頁）<br/> 復習：メニュープランニングのルールを理解。会席料理と懐石料理の違いを再確認。メニュー開発の傾向を理解する。</p> <p>【第9回】<br/> 予習：テキスト99頁～107頁を講読する<br/> 授業：10・食空間のコーディネート・カラーコーディネート（テキスト99頁～107頁）<br/> 復習：食空間レイアウトの注意点、カラーコーディネートを再確認する。</p> <p>【第10回】<br/> 予習：テキスト108頁～121頁を講読する<br/> 授業：11・照明計画・キッチンコーディネート（テキスト108頁～121頁）<br/> 復習：照明計画、食空間設備、防災計画について理解する。</p> <p>【第11回】<br/> 予習：テキスト123頁～134頁を講読する<br/> 授業：12・フードサービスマネジメント（テキスト123頁～134頁）<br/> 復習：フードサービスマネジメントの基礎と飲食店の起業を理解する。</p> <p>【第12回】<br/> 予習：テキスト134頁～143頁を講読する</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>授業：13・投資計画と演習問題 (テキスト134頁～143頁)<br/> 復習：損益分岐点売上高算出を暗記し、演習問題を自習。<br/> 【第13回】<br/> 予習：テキスト145頁～163頁を講読する<br/> 授業：14・食企画の実践コーディネート・演習問題 (テキスト145頁～163頁)<br/> 復習：食企画の流れを理解し、演習問題の課題を作成する。<br/> 【第14回】<br/> 予習：テキスト145頁～163頁を講読する<br/> 授業：14・食企画の実践コーディネート・演習問題 の提出 (テキスト145頁～163頁)<br/> 復習：他の企画を参考に、演習問題の課題の手直しを作成する。<br/> 【第15回】<br/> 予習：8章の演習問題提出後の考察<br/> 授業：企画書提出の比較説明。フードスペシャリストに期待すること。<br/> 復習：各自の企画書の再確認。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 授業開始前、どのような内容のものか、テキストを一読し、おおまかに把握しておくこと。                           |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 授業13回目に作成する企画書は授業13～14回目に提出、講評を参照に訂正箇所に関しては授業14回目までに提出する。           |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | (社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂フードコーディネート論』(建帛社) この他適宜資料を配布する。                |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業の中で推薦著書を紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 全回出席が前提の上で、(通常授業の場合)<br>毎回授業後の小テスト70点 演習問題「企画書の作成」30点の配分とする。        |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                     |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | 食文化や調理学、フードスペシャリスト論等も合わせて理解することを勧める。                                |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)                  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | フードコーディネーター、食育コーディネーターの実務経験を活かし、注意点や役にたった情報等、社会で求められる資質、能力について講義する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 官能評価論   |       |         |
| 科目分類  | 210-431-13  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Theory of Sensory Evaluation  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 寺本 あい   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 寺本 あい   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 食や栄養に関する情報が氾濫する今日では、食の選択の際に必要な知識や技能は多岐にわたる。そのため、快適な食生活を消費者に提案できる力を持つ「食」の専門家としてのフードスペシャリストは、食品に関する深い知識と品質を判定する技術が要求される。授業ではフードスペシャリスト資格取得に必要な食品の物理的・化学的評価法および官能的な評価についての知識を学ぶ。 |       |         |
| 到達目標  | フードスペシャリスト資格取得に必要な食品の物理的・化学的評価法および官能的な評価法を学び、各食品について品質を評価し選択できる知識を身に付けることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>1. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) ガイダンス、序章 食品の品質とは：(1)食品の特性 (2)食品の品質(p.1~2)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>2. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第1章 官能評価：1.官能評価の概要、2.官能評価の基本と実施法(p.3~30)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>3. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第2章 化学的評価法：1.食品成分と品質 p.31~50)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>4. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第2章 化学的評価法：2.化学的品質評価(p.50~59)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>5. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第3章 物理的評価法：1.食品の状態 2.レオロジーとテクスチャー (p.60~69)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>6. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第3章 物理的評価法：3.物理的性質の評価法(p.69~78)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>7. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第3章 物理的評価法：4.色の評価方法 5.非破壊検査法(p.79~85)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>8. 予習) 【第7回】までの総復習、キーワードの確認<br/> 授業) 中間小テスト(p.1~85)と解説<br/> 復習) 中間小テスト(過去問題)の正答を確認、再度復習</p> <p>9. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：1.米 2.麦類 3.トウモロコシ 4.雑穀類(p.87~106)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>10. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：5.イモ類 6.豆類 7.種実類 (p.107~118)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>11. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：8.野菜、キノコ類 9.果実類 10.海藻類(p.118~138)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>12. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：11.魚介類 12.肉類(p.139~161)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>13. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：13.卵 14.乳と乳製品 15.油脂 16.菓子類(p.162~187)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>14. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：17.酒類 18.茶類 19.コーヒー、ココア 20.清涼飲料 21.醸造食品(p.187~217)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)</p> <p>15. 予習) 該当部分のテキストを講読しておく<br/> 授業) 第4章 個別食品の鑑別：22.調味料 23.香辛料 24.インスタント食品 25.冷凍食品 26.弁当 27.機能性食品(p.217~243)<br/> 復習) 該当する過去問題を解答(テキストを見てもよいので正しい答えを導き出す)、総復習</p> |   |       |         |
| ※但し、各回の授業範囲は、授業進度により変動することがある。  |   |       |         |

|                      |   |     |   |     |   |     |  |     |
|----------------------|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| 授業開始前学習              | 前年度までに修得済みの調理学、食品学関連科目について復習しておく。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 各回の復習として用いる過去問題プリントについては、解答を配布し、必要に応じて解説を行う。<br>さらに、過去問題プリントをもとに改変した小テストを classroom 機能を用いて行う。<br>授業内で実施予定の中間小テストの結果は、受験者本人の希望に応じて個別に開示する。 |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材              | (公社)日本フードスペシャリスト協会編『三訂 食品の官能評価・鑑別演習』(建帛社)   |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書                  | 必要に応じて授業内で推薦図書を紹介、あるいは資料プリント配布する。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法             | 定期試験(70%)、授業内での中間小テスト(30%)で評価する。但し、10%の範囲内で平常点(授業態度・過去問題復習取組状況等)を加味する場合がある。   |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に行える技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当                |   |     |   | △   | ◎                                       | ○   | △  |     |
| 関連科目                 | フードスペシャリスト関連科目および調理学・食品学関連科目。   |     |   |     |   |     |  |     |
| その他                  | 原則、フードスペシャリスト受験を目指す方向けの科目となります。   |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       | 講義時間 30 時間 (2 時間×15 週) + 予習・復習時間 60 時間 (4 時間×15 週)  |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    |   |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 食品流通論   |       |         |
| 科目分類  | 210-431-13  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Food Marketing  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者   | 津久井 学   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 津久井 学   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | -   | 研究室   | -       |
| 授業概要  | 食品は私達の生命と健康を維持し、豊かな食生活を過ごすうえで欠かすことのできないものであり、さまざまな流通過程を経て私たちの手元に届けられる。「食品流通」はこうした流通過程を橋渡しする機能を果たしている。その一方、食品流通には私たちの生活に欠かすことのできない食料を消費者に安全に届けるという重要な社会的使命を担っている。発展と変革が著しいわが国における「食品の消費と流通」の現状を理解し、フードスペシャリストとして消費者がよりよい食品選択を行えるよう知識を習得する。 |       |         |
| 到達目標  | 食品流通論は、フードスペシャリスト養成課程の「食品流通・消費に関する科目」として、2 単位を修得することとなり、フーズスペシャリスト資格認定試験では 7/60 問、専門フーズスペシャリスト（食品流通・サービス）資格認定試験では 10/60 問出題される。本科目では、食品消費の態様と食品流通の基本的な仕組みとその重要性について修得する。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 無   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：テキストの構成（目次）と 2-17 ページの購読<br/> 授業：ガイダンス &amp; 食市場の変化 1.豊かな食生活を支える食市場について理解する[テキスト p.2-17]<br/> 復習：食品産業とその変遷、食品産業の技術発展などを理解する</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：テキスト 17-27 ページの購読<br/> 授業：2.消費者の食品消費の変化[テキスト p.17-27]<br/> 復習：食品消費の変化、食品の価格決定と所得弾力性、価格弾力性、食品消費の変化、加工食品の増加などの理解</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：テキスト 27-32 ページの購読<br/> 授業：3.食生活の多様化[テキスト p.27-32]<br/> 復習：多様化をもたらす社会的要因、健康志向の高まり、食情報の多様化の理解</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：テキスト 33-47 ページの購読<br/> 授業：第 1-3 回の復習（課題解決型学習）、食品の流通 1.食品流通の役割と社会的使命 2.卸売流通が必要な食品流通[テキスト p.33-47]<br/> 復習：食品流通・卸売流通・小売流通の役割、流通の社会的使命、生鮮食品・加工食品の流通の理解</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：テキスト 48-58 ページの購読<br/> 授業：3.食品の小売流通[テキスト p.48-58]<br/> 復習：販売形態の分類、多様な小売業態、食品小売業の機能の理解</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：テキスト 59-69 ページの購読<br/> 授業：外食・中食産業のマーチャライジング[テキスト p.59-69]<br/> 復習：外食産業の業態、食料流通、中食産業の業態、販売形態の理解</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：テキスト 71-80 ページの購読<br/> 授業：第 4-6 回の復習（課題解決型学習）、主要食品の流通 1.商品の分類 2.温度帯別食品流通[テキスト p.71-80]<br/> 復習：商品特性の基本的分類、商品の制度的分類、常温・恒温・冷蔵・冷凍流通の理解</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：テキスト 80-93 ページの購読<br/> 授業：3.主要食品の流通 [テキスト p.80-93]<br/> 復習：米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類と魚介加工品、食肉と食肉加工品の流通の理解</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：テキスト 93-107 ページの購読<br/> 授業：3.主要食品の流通 [テキスト p.93-107]<br/> 復習：鶏卵、飲用乳、乳製品、大豆加工品、漬物・佃煮、惣菜食品の流通の理解</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：テキスト 107-124 ページの購読<br/> 授業：第 7-9 回の復習（課題解決型学習）、3.主要食品の流通 [テキスト p.107-124]<br/> 復習：食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒ類、清涼飲料、酒類の流通の理解</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：テキスト 125-138 ページの購読<br/> 授業：フードマーケティング [テキスト p.125-138]<br/> 復習：フードビジネス、フードマーケティングの理解</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/>         予習：テキスト139-143ページの購読<br/>         授業：食料消費の課題 1.食料消費と環境問題 [テキストp.139-143]<br/>         復習：3R、食品リサイクルと廃棄物、ロス、フードマイレージ、LCA、パーチャルウォーターの理解</p> <p>【第13回】<br/>         予習：テキスト144-147ページの購読<br/>         授業：第10-12回の復習（課題解決型学習）、2.食品流通の安全確保 [テキストp.144-147]<br/>         復習：食品の安全性、アレルギー表示、トレーサビリティ、残留農薬、GAP、HACCP、企業倫理の理解</p> <p>【第14回】<br/>         予習：テキスト147-152ページの購読<br/>         授業：食料消費を取り巻く課題 [テキストp.147-152]<br/>         復習：買物難民、風評被害、地産地消、食育の取り組み、TPP、食料生産と異常気象の理解</p> <p>【第15回】<br/>         予習：第1～14回の講義内容の整理<br/>         授業：映像を通して、食品流通への理解をさらに深める<br/>         復習：本講義を通して、キーワードを理解し覚える</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 食品関連キーワードがでてきますので、これまでに学んだ食品関連科目を整理・理解しておく                       |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 実施した小テストは、原則、授業時に返却するとともに、課題についてはオンラインツールであるGSE クラスルーム上で評価コメントする |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 日本フードスペシャリスト協会編『四訂 食品の消費と流通』（建帛社 ISBN/978-4-7679-0687-4）         |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 食品関連科目の教科書   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 課題（5回）60%<br>小テスト（5回）40%   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                                  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   | △   | ◎                                       | ○   |   |     |
| 関連科目   | フードスペシャリスト関連科目および食品関連科目  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週） + 予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                 |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床心理学 I  |       |         |
| 科目分類   | 210-310-12 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Clinical Psychology I  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 吉野 菜穂子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 吉野 菜穂子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 4-202   |
| 授業概要   | 管理栄養士は、乳児から高齢者まであらゆる年代の「食」に関する相談を受け、適切な支援を提供することが求められる。そこで、「臨床心理学 I」では、まず乳児期から青年期までの心と身体の特徴や課題、それぞれのステージで生じやすいとされる心理的な問題（葛藤）について学ぶ。そして、支援対象者の「食」に関する問題が、本人にとってどのような意味を持つものであるか考えていく。 |       |         |
| 到達目標   | 乳児期から青年期までの心身の発達と発達課題について理解できるようになることを目指す。また、それぞれの発達段階において生じやすい心身の問題について理解し、具体的な支援内容と支援する際の留意点について理解できるようになることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>第 1 回<br/>予習：シラバスを読む<br/>授業：ガイダンス：授業の概要を説明する<br/>復習：ガイダンスを受けて、自分の興味関心、疑問点などをまとめる</p> <p>第 2 回<br/>予習：乳児期の子どもの発達について調べる<br/>授業：乳児期の発達の特徴、発達課題について学ぶ<br/>復習：レジュメを読み返し、乳児期の発達の特徴についてふりかえる</p> <p>第 3 回<br/>予習：乳児期に起こりやすい心身の問題について調べる<br/>授業：乳児期の問題と病理、その支援<br/>復習：レジュメを読み返し、乳児期に生じやすい問題について理解を深める</p> <p>第 4 回<br/>予習：幼児期の子どもの発達について調べる<br/>授業：幼児期の心身発達の特徴と発達課題<br/>復習：レジュメを読み返し、幼児期の発達の特徴をまとめる</p> <p>第 5 回<br/>予習：幼児期に起こりやすい心身の問題について調べる<br/>授業：幼児期の問題と病理、その支援<br/>復習：レジュメを読み返し、幼児期の子どもへの支援について理解を深める</p> <p>第 6 回<br/>予習：児童期前期（小学校 1～3 年）の子どもの発達について調べる<br/>授業：児童期前期の心身の発達特徴と課題<br/>復習：レジュメを読み返し、児童期前期の子どもの特徴を理解する</p> <p>第 7 回<br/>予習：児童期前期の子ども的心身の問題について調べる<br/>授業：児童期前期の心身の問題と支援<br/>復習：レジュメを読み返し、児童期前期で生じやすい心身の問題を理解する</p> <p>第 8 回<br/>予習：児童期後期（小学校 4～6 年）の子どもの発達について調べる<br/>授業：児童期後期の子ども発達特徴と課題<br/>復習：レジュメを読み返し、児童期後期の子ども発達の特徴をまとめる</p> <p>第 9 回<br/>予習：児童期後期に生じやすい心身の問題について調べる<br/>授業：児童期後期の問題と病理、その支援<br/>復習：レジュメを読み返し、児童期後期の子ども問題と支援について理解する</p> <p>第 10 回<br/>予習：思春期（中学生）の発達の特徴を調べる<br/>授業：思春期の心身の発達特徴と発達課題<br/>復習：レジュメを読み返し、思春期の特徴について理解を深める</p> <p>第 11 回<br/>予習：思春期（中学生）に生じやすい心身の問題を調べる<br/>授業：思春期の問題と病理、その支援<br/>復習：レジュメを読み返し、思春期の病理と支援のあり方についてふりかえる</p> |  |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>第 12 回<br/> 予習：思春期（高校生）の発達テーマについて調べる<br/> 授業：思春期（高校生）の発達課題<br/> 復習：レジュメを読み返し、高校生の発達テーマについてまとめる</p> <p>第 13 回<br/> 予習：思春期の子どもを育てる保護者の発達課題について調べる<br/> 授業：思春期（中学生から高校生）の子どもを育てる親の課題と支援<br/> 復習：レジュメを読み返し、思春期の子どもと保護者との関係についてまとめる</p> <p>第 14 回<br/> 予習：青年期の発達課題について調べる<br/> 授業：青年期の発達課題について<br/> 復習：レジュメを読み返し、青年期の特徴について理解を深める</p> <p>第 15 回<br/> 予習：青年期に生じやすい問題について調べる<br/> 授業：青年期の問題と病理、その支援<br/> 復習：レジュメを読み返し、青年期に生じやすい問題と対応についてまとめる</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 心理学Ⅰ、心理学Ⅱの教科書や配布資料を確認し、人間の基本的な心の動きについて確認しておく授業内容がスムーズに理解できる。                                     |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 課題については、授業の時間内でポイントの解説、次回の課題にむけた改善点などを説明する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 授業内で配布するレジュメや資料を中心に講義を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 永井徹監修／青木紀久代・平野直己共編『乳幼児期・児童期の臨床心理学』培風館<br>永井徹監修／井上果子・神谷栄治共編『思春期・青年期の臨床心理学』培風館                     |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 定期試験の成績（80％）と授業内課題の提出（20％）により評価を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  | ○   | ○   |     | ◎                                       |     | △   |     |
| 関連科目   | 心理学Ⅰ、心理学Ⅱ  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 精神科病院にて臨床心理士として心理療法の経験、小学校や中学校にてスクールカウンセラーとしてカウンセリングの経験あり。相談業務の経験を活かし、児童、思春期の精神病理や保護者支援について講義する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 臨床心理学Ⅱ  |       |         |
| 科目分類   | 210-310-12 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Clinical Psychology II  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 吉野 菜穂子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 吉野 菜穂子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10  | 研究室   | 4-202   |
| 授業概要   | 「臨床心理学Ⅰ」からの継続として、講義の前半は成人期から老年期における心身の発達と、各発達段階における心理社会的な発達課題について学ぶ。講義の後半では、うつ病や統合失調症などの精神疾患についての理解と支援のあり方、ストレスのメカニズムとマネジメントについて学ぶ。                   |       |         |
| 到達目標   | 成人期から老年期までの心身の発達と発達課題、それぞれの発達段階で生じやすいと考えられているところの問題とその支援について理解できるようになることを目標とする。また、代表的な精神疾患について理解し、管理栄養士として支援する際に必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とする。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスを読む<br/> 授業：ガイダンス：講義概要を説明します。<br/> 復習：ガイダンスを受け、自分の興味関心のポイント、疑問点などを取り上げておく</p> <p>【第2回】<br/> 予習：自己表現について調べ、キーワードをまとめておく。<br/> 授業：自己表現のタイプについて学ぶ。<br/> 復習：レジュメを読み返して、自己表現についての理解を深める。</p> <p>【第3回】<br/> 予習：成人期（社会人・家庭人）の発達について文献に触れる<br/> 授業：成人期（社会人・家庭人）の発達の特徴、発達課題について学ぶ<br/> 復習：成人期（社会人・家庭人）の発達の特徴、発達課題についてふりかえる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：成人期（社会人・家庭人）の抱える問題について考える<br/> 授業：成人期（社会人・家庭人）の抱える問題と病理、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：成人期（社会人・家庭人）の抱える問題と病理、支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：中年期の発達について文献にふれる<br/> 授業：中年期の発達の特徴、発達課題について学ぶ<br/> 復習：中年期の発達の特徴、発達課題についてふりかえる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：中年期における心の問題について考える<br/> 授業：中年期の問題と病理、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：中年期の問題と病理、支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：老年期の発達について文献にふれる<br/> 授業：老年期の発達の特徴、発達課題について学ぶ<br/> 復習：老年期の発達の特徴、発達課題についてふりかえる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：老年期の心の問題について考える<br/> 授業：老年期の問題と病理、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：老年期の問題と病理、支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：認知症について文献にふれる<br/> 授業：認知症の症状、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：認知症の症状と支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：終末期に関する文献にふれる<br/> 授業：終末期における問題、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：終末期における問題、支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：統合失調症について文献にふれる<br/> 授業：統合失調症の症状、支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：統合失調症の症状、支援のあり方についてふりかえる</p> <p>【第12回】<br/> 予習：うつ病について文献にふれる<br/> 授業：うつ病の症状と支援のあり方について学ぶ<br/> 復習：うつ病の症状と支援のあり方についてふりかえる</p> |   |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：ストレスについて文献にふれる<br/>         授業：ストレスのしくみについて学ぶ<br/>         復習：ストレスのメカニズムについて理解を深める。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：ストレスの種類について調べる。<br/>         授業：ストレスマネジメントについて学ぶ（ワークシート）<br/>         復習：ワークシートとレジュメを読み返し、ストレスについて理解を深める。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：思考力について調べる。<br/>         授業：ブレインストーミングとKJ法について学ぶ（グループワーク）<br/>         復習：ワークシートとレジュメを読み返し、柔軟な思考について理解を深める。</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 参考書や関連文献、研究論文を事前に読んでおくと授業が理解しやすい。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 授業内課題については、次回の授業内で解説を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 講義の中で配布するレジュメ、資料を中心に授業を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 永井徹監修／田中信市・下川昭夫共著『ライフサイクルの臨床心理学シリーズ 3 中年期・老年期の臨床心理学』培風館                      |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 定期試験の成績（80%）と授業内課題の提出（20%）により評価を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  | ○   | ○   |     | ◎                                       |     | △   |     |
| 関連科目  | 心理学Ⅰ・Ⅱ   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 60 時間（4 時間×15 週）                               |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、成人期以降に生じやすい精神病理とその支援について講義する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |          |
|---|--|-------|----------|
| 科目名称  | 臨床心理学演習  |       |          |
| 科目分類  | 210-430-23 (J)   | 単位数   | 履修ガイド参照  |
| 英文名称  | Seminar on Clinical Psychology   | 授業区分  | 演習・実習・実験 |
| 科目責任者   | 吉野 菜穂子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照  |
| 担当教員  | 吉野 菜穂子   | 開講時期  | 履修ガイド参照  |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 4-202    |
| 授業概要  | 栄養指導の場面では、食生活に加えて家族関係や仕事、対人関係のストレスなど心理的な課題を抱えるクライアントに出会うことが少なくない。そこで、本授業では、最初に精神分析的な人格理論の基礎を学び、その後、創作事例を用いたロールプレイやグループディスカッションを通してクライアントの心の動きや支援者の対応のあり方を体験的に学ぶ。 |       |          |
| 到達目標  | ロールプレイやグループディスカッションを通して、食生活改善への意欲を語らない、または明らかに拒否的な態度を示すクライアントに対して、その個人が抱えている心理的、社会的な背景にも目を向け、対話を通して適切な支援を検討することができるようになることを目指す。                                  |       |          |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |          |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |          |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスを読む<br/> 授業：ガイダンス：授業概要の説明<br/> 復習：ガイダンスを受けて、自分の興味関心のある内容、疑問点などをまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：食生活が乱れる要因について調べる<br/> 授業：精神分析的な人格理論-1<br/> 復習：レジュメをふりかえり、要点をまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：第2回のレジュメをふりかえり、食生活の問題と心理的負荷について調べる<br/> 授業：精神分析的な人格理論-2<br/> 復習：レジュメをふりかえり、こころの機能について要点をまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：第3回のレジュメをふりかえり、心理的負荷がかかった際の心的反応を調べる<br/> 授業：精神分析的な人格理論-3<br/> 復習：レジュメを読み返し、防衛機制についてまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：糖尿病の症状と治療について調べる<br/> 授業：事例の読み方を学ぶ（グループディスカッション）<br/> 復習：栄養指導の際の情報収集の仕方についてまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：（事前課題）事例-1を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-1：糖尿病の治療中断事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-1を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第7回】<br/> 予習：（事前課題）事例-2を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-2：小児肥満事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-2を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：（事前課題）事例-3を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-3：小児入院治療事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-3を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第9回】<br/> 予習：（事前課題）事例-4を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-4：経済的困難を抱える事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-4を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第10回】<br/> 予習：（事前課題）事例-5を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-5：高度肥満事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-5を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：（事前課題）事例-6を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-6：うつ病と糖尿病治療の事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-6を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第12回】<br/> 予習：（事前課題）事例-7を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/> 授業：事例検討-7：依存に課題を抱える事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/> 復習：創作事例-7を通して理解したことや気づきをまとめる</p> |  |       |          |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：摂食障害について調べる<br/>         授業：摂食障害の特徴と治療について学ぶ<br/>         復習：レジュメをふりかえり、要点をまとめる</p> <p>【第14回】<br/>         予習：（事前課題）事例-8を読み、栄養指導の改善点をまとめる<br/>         授業：事例検討-8：思春期の摂食障害事例（ロールプレイとグループディスカッション）<br/>         復習：創作事例-8を通して理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第15回】<br/>         予習：がん治療と終末期患者の生活について調べる<br/>         授業：事例検討-9：終末期患者の事例（グループディスカッション）<br/>         復習：創作事例-9を通して理解したことや気づきをまとめる</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 配付されたレジュメや課題を読み、関心のある内容や理解の難しい内容、新しい医療用語については図書館等で調べ、基本的な意味が理解できるように準備をする                      |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 授業内課題については、次回の授業内で解説を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 授業内で配布するレジュメ、資料、事前課題を中心に講義を行う  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 適宜授業内で紹介する   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 授業内課題と授業態度（50%）とまとめレポート（50%）の提出により評価を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  |     | ○   |     | ◎                                       |     | ○   | △   |
| 関連科目  | 心理学Ⅰ・Ⅱ、臨床心理学Ⅰ・Ⅱ  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  | 講義時間 30 時間（2 時間×15 週）＋予習・復習時間 15 時間（1 時間×15 週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、クライアント理解や信頼関係構築に向けた支援者の態度、言語的コミュニケーションについて講義する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | カウンセリング論  |       |         |
| 科目分類   | 210-310-13 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Counseling Studies  | 授業区分  | 講義      |
| 科目責任者  | 吉野 菜穂子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 吉野 菜穂子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10  | 研究室   | 4-202   |
| 授業概要   | 本講義では、管理栄養士としてクライアントやその家族へ支援を提供する際に必要とされる基本的なカウンセリングの知識や技術について学ぶ。前半の授業では、カウンセリングにおける場の設定や支援者としての姿勢、面接を通じた情報収集、伝達の方法について学ぶ。後半の授業では、創作事例やグループワークを通して栄養指導に必要とされるコミュニケーションについて学ぶ。 |       |         |
| 到達目標   | 臨床現場で栄養指導（カウンセリング）を行う際に必要な知識や技術、支援者に求められる姿勢について理解できるようになることを目標とする。また、創作事例に取り組むことでクライアントや支援者自身のこころの動きや行動、言葉の意味を理解し、栄養指導（カウンセリング）の中で適切に生かせるようになることを目指す。                         |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：シラバスを読む<br/> 授業：ガイダンス：講義概要の説明<br/> 復習：ガイダンスを受けて、自分の興味関心のある内容、疑問などをまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：第2回のレジュメに目を通して内容を確認しておく<br/> 授業：ブレインストーミングとKJ法について学ぶ（グループワーク）<br/> 復習：自分の分析結果から、栄養指導を行う際の心構えについてふりかえる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：カウンセリングが求められる社会的背景について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：現代社会においてカウンセリングが求められる背景について学ぶ<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、カウンセリングが求められる背景について理解を深める</p> <p>【第4回】<br/> 予習：カウンセリングを行う際に必要なことを調べる<br/> 授業：カウンセリングの場の設定、支援者の姿勢について学ぶ（グループワーク）<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、理解したことや気づきをまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：非言語的コミュニケーションについて、キーワードをまとめる<br/> 授業：非言語的コミュニケーションとその意味について学ぶ（ワークシート）<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、非言語的コミュニケーションについて理解を深める</p> <p>【第6回】<br/> 予習：非言語的コミュニケーションのワークシートを読み返す<br/> 授業：非言語的コミュニケーションとその意味について学ぶ（解説とふりかえり）<br/> 復習：レジュメと解説資料から、非言語的コミュニケーションについて理解を深める</p> <p>【第7回】<br/> 予習：クライアント中心療法について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：クライアント中心療法について学ぶ<br/> 復習：ワークシートを読み返し、クライアント中心療法について理解を深める</p> <p>【第8回】<br/> 予習：交流分析について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：交流分析について学ぶ<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、交流分析についての理解を深める</p> <p>【第9回】<br/> 予習：行動療法について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：行動療法について学ぶ<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、行動療法について理解を深める</p> <p>【第10回】<br/> 予習：認知行動療法について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：認知行動療法について学ぶ-1（基本編）<br/> 復習：レジュメと資料を読み返し、認知行動療法について理解を深める</p> <p>【第11回】<br/> 予習：認知行動療法について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：認知行動療法について学ぶ-2（実践編：グループワーク）<br/> 復習：ワークシートを読み返し、認知変容について理解を深める</p> <p>【第12回】<br/> 予習：「共感」と「同意」について調べ、キーワードをまとめる<br/> 授業：カウンセリング場面における「共感」と「同意」の違いについて学ぶ-1（基礎編）<br/> 復習：レジュメを読み返し、ワークシートへの記載をすすめる</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習：「共感」と「同意」について調べ、キーワードをまとめる<br/>         授業：カウンセリング場面における「共感」と「同意」の違いについて学ぶ-2（実践編：グループワーク）<br/>         復習：レジュメと解説資料を読み返して、「共感」について理解を深める</p> <p>【第14回】<br/>         予習：「怒り」の感情について調べ、キーワードをまとめる<br/>         授業：ブレインストーミングとKJ法を用いて「怒り」の背景について学ぶ<br/>         復習：自分の分析結果をふりかえり、ワークシートへ取り組む</p> <p>【第15回】<br/>         予習：「怒り」への対応のワークシートを読み返し、不足部分について調べる<br/>         授業：「怒り」を表現するクライアントへの理解と対応について学ぶ（グループワーク）<br/>         復習：ワークシートをレジュメを読み返し、「怒り」の感情についての理解を深める</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 臨床心理学Ⅰ・Ⅱのレジュメを読み、内容を復習しておくことで授業の内容が理解しやすくなる。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 授業内課題については、基本的には次の講義内で解説を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 授業内で配布するレジュメや資料を中心に講義を行う。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 授業内で適宜紹介する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 試験80%、平常点（授業態度、授業内ワークシートの提出）20%により評価を行う。   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  | △   | ○   |     | ◎                                       |     | ○   |     |
| 関連科目   | 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   | 講義時間30時間（2時間×15週）＋予習・復習時間60時間（4時間×15週）   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  | 精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士として心理療法の経験あり。相談業務の経験を活かし、相談者との信頼関係構築に向けた支援者の態度や言語的コミュニケーションについて講義する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 小澤 多賀子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 小澤 多賀子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 金曜日 13:00～16:10<br>後期 金曜日 09:00～12:10  | 研究室   | 16-103  |
| 授業概要   | <p>研究テーマは、「運動」と「食事」の両面を対象者の健康づくりを支援するものを推奨する。また、健康増進や介護予防に関する研究も行える。</p> <p>具体的な進め方は、ステップ1として研究を遂行するための基礎能力をつける学習を行う。ステップ2では卒業研究のテーマを検討し、ステップ3で研究データの収集と分析、ステップ4で卒業研究論文の執筆とする。なお、本授業はプレゼンテーションやディスカッションを含む。</p> |       |         |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が興味のある研究テーマに対して課題を整理し、課題解決のための目的を設定できるようになる。</li> <li>・設定した研究目的を明らかにするための研究デザインを設計し、それを実行できるようになる。</li> </ul>   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：興味のある研究テーマの下調べ<br/>授業：ガイダンス<br/>復習：授業の方針の確認</p> <p>【第2回】<br/>予習：研究論文の検索方法の下調べ<br/>授業：研究論文の選び方と読み方（1）～論文の検索方法～<br/>復習：インターネットなどでの研究論文の検索</p> <p>【第3回】<br/>予習：興味のあるテーマの先行研究論文について複数検索<br/>授業：研究論文の選び方と読み方（2）～論文の読み方のコツ～<br/>復習：参考とする研究論文の一読</p> <p>【第4回】<br/>予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理<br/>授業：論文抄読（1）（プレゼンテーション、ディスカッション）<br/>復習：内容に対する議論の整理</p> <p>【第5回】<br/>予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理<br/>授業：論文抄読（2）（プレゼンテーション、ディスカッション）<br/>復習：内容に対する議論の整理</p> <p>【第6回】<br/>予習：参考とする先行研究論文を閲読し、要点の整理<br/>授業：論文抄読（3）（プレゼンテーション、ディスカッション）<br/>復習：内容に対する議論の整理</p> <p>【第7回】<br/>予習：興味のある研究テーマの選出<br/>授業：研究テーマの検討（1）～研究課題の整理～<br/>復習：研究課題の再整理</p> <p>【第8回】<br/>予習：興味のある研究テーマの選出<br/>授業：研究テーマの検討（2）～研究目的の設定～<br/>復習：研究目的の再整理</p> <p>【第9回】<br/>予習：研究対象者の選定<br/>授業：研究データの収集（1）（フィールドワーク）<br/>復習：収集データ項目の整理</p> <p>【第10回】<br/>予習：研究データ収集の事前準備<br/>授業：研究データの収集（2）（フィールドワーク）<br/>復習：収集データの整理</p> <p>【第11回】<br/>予習：データセットの作成<br/>授業：研究データの整理と統計解析（ディスカッション）<br/>復習：統計解析結果の確認</p> <p>【第12回】<br/>予習：研究背景、目的、方法の確認</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 授業：論文執筆（１）～研究背景、目的、方法の執筆～<br>復習：研究背景、目的、方法について、誤字脱字のチェック<br>【第１３回】<br>予習：研究結果と考察の確認、参考文献の整理<br>授業：論文執筆（２）～研究結果と考察の執筆、参考文献リストの作成～<br>復習：研究結果と考察、参考文献リストについて、誤字脱字のチェック<br>【第１４回】<br>予習：研究背景から考察までを１つに集約<br>授業：論文執筆（３）～論文の完成～<br>復習：完成論文の誤字脱字のチェック<br>【第１５回】<br>予習：研究成果の発表準備<br>授業：研究成果の発表（プレゼンテーション、ディスカッション）<br>復習：指摘を受けた部分の整理（必要に応じて論文の加筆修正） |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 自分の興味のあるテーマや分野に関する情報収集。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 執筆する卒業論文は、完成までの間に、適宜、修正および助言を与える。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 適宜資料を配付する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝田茂、征矢英昭著：『運動生理学２０講（第３版）』（朝倉書店）２０１５年</li> <li>・鈴木志保子著：『理論と実践 スポーツ栄養学』（日本文芸社）２０２１年</li> <li>・田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編：『健幸華齢のためのスマートライフ』（サンライフ企画）２０１９年</li> </ul> |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 成績評価：論文抄読２０％、実験に対する姿勢や態度２０％、完成した卒業論文６０％を総合的に判断して評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 運動生理学、研究テーマに応じた各専門教科   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24 (J)  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 曾我部 夏子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 曾我部 夏子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 14:40～16:10 木曜日 10:40～12:10<br>後期 金曜日 10:40～12:10 金曜日 13:00～14:30                                | 研究室   | 16-102  |
| 授業概要   | 栄養学に関するテーマについて、ディスカッションやグループワークを通して調査・研究方法について習得する。   |       |         |
| 到達目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養学に関する調査研究の方法を理解することができる</li> <li>・食育計画案を立案することができる</li> </ul> |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：なぜ卒論を履修しようと思ったのか、その理由、意気込みをレポートにまとめる<br/> 授業：研究の進め方、テーマの選び方について<br/> 復習：1回目ゼミで学んだ内容をレポートにまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：昨年度の研究室での卒業研究で使用した資料を読む<br/> 授業：研究方法について：研究・調査の実施方法について学ぶ<br/> 復習：研究・調査方法についてレポートにまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：食育に関する調査や法律についての新聞や学術雑誌の記事を集める<br/> 授業：研究テーマの選定①：自分の研究テーマの背景、先行研究を調べる<br/> 復習：ゼミで取り上げた食育について、自分でさらに情報を集める</p> <p>【第4回】<br/> 予習：内閣府や東京都が実施している食育内容について調べる<br/> 授業：研究テーマの選定②：自分の研究テーマの背景、先行研究を調べる<br/> 復習：ゼミで取り上げた食育について、自分でさらに情報を集める</p> <p>【第5回】<br/> 予習：中高生女子のスポーツ選手の身体状況や食生活状況について調べる<br/> 授業：研究実施計画立案①（ディスカッション）<br/> 復習：研究の実施時期、期間、内容についてレポートにまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：研究計画を実施するために必要な情報を集める<br/> 授業：研究実施計画立案②（ディスカッション）<br/> 復習：ゼミでディスカッションした内容を踏まえて、研究計画案を修正する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：調査用紙の質問項目について検討するため、先行研究を調べる<br/> 授業：研究実施に向けての準備①<br/> 復習：ゼミでディスカッションした内容を踏まえて、調査用紙案を作成する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：調査用紙の質問項目について検討する<br/> 授業：研究実施に向けての準備②<br/> 復習：ゼミのディスカッション結果を踏まえて、調査用紙のレイアウトを修正する</p> <p>【第9回】<br/> 予習：作成した調査用紙を使って、予備調査を実施する<br/> 授業：研究・調査の実施①：予備調査結果を解析する（グループワーク）<br/> 復習：予備調査の結果から、記入ミスが多い質問項目を修正する</p> <p>【第10回】<br/> 予習：完成した調査用紙の誤字脱字等がないか確認する<br/> 授業：研究・調査の実施②：本調査（グループワーク）<br/> 復習：調査用紙の回収枚数、記入漏れ等の確認作業を行う</p> <p>【第11回】<br/> 予習：回収した調査用紙の回答をPCに入力する<br/> 授業：調査データの解析①<br/> 復習：解析結果をグラフ・表にまとめる</p> <p>【第12回】<br/> 予習：解析結果から読み取れることをまとめる<br/> 授業：調査データの解析②<br/> 復習：ゼミでのディスカッション内容を踏まえて、さらに解析を進める</p> <p>【第13回】</p> |   |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 予習 : 卒業論文の目次案を検討する<br>授業 : 卒業論文の作成①<br>復習 : 目的・方法について卒論にまとめる<br>【第 14 回】<br>予習 : 結果・考察の項目について執筆を進める<br>授業 : 卒業論文の作成②<br>復習 : 論文を推敲する<br>【第 15 回】<br>予習 : プレゼンテーション資料を作成する<br>授業 : 研究成果のプレゼンテーション<br>復習 : ゼミでのディスカッション内容を踏まえて、卒論の考察を推敲する |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 新聞や書籍で、栄養・食育に関する情報・知識を集めておくこと                  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | レポートは、採点した後、個別でアドバイスをを行う。                      |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 初回のゼミの際に指示する                                   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | ゼミの際に、適宜、紹介する                                  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | ゼミの課題レポート(50%)、研究に取り組む意欲(20%)、研究成果(30%)として判断する |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 産業保健領域での管理栄養士の実務経験あり。就労者への栄養教育の実例を紹介する。        |     |   |     |   |     |   |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24（J）  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 井上 浩一  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 井上 浩一  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 09:00～12:00<br>後期 月曜日 09:00～12:00   | 研究室   | 16-104  |
| 授業概要  | 地域における多様な健康・栄養課題を解決するためには、人を取り巻く生活環境の諸条件を総合的に考察し、地域社会の組織的活動によって解決していかなければならない。このため、卒論では、地域において健康的な生活を送るための課題を明確にし、その課題を解決するための事業提案のための調査・分析を行う。併せて、学生同士の討議を通じて、管理栄養士として必要なメディア・リテラシー能力やプレゼンテーション能力を習得する方法・技術を学ぶ。 |       |         |
| 到達目標  | 自分自身で文献検索を行い、地域の現状等を踏まえたアンケート調査や身体計測等を実施し、統計解析ができることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| 【第 1 回】<br>予習：調査方法の雑誌の購読<br>授業：授業に関するガイダンスと調査手法・リサーチ活動の基本<br>復習：調査方法・リサーチ活動の基本の再確認                    |  |       |         |
| 【第 2 回】<br>予習：アンケート関連雑誌の購読<br>授業：アンケート調査のポイントとグループ編成<br>復習：アンケート調査のポイントの再確認                           |  |       |         |
| 【第 3 回】<br>予習：社会調査関連雑誌の購読<br>授業：社会的問題に関する調査テーマの選定・調査手法・調査日程<br>復習：社会的問題に関する調査テーマの選定・調査手法の再確認          |  |       |         |
| 【第 4 回】<br>予習：社会調査関連雑誌の購読<br>授業：テーマに関する情報収集・グループ調査①<br>復習：テーマに関する情報収集・グループ調査の再確認                      |  |       |         |
| 【第 5 回】<br>予習：社会調査関連雑誌の購読<br>授業：テーマに関する情報収集・グループ調査②<br>復習：テーマに関する情報収集・グループ調査の再確認                      |  |       |         |
| 【第 6 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：調査結果の分析とグループディスカッション①<br>復習：調査結果の分析とグループディスカッションの再確認               |  |       |         |
| 【第 7 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：調査結果の分析とグループディスカッション②<br>復習：調査結果の分析とグループディスカッションの再確認               |  |       |         |
| 【第 8 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：プレゼンテーション技法の習得①<br>復習：プレゼンテーション技法の習得の再確認                           |  |       |         |
| 【第 9 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：プレゼンテーション技法の習得②<br>復習：プレゼンテーション技法の習得の再確認                           |  |       |         |
| 【第 10 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：調査テーマについての授業計画の策定<br>復習：調査テーマについての授業計画の策定の再確認                     |  |       |         |
| 【第 11 回】<br>予習：社会調査方法の関連雑誌の購読<br>授業：グループ発表に対する評価手法の習得と評価アンケート作成<br>復習：グループ発表に対する評価手法の習得と評価アンケート作成の再確認 |  |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : 社会調査方法の関連雑誌の購読<br/> 授業 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議①<br/> 復習 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議の再確認</p> <p>【第 13 回】<br/> 予習 : 社会調査方法の関連雑誌の購読<br/> 授業 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議②<br/> 復習 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議の再確認</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : 社会調査方法の関連雑誌の購読<br/> 授業 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議③<br/> 復習 : グループ発表 (プレゼンテーション) と討議の再確認</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : 社会調査方法の関連雑誌の購読<br/> 授業 : 発表の評価と授業のまとめ<br/> 復習 : これまでの全体の再確認</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 調査方法が記載された雑誌の購読   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 卒論レポート、研究内容に問題があれば、随時、指摘する  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 特に使用せず。使用する資料は随時配布する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 講義中に指示する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 課題提出 7 割、授業態度 2 割、卒論への取り組み姿勢 1 割をもって評価する  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目  | コンピューター解析   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   | コミュニケーションを重視する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 保健所等の経験を活かして、現場において実践できるよう、具体的な事例をもとにした情報の収集方法、活用方法等の講義を行う。また、事例をもとに、どのような手順で、課題を抽出し、それに対する課題解決のための計画・実践方法を指導するとともに、統計手法を取り入れた評価方法等を実践指導する。最終的には、これらの結果をもとに、どのようにまとめて、得られた情報等を施策に反映させるのか、実践指導を行う。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects   |       | 授業区分    |
| 科目責任者  | 西山 一郎   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 西山 一郎   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00<br>後期 月曜日 16:00～18:00 水曜日 16:00～18:00  | 研究室   | 16-107  |
| 授業概要   | 各自が選択した研究テーマにしたがって文献調査や実験を行い、科学的・論理的な結論を導き出すトレーニングを行う。また、研究によって得られた資料やデータをもとにして、論理的に矛盾のない報告書を作成する。具体的には、HPLC 法や SDS-電気泳動法などの生化学的手法を用いて、食物色素、ビタミン類や酵素の分析を行い、これらに関する知識を深めるとともに、新たな発見を目指す。研究の過程で、他の卒業研究生や指導教員とのディスカッションを複数回行う。 |       |         |
| 到達目標   | 研究の一連のプロセスを自分で行うための能力を身につける。すなわち、興味をもったテーマについて、文献調査によって先行研究の内容を把握し、問題点を発見することができるようになる。その問題点を解決するための実験計画を立案し、得られた結果から適切な解釈を導き出し、考察を行うことができるようになることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく<br/> 授業：（文献検索Ⅰ） 検索方法の習得<br/> 復習：文献検索を繰り返し行う</p> <p>【第2回】<br/> 予習：図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく<br/> 授業：（文献検索Ⅱ） 先行研究の調査<br/> 復習：得られた文献を読み、内容を理解する</p> <p>【第3回】<br/> 予習：前回の文献に掲載されている参考文献の中から、必要な文献を選び出す<br/> 授業：（文献検索Ⅲ） 先行研究の調査ならびに関連情報の整理<br/> 復習：得られた文献を読み、内容を理解する</p> <p>【第4回】<br/> 予習：これまでに読んだ文献の中から、実験計画の立案に有用と思われるものを選び出す<br/> 授業：実験計画の立案（ディスカッション）<br/> 復習：実験計画について検証をおこなう</p> <p>【第5回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第6回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：これまでの実験結果を見やすくまとめる<br/> 授業：実験結果のまとめと実験計画の立案（ディスカッション）<br/> 復習：実験計画について検証をおこなう</p> <p>【第9回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第10回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第11回】<br/> 予習：実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : 実験を行うための器具や薬品をそろえ、フローチャートを作成する<br/> 授業 : 実験<br/> 復習 : 実験結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第 13 回】<br/> 予習 : これまでの実験結果を見やすくまとめる<br/> 授業 : 実験結果のまとめ (ディスカッション)<br/> 復習 : 図表などが効果的かどうかを検証する</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : 報告書の書き方の例を集め、必要な文献を整える<br/> 授業 : 実験報告書の作成<br/> 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : 関連する文献を読み直す<br/> 授業 : 実験報告書の作成<br/> 復習 : 作成した原稿を読み直し推敲する</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 以下の「関連科目」の項目を参照して、各自のテーマに関連する内容を復習しておくこと。キウイフルーツに関する研究テーマの場合は、次のページを見ておくこと。<a href="http://kiwi.main.jp/" target="_blank">キウイフルーツ研究室</a> |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 第 14 回目および第 15 回目の授業で提出された実験報告書を添削し、提出後 3 日目に返却する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 使用しない。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | CiNii、J-STAGE、ScienceDirect、Academic search premier、Google Scholar、MEDLINE 等による参考文献の検索方法や入手方法については、卒業研究の一環として指導する。                       |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 研究成果や研究報告書 (100%) によって評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 「生化学 I・II」や「生化学実験 I・II」で学んだ内容と関連が深い。研究テーマにもよるが、酵素やビタミン、HPLC 法、SDS-PAGE 法などが関連する。また、「食品学」や「基礎栄養学」なども関連する場合がある。                            |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 岡田 昌己  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 岡田 昌己  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 09:00～13:00<br>後期 木曜日 09:00～13:00   | 研究室   | 4-201   |
| 授業概要   | 運動時、減量時、増量時など、様々な環境下で変化する尿中成分の分析し、一般生活をしている時の尿中成分との比較検討を行っていく。それを元に、論文作成のために必要なデータ収集、文献検索、研究の進め方など、基本的な知識について学び、卒業論文を作成する。 |       |         |
| 到達目標   | 先行研究などをはじめとする論文検索の方法、蓄尿方法や食事、尿中の栄養素成分の分析方法を理解し、考察・今後の展望についてまとめ、プレゼンテーションが出来る力を身に付ける。                                       |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：興味のある研究に関する科目について復習しておく<br/> 授業：オリエンテーション、研究テーマ・目的について検討する<br/> 復習：自分の興味のある研究についてまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：インターネットについて基本的な操作をマスターしておく<br/> 授業：文献検索について学ぶ<br/> 復習：興味のある研究について文献検索しまとめる</p> <p>【第3回】<br/> 予習：文献検索の方法を理解しておく<br/> 授業：先行研究について検討する<br/> 復習：先行研究についてまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：興味のある研究、先行研究についてまとめる<br/> 授業：研究テーマ・目的の決定、研究の進め方について<br/> 復習：研究の進め方についてまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：尿中成分の正常値、異常値について学んでおく<br/> 授業：尿中成分の分析法について学ぶ<br/> 復習：必要な尿中成分の分析法についてまとめる</p> <p>【第6回】<br/> 予習：予備実験の準備をする<br/> 授業：尿中成分の予備実験を行う<br/> 復習：予備実験結果についてデータ整理をする</p> <p>【第7回】<br/> 予習：予備実験で分析した成分について調べておく<br/> 授業：予備実験のまとめ、本実験の計画を立てる<br/> 復習：本実験の計画についてまとめる</p> <p>【第8回】<br/> 予習：実験をする尿中成分について調べておく<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果についてデータ整理をする</p> <p>【第9回】<br/> 予習：実験をする尿中成分について調べておく<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果についてデータ整理をする</p> <p>【第10回】<br/> 予習：実験をする尿中成分について調べておく<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果についてデータ整理をする</p> <p>【第11回】<br/> 予習：実験をする尿中成分について調べておく<br/> 授業：実験<br/> 復習：実験結果についてデータ整理をする</p> <p>【第12回】<br/> 予習：全ての実験のデータを整理しておく<br/> 授業：実験結果の分析・まとめ<br/> 復習：分析結果について間違いがないか確認する</p> <p>【第13回】</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 予習：研究の目的と実験結果について検討しておく<br>授業：卒業論文のまとめ<br>復習：発表の図・表・文章が正しいか確認しておく<br>【第14回】<br>予習：パワーポイントの基本的な操作について学んでおく<br>授業：卒業論文発表の準備<br>復習：発表の図・表・文章が正しいか確認する<br>【第15回】<br>予習：発表の練習をしておく<br>授業：卒業論文発表 「発表」<br>復習：発表の反省をまとめる |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 興味のあるテーマについて、情報収集しておくが良い。<br>また、今まで学んできた関連科目の教科書、ノートを見返し、基本的な知識についてよく復習しておく。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 各課題に関して添削を行い、不十分な個所に関してはヒントを与え、または、グループで話し合わせて、再提出させる。その再提出したものも不十分な場合は解説を行う。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 特になし。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 適宜、テーマに関する資料を指示する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | テーマに取り組む態度（20点）、研究成果（60点）、研究発表（20点）より、総合的に評価する。                               |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、基礎栄養学、栄養生理学、栄養生理学実験   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   |       | 授業区分    |
| 科目責任者   | 松森 慎悟   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 松森 慎悟   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30<br>後期 月曜日 13:00～14:30 月曜日 14:40～16:10  | 研究室   | 4-116   |
| 授業概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グルテンフリーベーグルの調理科学特性に関する研究</li> <li>・アレルギー除去に伴う代替食レシピの開発</li> <li>・調理学実習（調理の知識や技術）に関わる実態調査</li> </ul> 上記のいずれかをグループで行うため、毎回「グループワーク」や「ディスカッション」を含んでいる。 |       |         |
| 到達目標  | 本授業では、各テーマに基づいて、調査・研究、結果のまとめを行い、実験計画法、基本的な実験手法及び調査方法、結果の解析方法などを習得することを目標とする。また、この一連の取り組みを通して、管理栄養士として必用となる探究力や実践力を身につけることを目的とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>         予習：研究テーマに関する調査<br/>         授業：ガイダンス<br/>         復習：キーワードの確認</p> <p>【第2回】<br/>         予習：調理学実験の自習<br/>         授業：基礎実験<br/>         復習：習得した実験方法の確認</p> <p>【第3回】<br/>         予習：調理学実験の自習<br/>         授業：基礎実験<br/>         復習：習得した実験方法の確認</p> <p>【第4回】<br/>         予習：調理学実験の自習<br/>         授業：基礎実験<br/>         復習：習得した実験方法の確認</p> <p>【第5回】<br/>         予習：該当する実験について確認<br/>         授業：各テーマに基づいて実験<br/>         復習：実験結果の確認</p> <p>【第6回】<br/>         予習：前回実験結果の確認<br/>         授業：各テーマに基づいて実験<br/>         復習：実験結果の確認</p> <p>【第7回】<br/>         予習：前回実験結果の確認<br/>         授業：各テーマに基づいて実験<br/>         復習：実験結果の確認</p> <p>【第8回】<br/>         予習：前回実験結果の確認<br/>         授業：各テーマに基づいて実験<br/>         復習：実験結果の確認</p> <p>【第9回】<br/>         予習：前回実験結果の確認<br/>         授業：各テーマに基づいて実験<br/>         復習：実験結果の確認</p> <p>【第10回】<br/>         予習：官能評価方法について確認<br/>         授業：官能評価<br/>         復習：評価結果の確認</p> <p>【第11回】<br/>         予習：前回評価結果の確認<br/>         授業：官能評価<br/>         復習：評価結果の確認</p> |   |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 12 回】<br/> 予習 : 前回評価結果の確認<br/> 授業 : 官能評価<br/> 復習 : 評価結果の確認</p> <p>【第 13 回】<br/> 予習 : 集計及び統計方法の確認<br/> 授業 : 官能評価の集計及び統計<br/> 復習 : 集計及び統計結果の確認</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : 前回の結果確認<br/> 授業 : 官能評価の集計及び統計<br/> 復習 : 集計及び統計結果の確認</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : これまでの結果を確認<br/> 授業 : 卒業論文の作成<br/> 復習 : 卒業論文の内容を確認</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 「調理学」、「食品学」等の科目で復習しておくことが臨ましい。            |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 授業 15 回目に提出するレポートについては、翌週に解説を行う。          |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 特に無し。                                     |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 必要に応じて紹介する。                               |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 授業態度 30%、卒業論文 70%で評価する。                   |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成           |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力                                       | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 「調理学」、「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」、「調理学実験」、「食品学Ⅰ・Ⅱ」、「官能評価論」 |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 土岐田 佳子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 土岐田 佳子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 14:40～17:50<br>後期 金曜日 14:40～17:50  | 研究室   | 16-109  |
| 授業概要  | 給食経営管理に関するテーマを取り上げ、実験・調査を行う。実験・調査によって得られた結果について考察し、卒業論文を作成する。                                       |       |         |
| 到達目標  | 研究の組み立て方、データ収集、データ解析、結果の読み取り、考察の仕方など、研究活動に必要な基礎知識を習得する。また、卒論研究を通じて、給食経営管理に関する知識を深め、実践へ応用できる力を身に付ける。 |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：興味のある研究テーマについて、教科書、書籍、学会誌等で情報を収集しておく<br/> 授業：ガイダンス、研究テーマを考える<br/> 復習：研究テーマについてまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：研究に関する文献の検索方法について調べてくる<br/> 授業：文献検索の方法を学ぶ<br/> 復習：文献検索をし、先行研究について調査する</p> <p>【第3回】<br/> 予習：文献検索で得られた論文や書籍を読んでくる<br/> 授業：先行研究を調査しまとめる（調査結果の発表）<br/> 復習：文献検索で得られた論文や書籍を読み、内容を理解する</p> <p>【第4回】<br/> 予習：先行研究や教科書を読み実験・実習方法について調べてくる<br/> 授業：実験・実習方法の検討<br/> 復習：実験・実習方法について理解する</p> <p>【第5回】<br/> 予習：実験・実習計画を立てるために必要な情報を集める<br/> 授業：実験・実習計画の立案<br/> 復習：実験・実習計画の確認を行う</p> <p>【第6回】<br/> 予習：実験・実習に必要な器具や試料をリストアップする<br/> 授業：実験・実習に必要な器具の準備と試料の調製<br/> 復習：実験・実習に必要な器具と試料の確認を行う</p> <p>【第7回】<br/> 予習：実験・実習内容を確認する<br/> 授業：実験・実習①<br/> 復習：実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> <p>【第8回】<br/> 予習：実験・実習①の結果から、次回の実験計画を立てる<br/> 授業：実験・実習②<br/> 復習：実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> <p>【第9回】<br/> 予習：実験・実習②の結果から、次回の実験計画を立てる<br/> 授業：実験・実習③<br/> 復習：実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> <p>【第10回】<br/> 予習：これまでの実験・実習データを見直す<br/> 授業：実験①～③までのデータ整理と中間報告<br/> 復習：これまでの実験・実習データを見直し、今後の実験・実習計画を立てる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：これまでの実験・実習データを見直し、今後の実験・実習計画を立てる<br/> 授業：実験・実習④<br/> 復習：実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> <p>【第12回】<br/> 予習：実験・実習④の結果から、次回の実験計画を立てる<br/> 授業：実験・実習⑤<br/> 復習：実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> |   |       |         |

|   |                                      |     |   |     |   |     |  |     |
|---|--------------------------------------|-----|---|-----|---|-----|--|-----|
| <p>【第13回】<br/>         予習 : これまでの実験・実習データを見直す<br/>         授業 : 実験・実習①～⑤までのデータ整理とまとめ<br/>         復習 : これまでの実験・実習結果をまとめ、考察を行う</p> <p>【第14回】<br/>         予習 : 卒業論文の目次を考えてくる<br/>         授業 : 卒業論文の作成①<br/>         復習 : 卒業論文の推敲</p> <p>【第15回】<br/>         予習 : 卒業論文の推敲<br/>         授業 : 卒業論文の作成②<br/>         復習 : 卒業論文の内容を見直す</p> |                                      |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業開始前学習   | 興味のあるテーマについて、教科書、書籍、学会誌等で情報を集めておくこと。 |     |   |     |   |     |  |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 提出された課題レポートについては、速やかに添削を行い返却する。      |     |   |     |   |     |  |     |
| テキスト・教材   | 特になし。                                |     |   |     |   |     |  |     |
| 参考書   | 必要な場合に適宜紹介する。                        |     |   |     |   |     |  |     |
| 評価の基準と方法  | 研究に取り組む姿勢（30%）、課題レポート（20%）、卒業論文（50%） |     |   |     |   |     |  |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成      |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力                                  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力  | 実践力 |
| 科目の該当   |                                      |     |   |     | ◎                                       | ○   | △  | ○   |
| 関連科目  | 給食経営管理論、調理学、調理学実験、調理学実習、官能評価論など      |     |   |     |   |     |  |     |
| その他   |                                      |     |   |     |   |     |  |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  |                                      |     |   |     |   |     |  |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   |                                      |     |   |     |   |     |  |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24（J）   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 佐藤 勝重   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 佐藤 勝重   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 09:00～10:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 木曜日 10:40～12:10  | 研究室   | 16-108  |
| 授業概要  | 「神経活動の光学的イメージング法を用いた神経機能発生/形成過程の個体発生に関する研究」<br>高等動物の中枢神経系は途方もない数のニューロンやグリアによって構成され、その集合体としてはじめて中枢神経系特有の機能が発現する。本卒業研究では、神経活動の光学的イメージング法を発生過程の中枢神経系に適用し、その機能がどのように発生し成熟していくのかを、個体発生の時間軸に沿って解明する。また、授業では、得られたデータに関してディスカッションを行う。 |       |         |
| 到達目標  | 発生神経生理学に関する研究を通して、研究の立案、実行、データの解析、研究成果のまとめ方を修得し、将来、管理栄養士として研究に従事する際に必要な基本的知識、方法を身につけることを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング<br>型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：解剖生理学の「神経系」の項を復習する。<br/>授業：神経系の構造と機能の解説<br/>復習：神経系の構造と機能のキーワードについてまとめる。</p> <p>【第2回】<br/>予習：ニューロンの機能について復習する。<br/>授業：ニューロン活動の生理学的測定法の解説<br/>復習：ニューロン活動の生理学的測定法についてまとめる。</p> <p>【第3回】<br/>予習：光の特徴について調べる。<br/>授業：ニューロン活動の光学的イメージング法の解説<br/>復習：ニューロン活動の光学的イメージング法についてまとめる。</p> <p>【第4回】<br/>予習：リンゲル液などあらかじめ提示するキーワードについて調べる。<br/>授業：実験準備、薬品の調製<br/>復習：実験準備、薬品調整の方法についてまとめる。</p> <p>【第5回】<br/>予習：鶏、ラットの解剖について調べる。<br/>授業：標本作製の練習<br/>復習：標本の作成法についてまとめる。</p> <p>【第6回】<br/>予習：第1回から第5回までの内容の復習をする。<br/>授業：実験1 神経系の機能発生---解剖学的解析<br/>復習：実験1の結果をまとめる。</p> <p>【第7回】<br/>予習：実験1の結果の見直し、反省<br/>授業：実験2 神経系の機能発生---生理学的解析<br/>復習：実験2の結果をまとめる。</p> <p>【第8回】<br/>予習：実験2の結果の見直し、反省<br/>授業：実験3 神経系の機能発生---解剖学的解析と生理学的解析の比較<br/>復習：実験3の結果をまとめる。</p> <p>【第9回】<br/>予習：実験3の結果の見直し、反省<br/>授業：実験4 神経系の機能形成---解剖学的解析<br/>復習：実験4の結果をまとめる。</p> <p>【第10回】<br/>予習：実験4の結果の見直し、反省<br/>授業：実験5 神経系の機能形成---生理学的解析<br/>復習：実験5の結果をまとめる。</p> <p>【第11回】<br/>予習：実験5の結果の見直し、反省<br/>授業：実験6 神経系の機能形成---解剖学的解析と生理学的解析の比較<br/>復習：実験6の結果をまとめる。</p> |   |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第12回】<br/> 予習：実験6の結果の見直し、反省<br/> 授業：実験7 神経系の機能発生/形成---解剖学的解析と生理学的解析の比較<br/> 復習：実験7の結果をまとめる。</p> <p>【第13回】<br/> 予習：実験1-7の結果の見直し、反省<br/> 授業：データ解析のまとめ（ディスカッション）<br/> 復習：実験1-7の結果をまとめる。</p> <p>【第14回】<br/> 予習：解析データの整理<br/> 授業：図の作成（ディスカッション）<br/> 復習：作成した図の説明文の作成</p> <p>【第15回】<br/> 予習：作成した図とその説明文の再チェック<br/> 授業：レポート作成（ディスカッション）<br/> 復習：作成したレポートの再チェックを行う。</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 解剖生理学で学んだ内容を復習しておく。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 実験で得られたデータに関して、どうしてそのような結果になったのか、次の実験をどのように進めたら良いのかをまとめる。まとめた内容に関して、ディスカッションを行いフィードバックする。 |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 研究中に適宜紹介する。必要な文献はコピーを配布する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 研究中に適宜紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | レポート（配点100点）により評価する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目  | 解剖生理学、解剖生理学実験   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 内科、神経内科医としての実務経験有り。実務経験から生じた問題について、卒業研究生とともに実験系から解析し、データの解析法、論文のまとめ方を指導する。                |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 松本 雄宇  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 松本 雄宇  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 13:00～16:10<br>後期 月曜日 13:00～16:10   | 研究室   | 4-103   |
| 授業概要   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品に含まれる化学物質の安全性と有効性の評価</li> <li>・食品安全・機能に関する調査・研究</li> </ul> 上記のいずれかをグループで行うため、毎回「グループワーク」や「ディスカッション」を含んでいる。 |       |         |
| 到達目標   | 各テーマに基づいて、調査・研究、結果のまとめを行い、実験計画法、基本的な実験手法及び調査方法、結果の解析方法などを習得することを目標とする。また、この一連の取り組みを通して、管理栄養士として必用となる探究力やプレゼンテーション力を身につけることを目的とする。                    |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/>         予習：研究テーマに関する調査<br/>         授業：ガイダンス<br/>         復習：キーワードの確認</p> <p>【第2回】<br/>         予習：図書館の利用法やコンピュータの使い方に慣れておく<br/>         授業：先行研究の調査<br/>         復習：得られた文献を読み、内容を理解する</p> <p>【第3回】<br/>         予習：前回の文献に掲載されている参考文献の中から、必要な文献を選び出す<br/>         授業：先行研究の調査ならびに関連情報の整理<br/>         復習：得られた文献を読み、内容を理解する</p> <p>【第4回】<br/>         予習：これまでに読んだ文献の中から、研究計画の立案に有用と思われるものを選び出す<br/>         授業：研究計画の立案（ディスカッション）<br/>         復習：研究計画について検証をおこなう</p> <p>【第5回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第6回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第7回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第8回】<br/>         予習：これまでの結果を見やすくまとめる<br/>         授業：結果のまとめと研究計画の立案（ディスカッション）<br/>         復習：研究計画について検証をおこなう</p> <p>【第9回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第10回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第11回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> <p>【第12回】<br/>         予習：研究に必要な器具や薬品をそろえ、プロトコルを作成する<br/>         授業：実験・調査<br/>         復習：結果を整理して、次回の実験計画を立案する</p> |  |       |         |

|  |   |     |   |     |   |     |   |     |
|--|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：これまでの結果を見やすくまとめる<br/> 授業：結果のまとめ（ディスカッション）<br/> 復習：図表などが効果的かどうかを検証する</p> <p>【第14回】<br/> 予習：報告書の書き方の例を集め、必要な文献を整える<br/> 授業：研究報告書の作成<br/> 復習：作成した原稿を読み直し推敲する</p> <p>【第15回】<br/> 予習：関連する文献を読み直す<br/> 授業：研究報告書の作成<br/> 復習：作成した原稿を読み直し推敲する</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 各課題に関して添削を行い、再提出させる。再提出したのもも不十分な場合は解説を行う。       |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | テーマに取り組む態度（20%）、研究成果（20%）、研究報告（60%）より、総合的に評価する。 |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成                 |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 「食品衛生学」や「生化学Ⅰ・Ⅱ」、栄養生理学などが関連する                   |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  |   |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 末木 俊之   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 末木 俊之   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30<br>後期 火曜日 09:30～11:30 木曜日 09:30～11:30  | 研究室   | 10-601  |
| 授業概要  | <p>まず人文・社会科学系研究で使われるシミュレーションソフト artisoc を使って、コンピュータのプログラミングの初歩を学ぶ。他人に何かを説明する場合、パワーポイントでのプレゼンテーションが一般的であるが、ちょっとしたコンピュータ上で動くもの（大げさに言えばシミュレーション）があればさらに理解を深めてもらえる。</p> <p>3年生後期時に、一通り artisoc でのシミュレーション作成の基本を実習し、オリジナルなシミュレーションを作成の実習を行う。</p> |       |         |
| 到達目標  | <p>授業内容 15 回分の内容で教科書に従い各自プログラミング作成することを通して、プログラミングの基本技能を身につけることができるようになる。またシミュレーションを作成することができるようになる。</p> <p>実際に作るシミュレーションの構想を考える力を身につけることができるようになる。</p> <p>そして、実際に動作するシミュレーションを作成し、構想、作成過程、成果を論文の形式にまとめることを目標とする。</p>                       |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| <p>【第 1 回】<br/> 予習：教科書テキスト 0 章、1 章、2 章を読むこと。<br/> 授業：artisoc について。シミュレーションを使ってみる。（教科書 1 頁から 25 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 0 章から 2 章の再読と、用意してあるシミュレーションのいくつかを使ってみる。</p> <p>【第 2 回】<br/> 予習：教科書 3 章、4 章を読むこと。<br/> 授業：モデルの空間作り。エージェントを動かし、判断させる。（教科書 28 頁から 44 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 4 章の練習問題（44 頁）を実習する。</p> <p>【第 3 回】<br/> 予習：教科書 5 章から 8 章を読むこと。<br/> 授業：エージェントに判断させる。グラフの出力。（教科書 45 頁から 87 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 5 章から 8 章の練習問題（54 頁、66 頁、77 頁、86 頁）を実習する。</p> <p>【第 4 回】<br/> 予習：教科書 9 章、10 章を読むこと。<br/> 授業：格子型空間の構造活用とその応用モデルを学ぶ。（教科書 88 頁から 109 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 9 章、10 章の練習問題（97 頁、108 頁）を実習する。</p> <p>【第 5 回】<br/> 予習：教科書 11 章、12 章を読むこと。<br/> 授業：条件分岐。状況によって行動を変えるプログラミング。（教科書 112 頁から 137 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 11 章、12 章の練習問題（123 頁、136 頁）を実習する。</p> <p>【第 6 回】<br/> 予習：教科書 13 章、14 章を読むこと。<br/> 授業：周囲のエージェントから影響を受けるプログラミング。（教科書 138 頁から 155 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 13 章、14 章の練習問題（147 頁、154 頁、155 頁）を実習する。</p> <p>【第 7 回】<br/> 予習：教科書 15 章、16 章を読むこと。<br/> 授業：他のエージェントに働きかけるプログラミングを学ぶ。（教科書 156 頁から 176 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 15 章、16 章の練習問題（163 頁、176 頁）を実習する。</p> <p>【第 8 回】<br/> 予習：教科書 17 章から 19 章を読むこと。<br/> 授業：複雑な相互作用。空間を「場」として活用するなど。（教科書 177 頁から 211 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 17 章から 19 章の練習問題（188 頁、200 頁、211 頁）を実習する。</p> <p>【第 9 回】<br/> 予習：教科書 20 章から 22 章を読むこと。<br/> 授業：「コンウェイのライフゲーム」作成。文字列型の変数の使用など。（教科書 212 頁から 244 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 20 章から 22 章の練習問題（218 頁、233 頁、244 頁）を実習する。</p> <p>【第 10 回】<br/> 予習：教科書 23 章～25 章を読むこと。<br/> 授業：アクセルロッドの文化変容モデルを作る。（教科書 245 頁から 277 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 23 章から 25 章の練習問題（255 頁、266 頁、276 頁）を実習する。</p> <p>【第 11 回】<br/> 予習：教科書 26 章から 28 章を読むこと。<br/> 授業：「ボイド・モデル」「ランダム・ネットワークモデル」の作成。（教科書 278 頁から 317 頁）（プログラミング実習）<br/> 復習：教科書 26 章から 28 章の練習問題（290 頁、299 頁、315 頁）を実習する。</p> |   |       |         |

|  |
|--|
| <p>【第12回】<br/>         予習：教科書29章から31章を読むこと。<br/>         授業：アクセルロッドのゲーム戦略選手権モデルの作成など。（教科書 318頁から355頁）（プログラミング実習）<br/>         復習：教科書29章から30章の練習問題（332頁、343頁）を実習する。</p> <p>【第13回】<br/>         予習：教科書32章から34章を読むこと。<br/>         授業：研究・実務のツールとして（画像の表示などの利用）（教科書 356頁から391頁）（プログラミング実習）<br/>         復習：オリジナルシミュレーションの概要を考える。</p> <p>【第14回】<br/>         予習：教科書35章から37章を読むこと。<br/>         授業：研究・実務のツールとして（結果の書き出しなど）（教科書 392頁から420頁）（プログラミング実習）<br/>         復習：オリジナルなシミュレーションを作成開始する。</p> <p>【第15回】<br/>         予習：オリジナルシミュレーションを作成する。<br/>         授業：オリジナルシミュレーション作成。（プログラミング実習）<br/>         復習：シミュレーションの利用について考える。</p> |
|--|

|                  |   |   |            |   |     |   |     |     |
|------------------|---|---|------------|---|-----|---|-----|-----|
| 授業開始前学習          | 使用するテキスト『人工社会構築指南 artisocによるマルチエージェント・シミュレーション』は10-27教室に常備されている。少し読んでおくとよい。               |   |            |   |     |   |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法 | まずテキストに基づき、学生各自が簡単なシミュレーションを作成することになる。その場合、作成したシミュレーションの動作をチェックし、出来栄を評価し、アドバイスする。         |   |            |   |     |   |     |     |
| テキスト・教材          | 山影進著『人工社会構築指南 artisocによるマルチエージェント・シミュレーション』（書籍工房早山社）                                      |   |            |   |     |   |     |     |
| 参考書              | アルバート・ラズロ・バラバシ著、青木薫訳『新ネットワーク思考—世界のしくみを読み解く』（NHK出版社）、ダンカンワッツ著、辻竜平訳『スモールワールド・ネットワーク』（筑摩書房社） |   |            |   |     |   |     |     |
| 評価の基準と方法         | 成績評価を100点満点とすると、基本課題作成70点、オリジナル課題作成30点の配分とする。   |   |            |   |     |   |     |     |
| ディプロマポリシー        | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針             | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性                                     | 専門力 | 判断力   | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当            |   |   |            |   | ◎   | ○   | △   | ○   |
| 関連科目             | 「情報と科学／情報処理」で情報処理の基本を学ぶことが重要である。またその授業内で artisoc シミュレーションを使用しているので参考になる。                  |   |            |   |     |   |     |     |
| その他              |   |   |            |   |     |   |     |     |
| 予習・復習の所要時間       |   |   |            |   |     |   |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容    |   |   |            |   |     |   |     |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24（J）  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 工藤 美香  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 工藤 美香  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 14:40～16:10 金曜日 10:40～12:10<br>後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 16-106  |
| 授業概要   | 臨床栄養学分野として医療・介護に貢献できる研究を目指している。施設先での患者・要介護者・在宅療養者などの人を対象とした症例研究、介護食等の開発による試食・喫食調査などを実施する。臨地実習Ⅲまたは実施可能な病院及び福祉施設に研究デザインを考え決定し、依頼、承諾の後、研究を実施、得られたデータから解析、考察する。その研究成果を学会等でプレゼンテーションを行い、さらに卒業論文を作成する。 |       |         |
| 到達目標   | 実施可能な病院及び福祉施設に研究デザインを考え決定し、依頼、承諾の後、研究を実施、得られたデータから解析、考察できる。その研究成果を学会等でプレゼンテーションを行い、さらに卒業論文を作成することができる。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：文献などの調査・分析を行う<br/> 授業：文献等の調査・分析から研究項目を考える(グループワーク)<br/> 復習：文献等の調査・分析を行う</p> <p>【第2回】<br/> 予習：文献などの調査・分析を行う<br/> 授業：文献等の調査・分析から研究項目を考える(グループワーク)<br/> 復習：文献などの調査・分析を行う</p> <p>【第3回】<br/> 予習：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備<br/> 授業：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備（ディスカッション）<br/> 復習：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備</p> <p>【第4回】<br/> 予習：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の準備<br/> 授業：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成（ディスカッション）<br/> 復習：指導教員との研究打合せ・研究計画の作成法の確認</p> <p>【第5回】<br/> 予習：研究の方法を教科書等で自習する<br/> 授業：研究の方法を教科書等で自習する<br/> 復習：研究の方法を教科書等で自習する</p> <p>【第6回】<br/> 予習：テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する<br/> 授業：テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する（プレゼンテーション）<br/> 復習：テーマに沿った開発や調査内容などの資料を準備する</p> <p>【第7回】<br/> 予習：調査などを遂行するために文献等を熟読する<br/> 授業：調査などを遂行する（実習）<br/> 復習：調査などを遂行する</p> <p>【第8回】<br/> 予習：データ整理を行う<br/> 授業：データ整理を行う<br/> 復習：データ整理を行う</p> <p>【第9回】<br/> 予習：データから解析する<br/> 授業：データから解析する<br/> 復習：データから解析する</p> <p>【第10回】<br/> 予習：解析結果をまとめる<br/> 授業：解析結果をまとめる（ディスカッション）<br/> 復習：解析結果をまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：学会発表準備<br/> 授業：学会発表準備（プレゼンテーション）<br/> 復習：学会発表準備</p> <p>【第12回】<br/> 予習：学会発表の為の自習<br/> 授業：学会発表の実施（プレゼンテーション）<br/> 復習：学会発表の反省</p> |  |       |         |

|   |  |     |   |     |   |     |   |     |
|---|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：卒業論文の準備<br/> 授業：卒業論文の準備<br/> 復習：卒業論文の準備<br/> 【第14回】<br/> 予習：卒業論文の作成<br/> 授業：卒業論文の作成<br/> 復習：卒業論文の作成<br/> 【第15回】<br/> 予習：卒業論文の作成<br/> 授業：卒業論文の作成<br/> 復習：卒業論文の作成</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | 先行文献を良く読み、新しい研究テーマを考案すること  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法  | 提出した課題等にはできるだけ早めにフィードバックし、質問に個別に回答する。  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 研究テーマによって指定する  |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | ゼミ発表(40%)、卒業論文(60%)の成果による  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目  | 臨床栄養学、食介護論、栄養食事療法実習、応用栄養学など  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間  |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容   | 病院、介護福祉施設、在宅栄養管理の実務経験あり。<br>臨床栄養学分野として医療・介護に貢献できる研究を目指している。施設先での患者、要介護者、在宅療養者などの「人」を対象とした症例研究、治療食、介護食等の開発と官能評価などを実施する。臨地実習Ⅲ又は実施可能な病院及び在宅、福祉施設に承諾頂いた後に研究を実施し、解析後考察する。 |     |   |     |   |     |   |     |

|  |  |       |         |
|--|--|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 三浦 麻子  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 三浦 麻子  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 木曜日 10:30～12:00 金曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 13:00～14:30 木曜日 10:30～12:00   | 研究室   | 4-104   |
| 授業概要   | 卒業研究では、研究テーマを設定し、研究目的や方法などを決めて調査を実施し、得られた成果を考察してまとめ、その研究成果を発表するという、研究の一連の流れについて解説し、実際のスキルを身に付ける。まず、様々なライフステージにおけるトを対象とした健康・栄養問題について、実際にどのような調査が行われているかを調べる。そこから各自興味のある事柄について、具体的な研究テーマを絞り込み、調査方法を決め、データ収集や解析をし、発表した上で報告書をまとめる。授業では、ディスカッションや発表などのグループワークを行う。 |       |         |
| 到達目標   | 研究テーマを絞り込み、調査方法を決め、データ収集、解析、報告書をまとめていくという、一連の研究過程を実際に行うことで、創造的な研究を行う能力を身に付け、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする。  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |  |       |         |
| <p>【第1回】<br/> 予習：基礎ゼミⅠ・Ⅱ教科書を一読しておく<br/> 授業：研究の進め方について<br/> 復習：研究の進め方についてポイントをまとめる</p> <p>【第2回】<br/> 予習：関心のあるテーマについて調べる<br/> 授業：研究テーマの選び方について（グループディスカッション）<br/> 復習：研究テーマ選定のための情報を収集する</p> <p>【第3回】<br/> 予習：研究テーマに関する情報を収集する<br/> 授業：文献検索、情報収集の方法について（グループワーク）<br/> 復習：収集した文献資料や情報をまとめる</p> <p>【第4回】<br/> 予習：統計解析の基礎についての学習する<br/> 授業：統計解析について（グループワーク）<br/> 復習：統計解析についてまとめる</p> <p>【第5回】<br/> 予習：研究テーマに関する資料の要約をする<br/> 授業：研究テーマの決定と発表（グループディスカッション、発表）<br/> 復習：研究テーマを見直す</p> <p>【第6回】<br/> 予習：研究テーマに関する情報を収集する<br/> 授業：研究テーマの情報の選定とデータ解析（グループワーク）<br/> 復習：研究テーマに関する情報の集約をする</p> <p>【第7回】<br/> 予習：研究方法の確認をする<br/> 授業：研究方法の決定と準備（グループワーク）<br/> 復習：研究方法の見直しをする</p> <p>【第8回】<br/> 予習：研究対象者の情報を収集する<br/> 授業：研究対象者の決定と予備調査（グループワーク）<br/> 復習：研究対象者の見直しと選定をする</p> <p>【第9回】<br/> 予習：調査内容について検討する<br/> 授業：調査内容の確定（グループワーク）<br/> 復習：調査内容の見直しをする</p> <p>【第10回】<br/> 予習：収集データの整理をする<br/> 授業：収集データの解析（グループワーク）<br/> 復習：収集データをまとめる</p> <p>【第11回】<br/> 予習：収集データの見直しと解析をする<br/> 授業：研究成果のまとめ（グループワーク）<br/> 復習：研究成果の見直しをする</p> <p>【第12回】<br/> 予習：プレゼンテーションの方法について調べる</p> |  |       |         |

|  |   |   |            |     |   |  |     |     |
|--|---|---|------------|-----|---|--|-----|-----|
| 授業：研究成果の発表方法について（グループワーク）<br>復習：研究成果の発表準備をする<br>【第13回】<br>予習：研究成果の発表準備をする<br>授業：研究成果の発表と評価（グループワーク、発表）<br>復習：研究成果の発表を踏まえた解析をする<br>【第14回】<br>予習：研究報告書の構成について確認する<br>授業：研究報告書の作成（グループワーク）<br>復習：研究報告書の加筆・訂正をする<br>【第15回】<br>予習：研究報告書の校正をする<br>授業：研究報告書の提出と評価（グループワーク）<br>復習：研究方法の一連の流れの振り返りを行う |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業開始前学習  | 応用栄養学で学んだ内容について復習し、興味ある課題に関する資料については収集しておくこと。 |   |            |     |   |  |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 研究発表会を行うので、その内容についてその都度指導を行う。                 |   |            |     |   |  |     |     |
| テキスト・教材  | なし  |   |            |     |   |  |     |     |
| 参考書  | 必要に応じて紹介する。                                   |   |            |     |   |  |     |     |
| 評価の基準と方法   | 研究への取り組み方（50%）、研究成果の発表と報告書（50%）によって評価する。      |   |            |     |   |  |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成               | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |            |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |
| 学修指針   | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力 | 社会性 | 専門力                                     | 判断力  | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |   |   |            |     | ◎                                       | ○  | △   | ○   |
| 関連科目   | 応用栄養学Ⅰ、応用栄養学Ⅱ、応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習                  |   |            |     |   |  |     |     |
| その他  |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 予習・復習の所要時間   |   |   |            |     |   |  |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |   |   |            |     |   |  |     |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24（J）   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 大坂 裕子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 大坂 裕子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 水曜日 13:00～14:30 水曜日 14:40～16:10<br>後期 水曜日 10:40～12:10 水曜日 13:00～14:30  | 研究室   | 16-101  |
| 授業概要  | 研究テーマは、各ライフステージの対象者に適切な栄養教育を行うために必要な基礎資料を得るような内容及び栄養教育に効果的な教材の検討を考えている。そのために質問紙調査の実施やオリジナル食育媒体の作成と実演が主な内容となる。卒業研究であるので、すべての授業が「ディスカッション」「実習」及び「プレゼンテーション」で行われる。 |       |         |
| 到達目標  | 研究を行うことで、管理栄養士に必要な基本的技術（先行研究の調べ方、調査用紙の作成方法、教育媒体の作成方法、論文のまとめ方など）を習得する。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| <b>各回の授業内容と課題学習（予習・復習）</b>  |   |       |         |
| * すべての回が「ディスカッション」「実習」「プレゼンテーション」によって行われる。                                    |   |       |         |
| 【第1回】<br>予習：ライフステージ別栄養教育について復習しておく<br>授業：資料検索の方法について<br>復習：先行研究論文検索           |   |       |         |
| 【第2回】<br>予習：先行研究論文検索<br>授業：先行研究論文抄読会（日本語論文）<br>復習抄読会の先行研究論文の確認                |   |       |         |
| 【第3回】<br>予習：先行研究論文検索<br>授業：先行研究論文抄読会（英語論文）<br>復習：先行研究論文のまとめ                   |   |       |         |
| 【第4回】<br>予習：研究テーマを考える<br>授業：研究テーマの決定，調査方法の検討<br>復習：類似調査の検索                    |   |       |         |
| 【第5回】<br>予習：教材（調査用紙）の作成（案）<br>授業：教材作成（テーマによっては調査用紙作成）<br>復習：調査用紙の確認           |   |       |         |
| 【第6回】<br>予習：教材（調査用紙）の下書き<br>授業：教材作成（テーマによっては調査用紙作成）<br>復習：調査用紙完成              |   |       |         |
| 【第7回】<br>予習：食育（調査）実施の準備<br>授業：食育の実践（調査実施）<br>復習：調査資料の確認                       |   |       |         |
| 【第8回】<br>予習：結果のまとめ<br>授業：食育もしくは調査の実践結果の集計（素集計）<br>復習：調査結果の素集計                 |   |       |         |
| 【第9回】<br>予習：栄養教育論の授業での統計処理について復習<br>授業：食育もしくは調査の実践結果の集計（統計処理）<br>復習：調査結果の統計処理 |   |       |         |
| 【第10回】  |   |       |         |

|   |
|---|
| 予習：コンピューターを使用した図表作成の方法の確認<br>授業：食育もしくは調査の実践結果の集計（図表作成）<br>復習：図表の作成<br><br><b>【第 11 回】</b><br>予習：研究結果の集計の完成<br>授業：研究結果の考察について<br>復習：研究結果の考察<br><br><b>【第 12 回】</b><br>予習：研究結果考察内容の確認<br>授業：論文の書き方について<br>復習：論文作成<br><br><b>【第 13 回】</b><br>予習：論文作成<br>授業：論文作成<br>復習：論文作成<br><br><b>【第 14 回】</b><br>予習：発表資料作成のためのパワーポイント操作確認<br>授業：研究結果発表資料作成<br>復習：発表資料見直し<br><br><b>【第 15 回】</b><br>予習：発表練習<br>授業：研究結果発表会<br>復習：発表内容の自己評価 |
|---|

|                      |   |   |   |   |     |     |     |     |
|----------------------|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| 授業開始前学習              | どんなテーマで研究に取り組みたいのか考えをまとめておくこと。  |   |   |   |     |     |     |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法 | 課題については、都度コメントをつけて返却する。<br>論文に関しては、簡単な製本をしてコメントを付して返却する。                |   |   |   |     |     |     |     |
| テキスト・教材              |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 参考書                  | 各自のテーマにあう推薦図書を紹介する。   |   |   |   |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法             | 課題取り組み状況 40%<br>研究結果論文や研究結果発表会の評価 60%                                   |   |   |   |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー            | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にこなせる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針                 | 教養力   | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性   | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当                |   |   |   |   | ◎   | ○   | △   | ○   |
| 関連科目                 | 卒業研究であるのであらゆる教科との関連があるが、特に「栄養教育論」や「栄養教育論実習」で学習した質問紙調査及び教材作成の方法などは深くかわる。 |   |   |   |     |     |     |     |
| その他                  | 研究内容によっては、正課学外活動（年数回、大学近辺）を行うことがある。その場合、交通費は実費負担となる。                    |   |   |   |     |     |     |     |
| 予習・復習の<br>所要時間       |   |   |   |   |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容    | 栄養教育の実務経験を教材作りの教育に活かして指導する。   |   |   |   |     |     |     |     |

|   |  |       |         |
|---|--|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究   |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24（J）  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects  | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 吉野 菜穂子   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 吉野 菜穂子   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 14:40～16:10   | 研究室   | 4-202   |
| 授業概要  | 管理栄養士としてクライアントやその家族へ支援を提供する際には、クライアントの身体の状況や食生活における課題を把握すると同時に、クライアントのこころの動きや家族との関係を理解することも重要である。本講義では、管理栄養士がクライアントや家族のこころの面を理解し支援するために必要とされる臨床心理学的な知識や技術について学ぶ。 |       |         |
| 到達目標  | 先行研究を踏まえて独自の研究のテーマを設定、研究方法を選択し卒業研究としてまとめることを目標とする。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有  |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |  |       |         |
| 【第1回】<br>予習：シラバスを読む。<br>授業：ガイダンス：卒業論文作成にむけた全体的なスケジュールについて説明する<br>復習：ガイダンスを受けて、年間スケジュールについて考える                 |  |       |         |
| 【第2回】<br>予習：卒業論文として取り上げたいテーマについて考える<br>授業：卒業論文作成において、必要な準備、具体的な作業手順について学ぶ<br>復習：卒業論文としてまとめたいテーマ、関連する領域について調べる |  |       |         |
| 【第3回】<br>予習：関心のあるテーマについての文献、論文にあたる<br>授業：卒業論文のテーマを選ぶ<br>復習：関連のある研究や文献を具体的に調べる                                 |  |       |         |
| 【第4回】<br>予習：卒業論文のテーマに関連する文献に目を通す<br>授業：先行研究についてまとめる<br>復習：先行研究で明らかになっていることをまとめておく                             |  |       |         |
| 【第5回】<br>予習：先行研究の論文を読む<br>授業：先行研究では明らかにされていない点を見つける<br>復習：卒業論文として取り上げたい独自のテーマについて考える                          |  |       |         |
| 【第6回】<br>予習：自分が選んだテーマについて問題意識をまとめておく<br>授業：研究目的と方法について学ぶ（ディスカッション）<br>復習：研究方法についてふりかえる                        |  |       |         |
| 【第7回】<br>予習：具体的な調査、研究のスケジュールを考えておく<br>授業：具体的な調査、実験の実施にあたり留意点などを学ぶ（ディスカッション）<br>復習：研究スケジュールについてまとめる            |  |       |         |
| 【第8回】<br>予習：研究スケジュールの点検をする<br>授業：研究スケジュールと方法について発表する<br>復習：実際の研究活動にあたり不足部分などがいないか自己点検する                       |  |       |         |
| 【第9回】<br>予習：研究データの収集状況についてまとめる<br>授業：研究データの収集状況についてまとめ、発表する（プレゼンテーション）<br>復習：論文作成にあたり不足のデータがないかどうかふりかえる       |  |       |         |
| 【第10回】<br>予習：データの分析方法について調べる<br>授業：研究データを分析する<br>復習：分析の経過についてふりかえる  |  |       |         |
| 【第11回】<br>予習：分析の途中経過についてまとめる<br>授業：分析の結果についてまとめ、発表する（プレゼンテーション）<br>復習：分析の結果についてふりかえる                          |  |       |         |
| 【第12回】<br>予習：研究目的と分析の結果についてまとめる<br>授業：研究の目的とデータ分析の結果をふまえて考察する<br>復習：考察の内容についてふりかえる                            |  |       |         |

|   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第13回】<br/> 予習：先行研究との比較を行う<br/> 授業：研究結果を先行研究と比較し、新しい知見の提示ができたかどうかまとめる<br/> 復習：研究目的にそった結果を提示できたかどうかふりかえる</p> <p>【第14回】<br/> 予習：卒業論文における達成と課題についてまとめる<br/> 授業：研究目的に沿ってどの程度論文作成がすすめられたかふりかえる（ディスカッション）<br/> 復習：作成にあたり困難な点についてふりかえる</p> <p>【第15回】<br/> 予習：卒業論文作成の全過程についてまとめる<br/> 授業：卒業論文で明らかにできた内容、今後の課題などを明らかにする（プレゼンテーション）<br/> 復習：卒業論文作成の全過程をふりかえる</p> |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習   | これまで受講してきた講義内容、実習先での体験などをふりかえり、卒業論文として取り上げたいテーマや関心のある事柄について自分なりにまとめておくと、作業をスムーズに行うことができると思われる |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法  | 授業内に提出された課題については、添削を行い改善のポイントを次回の授業内で伝える。   |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材   | 授業内で適宜紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書   | 授業内で適宜紹介する。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法  | 卒業論文を提出し、その内容により評価する（100点）  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー   | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成   |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針  | 教養力   | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当   |   |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目  | 心理学、臨床心理学、カウンセリング論、臨床心理学演習  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他   |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の所要時間  |   |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした教育内容   | 精神科病院や心療内科クリニック、小学校、中学校における心理療法（カウンセリング）の経験あり。相談業務の経験を活かし、卒業研究のテーマ設定や調査方法、分析等について講義する。        |     |   |     |   |     |   |     |

|   |   |       |         |
|---|---|-------|---------|
| 科目名称  | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類  | 210-430-24（J）   | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称  | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者   | 西村 一弘   | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員  | 西村 一弘   | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー   | 前期 火曜日 10:40～12:10 火曜日 13:00～14:30<br>後期 月曜日 09:00～10:30 月曜日 10:40～12:10  | 研究室   | 16-105  |
| 授業概要  | 給食経営管理学分野と栄養食事療法分野に貢献できる研究を目指している。患者などの人を対象とした症例研究、小児 1 型糖尿病サマーキャンプに参加し、参加する患者やスタッフに対する給食の運営管理や栄養食事療法の指導を実施する。その中で研究を実施し、得られたデータから解析、考察する。その他、治療食のメニュー開発等を行う。その研究成果を学会等で発表し、さらに卒業論文を作成する。 |       |         |
| 到達目標  | 基礎研究や臨床研究の方法から論文作成までの一連の流れを理解して、研究者としての基礎を習得する。   |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業  | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）   |   |       |         |
| 【第 1 回】<br>予習：研究に関する文献などの調査・分析を行う<br>授業：研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える<br>復習：研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える         |   |       |         |
| 【第 2 回】<br>予習：研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える<br>授業：研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える<br>復習：研究に関する文献などの調査・分析から、研究内容を考える |   |       |         |
| 【第 3 回】<br>予習：指導教員との打ち合わせ<br>授業：指導教員との打ち合わせ<br>復習：指導教員との打ち合わせ   |   |       |         |
| 【第 4 回】<br>予習：指導教員との打ち合わせ<br>授業：指導教員との打ち合わせ<br>復習：指導教員との打ち合わせ   |   |       |         |
| 【第 5 回】<br>予習：研究の方法を教科書等で自習する<br>授業：研究の方法を教科書等で自習する<br>復習：研究の方法を教科書等で自習する                                     |   |       |         |
| 【第 6 回】<br>予習：調査などの準備<br>授業：調査などの準備<br>復習：調査などの準備   |   |       |         |
| 【第 7 回】<br>予習：調査などの実施<br>授業：調査などの実施<br>復習：調査などの実施   |   |       |         |
| 【第 8 回】<br>予習：データの整理を行う<br>授業：データの整理を行う<br>復習：データの整理を行う   |   |       |         |
| 【第 9 回】<br>予習：データの整理を行う<br>授業：データの整理を行う<br>復習：データの整理を行う   |   |       |         |
| 【第 10 回】<br>予習：データの解析を行う<br>授業：データの解析を行う<br>復習：データの解析を行う  |   |       |         |
| 【第 11 回】<br>予習：解析結果をまとめる<br>授業：解析結果をまとめる<br>復習：解析結果をまとめる  |   |       |         |
| 【第 12 回】<br>予習：学会発表準備<br>授業：学会発表準備<br>復習：学会発表準備   |   |       |         |

|  |  |     |   |     |   |     |   |     |
|--|--|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| <p>【第 13 回】<br/> 予習 : 学会発表予習<br/> 授業 : 学会発表実施<br/> 復習 : 学会発表反省</p> <p>【第 14 回】<br/> 予習 : 卒業論文作成<br/> 授業 : 卒業論文作成<br/> 復習 : 卒業論文作成</p> <p>【第 15 回】<br/> 予習 : 卒業論文作成<br/> 授業 : 卒業論文作成<br/> 復習 : 卒業論文作成</p> |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業開始前学習  | 各種関連学会誌に掲載されている論文を読み、研究テーマの仮説を考える。   |     |   |     |   |     |   |     |
| 授業内課題の<br>フィードバックの方法   | 個別の質問に対しては、随時回答する  |     |   |     |   |     |   |     |
| テキスト・教材  | 特になし   |     |   |     |   |     |   |     |
| 参考書  | 適宜論文のテーマに関する先行論文   |     |   |     |   |     |   |     |
| 評価の基準と方法   | 取組む姿勢や態度 (30 点)、学会発表 (30 点)、卒業研究論文 (40 点)  |     |   |     |   |     |   |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  |     | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 |     | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 |     | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実に実行する技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性 | コミュニケーション力  | 社会性 | 専門力                                     | 判断力 | 技術力   | 実践力 |
| 科目の該当  |  |     |   |     | ◎                                       | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 臨床栄養学、給食経営管理、栄養食事療法、応用栄養学  |     |   |     |   |     |   |     |
| その他  | 統計解析の方法について学ぶ  |     |   |     |   |     |   |     |
| 予習・復習の<br>所要時間   |  |     |   |     |   |     |   |     |
| 実務経験を活かした<br>教育内容  | 病院と介護老人保健施設での 35 年間の経験を活かし、研究手法として先行研究の探し方など具体的な指導を行う<br>それぞれのテーマごとに実践者の施設や企業に訪問して、見学やデータ入力などを行う<br>私が所属する学会において研究内容の発表の場を設け、発表用の媒体作成のポイントや発表方法を指導する |     |   |     |   |     |   |     |

|  |   |       |         |
|--|---|-------|---------|
| 科目名称   | 卒業研究  |       |         |
| 科目分類   | 210-430-24  | 単位数   | 履修ガイド参照 |
| 英文名称   | Graduation Projects   | 授業区分  |         |
| 科目責任者  | 小林 亘  | 必修・選択 | 履修ガイド参照 |
| 担当教員   | 小林 亘  | 開講時期  | 履修ガイド参照 |
| オフィスアワー  | 前期 火曜日 12:00～15:00<br>後期 月曜日 12:00～15:00  | 研究室   | 4-203   |
| 授業概要   | <p>科学的根拠に基づいて人々の健康に貢献できるようになるために、仮説・検証・まとめのステップを実践する。テーマの設定から始まり、その仮説を検証する方法を計画して、調査や実験などを主体的に実施する。得られた結果を論理的に考え、研究成果の発表、卒業論文等にまとめる。</p> <p>食品成分と健康をテーマとし、食品（主に植物性食品）の成分分析および機能性評価試験等を実施し、食品素材の健康機能性を探求する。また、食品の健康機能性を活かした商品開発や献立作成等を通じて、食育活動や栄養教育への応用を検討・学修する。</p> |       |         |
| 到達目標   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学的思考に基づいた情報を選択することができる。</li> <li>2. 科学的根拠を示すプロセスを理解する。</li> <li>3. エビデンスに基づく分析や考察ができる。</li> <li>4. 論理的に記述・発表できる</li> <li>5. 研究課題の中でコミュニケーション力や協調性など社会で役立つ人間力を養う。</li> </ol>  |       |         |
| アクティブ・ラーニング型授業   | 有   |       |         |
| 各回の授業内容と課題学習（予習・復習）  |   |       |         |
| <p>【第1回】<br/>予習：食品成分と健康に関して興味のある話題を選び、自分の考え、意見をまとめる<br/>授業：オリエンテーション<br/>復習：テーマとする食品成分について検討事項を整理する</p> <p>【第2回】<br/>予習：テーマとする食品成分について調べる<br/>授業：研究テーマの選定<br/>復習：研究計画の詳細をまとめる</p> <p>【第3回】<br/>予習：研究内容に関わる文献を読む<br/>授業：文献内容検討<br/>復習：文献内容のまとめ</p> <p>【第4回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第5回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第6回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第7回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第8回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第9回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第10回】<br/>予習：実験の準備<br/>授業：実験，ディスカッション<br/>復習：実験ノートのまとめ</p> <p>【第11回】</p> |   |       |         |

|  |  |   |   |  |     |     |     |     |
|--|--|---|---|--|-----|-----|-----|-----|
| 予習：実験の準備<br>授業：実験，ディスカッション<br>復習：実験ノートのまとめ<br>【第12回】<br>予習：実験の準備<br>授業：実験，ディスカッション<br>復習：実験ノートのまとめ<br>【第13回】<br>予習：資料の準備<br>授業：報告書の制作<br>復習：内容の検討<br>【第14回】<br>予習：資料の準備<br>授業：報告書の仕上げ<br>復習：報告書の推敲<br>【第15回】<br>予習：報告資料の準備<br>授業：研究発表，ディスカッション<br>復習：今後の課題検討 |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業開始前学習  | 食品成分と健康に関して，日本人の健康問題の現状を把握しておくこと。  |   |   |  |     |     |     |     |
| 授業内課題のフィードバックの方法   | 研究テーマに関して，定期的にディスカッションを行う，参考文献の紹介やアドバイスを行う。内容については学生と共に検討を行い，報告書にまとめるに当たっては添削指導等を繰り返す。 |   |   |  |     |     |     |     |
| テキスト・教材  | 使用しない  |   |   |  |     |     |     |     |
| 参考書  | 適宜紹介する。  |   |   |  |     |     |     |     |
| 評価の基準と方法   | 研究報告書 60%，卒業研究への取組状況 40%で評価する。   |   |   |  |     |     |     |     |
| ディプロマポリシー  | 人間と社会に関する広汎な知識と、他者から信頼される人間性の養成  | 栄養に係わる職場で役立つ日本語運用能力やプレゼンテーション力と、職業を通して自らの存在を高めていこうとする社会性の養成 | 健康と栄養に関する専門的な知識と、実地の分析に基づいて的確に判断する能力の養成 | 栄養管理、栄養指導や保健指導などを確実にできる技術力と、計画性をもって自らの意志を実現につなげていく実践力の養成 |     |     |     |     |
| 学修指針   | 教養力  | 人間性   | コミュニケーション力                              | 社会性  | 専門力 | 判断力 | 技術力 | 実践力 |
| 科目の該当  |  |   |   |  | ◎   | ○   | △   | ○   |
| 関連科目   | 食品学，調理学，栄養学および生化学分野の講義、実験  |   |   |  |     |     |     |     |
| その他  |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 予習・復習の所要時間   |  |   |   |  |     |     |     |     |
| 実務経験を活かした教育内容  |  |   |   |  |     |     |     |     |